久高島観光基礎調査委託業務
報告書

平成30年6月
南城市

INDEX

§１　観光実態調査

１. 久高島の観光客数
２. クチコミ分析
３. 来訪者アンケート調査
４. 既存アンケート等の関連データ
５. 久高島で行われているツアー等
６. 小括：久高島観光の現状と課題

§２　住民意向調査

１. ワークショップの流れ
２. ワークショップの経過
３. 小括：ワークショップをとおして得られた住民の意向や紐帯

§３　古民家・空き家実態調査

１. 久高島の人口・世帯数の推移
２. 調査の前提
３. 調査記録
４. 地域円卓会議の記録
５. 小括：空き家活用の可能性と提言

§４　他地域先進事例調査

１. 他地域先進事例調査の概要
２. 調査記録
３. 小括：参加者の反応・住民の反応

§５　首都圏等ニーズ調査

１. 離島フェア 2017 での意見
２. 全国の仮想ターゲット層・地域おこし人材の意見
３. 小括：上記意見をふまえた久高島へのまなざしの分析

§６　関連計画の整理

１．関係者ヒアリング
２．久高島総合計画における観光の位置づけ
３．南城市の関連計画における久高島の位置づけ
４．沖縄県や国の関連計画からの久高島観光への参照点
５．小括：久高島の観光施策俯瞰

§７　まとめ（総括）

１．本調査から見えてきたこと
２．久高島総合計画事業体系の再整理

§1
観光実態調査

1. 久高島の観光客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. クチコミ分析　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

3. 来訪者アンケート調査　・・・・・・・・・・・・・・ 16

4. 既存アンケート等の関連データ・・・・・・・・・・ 38

5. 久高島で行われているツアー等　・・・・・・・・・ 46

6. 小括:久高島観光の現状と課題　・・・・・・・・・ 49

1. 久高島の観光客数

(1)久高島概況

久高島は南城市の東端から約５km の沖合に位置し、周囲が約８km の有人離島である。

琉球開闢の祖アマミキヨが天から降りてきて最初につくったとされており、「神の島」として多くの観光客が訪れる。12 年に一度行われる「イザイホー」は 1978 年以降行われていないが、旧正月のシャクトゥイや八月マティー、その他の祭祀など多くの年中行事が現在でも行われ、立ち入りが制限されている聖域も存在する。

また、久高島は地割制をもとに昭和 63 年に「久高島土地憲章」を制定しており、現在でも久高島の土地は個人所有ではなく、島民の総有となっていることも特徴のひとつである。

久高島へのアクセスは、安座真港から定期船として高速船とフェリーが１日６便運行している他、海上タクシーによるチャーター船がある。

島内には、飲食店３店舗、宿泊施設５施設（うち、営業が不定期ではない宿泊施設３施設）が所在しているほか、久高島宿泊交流館の指定管理者である NPO 法人久高島振興会が改修し宿泊施設として活用している空き家が２件存在する（１件は現在住居として賃貸中)。

表　定期便の時間及び料金

安座真港発（沖縄本島側）

便	時刻	船種
1便	9:00	高速船
2便	10:00	フェリー
3便	11:30	高速船
4便	14:00	フェリー
5便	15:30	高速船
6便	17:00(冬期)	フェリー
	17:30(夏期)	

徳仁港発(久高島側)

便	時刻	船種
1便	8:00	高速船
2便	9:00	フェリー
3便	11:00	高速船
4便	13:00	フェリー
5便	15:00	高速船
6便	16:30(冬期)	フェリー
	17:00(夏期)	

料金

●フェリーくだか

片道料金	往復料金
大人670円	大人1280円
小人340円	小人650円

●高速船　ニューくだかⅢ

片道料金	往復料金
大人760円	大人1460円
小人390円	小人750円

表　久高島の主な飲食店、宿泊施設

種別	事業所名	住所	営業時間(定休日)
飲食	食事処とくじん	南城市知念字久高 249-1	11:00～21:00(不定休)
	食事処けい	南城市知念字久高 223	9:00～16:00(不定休)
	パーラーさばに	南城市知念字久高 39-1-1	9:00～16:00(不定休)
宿泊施設	久高島宿泊交流館	南城市知念久高 249-1	チェックイン 15:00(不定休)
	小やどSAWA(さわ)	南城市知念字久高 231-2-7	チェックイン 15:00(不定休)
	民宿にしめ	南城市知念久高 231－2	チェックイン 14:00(不定休)
	宿と喫茶ちばい小	南城市知念久高184	不定(不定休)
	ニライ荘	南城市知念久高231−2	―

（２）久高航路における観光客の利用割合

久高への入域方法は、基本的には久高海運が運行する定期船を利用する方法が一般的である。その他、海上タクシーや、過去にはクルーズ船が停泊した記録もある。ただし、定期船は久高区民も利用するため、定期船の利用者数がそのまま観光入込み客数となるわけではない。したがって、定期船の利用者数に観光客の割合をかけて観光入込み客数を算出することになる。

平成 21 年に行われた沖縄総合事務局の調査では、定期船利用者を目視で住民と島外者に分類する調査を行っており、その結果、島外者と住民の割合は約 76：24 となっている。平成 25 年度前後の久高海運によるデータでは、島外者と住民の割合は約 80：20 としている。南城市における観光入込み客数の統計でも、久高島における入込み客数のうち８割が観光客利用、２割が住民利用としている。

ここでいう島外者には仕事で訪れる作業員等も含まれていると想定され、厳密にはすべてが観光を目的とした入域ではないと考えられるが、現状ではそれらを峻別する手段はないため、本調査では上記に倣い、便宜上、定期船利用者のうち８割が観光客であると仮定して観光関連の数値を算出する。

表　沖縄総合事務局による調査データ

	島外	住人	合計
2009/11/28調査	173	58	231
2009/11/29調査	356	75	431
2009/12/5調査	163	76	239
2009/12/6調査	143	50	193
合　計	835	259	1,094
割　合	76.3%	23.7%	-

資料：「久高島観光調査検討委員会報告書」（沖縄観光におけるキャリング・キャパシティに関する調査）

表　久高海運によるデータ

	島外	住人	合計
合　計	44,600	11,305	55,905
割　合	79.8%	20.2%	-

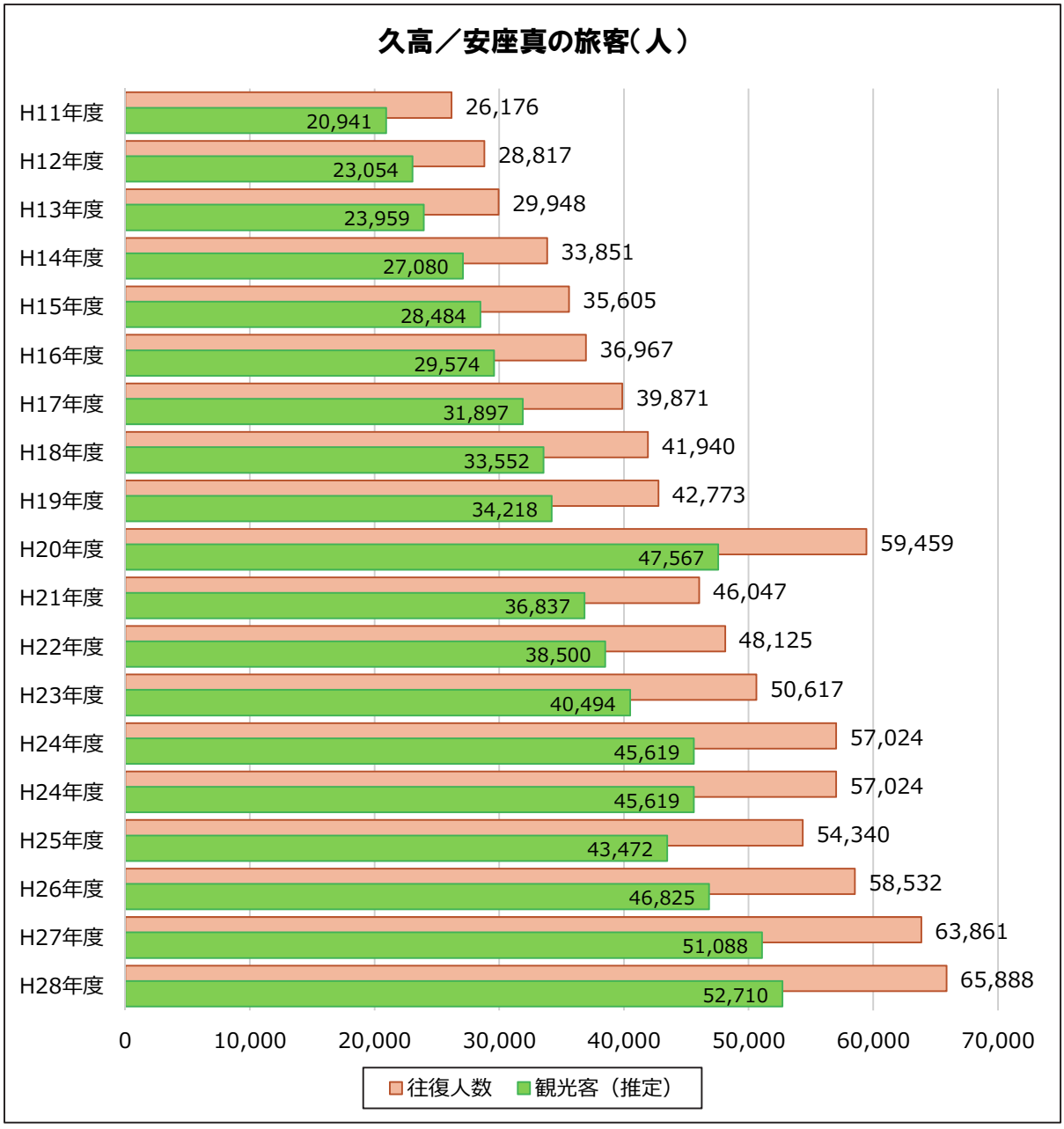
資料：「久高島総合計画」

（３）入込み客数の推移

『運輸要覧』（沖縄総合事務局運輸部）によれば、久高航路における旅客の輸送実績は次図のとおりである。10 年前の平成 18 年度に 41,940 人だった入込み客数は、平成 28 年度には 65,888 人と約 24,000 人増加しており、およそ 1.5 倍となっている。

輸送実績のうち約８割が観光客と仮定すると、久高島における観光客は平成 27～28 年度現在で、年間およそ 50,000 人が来島していることが伺える。10 年前である平成 18 年度（約 33,500 人）と比較して、約 20,000 人も増加している。

図　旅客数の推移



資料：沖縄総合事務局運輸部『運輸要覧』の各年度より作成

注1：「往復人数」は、『運輸要覧』記載の旅客輸送実績を2で割った人数である。
注2：「観光客（推定）」は、全体の入込み客数のうち8割と想定した際の推計である。

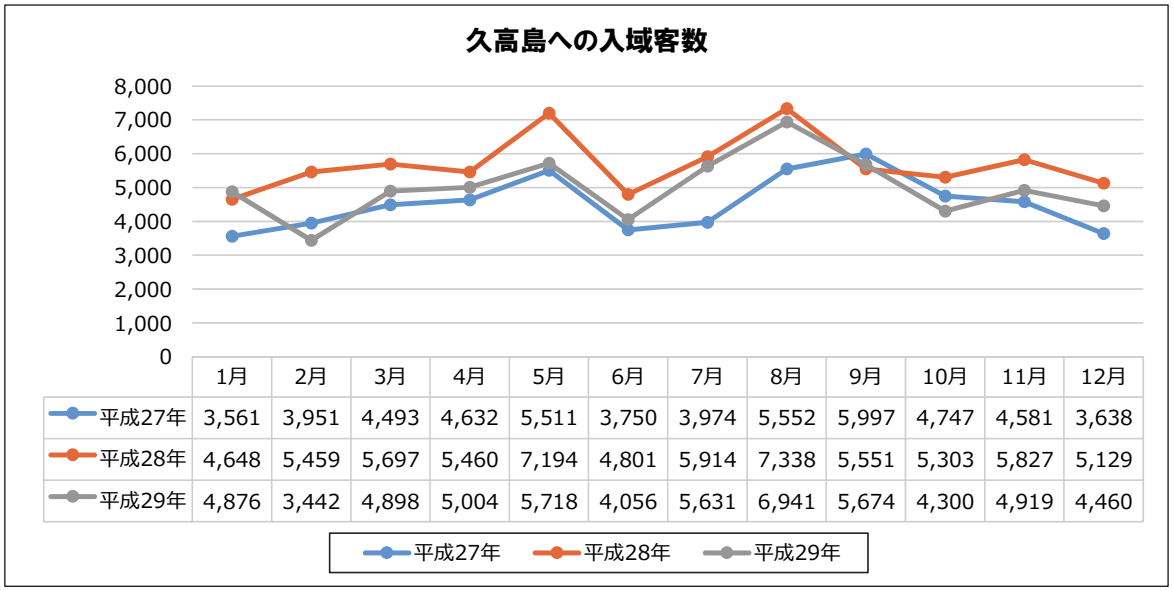
（４）月別の入込み状況

①入域客数

久高島には毎月 3,000 人以上の入込みがある状況である。月別の推移では、５月と８～９月に入込みが増加する傾向があり、これらの多くはマリンレジャーなどを目的とした来訪であると想定される。最も多い平成 28 年５月、８月、29 年８月は 7,000 人前後の入込みとなっている。

グラフの数値は住民の利用も含むため、このうちの８割が観光客と仮定して観光入込み数を推計すると、下表のとおりとなり、毎月少なくとも 2,500 人以上の観光客が訪れている計算となる。特に５月はゴールデンウィークの数日間に利用が集中し、海運会社も臨時便を出すなどして対応しており、一時的に観光客が過多の状況が生まれている。平成 29 年の観光入込み数は合計で 47,935 人であった。

図　久高島への月別の入域客数（住民含む）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	3,561	3,951	4,493	4,632	5,511	3,750	3,974	5,552	5,997	4,747	4,581	3,638
平成28年	4,648	5,459	5,697	5,460	7,194	4,801	5,914	7,338	5,551	5,303	5,827	5,129
平成29年	4,876	3,442	4,898	5,004	5,718	4,056	5,631	6,941	5,674	4,300	4,919	4,460

資料：南城市観光商工課資料

表　久高島への観光客の入込み（推計）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成27年	2,849	3,161	3,594	3,706	4,409	3,000	3,179	4,442	4,798	3,798	3,665	2,910	43,510
平成28年	3,718	4,367	4,558	4,368	5,755	3,841	4,731	5,870	4,441	4,242	4,662	4,103	54,657
平成29年	3,901	2,754	3,918	4,003	4,574	3,245	4,505	5,553	4,539	3,440	3,935	3,568	47,935

資料：南城市観光商工課資料より作成

②宿泊客数

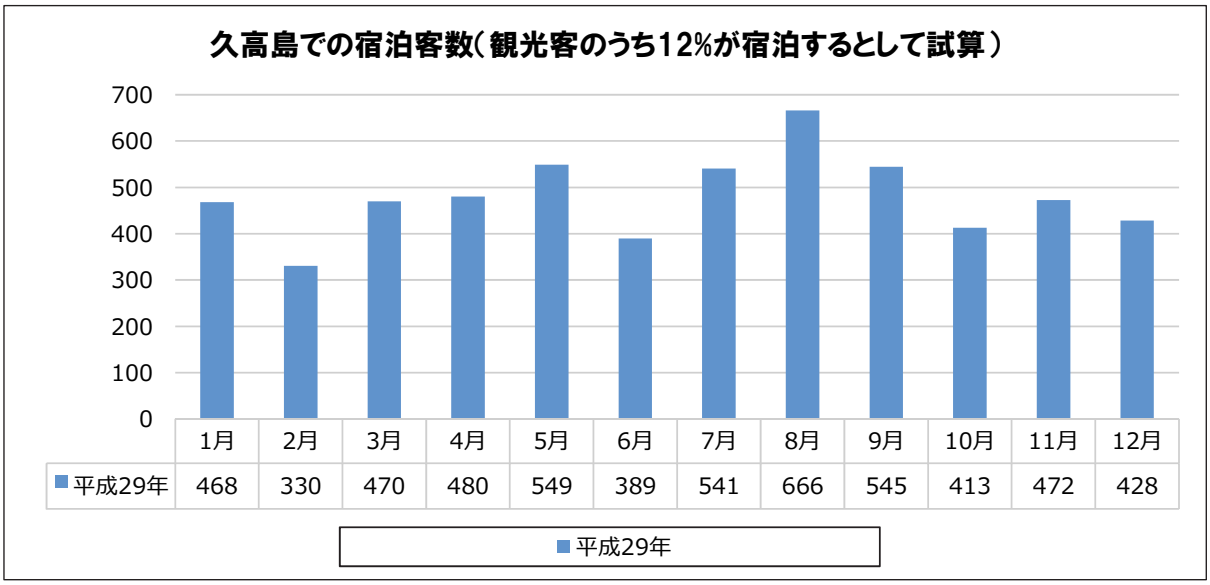
本業務で実施したアンケート調査では、久高島を訪れた観光客のうち８割が日帰りであり、２割が宿泊していた。ただし、アンケート調査は宿泊施設への留置調査でも実施したため、宿泊客の割合が多くなっている可能性がある。久高島総合計画では観光客の 10～12%が宿泊すると報告されており、この点をふまえ、久高島への入域客数から観光客数を試算し、その

観光客のうち 12%が島内で宿泊すると仮定すると、次図のとおりである。

平成 29 年では年間およそ 5,700 人、少ない月で 300 人程度、多い月で 660 人程度が宿泊している試算となる。

現在、常時営業している宿泊施設として、久高島宿泊交流館のほか、民宿２件がある。その他に、南城市で修学旅行生を受け入れる際に協力している民泊家庭が５件あると報告されている。これらの客室数の合計が 16 室であり、１室３名宿泊と計上した場合、宿泊キャパは１日当り 48 人、年間 17,520 人になるが、平成 29 年の年間宿泊者数推計は 5,752 人で約 32%しか稼動していない計算である。

図　久高島への月別の宿泊数の試算



資料：南城市観光商工課資料より作成

2. クチコミ分析

（1）クチコミ分析について

久高島における観光の満足度等の現状を確認するため、旅行サイト等のクチコミ評価を分析した。対象としたウェブサイトは下記のとおりである。

表　対象としたウェブサイト

ウェブサイト	特性	分析項目
トリップアドバイザー	クチコミ数が多く、データ数が多い	・観光スポット別クチコミ分析 ・旅行者タイプ別クチコミ分析 ・時期別クチコミ分析 ・言語別クチコミ分析 ・ヒットキーワード ・キーワード別分析
Google Maps	スポット数のデータが多い	・スポット別分析

（2）調査結果の概要

＜分析対象サイト＞

トリップアドバイザー　クチコミ数が多く、データ数が多い

＜観光スポット別のクチコミ評価＞

- 久高島の評価は 5 点満点中の 4.5 と非常に高く、斎場御嶽、奥武島の 4.0 と比べても高い。

	久高島	斎場御嶽	奥武島
評価 （5 点満点）	4.5	4.0	4.0
クチコミ数	172	808	160

資料：トリップアドバイザーHP(平成 29 年 10 月 1 日現在)より作成

注記：いずれの観光地もトリップアドバイザーCertificate of Excellence（エクセレンス認証）
Certificate of Excellence（エクセレンス認証）を受賞するには、トリップアドバイザーのバブル評価で5段階中4以上の総合評価を維持しており、最低限の口コミ数を獲得しているほか、トリップアドバイザーへの掲載期間が 12 か月以上である必要がある。

＜時期別のクチコミ評価＞

- 久高島のクチコミ評価をみると、「3 月～5 月」が比較的評価が高く、一方、「12 月～2 月」が、比較的

評価が低い。久高島のクチコミ数をみると、「3 月～5 月」が多く、次いで「6 月～8 月」が多い。

	3 月～5 月	6 月～8 月	9 月～11 月	12 月～2 月
評価 （5 点満点）	4.60	4.47	4.56	4.39
クチコミ数	57	47	32	36

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

＜旅行者タイプ別のクチコミ数＞

- クチコミ数は、旅行者タイプ別にみると「一人」、「カップル・恋人」が多い。

旅行者タイプ	一人	カップル・恋人	友達	ファミリー
クチコミ数 （計 149 件）	55	39	29	26

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

注記：旅行者のタイプが不明なものはクチコミ数に含まれていない。

＜言語別のクチコミ数＞

- 言語別にみると日本語以外に英語のクチコミもあるが、中国語等のクチコミはない。

	日本語	英語	中国語	韓国語
クチコミ数 （計 172 件）	162	10	0	0

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

＜ヒットキーワード＞

- 観光スポット「久高島」でのクチコミ（全 172 件）から、ヒットキーワードを整理した。
- ヒットワードをみると、「島」、「久高島」、「神の島」や「時間」、「海」、交通関係では「自転車」、「フェリー」、「レンタサイクル」が全クチコミに対して 30%以上の割合で出現している。

＜キーワード別評価＞

- 観光スポット「久高島」でのクチコミ（全 172 件）から、特定のキーワードが含まれるクチコミ評価を整理した。
- 「海」、「レンタサイクル」、「一周」、「食堂」、「案内」、「ビーチ」、「宿泊」、「食事」、「イラブー」、「ニライカナイ」等のキーワードが含まれるクチコミ評価が 4.6 以上であった。

表 「久高島」のクチコミ(全 172 件)のうちの特定キーワードが含まれるクチコミ評価

	評価	クチコミ数	
	平均	(件数)	(割合)
島	4.50	157	91%
自転車	4.54	82	47%
時間	4.54	81	47%
久高島	4.48	75	43%
フェリー	4.45	56	32%
レンタサイクル	4.63	54	31%
海	4.60	53	31%
神の島	4.51	53	31%
沖縄	4.46	39	23%
観光	4.39	36	21%
神聖	4.51	35	20%
感じ	4.38	34	20%
高速船	4.48	27	16%
安座真	4.33	24	14%
ゆっくり	4.48	23	13%
一周	4.70	23	13%
景色	4.59	22	13%
自然	4.41	22	13%
ガイド	4.57	21	12%
地図	4.45	20	12%

	評価	クチコミ数	
	平均	(件数)	(割合)
食堂	4.63	19	11%
案内	4.61	18	10%
静か	4.56	18	10%
気持ち	4.56	18	10%
ビーチ	4.71	17	10%
那覇	4.56	16	9%
宿泊	4.88	16	9%
聖地	4.27	15	9%
パワースポット	4.53	15	9%
斎場御嶽	4.17	12	7%
食事	4.73	11	6%
アマミキヨ	4.40	10	6%
イラブー	4.86	7	4%
ニライカナイ	5.00	6	3%

資料:トリップアドバイザーHP(平成 29 年 10 月 1 日現在)より作成

注記:太枠は評価が 4.60 以上のキーワードを示す。

＜スポット別の評価＞

分析対象サイト

Google Maps

スポット数のデータが多い

		評価（5 点満点）	クチコミ数
食事	とくじん	4.2	23
	パーラーさばに	3.7	12
	けい	3.7	7
宿泊	久高島宿泊交流館	3.1	10
	小やど SAWA	4.6	8
	ちばい小	3.5	2
キャンプ場	久高島キャンプ場	4.1	7
フェリー待合所	久高島船待合所	4.1	34
	久高島フェリー徳仁港船待合所	3.8	12
商店	内間商店	4.0	3
	内新商店	3.7	3
	久高島ダイビングサービス	5.0	1
観光名所	伊敷浜	4.8	10
	ロマンスロード	4.7	23
	カベール岬	4.4	44
	ピザハマ	4.2	4
	シマーシ浜	4.5	4
	ウパーマ浜	4.3	7
	ヤグルガー	4.7	3
	久米島簡易郵便局	4.4	5
	久高殿	3.2	4
	外間御殿	3.0	2

景勝地の評価が全体的に高い。特に伊敷浜やロマンスロードの評価が高い。

資料：Google Maps（平成 29 年 12 月現在)より作成

（２）調査結果（詳細）

①トリップアドバイザー

ア．観光スポット別クチコミ分析

- 斎場御嶽、奥武島を比較対照とした。
- 久高島の評価は 4.5 と非常に高く、斎場御嶽、奥武島の 4.0 と比べても高い。

図　久高島のクチコミ評価

久高島

斎場御嶽

奥武島

出典：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）

注1：南城市の観光スポット「久高島」、「斎場御嶽」、「奥武島」のデータを示した。
注2：いずれの観光地もトリップアドバイザーCertificate of Excellence（エクセレンス認証）
Certificate of Excellence（エクセレンス認証）を受賞するには、トリップアドバイザーのバブル評価で5段階中4以上の総合評価を維持しており、最低限の口コミ数を獲得しているほか、トリップアドバイザーへの掲載期間が 12 か月以上である必要がある。

イ. 旅行者タイプ別クチコミ分析

- 旅行者のタイプ別のクチコミ数を整理した。
- 久高島のクチコミ数をみると、旅行者タイプ「一人」、「カップル・恋人」が多い。
- 他の観光スポットと比較して、久高島は旅行者タイプ「一人」が多く、「ファミリー」が少ない。

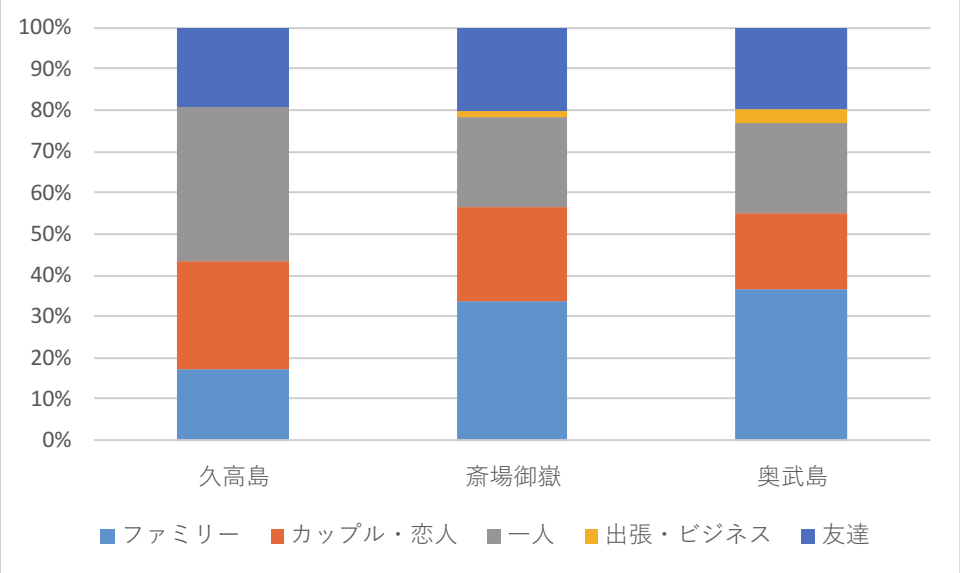
表　旅行者のタイプ別のクチコミ数

旅行者のタイプ	久高島	斎場御嶽	奥武島
ファミリー	26	221	49
カップル・恋人	39	148	24
一人	55	144	29
出張・ビジネス	0	7	5
友達	29	134	26

出典：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）

注記：旅行者のタイプが不明なものはクチコミ数に含まれていない。

図　旅行者のタイプ別のクチコミ数構成



資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

ウ. 時期別クチコミ分析

- 時期別のクチコミ評価を整理した。
- 久高島のクチコミ評価をみると、「3 月～5 月」が比較的評価が高く、一方、「12 月～2 月」が、比較的評価が低い。
- 久高島のクチコミ数をみると、「3 月～5 月」が多く、次いで「6 月～8 月」が多い。

表　時期別のクチコミ評価

	評価						クチコミ　数	
	評価 平均	とても 良い 5	良い 4	普通 3	悪い 2	とても 悪い 1	クチコミ数 （件数）	クチコミ数 （割合）
3 月～5 月	4.60	40	11	6			57	33%
6 月～8 月	4.47	26	17	4			47	27%
9 月～11 月	4.56	19	12	1			32	18%
12 月～2 月	4.39	16	18	2			36	21%

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

エ. 言語別クチコミ分析

- 言語別のクチコミ数を整理した。
- 言語別にみると、久高島では、日本語以外に英語のクチコミもあるが、中国語等のクチコミはない。
- 斎場御嶽、奥武島では、日本語、英語以外に、中国語、韓国語のクチコミがある。

表　言語別のクチコミ数

言語	久高島	斎場御嶽	奥武島
日本語	162	760	150
英語	10	34	6
中国語	0	12	1
韓国語	0	5	2
ドイツ語	0	2	0
イタリア語	0	1	0
スペイン語	0	0	1

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

注記：1 件のクチコミが、複数の言語で計数されている場合もある。

オ. ヒットキーワード

- 観光スポット「久高島」でのクチコミ（全 172 件）から、ヒットキーワードを整理した。
- ヒットワードは、クチコミから出現頻度が多いワード等を抽出した。
- ヒットワードをみると、「島」、「久高島」、「神の島」や「時間」、「海」、交通関係では「自転車」、「フェリ

ー」、「レンタサイクル」が全クチコミに対して 30%以上の割合で出現している。

表 「久高島」クチコミ（全 172 件）のうちのヒットワード

	クチコミ数（件数）	クチコミ数（割合）
島	157	91%
自転車	82	47%
時間	81	47%
久高島	75	43%
フェリー	56	32%
レンタサイクル	54	31%
海	53	31%
神の島	53	31%
沖縄	39	23%
観光	36	21%
神聖	35	20%
感じ	34	20%
高速船	27	16%
安座真	24	14%
ゆっくり	23	13%
一周	23	13%
景色	22	13%
自然	22	13%
ガイド	21	12%
地図	20	12%
食堂	19	11%
案内	18	10%
静か	18	10%
気持ち	18	10%
ビーチ	17	10%
那覇	16	9%
宿泊	16	9%
聖地	15	9%
パワースポット	15	9%
斎場御嶽	12	7%
食事	11	6%
アマミキヨ	10	6%
イラブー	7	4%
ニライカナイ	6	3%

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

注 1：クチコミはトリップアドバイザーのサイト上で、キーワード検索をした結果を示す。
注 2：同じクチコミの中で、同じキーワードが複数存在しても、1 件として計測。

カ. キーワード別評価

- 観光スポット「久高島」でのクチコミ（全 172 件）から、特定のキーワードが含まれるクチコミ評価を整理した。
- 「海」、「レンタサイクル」、「一周」、「食堂」、「案内」、「ビーチ」、「宿泊」、「食事」、「イラブー」、「ニライカナイ」等のキーワードが含まれるクチコミ評価が 4.6 以上であった。

表 「久高島」のクチコミ（全 172 件）のうちの特定キーワードが含まれるクチコミ評価

	評価						クチコミ　数	
	評価 平均	とても 良い 5	良い 4	普通 3	悪い 2	とても 悪い 1	クチコミ数 （件数）	クチコミ数 （割合）
島	4.50	91	53	13	0	0	157	91%
自転車	4.54	49	28	5	0	0	82	47%
時間	4.54	49	27	5	0	0	81	47%
久高島	4.48	42	27	6	0	0	75	43%
フェリー	4.45	31	19	6	0	0	56	32%
レンタサイクル	4.63	36	16	2	0	0	54	31%
海	4.60	36	13	4	0	0	53	31%
神の島	4.51	30	20	3	0	0	53	31%
沖縄	4.46	23	11	5	0	0	39	23%
観光	4.39	17	16	3	0	0	36	21%
神聖	4.51	19	15	1	0	0	35	20%
感じ	4.38	16	15	3	0	0	34	20%
高速船	4.48	15	10	2	0	0	27	16%
安座真	4.33	10	12	2	0	0	24	14%
ゆっくり	4.48	12	10	1	0	0	23	13%
一周	4.70	16	7	0	0	0	23	13%
景色	4.59	15	5	2	0	0	22	13%
自然	4.41	11	9	2	0	0	22	13%
ガイド	4.57	13	7	1	0	0	21	12%
地図	4.45	13	3	4	0	0	20	12%
食堂	4.63	12	7	0	0	0	19	11%
案内	4.61	12	5	1	0	0	18	10%
静か	4.56	11	6	1	0	0	18	10%
気持ち	4.56	10	8	0	0	0	18	10%
ビーチ	4.71	12	5	0	0	0	17	10%
那覇	4.56	9	7	0	0	0	16	9%
宿泊	4.88	14	2	0	0	0	16	9%
聖地	4.27	4	11	0	0	0	15	9%
パワースポット	4.53	9	5	1	0	0	15	9%
斎場御嶽	4.17	4	6	2	0	0	12	7%
食事	4.73	8	3	0	0	0	11	6%
アマミキヨ	4.40	5	4	1	0	0	10	6%
イラブー	4.86	6	1	0	0	0	7	4%
ニライカナイ	5.00	6	0	0	0	0	6	3%

資料：トリップアドバイザーHP（平成 29 年 10 月 1 日現在）より作成

注記：クチコミはトリップアドバイザーのサイト上で、キーワード検索をした結果を示す。

②Google Maps

ア. スポット別分析

- Google Maps からスポット別の評価を整理した。
- スポット別の評価をみると、景勝地の評価が全体的に高い傾向にある。特に伊敷浜やロマンスロードの評価が高い。

表　スポット別評価

		評　価						クチコミ数
		評価	5★	4★	3★	2★	1★	クチコミ数
食事	とくじん	4.2	11	6	6	0	0	23
	パーラーさばに	3.7	6	1	2	1	2	12
	けい	3.7	2	3	1	0	1	7
宿泊	久高島宿泊交流館	3.1	3	1	3	0	3	10
	小やど SAWA	4.6	5	3	0	0	0	8
	ちばい小	3.5	0	1	1	0	0	2
キャンプ場	久高島キャンプ場	4.1	3	2	2	0	0	7
フェリー	久高島船待合所	4.1	12	13	8	1	0	34
待合所	久高島フェリー 徳仁港船待合所	3.8	3	4	4	1	0	12
商店	内間商店	4.0	0	3	0	0	0	3
	内新商店	3.7	1	1	1	0	1	3
	久高島 ダイビングサービス	5.0	1	0	0	0	0	1
観光名所	伊敷浜	4.8	8	2	0	0	0	10
	ロマンスロード	4.7	17	4	2	0	0	23
	カベール岬	4.4	29	10	3	0	2	44
	ピザハマ	4.2	2	1	1	0	0	4
	シマーシ浜	4.5	2	2	0	0	0	4
	ウパーマ浜	4.3	4	1	2	0	0	7
	ヤグルガー	4.7	2	1	0	0	0	3
	久米島簡易郵便局	4.4	3	1	1	0	0	5
	久高殿	3.2	1	1	1	0	1	4
	外間御殿	3.0	1	0	0	0	1	2

資料：Google Maps（平成 29 年 12 月現在)より作成

注記：評価の値は、Google Maps に従った。

3. 来訪者アンケート調査

(1)実施概要

対面及び留置によってアンケート調査を実施した。実施概要は下記のとおりである。

表 アンケート実施概要

項目	概要
実施期間	①対面:2017 年 11 月 18 日(土)、2017 年 11 月 25 日(土) ②留置:2017 年 11 月 29 日(水)～2018 年1月 19 日(金)
実施方法	①対面:徳仁港から船に乗って安座真港へ向かう観光客に対して実施した。 ②留置:食堂とくじん及び久高島宿泊交流館に、調査票と回収箱を設置した。
回収数	対面 89 件／留置 33 件 合計 122 件

(2)調査結果の概要

1)全体の傾向

アンケート調査の結果として、全体の傾向として下記の傾向がみられた。

- 久高島への来訪傾向として、たまたま久高島を知って訪れたという観光客よりも、事前に久高島へ行くという目的を持って訪れる観光客が多いといえる。
- 久高島の情報の入手先は、友人・知人に勧められたとする回答が最も多い。
- 観光客の8割は日帰りであり、午前中の便で入域し、午後の遅めの便で出域している。滞在時間は3～5時間が中心となっている。
- 「神の島」というイメージが強く、来島前の久高島への期待も、神の島であることやスピリチュアルを楽しみにしてきたという回答が最も多い。ただし、10～20代の若者層においてはマリンレジャーや島の自然・星空に対する期待が比較的高く、また、離島ならではののんびりした雰囲気に対する期待も大きい。一方で70代以上のシニア層では、地域独自の文化財や特産品に対する期待が大きい状況である。
- 島内での活動については、サイクリングをしたという回答が中心だが、自転車に乗れない高齢者は観光する手立てがなく、なにもできなかったという回答もみられた。
- 島内での消費活動では、アンケート回答者122人のうち、島内で金銭を使用しなかったと回答した人数は26人でおよそ21%である。使用しなかった理由としては、お金を使いたい場面がなかったとする回答が最も多い。
- 自由意見では、観光のための道や案内サインの整備を望む声がある一方、久高島は変わる必要はない、過度な観光客受入に対応する必要はないという意見もみられる。
- わずかではあるが、島内でチャクラ測定をしたなど、スピリチュアルの側面からの回答もみられた。

2)ターゲットごとの傾向

今後の久高島観光の振興においては、観光客をすべて受け入れるのではなく、ターゲットを定めたアプローチが必要と考えられる。今後どのような観光客をターゲットとするかにつ

いては、現在、久高島のなかでも議論を深めている最中であるが、単なる物見遊山的な観光客ではなく、久高島の歴史文化や魅力・価値などを理解したいと感じる（あるいは理解した上で訪れる）層を重視するものと思われる。

今回のアンケート調査では、その参考資料とするため、買物志向についても尋ねた。ここでは、「品質こだわり志向」と「買い筋固定化志向」のふたつについて、どのような傾向が見られたかを分析する。

【品質こだわり志向】の一般的な特徴

- 自分の好きなものは、例え高価でも(貯金等をして)購入する。
- 価格よりも、品質の良いものや自分のライフスタイルにあったものを優先することが多い。
- 周りの人が勧めても、自分が品質に納得しなければ購入しない。

【買い筋固定化志向】の一般的な特徴

- 好きになる･気に入ると、何度も同じものを購入する。
- 新しい商品等が発売されても、慣れた既存商品を選ぶことが多い。
- 他の商品と比較して良いものを選ぶことよりも、すでに内容がわかるものを選ぶことが多い。

①品質こだわり志向の動向 ※41 人が回答、全回答者のおよそ4割

- 比較的久高島に長く滞在する傾向があり、島内での活動において、いわゆる観光的な活動ではなく「何もせずのんびりした」などの行動をした人が多く、“モノ”よりも“体験”を求める傾向がみられる。ただし、スピリチュアルなどを求める人も多い層と考えられる。
- 久高島に2泊3日以上滞在したと回答した回答者が、最も多い。
- 当初期待では、「神の島･スピリチュアル」が多く、次点である「離島ならではののんびりした雰囲気」や「自然･星空」という回答と比較して突出している。実際に何をしたかという設問では、他の属性よりも「何もせずにのんびりした」と回答した人数が多かった。
- 久高島でお金を使うとしたら何に使いたいかという設問では、「カフェでのんびりしたい」、「スピリチュアルな体験がしたい」と答えた回答者が多く、“モノ”ではなく“体験”を求めていることがわかる。

②買い筋固定化志向の動向 ※20 人が回答、全回答者のおよそ2割

- 久高島への滞在日数等には傾向は見られないが、「離島ならではののんびりした雰囲気」などのニーズが高いが、実際には観光地巡りなどの行動が多い。“モノ”を求める傾向が見られるためか、全体的な現状の満足度は品質こだわり志向よりも少し低めとなっている。
- 日程については日帰り、1泊、2泊以上とバラけている。
- 当初期待について、「神の島･スピリチュアル」という回答と「離島ならではののんびりした雰囲気」という回答はほぼ同数であった。ただし、実際に何をしたかという設問では「何もせずにのんびりした」という回答は少ない。
- 久高島でお金を使うとしたら何に使いたいかという設問では、「美味しくてオシャレな飲食店があるとよい」が最も多く、次いで「ここにしかない土産品を買いたい」が多いことから、“モノ”を求める傾向が伺える。

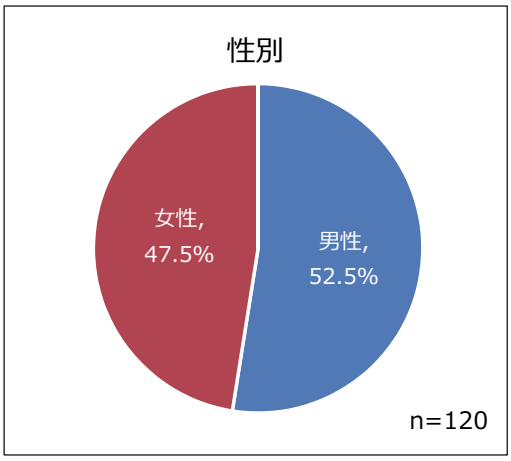
（３）アンケート結果（詳細）

１）回答者属性

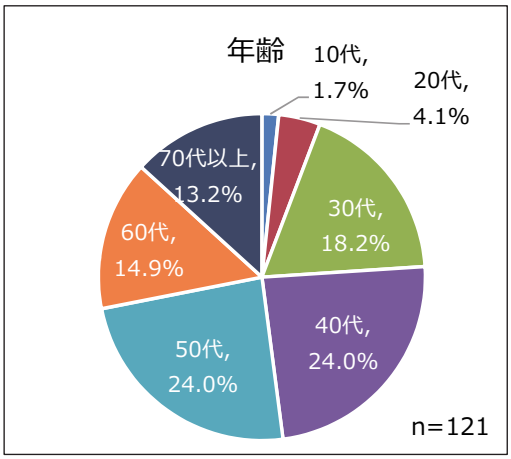
①性別・年齢

- アンケート回答者の性別は、男性63人（52.5%）、女性57人（47.5%）と、ほぼ同数である。
- 年齢は、10代から70代以上までの回答を得たが、40代から50代の回答が中心となっている。

性別	回答数	割合
男性	63	52.5%
女性	57	47.5%
LGBT	0	0.0%
無回答	2	-
合計（無回答除く）	120	100.0%



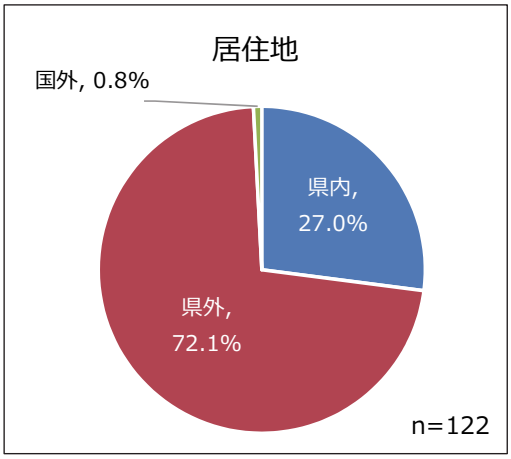
年齢	回答数	割合
10代	2	1.7%
20代	5	4.1%
30代	22	18.2%
40代	29	24.0%
50代	29	24.0%
60代	18	14.9%
70代以上	16	13.2%
無回答	1	-
合計（無回答除く）	121	100.0%



②居住地

- 回答者の居住地は、県外が88人で72.1%、次いで県内が33人で27.0%となっている。１人ではあるが、国外からの帰省者も見られた。

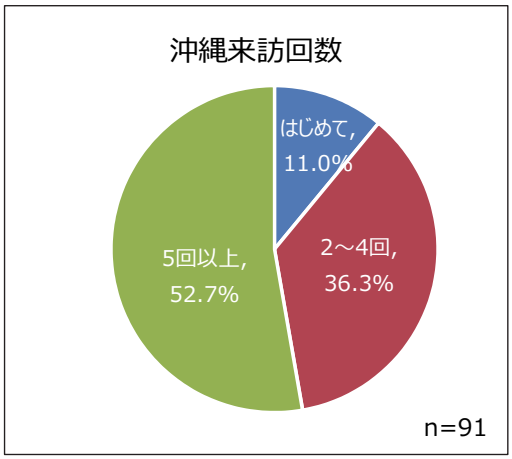
居住地	回答数	割合
県内	33	27.0%
県外	88	72.1%
国外	1	0.8%
無回答	0	-
合計（無回答除く）	122	100.0%

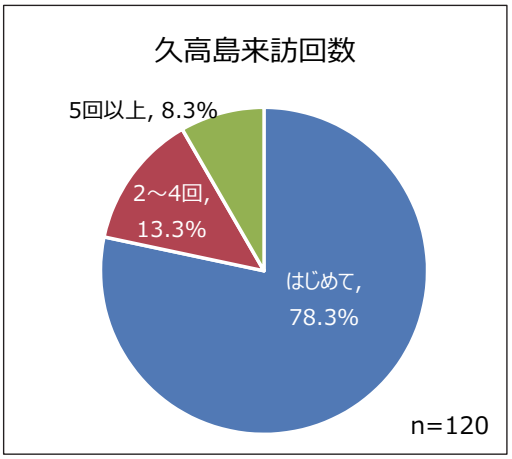


③沖縄県への来訪回数と久高島来訪回数

- 回答者のうち、はじめての沖縄旅行で久高島を訪れた人は10人で11.0%であった。5回以上沖縄県を訪れている回答者は48人（52.7%）で半数を占めた。

- 久高島をはじめて訪れる人は94人で、回答者の約8割を占めた。2回以上訪れたことのある人は26人でおよそ2割である。そのうち、5回以上来訪経験のある回答者は1割である。なかには、久高島へ10回以上や30回以上訪れているとする回答者も見られた。





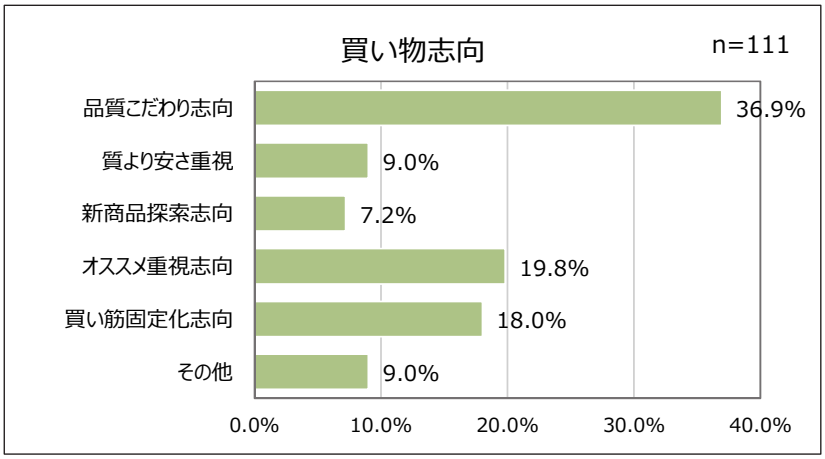
沖縄来訪回数	回答数	割合
はじめて	10	11.0%
2～4回	33	36.3%
5回以上	48	52.7%
無回答	31	-
合計（無回答除く）	91	100.0%

久高島来訪回数	回答数	割合
はじめて	94	78.3%
2～4回	16	13.3%
5回以上	10	8.3%
無回答	2	-
合計（無回答除く）	120	100.0%

④買物志向

- 普段の買い物志向については、「品質こだわり志向」であると回答した人が41人の36.9%であった。次いで、「オススメ重視志向」が22人で19.8%、「買い筋固定化志向」が20人で18.0%となっている。
- その他の内容として、「その時々で異なる」、「コストパフォーマンス」、「品質と値段のバランスが納得できる範囲であること」、「自分が志向するもの・好きなもの」、「よりそこの土地に根付いたもの」などがあった。

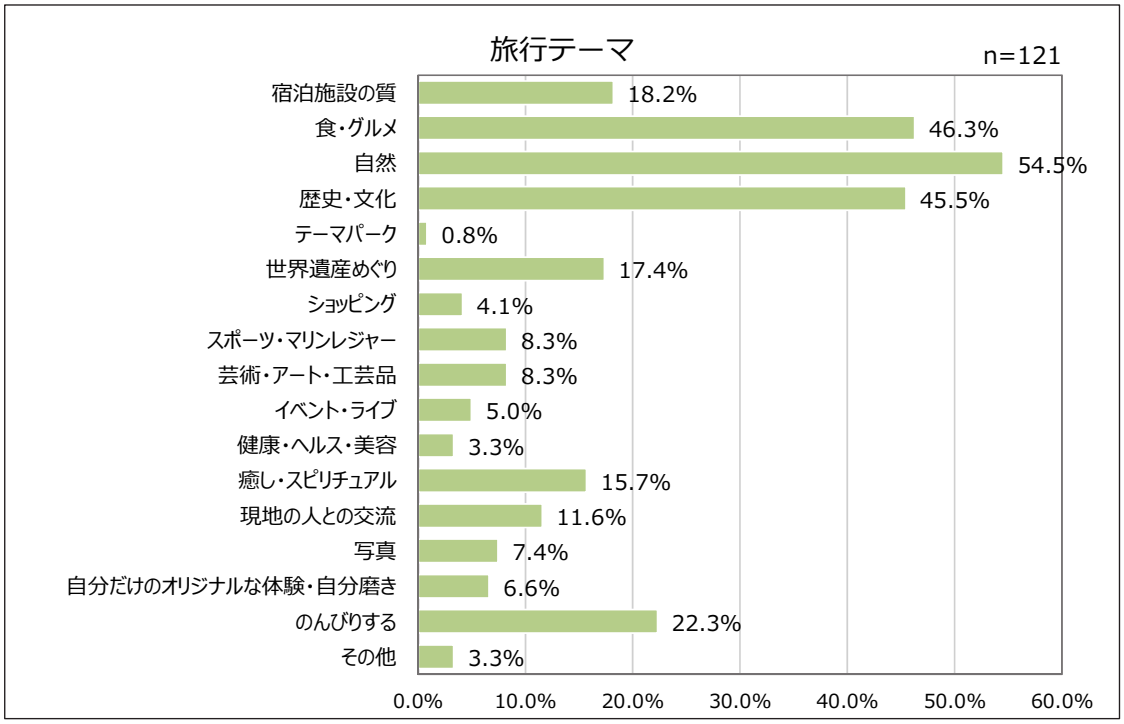
買い物志向	回答数	割合
品質こだわり志向	41	36.9%
質より安さ重視	10	9.0%
新商品探索志向	8	7.2%
オススメ重視志向	22	19.8%
買い筋固定化志向	20	18.0%
その他	10	9.0%
無回答	11	-
合計（無回答除く）	111	100.0%



⑤普段の旅行テーマ

- 普段の旅行テーマについては、回答者のうち54.5%が「自然」をテーマにすることが多いと回答した。次いで「食・グルメ」が46.3％、「歴史・文化」が45.5%となっている。この3つが回答の中心であった。
- その他、比較的回答が多かったテーマとして、「のんびりする」が22.3%、「宿泊施設の質」が18.2%、「世界遺産めぐり」が17.4%、「癒し・スピリチュアル」が15.7%、「現地の人との交流」が11.6%であった。
- その他の内容として、「気に入ったテーマ」、「政治・経済」、「ひとまかせ」、「聖地めぐり」、「お酒」などがあった。

項目	回答数	割合
宿泊施設の質	22	18.2%
食・グルメ	56	46.3%
自然	66	54.5%
歴史・文化	55	45.5%
テーマパーク	1	0.8%
世界遺産めぐり	21	17.4%
ショッピング	5	4.1%
スポーツ・マリンレジャー	10	8.3%
芸術・アート・工芸品	10	8.3%
イベント・ライブ	6	5.0%
健康・ヘルス・美容	4	3.3%
癒し・スピリチュアル	19	15.7%
現地の人との交流	14	11.6%
写真	9	7.4%
自分だけのオリジナルな体験・自分磨き	8	6.6%
のんびりする	27	22.3%
その他	4	3.3%
無回答	1	-
合計（無回答除く）	337	-

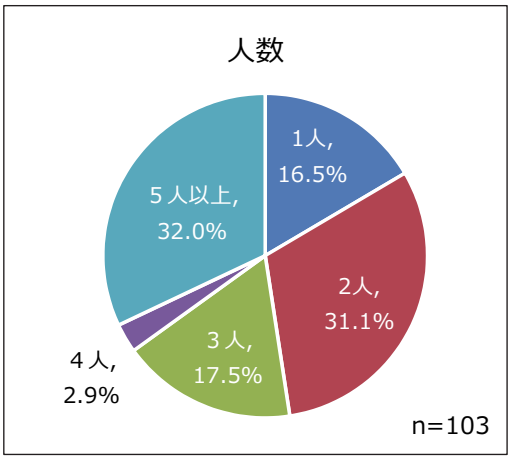


2)久高島観光の日程等

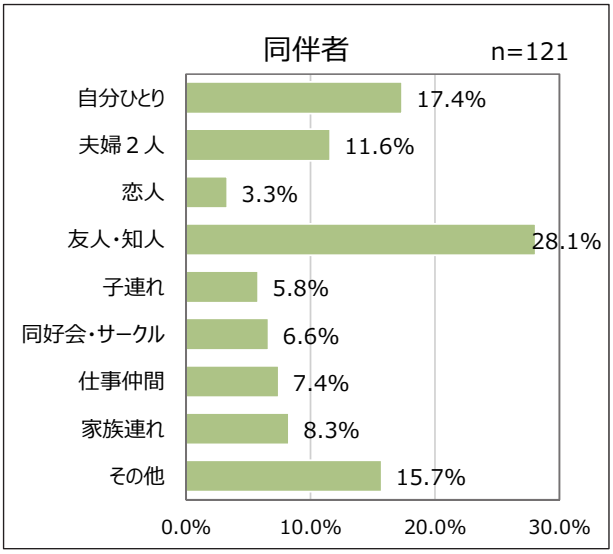
①同伴者及び人数

- 今回の久高島観光の人数については、「5人以上」のグループが32.0%と最も多い結果となった。次いで、「2人」(31.1%)、「3人」(17.5%)、「1人」(16.5%)である。同伴者は、「友人・知人」が28.1%と最も多く、次いで「自分ひとり」が17.4%となった。

人数	回答数	割合
1人	17	16.5%
2人	32	31.1%
3人	18	17.5%
4人	3	2.9%
5人以上	33	32.0%
無回答	19	-
合計（無回答除く）	103	100.0%



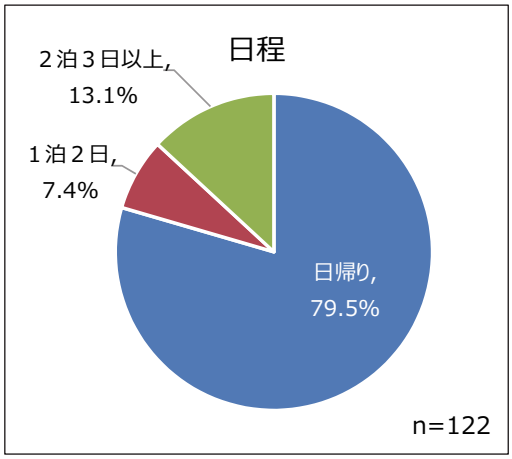
同伴者	回答数	割合
自分ひとり	21	16.7%
夫婦２人	14	11.1%
恋人	4	3.2%
友人・知人	34	27.0%
子連れ	7	5.6%
同好会・サークル	8	6.3%
仕事仲間	9	7.1%
家族連れ	10	7.9%
その他	19	15.1%
無回答	1	-
合計（無回答除く）	126	-



②日程

- 日程は、「日帰り」が約8割（79.5%）を占め、圧倒的である。次いで「2泊3日以上」が13.1%、「1泊2日」が7.4%という結果になった。

日程	回答数	割合
日帰り	97	79.5%
1泊2日	9	7.4%
2泊3日以上	16	13.1%
無回答	0	-
合計（無回答除く）	122	100.0%



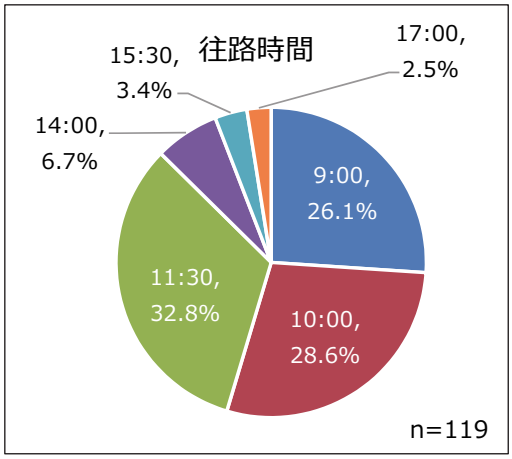
③船の時間・平均滞在時間

- 久高島への入域（安座真港→徳仁港）時間は、「11時半」が32.8%と多く、次いで「10時」（28.6%）、「9時」（26.1%）という結果であり、9割近くの訪問者が午前中に久高島に訪れていることがわかる。
- 出域（徳仁港→安座真港）時間については、「13時」が38.3%と最も多く、次いで「15時」が32.5%、「16時半」が14.2%、「11時」が12.0%となっていることから、午前中に久高島を訪れ、午後の遅めの

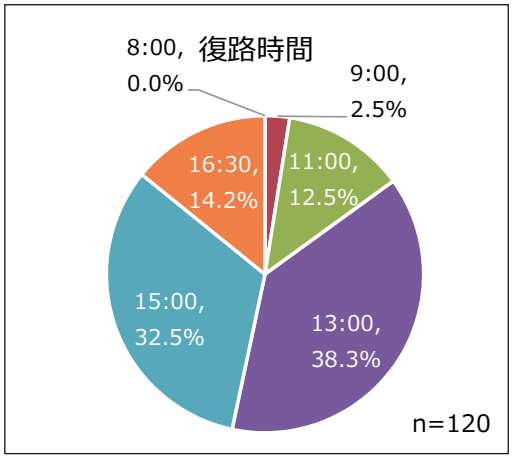
時間に久高島を去るという現状がうかがえる。

- 日帰りの場合の滞在時間は、「4時間」が23.0%、「3時間半」が20.7%である。「5時間」や「3時間」の滞在も15%程みられた。調査時の最も長い滞在時間は「6時間半」、最も短い滞在時間は「1時間半」である。

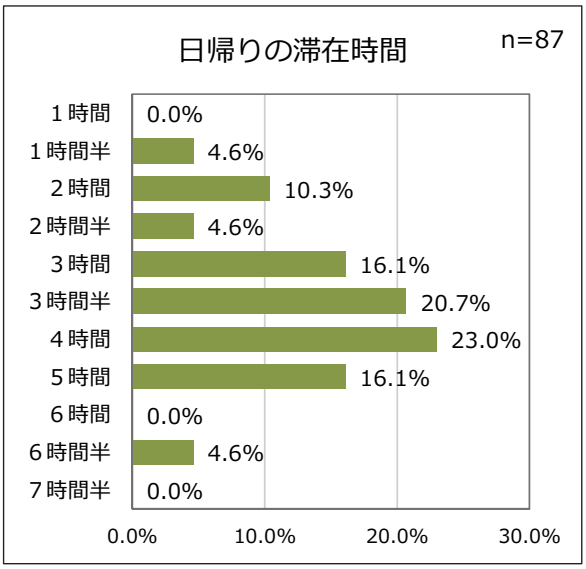
安座真→久高	回答数	割合
9:00	31	26.1%
10:00	34	28.6%
11:30	39	32.8%
14:00	8	6.7%
15:30	4	3.4%
17:00	3	2.5%
無回答	3	-
合計（無回答除く）	119	100.0%



久高→安座真	回答数	割合
8:00	0	0.0%
9:00	3	2.5%
11:00	15	12.5%
13:00	46	38.3%
15:00	39	32.5%
16:30	17	14.2%
無回答	2	-
合計（無回答除く）	120	100.0%



滞在時間	回答数	割合
1時間	0	0.0%
1時間半	4	4.6%
2時間	9	10.3%
2時間半	4	4.6%
3時間	14	16.1%
3時間半	18	20.7%
4時間	20	23.0%
5時間	14	16.1%
6時間	0	0.0%
6時間半	4	4.6%
7時間半	0	0.0%
無回答	2	-
合計（無回答除く）	87	100.0%

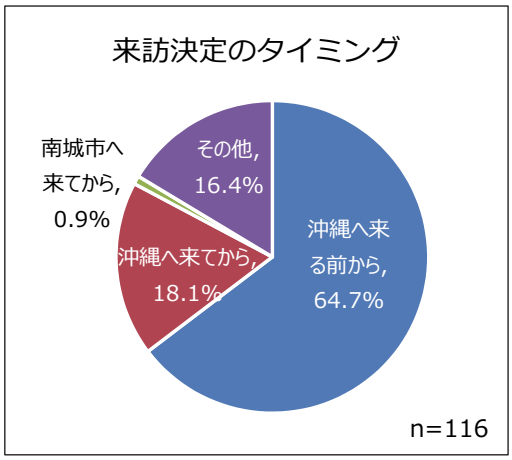


3)久高島への来訪きっかけ

①来訪決定のタイミング

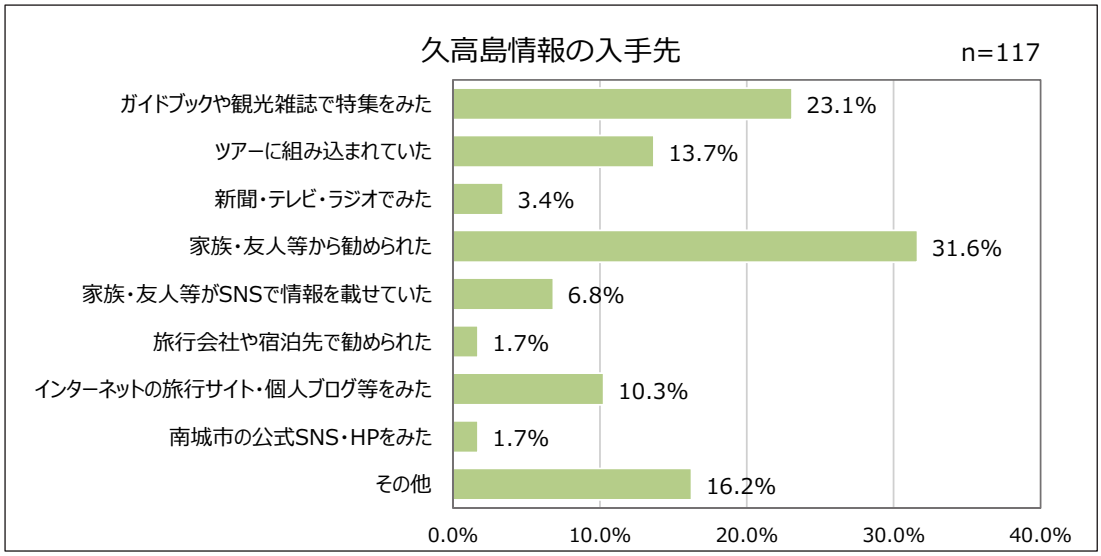
- 久高島を訪れることを決めたタイミングとしては、「沖縄へ来る前から」が64.7%であり、多くの来訪者が久高島へ訪れるという目的を持って来訪している様子がうかがえる。
- 「その他」の内容としては、「企画／ツアーに組み込まれていた」や「当日思いつきで」、「当初は別の場所で釣りをする予定だったが、船が出なかったため近場で観光しに来た」などがあった。

来訪決定のタイミング	回答数	割合
沖縄へ来る前から	75	64.7%
沖縄へ来てから	21	18.1%
南城市へ来てから	1	0.9%
その他	19	16.4%
無回答	6	-
合計（無回答除く）	116	100.0%



②久高島情報の入手先

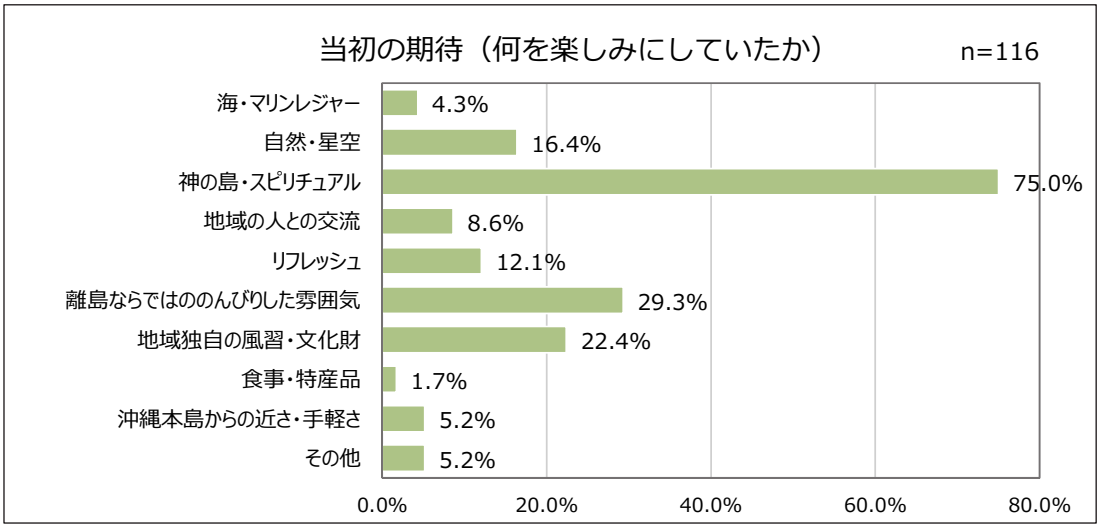
- 久高島の情報をどこで入手したかという質問については、回答者のうち31.6%が「家族・友人等から勧められた」と回答した。次いで「ガイドブックや観光雑誌で特集をみた」が23.1%、「ツアーに組み込まれていた」が13.7%である。「旅行会社や宿泊先で勧められた」や「南城市の公式SNS・HPをみた」は1.7%と少ない結果となった。
- インターネットを使用した検索では、「インターネットの旅行サイト・個人ブログ等をみた」が10.3%、「家族・友人等がSNSで情報を載せていた」は6.8%となった他、SNSを使用して検索したという回答が1件あった。「南城市内から行ける島を検索サイトで検索した」という回答もみられた。
- 「その他」の内容として、「旅行会社勤務のため（元々知っていた）」や「（以前）住んでいた」、「家族がいる」、「仕事先で島出身の人と出会って話をきいた」、「前回の沖縄旅行で知った」、「斎場御嶽（で知った）」、「会社の企画で／セット企画／妻の希望で」などが挙げられた。



久高島情報の入手先	回答数	割合
ガイドブックや観光雑誌で特集をみた	27	23.1%
ツアーに組み込まれていた	16	13.7%
新聞・テレビ・ラジオでみた	4	3.4%
家族・友人等から勧められた	37	31.6%
家族・友人等がSNSで情報を載せていた	8	6.8%
旅行会社や宿泊先で勧められた	2	1.7%
インターネットの旅行サイト・個人ブログ等をみた	12	10.3%
南城市の公式SNS・HPをみた	2	1.7%
その他	19	16.2%
無回答	5	-
合計（無回答除く）	127	-

③何を楽しみにしていたか

- 久高島へ来る前に何を楽しみにしていたかという質問については、回答者の75.0%が「神の島・スピリチュアル」と回答して圧倒的であった。次いで29.3%が「離島ならではののんびりした雰囲気」と回答、22.4%が「地域独自の風習・文化財」、16.4%が「自然・星空」と回答した。「食事・特産品」は1.7%と少なかった。「海・マリンレジャー」も4.3%と少なかったが、調査を冬に実施したため考えられる。
- 「その他」の内容としては、「知人に会いに／前回宿泊時にお世話になった方に会いに」が数件みられたほか、「島RUN／島ランニング」という回答があった。



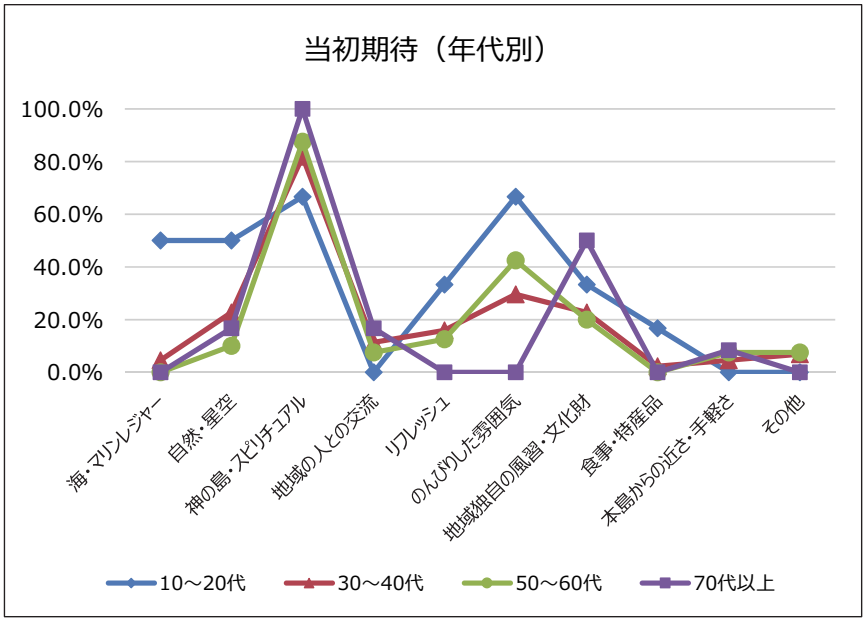
何を楽しみにしていたか	回答数	割合
海・マリンレジャー	5	4.3%
自然・星空	19	16.4%
神の島・スピリチュアル	87	75.0%
地域の人との交流	10	8.6%
リフレッシュ	14	12.1%
離島ならではののんびりした雰囲気	34	29.3%
地域独自の風習・文化財	26	22.4%
食事・特産品	2	1.7%
沖縄本島からの近さ・手軽さ	6	5.2%
その他	6	5.2%
無回答	6	-
合計（無回答除く）	209	-

［性別クロス］

- 当初期待については性別での差はみられなかった。

［年代クロス］

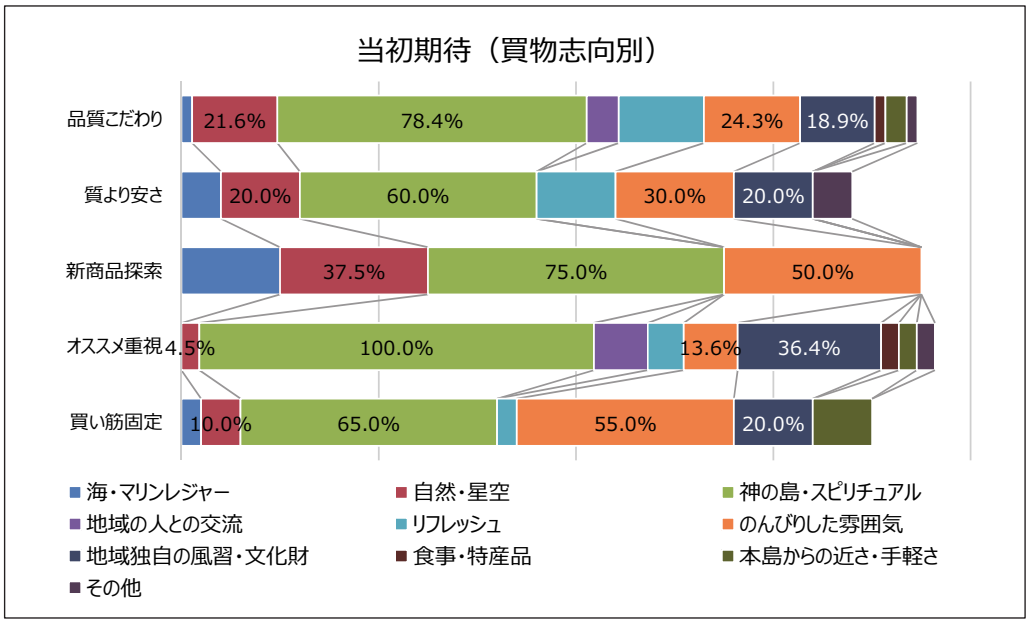
- 年代別では、年代によって回答数の差があり一概にはいえないが、概観すると下記のとおりである。
- 10～20代の若い世代が「海・マリンレジャー」や「自然・星空」、「離島ならではののんびりした雰囲気」を求めているのに対して、70代以上の世代では「神の島・スピリチュアル」や「地域独自の風習・文化財」を求めていることがうかがえる。
- 「神の島・スピリチュアル」はすべての年代で高い回答となっている。



何を楽しみにしていたか	10～20代	30～40代	50～60代	70代以上
海・マリンレジャー	50.0%	4.5%	0.0%	0.0%
自然・星空	50.0%	22.7%	10.0%	16.7%
神の島・スピリチュアル	66.7%	81.8%	87.5%	100.0%
地域の人との交流	0.0%	11.4%	7.5%	16.7%
リフレッシュ	33.3%	15.9%	12.5%	0.0%
のんびりした雰囲気	66.7%	29.5%	42.5%	0.0%
地域独自の風習・文化財	33.3%	22.7%	20.0%	50.0%
食事・特産品	16.7%	2.3%	0.0%	0.0%
本島からの近さ・手軽さ	0.0%	4.5%	7.5%	8.3%
その他	0.0%	6.8%	7.5%	0.0%

［買物志向クロス］

- 買物志向別では、志向によって回答数の差があり一概にはいえないが、下記のような傾向がみられる。
- 新商品探索志向では、他の志向よりも「海・マリンレジャー」や「自然・星空」、「リフレッシュ」や「離島ならではののんびりした雰囲気」への関心が高く、久高島の歴史文化に惹かれてというよりも、一離島としての関心が高いものと考えられる。
- オススメ重視志向では、「神の島・スピリチュアル」への期待が100%であった。

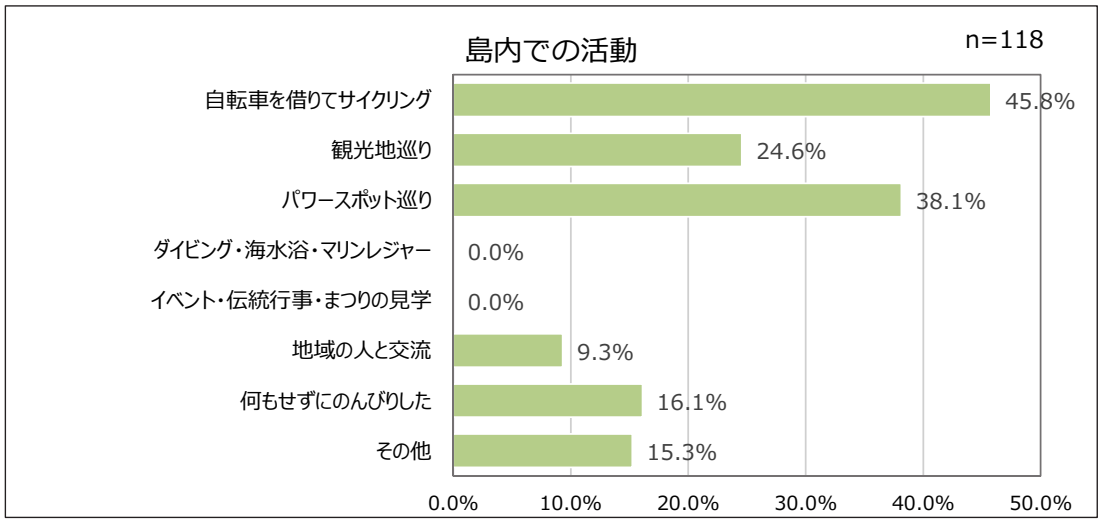


何を楽しみにしていたか	品質こだわり	質より安さ	新商品探索	オススメ重視	買い筋固定	その他
海・マリンレジャー	2.7%	10.0%	25.0%	0.0%	5.0%	0.0%
自然・星空	21.6%	20.0%	37.5%	4.5%	10.0%	14.3%
神の島・スピリチュアル	78.4%	60.0%	75.0%	100.0%	65.0%	85.7%
地域の人との交流	8.1%	0.0%	0.0%	13.6%	0.0%	42.9%
リフレッシュ	21.6%	20.0%	0.0%	9.1%	5.0%	14.3%
のんびりした雰囲気	24.3%	30.0%	50.0%	13.6%	55.0%	42.9%
地域独自の風習・文化財	18.9%	20.0%	0.0%	36.4%	20.0%	28.6%
食事・特産品	2.7%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%
本島からの近さ・手軽さ	5.4%	0.0%	0.0%	4.5%	15.0%	0.0%
その他	2.7%	10.0%	0.0%	4.5%	0.0%	42.9%

4）島内での活動について

①島内での活動

- 今回の久高島訪問において島内で行った活動については、約半数（45.8%）が「自転車を借りてサイクリング」と回答した。次いで「パワースポット巡り」が38.1%、「観光地巡り」が24.6%、「何もせずにのんびりした」が16.1%である。
- 「その他」の内容としては、「歩いた／ぶらり歩き／散歩／散策」、「ランニング」、「浜辺巡り」、「自然との触れ合い／植物見学／自然」、「御嶽等の聖地に手をあわせた／神の道／神の島」、「ガイドによる散策」、「チャクラ測定」、「海ぶどうを買う」、「温泉」などの回答があった。



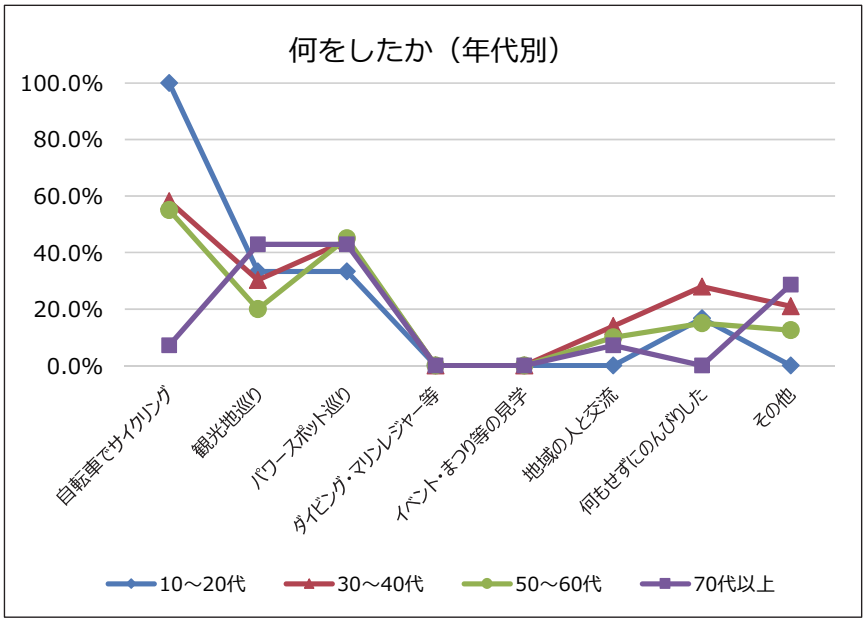
島内での活動	回答数	割合
自転車を借りてサイクリング	54	45.8%
観光地巡り	29	24.6%
パワースポット巡り	45	38.1%
ダイビング・海水浴・マリンレジャー	0	0.0%
イベント・伝統行事・まつりの見学	0	0.0%
地域の人と交流	11	9.3%
何もせずにのんびりした	19	16.1%
その他	18	15.3%
無回答	4	-
合計（無回答除く）	176	-

［性別クロス］

- 当初期待については性別での差はみられなかった。

［年代クロス］

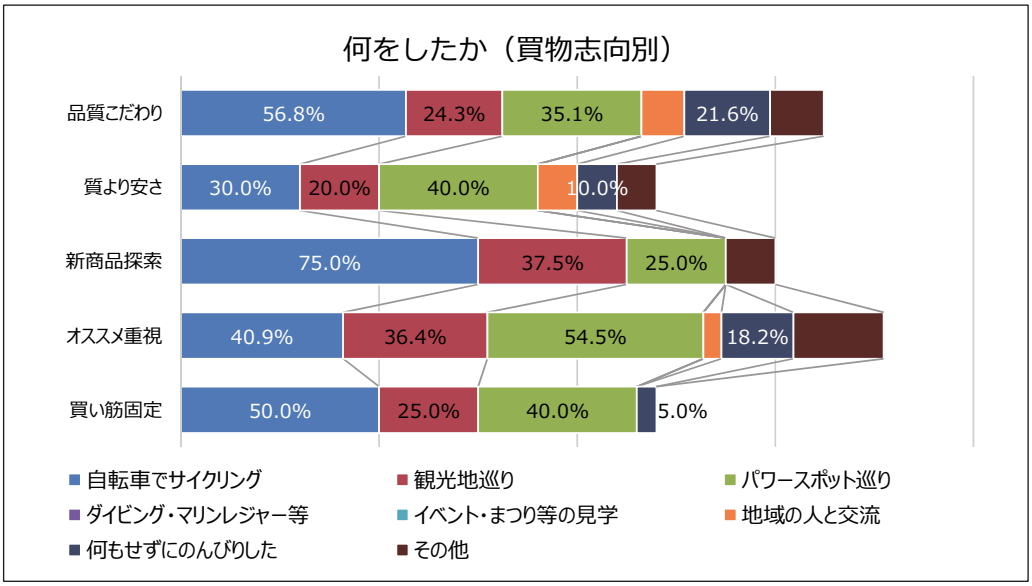
- 島内で何をしたかについて年代別にみると、10～20代は回答者全員が自転車を借りてサイクリングしているが、70代以上ではサイクリングをしたと回答した割合は少ない。
- 30代以上は「その他」と回答した回答者がみられるが、30～40代では「ランニング」や「浜辺巡り」の回答があり、50代以上では「歩いた／散策」、「聖地等に手をあわせた」の回答がみられ、年代ごとの体力にあわせた回答内容となっている。



何をしたか	10～20代	30～40代	50～60代	70代以上
自転車でサイクリング	100.0%	58.1%	55.0%	7.1%
観光地巡り	33.3%	30.2%	20.0%	42.9%
パワースポット巡り	33.3%	44.2%	45.0%	42.9%
ダイビング・マリンレジャー等	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
イベント・まつり等の見学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域の人と交流	0.0%	14.0%	10.0%	7.1%
何もせずにのんびりした	16.7%	27.9%	15.0%	0.0%
その他	0.0%	20.9%	12.5%	28.6%

［買物志向クロス］

- 買物志向別では、新商品探索志向において「自転車でサイクリング」が、オススメ重視志向において「パワースポット巡り」と回答した割合が高くなっている。



何をしたか	品質こだわり	質より安さ	新商品探索	オススメ重視	買い筋固定	その他
自転車でサイクリング	56.8%	30.0%	75.0%	40.9%	50.0%	42.9%
観光地巡り	24.3%	20.0%	37.5%	36.4%	25.0%	28.6%
パワースポット巡り	35.1%	40.0%	25.0%	54.5%	40.0%	42.9%
ダイビング・マリンレジャー等	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
イベント・まつり等の見学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域の人と交流	10.8%	10.0%	0.0%	4.5%	0.0%	42.9%
何もせずにのんびりした	21.6%	10.0%	0.0%	18.2%	5.0%	42.9%
その他	13.5%	10.0%	12.5%	22.7%	0.0%	28.6%

②島内で使用した金額

［宿泊金額］

- 島内で使用した金額について、宿泊金額は3,000円台が最も多く、次いで4,000円台となった。
- 宿泊金額について、最も低い金額は3,000円、最も高い金額は45,000円であった。なお、高い金額については、同行者全員の合計額である可能性がある。
- 平均使用額はおよそ10,000円である。

［飲食金額］

- 飲食金額では、1,000円台の使用が最も多く、次いで1,000円未満、2,000円となっており、飲料のみの購入や、昼食のみの使用が中心となっている可能性がある。
- 飲食金額について、最も低い金額は130円、最も高い金額は10,000円であった。平均使用額はおよそ1,900円である。

［レンタル金額］

- レンタル金額では、1,000円未満の使用が中心となっている。
- レンタル金額について、最も低い金額は300円、最も高い金額は3,000円であった。平均使用額は、およそ1,000円である。

［土産品金額］

- 土産品の購入金額では、1,000円未満の使用が中心となっているが、6,000円まで幅がある。
- 土産品購入金額について、最も低い金額は300円、最も高い金額は6,000円であった。平均使用額は、およそ2,300円である。

［ガイド金額］

- ガイド金額としては、5,000円台の使用が最も多く、ついで7,000円以上となっている。
- ガイド金額について、最も低い金額は1,500円、最も高い金額は15,000円であった。平均使用額は6,600円である。

［その他金額］

- その他の使用金額としては、500円以下から20,000円まで幅があるが、1,000円未満の使用が中心となっている。
- 最も低い金額は200円、最も高い金額は20,000円である。平均使用額は、およそ4,500円である。
- その他の使い道としては、「チャクラ測定」、「賽銭」などスピリチュアル関係の使い道が挙げられた。

宿泊金額	回答数	割合
10,000円以上	4	28.6%
9,000円台	0	0.0%
8,000円台	1	7.1%
7,000円台	0	0.0%
6,000円台	0	0.0%
5,000円台	2	14.3%
4,000円台	3	21.4%
3,000円台	4	28.6%
合計	14	100.0%
平均使用額	¥10,143	-

飲食金額	回答数	割合
10,000円以上	2	2.9%
9,000円台	0	0.0%
8,000円台	1	1.4%
7,000円台	0	0.0%
6,000円台	1	1.4%
5,000円台	2	2.9%
4,000円台	3	4.3%
3,000円台	6	8.6%
2,000円台	7	10.0%
1,000円台	26	37.1%
1,000円未満	22	31.4%
うち500円以下	11	-
合計	70	100.0%
平均使用額	¥1,866	-

レンタル金額	回答数	割合
3,000円以上	2	4.9%
2,000円台	2	4.9%
1,000円台	9	22.0%
1,000円未満	28	68.3%
うち500円以下	6	-
合計	41	100.0%
平均使用額	¥979	-

土産金額	回答数	割合
6,000円以上	1	5.3%
5,000円台	3	15.8%
4,000円台	1	5.3%
3,000円台	1	5.3%
2,000円台	3	15.8%
1,000円台	3	15.8%
1,000円未満	7	36.8%
うち500円以下	3	-
合計	19	100.0%
平均使用額	¥2,311	-

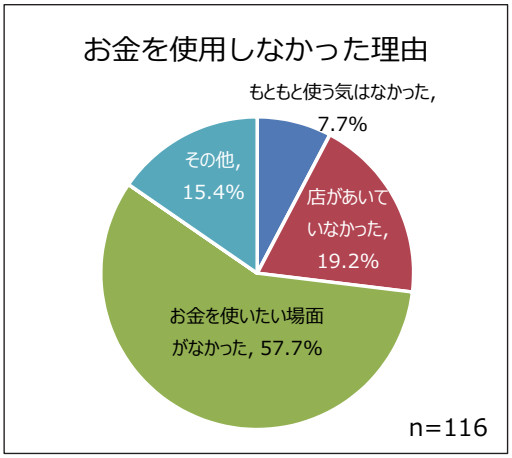
ガイド金額	回答数	割合
7,000円以上	2	25.0%
6,000円台	1	12.5%
5,000円台	4	50.0%
4,000円台	0	0.0%
3,000円以下	1	12.5%
合計	8	100.0%
平均使用額	¥6,563	-

その他金額	回答数	割合
20,000円	1	7.7%
10,000円	2	15.4%
3,000円台	3	23.1%
2,000円台	1	7.7%
1,000円台	1	7.7%
1,000円未満	5	38.5%
うち500円以下	3	-
合計	13	100.0%
平均使用額	¥4,525	-

③島内でお金を使用しなかった理由

- 「島内でお金を使用しなかった」場合の理由として、「お金を使いたい場面がなかった」が最も多く57.7%、「土産品購入や食事のための店があいていなかった」が19.2%となった。
- 「その他」の理由としては「日帰りなので」、「店が少ない」などが挙げられている。

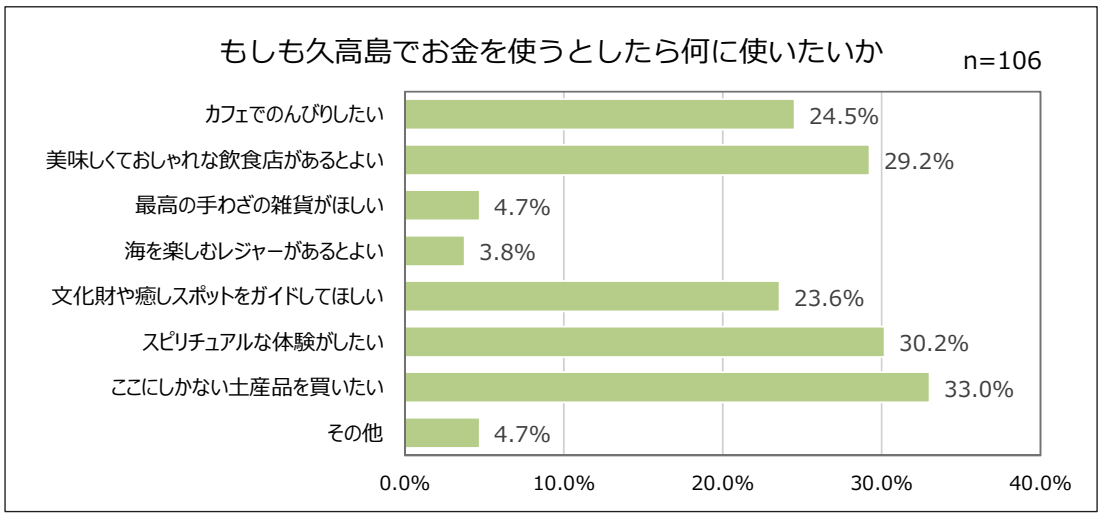
使用しない理由	回答数	割合
もともとお金を使う気はなかった	2	7.7%
土産品購入や食事のための店があいていなかった	5	19.2%
お金を使いたい場面がなかった	15	57.7%
気に入らなかった	0	0.0%
その他	4	15.4%
無回答	96	-
合計（無回答除く）	26	100.0%



④もしも久高島でお金を使うとしたら何に使いたいか

［使い道］

- もしも久高島でお金を使うとしたら何に使いたいかを尋ねた設問では、回答者の33.0%が「ここにしかない土産品を買いたい」と回答した。次いで「スピリチュアルな体験がしたい」が30.2%、「美味しくておしゃれな飲食店があるとよい」が29.2%、「カフェでのんびりしたい」24.5%となった。
- 「その他」の内容として「地元の人との交流」、「レンタカー」、「宿泊」が挙げられた。



何にお金を使いたいか	回答数	割合
カフェでのんびりしたい	26	24.5%
美味しくておしゃれな飲食店があるとよい	31	29.2%
最高の手わざの雑貨がほしい	5	4.7%
海を楽しむレジャーがあるとよい	4	3.8%
文化財や癒しスポットをガイドしてほしい	25	23.6%
スピリチュアルな体験がしたい	32	30.2%
ここにしかない土産品を買いたい	35	33.0%
その他	5	4.7%
無回答	16	-
合計（無回答除く）	163	-

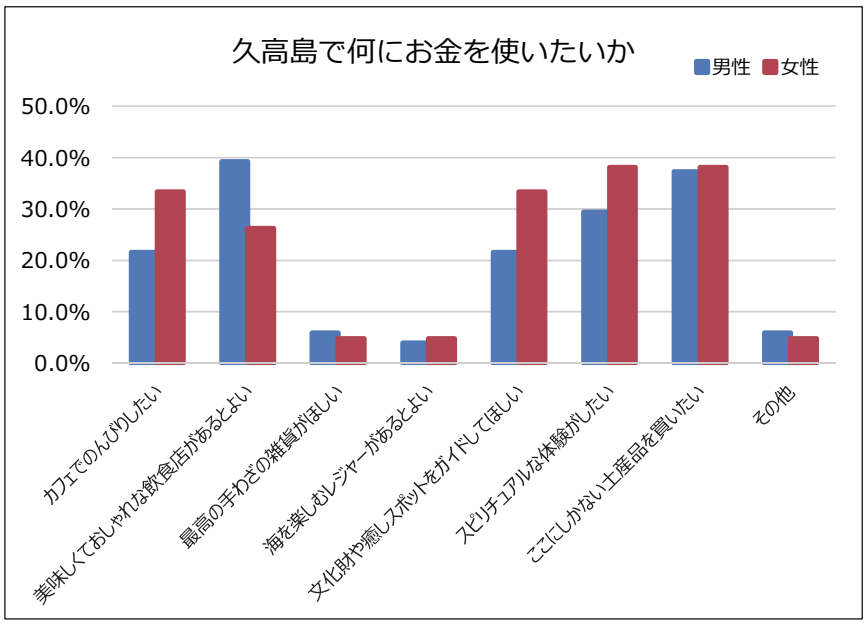
［使用してもよい金額］

- 使用してもよいと思う金額について尋ねる設問では、おおむね3,000円～5,000円という結果であった。10,000円までなら使用してもよいとする回答も15.9%あった。
- 久高島で使用してもよいと思う金額について、最も低い金額は1,000円、最も高い金額は50,000円であった。平均額はおよそ6,500円である。
- その他、「いくらでも」とする回答があった。

使用してもよい金額	回答数	割合
50,000円	1	2.3%
20,000円	2	4.5%
10,000円	7	15.9%
8,000円	2	4.5%
5,000円	11	25.0%
4,000円	2	4.5%
3,000円	13	29.5%
2,000円	4	9.1%
1,000円	2	4.5%
合計	44	100.0%
平均額	¥6,545	-

［性別クロス］

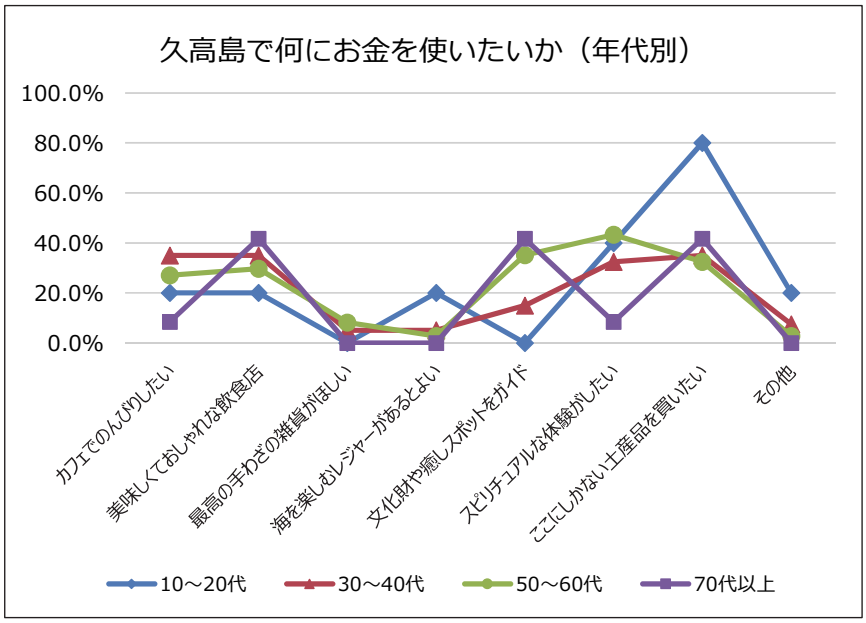
- 「カフェでのんびりしたい」、「文化財や癒しスポットをガイドしてほしい」、「スピリチュアルな体験がしたい」の3項目については、男性よりも女性のほうが回答する率が高かった。一方、「美味しくておしゃれな飲食店があるとよい」については、男性のほうが高かった。



何にお金を使いたいか	男性	女性
カフェでのんびりしたい	21.6%	33.3%
美味しくておしゃれな飲食店があるとよい	39.2%	26.2%
最高の手わざの雑貨がほしい	5.9%	4.8%
海を楽しむレジャーがあるとよい	3.9%	4.8%
文化財や癒しスポットをガイドしてほしい	21.6%	33.3%
スピリチュアルな体験がしたい	29.4%	38.1%
ここにしかない土産品を買いたい	37.3%	38.1%
その他	5.9%	4.8%

［年代クロス］

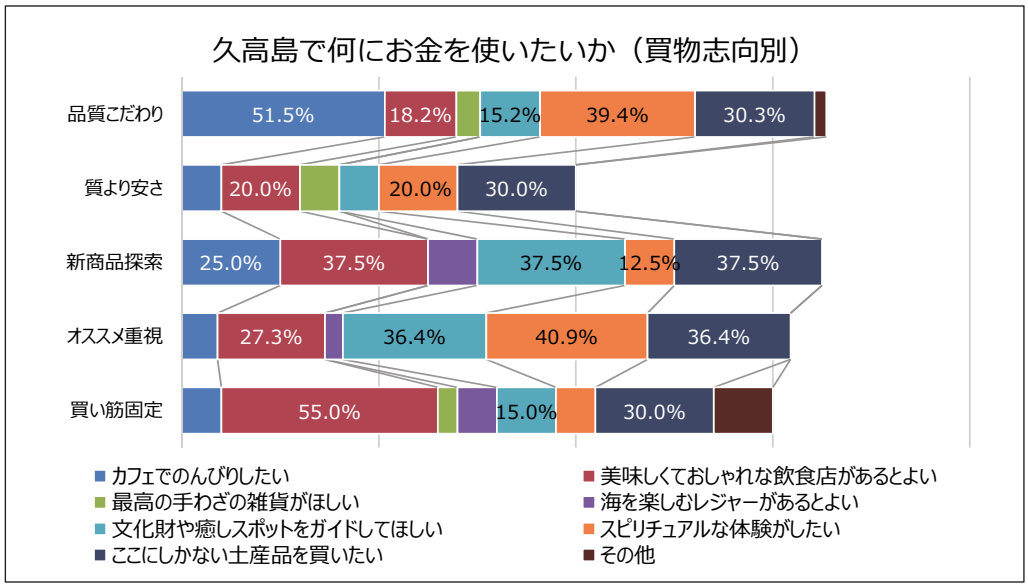
- 年代別にみると、10～20代はとくに「ここにしかない土産品を買いたい」というニーズが高いことがうかがえる。



何にお金を使いたいか	10～20代	30～40代	50～60代	70代以上
カフェでのんびりしたい	20.0%	35.0%	27.0%	8.3%
美味しくておしゃれな飲食店	20.0%	35.0%	29.7%	41.7%
最高の手わざの雑貨がほしい	0.0%	5.0%	8.1%	0.0%
海を楽しむレジャーがあるとよい	20.0%	5.0%	2.7%	0.0%
文化財や癒しスポットをガイド	0.0%	15.0%	35.1%	41.7%
スピリチュアルな体験がしたい	40.0%	32.5%	43.2%	8.3%
ここにしかない土産品を買いたい	80.0%	35.0%	32.4%	41.7%
その他	20.0%	7.5%	2.7%	0.0%

［買物志向クロス］

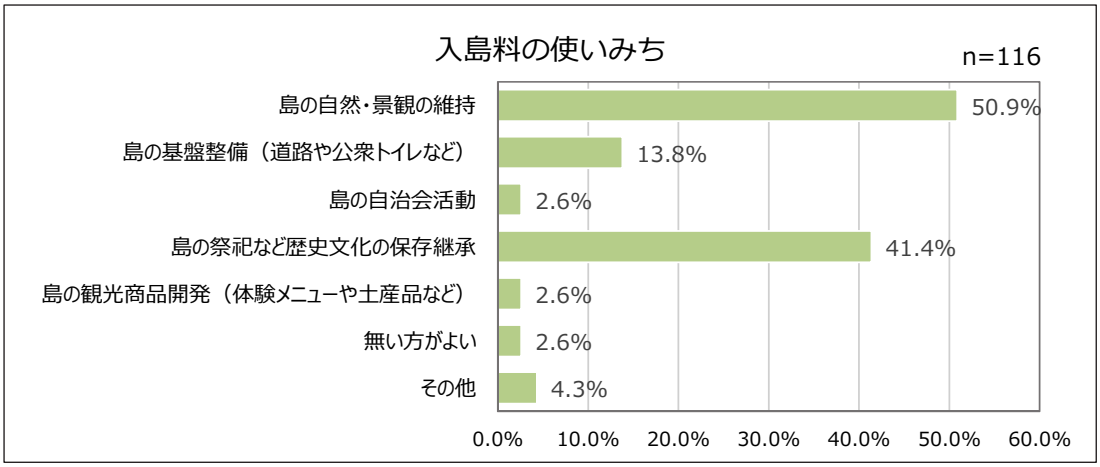
- 買物志向別では、品質こだわり志向では「カフェでのんびりしたい」と回答した割合が高く、また「スピリチュアルな体験がしたい」の割合が高いことから、体験などのコト消費を希望していることが伺える。
- 買い筋固定化志向では、「美味しくておしゃれな飲食店があるとよい」と回答した割合が高い。



何にお金を使いたいか	品質こだわり	質より安さ	新商品探索	オススメ重視	買い筋固定
カフェでのんびりしたい	51.5%	10.0%	25.0%	9.1%	10.0%
美味しくておしゃれな飲食店があるとよい	18.2%	20.0%	37.5%	27.3%	55.0%
最高の手わざの雑貨がほしい	6.1%	10.0%	0.0%	0.0%	5.0%
海を楽しむレジャーがあるとよい	0.0%	0.0%	12.5%	4.5%	10.0%
文化財や癒しスポットをガイドしてほしい	15.2%	10.0%	37.5%	36.4%	15.0%
スピリチュアルな体験がしたい	39.4%	20.0%	12.5%	40.9%	10.0%
ここにしかない土産品を買いたい	30.3%	30.0%	37.5%	36.4%	30.0%
その他	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.0%

⑤入島料金の使い道

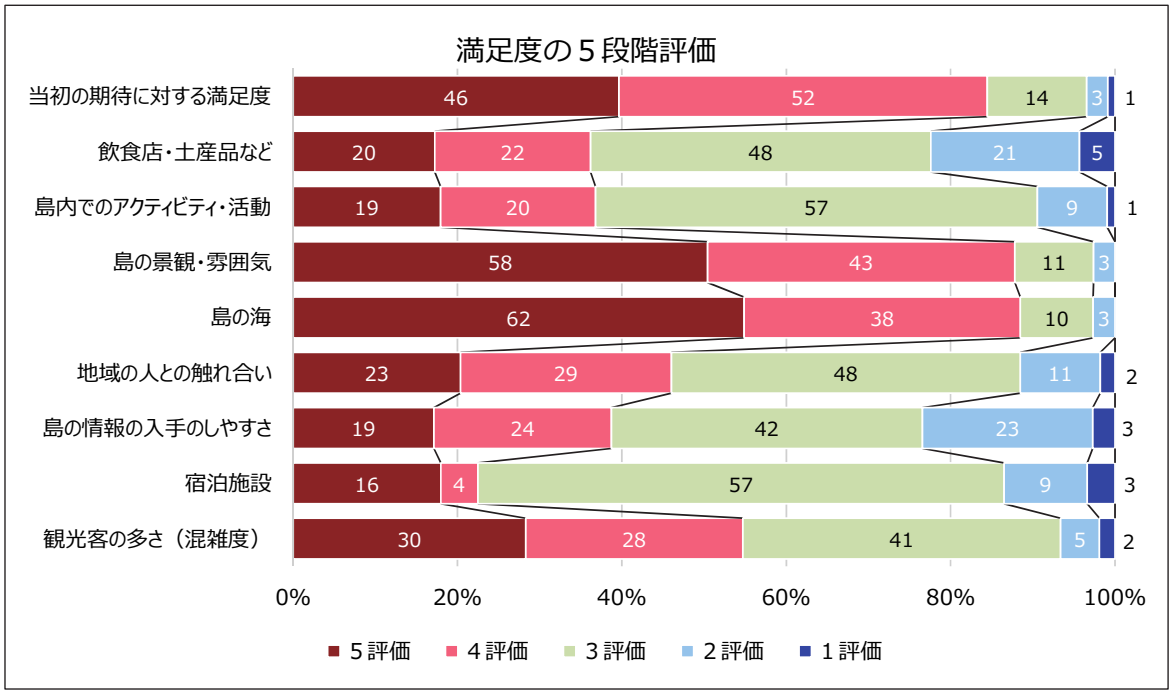
- どのような用途であれば入島料金を支払ってもよいと思うかを尋ねた設問では、回答者の50.9%が「島の自然・景観の維持」と回答した。次いで「島の祭祀など歴史文化の保存継承」が41.4%で、この2項目が主な回答であった。少し離れて、「島の基盤整備（道路や公衆トイレなど）」が13.8%と続く。
- 「その他」の内容として、「案内板の設置」、「人との交流」、「福祉」という意見が挙げられた。



項目	回答数	割合
島の自然・景観の維持	59	50.9%
島の基盤整備（道路や公衆トイレなど）	16	13.8%
島の自治会活動	3	2.6%
島の祭祀など歴史文化の保存継承	48	41.4%
島の観光商品開発（体験メニューや土産品など）	3	2.6%
無い方がよい	3	2.6%
その他	5	4.3%
無回答	6	-
合計（無回答除く）	137	-

⑥今回の久高島観光の満足度

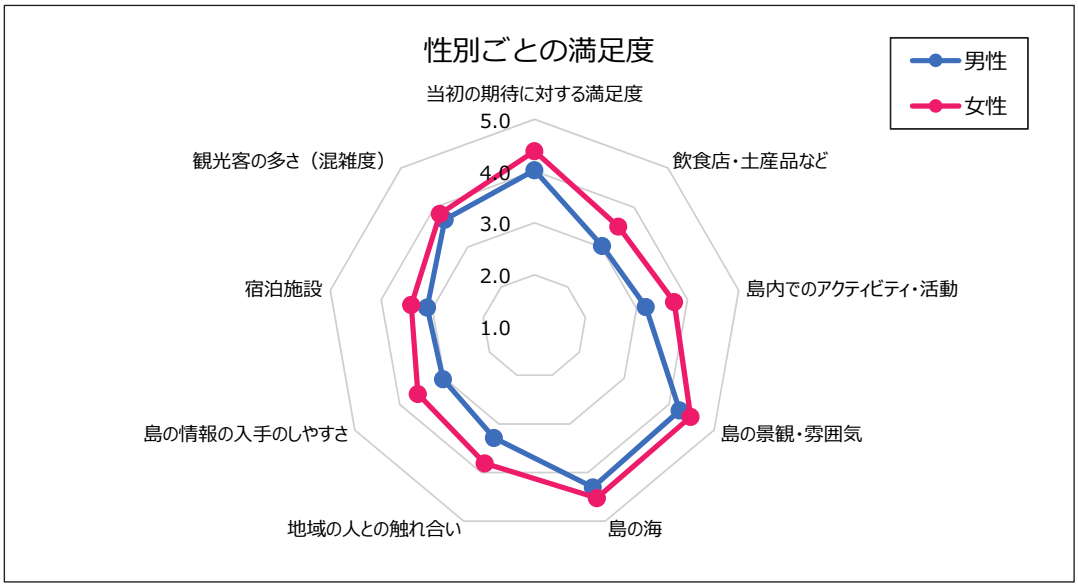
- 今回の久高島観光を5段階（1が満足度低く、5が満足度高い）で評価してもらう設問では、「島の海」や「島の景観・雰囲気」、「当初の期待に対する満足度」については比較的評価がよいことがわかった。
- 「宿泊施設」や「飲食・土産品など」、「島内でのアクティビティ・活動」については、低い評価をつける回答者が多かった。ただし、宿泊施設については日帰り客が多かったため「わからない」という意図で「3」と評価した回答者が多いと予測される。
- 「2」または「1」とする回答が最も多かった項目は「島の情報の入手のしやすさ」と「飲食店・土産品など」である。次いで「地域の人との触れ合い」、「島内でのアクティビティ・活動」となった。
- 自由意見などをふまえると、島内における文化財等の解説サインや散策マップなどの案内の少なさなどが、低い評価につながったものと考えられる。



［性別クロス］

- 性別ごとに満足度をみると、満足度が高い項目や低い項目については同じ傾向であるが、全体として

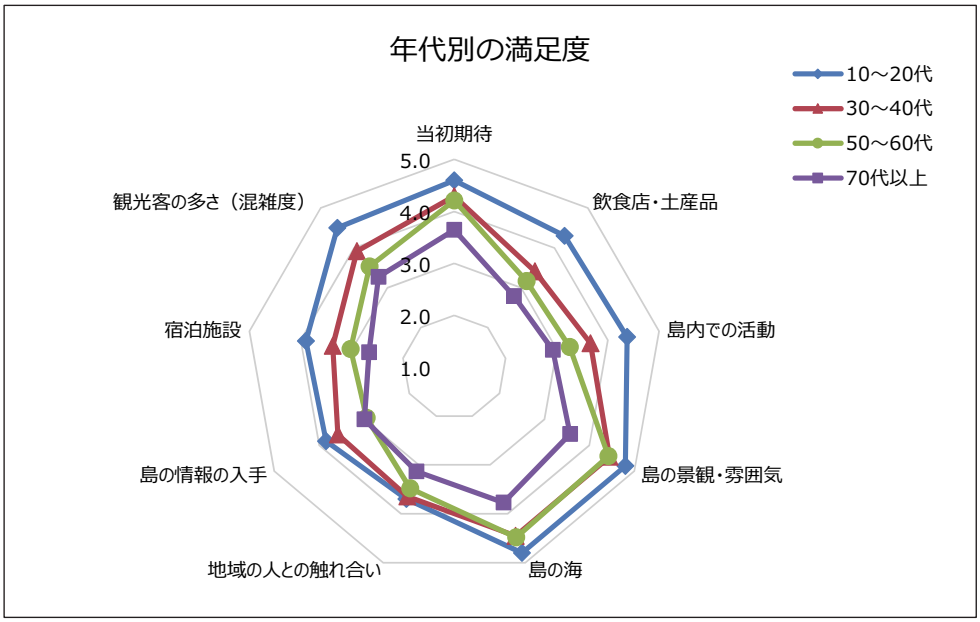
男性よりも女性のほうが、満足度が高いことがわかった。



※5評価＝5点、4評価＝4点、3評価＝3点、2評価＝2点、1評価＝1点で計算したものを、母数で除して算出したポイント。

［年代クロス］

- 年代別にみると、満足度が高い項目や低い項目については概ね同じ傾向であるが、10～20代では「島内での活動」や「飲食店・土産品など」の項目は低くない。
- 年代が上がるに連れて満足度が低くなる傾向がみられ、70代以上では全体的に満足度は低い結果となった。自由意見でも、体力がない・歩行に難がある高齢者は島内を観光することができなかったという意見が挙げられており、その点が低い評価につながったものと考えられる。

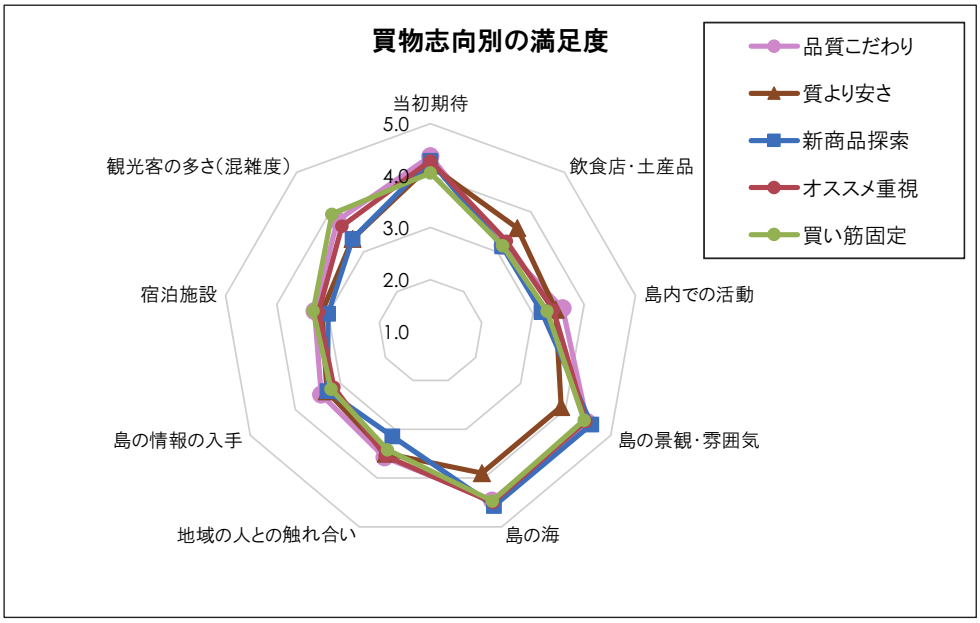


※5評価＝5点、4評価＝4点、3評価＝3点、2評価＝2点、1評価＝1点で計算したものを、母数で除して算出したポイント。

［買物志向クロス］

- 買物志向別では、とくに違いは見られないが、質より安さ重視志向において、「島の景観・雰囲気」や

「島の海」に対して比較的評価が低い結果となった。



※5評価＝5点、4評価＝4点、3評価＝3点、2評価＝2点、1評価＝1点で計算したものを、母数で除して算出したポイント。

⑦自由意見

年齢等	意見
60 代女性	前はなかったけど、今回はゴミの多さが気になった。観光客のマナーの悪さだろう。
40 代男性	道路整備、自転車(よいものを)、案内板。
40 代男性	缶ビールが飲みたい。
50 代男性	蚊が多い。 アルコール類の自販機があればよい。 レンタサイクルの整備。古い。電動があればなおよい。
40 代男性	今ある自然、文化、民俗を守りながらも、島めぐりしやすい整備をすすめることが必要。未舗装道路の水たまり、案内板、各名所のキャプション等。
50 代女性	トイレが途中にあると助かります。
30 代女性	サイクリングを利用させていただきましたが、各地のMAPが色々あると嬉しいと思いました。
50 代男性	案内板が少ない。
30 代男性	夏にまた来ます。
30 代女性	自然の保存を続けてください。
60 代不明	現状のままでいて下さい。
30 代女性	島のことや文化について情報がほしい。パンフレットなどを道の駅などで見られるとよい。
30 代男性	島の文化や歴史などもう少し情報がほしい。
30 代男性	神聖な場所なので、文化を伝える施設にもっと力を入れてもよいように感じた。
50 代男性	トイレがない。
30 代女性	気候もよかったし楽しめました。
70 代以上女性	観光する場合の手だてがない。
60 代男性	足がない。今日観光できなかった。
50 代男性	船便を多くしてほしい。例えば 30 分に1便とかです。

年齢等	意見
40 代女性	猫がなぜ多いのか。
50 代男性	フェリー代はもっと高くてもよいと思う。
30 代女性	サイクリング途中のガジュマル下でお茶など飲めたら嬉しいです。
30 代男性	ひっそりした感じがとてもよいです。
60 代男性	色々とすばらしいところがあります。 自然を大切にしてほしい。
70 代以上男性	それぞれの土地に個性があるのは当然のことで、島を荒らさないためには島民の意見が最大に尊守されるべきと思います。 自然の姿は残したまま、港付近の発着地のみ手を加えるのがよい。
60 代男性	島内の行事など紹介するビデオがあればいい。未知の島、神秘の島のため。
60 代男性	案内表示、地図板など、入島料を取って、整備してほしい。
60 代女性	久高島の特異性を今後も残すために、入島者の制限もありかと思いました(有料)。 以前に訪問したときには人も少なく(自転車で一周)人工物の何もない風景に感動しました。 今後も島の人たちの生活を乱すことなく、歴史的な遺産を残してほしいと思いました。 地域の方に案内していただき、新たに知ることが多く、たいへんよかった。
60 代女性	バイク、ウォーキングのチラシを見ておもしろうそうだと思った。仲間と一緒に訪れたいイベントです。
40 代女性	久高島はすべてが素晴らしい。
60 代男性	歴史文化等の保存に力をそそぎ、極力観光地化しないで現存のまま残してほしいです。 シャワートイレ設置お願いします(水資源の大切さは充分理解しておりますが、持病があるため何卒ご理解下さい)。
60 代男性	案内サインの見やすさに難あり(かすれて読めない)。
40 代女性	ドローンが飛んでいたので、不快な面があった。ドローンはプライベートを見られているようでよくないし、音もうるさくて雰囲気が壊れます。
20 代女性	夜きたので、まだ、はっきり言えないですが、雰囲気はとても好きです。島の人の感じもすごくよい。明日観光するので、楽しみたい。今回時間ないので、また次回来たいと思えたので、そのときは、ゆっくり日にちとってきたいです。イラブーや、海ぶどう[この島の特産物]があるとやはり食べておきたい。他にも、難しいかもですが、地酒などもあったらいいかもです。調理場から、こちらの言葉のようなものがきこえてきました。「こちらに来てるんだなあ」と実感。心地よかったです。ごちそうさまでした。
50 代女性	食事をするところがあってよかった。ありのままの久高島を楽しみたいので、今のままで変わらずにいてもらいたい。
50 代女性	交流館の朝食、徳仁の食事は沖縄での楽しみになっています。ただ、冬期のシャワー室はやっぱり寒いです…。
30 代女性	5 年ぶりに入島したがゴミ(あき缶、ペットボトルのゴミ)がとても増えた印象。もともと壊れた車とかは置いてあったけど…。それでも飲料などのゴミが多く、観光客のせいか住民のゴミが台風などで飛んだのかわからないけど少し残念。観光客などに島めぐり中にゴミを拾ってもらい、それを船着き場で回収して、その際にお土産(シールとかお菓子とかそれくらいの品)プレゼントするとかなんか、イベントごとにしてゴミ回収したい。
40 代男性	今のままでよいです。あまり来やすい環境ではないほうがよいです。
40 代女性	主に宿泊交流館について、①資料室を閉めるのは 24:00～6:00 くらいにしてほしい。②朝食を食べるところは 24 時間電気をつけてほしい。他の人が先に眠るときなど、どこにもいられず本当に辛い。スイッチもわからないしまっくらで何もできない。

4. 既存アンケート等の関連データ

（１）南城市観光コア施設整備基本計画策定調査委託業務

１）実施概要

「南城市観光コア施設整備基本計画策定調査委託業務」の観光客動態調査において、南城市を訪れる観光客の動態を把握することを目的としたアンケート調査を実施している。実施概要は下記のとおりである。

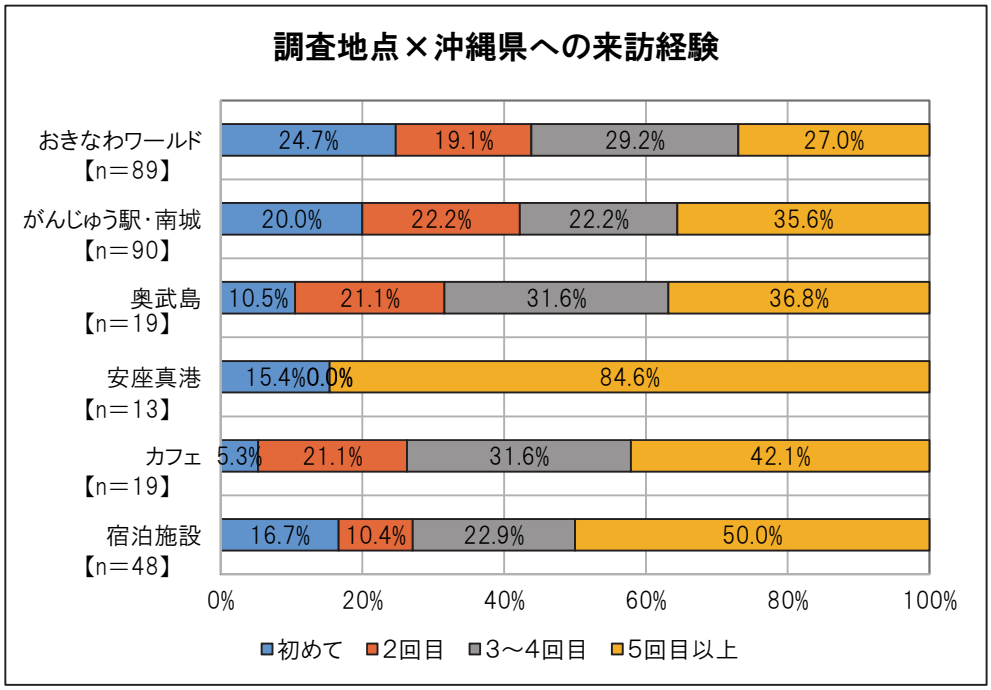
表　調査実施概要

項目	概要
実施期間	①対面：2017 年8月6日（日）、2017 年8月 10 日（木） ②留置：2017 年8月1日（火）～2017 年8月 31 日（木）
調査場所	①対面：おきなわワールド、がんじゅう駅・南城、奥武島 ②留置：がんじゅう駅・南城、安座真港、Café やぶさち、カフェくるくま、浜辺の茶屋、ユインチホテル・南城、安座真ムーンライトテラス、朝陽の宿涼風
回収数	対面　290 件／留置　146 件　　合計　436 件

２）調査結果（国内観光客）

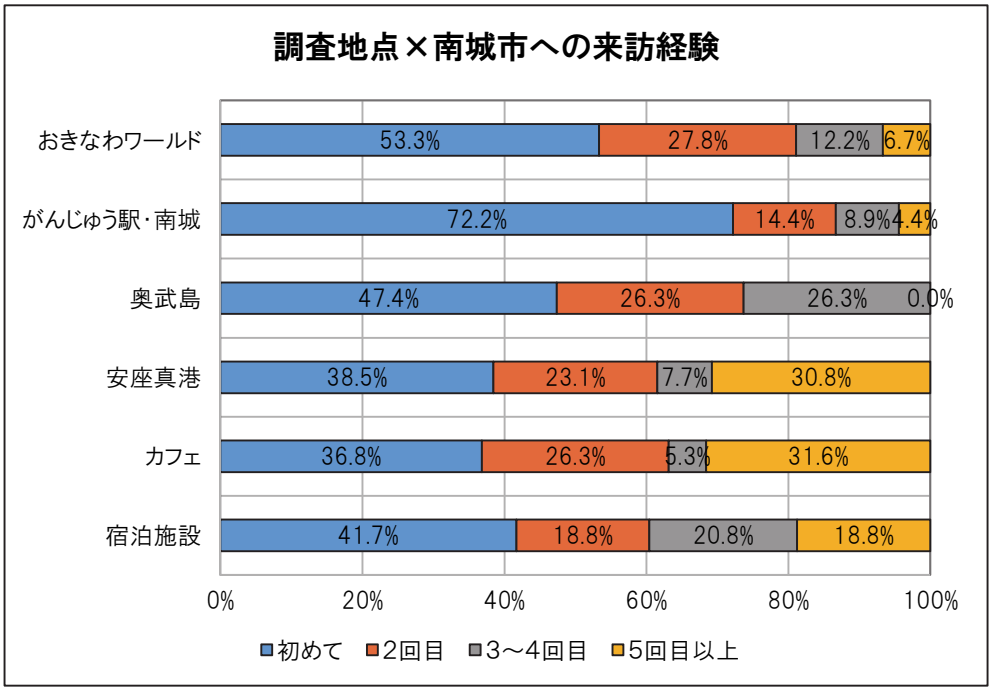
①調査地点別の沖縄県への来訪回数

- 調査地点別にみた沖縄県への来訪回数について、安座真港では、沖縄への訪問が「5回目以上」が84.6%で、「初めて」と回答した人が残りの15.4%を占めており、沖縄に何度も訪れているリピーターが多い傾向がみられる。
- 他の観光施設やカフェ、宿泊施設等に比べても、安座真港の「5回目以上」の割合が圧倒的に高くなっている。



②調査地点別の南城市への来訪回数

- 調査地点別にみた南城市への来訪回数について、安座真港では、「初めて」と回答した人が36.8%で最も多かった。次いで「5回目以上」が30.8%、「2回目」が23.1%であった。
- おきなわワールドやがんじゅう駅・南城、奥武島の回答者と比べると、安座真港の回答者は、特に「5回目以上」の割合が高い傾向がある。



③南城市で訪れた場所（予定のある場所）

- 「久高島」を訪れた人（予定含む）は8.5%の22件であり、比較的低い割合であった。「久高島」を気に入った理由として、島の自然や神聖な雰囲気、サイクリングできる点などを挙げている人がみられた。

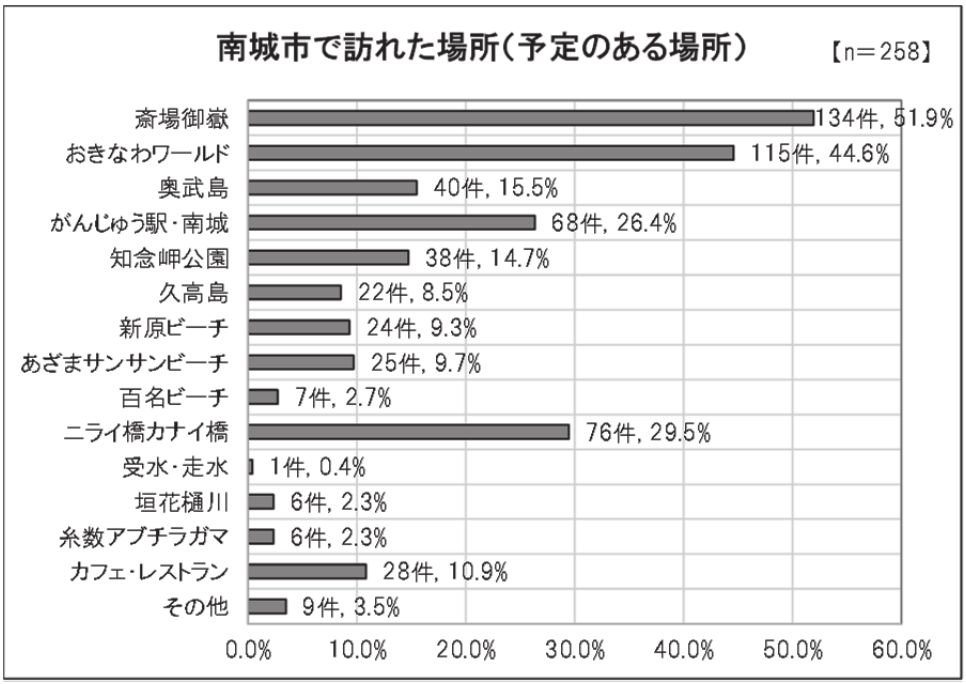
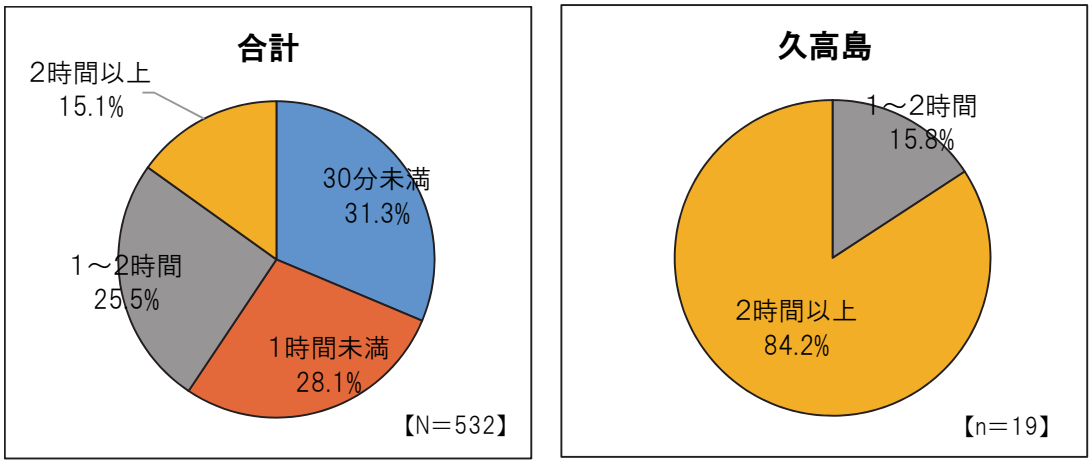


表　久高島が気に入った理由（自由意見）

きれい/離島をゆっくりサイクリングできる/島の雰囲気を楽しむことができる/島全体/静か/楽しい/自然/気が休まる/神聖さ/神聖な空気

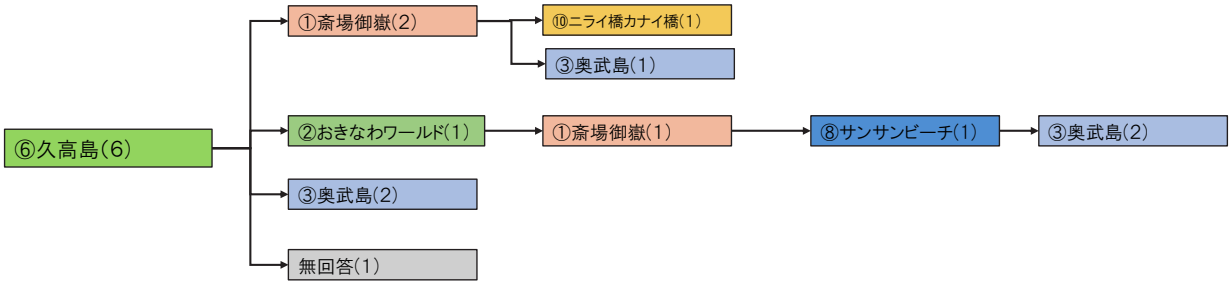
④南城市で訪れた場所の滞在時間（予定含む）

- 市内観光地7ヶ所の個々の滞在時間については、平均して「30分未満」が31.3%、「1時間未満」が28.1%、「1～2時間」が25.5%、「2時間以上」が15.1%となっている。
- 最も滞在時間が長いのは久高島であり、「2時間以上」が84.2%の割合を占めた。



⑤久高島に1番目に行った人の行程

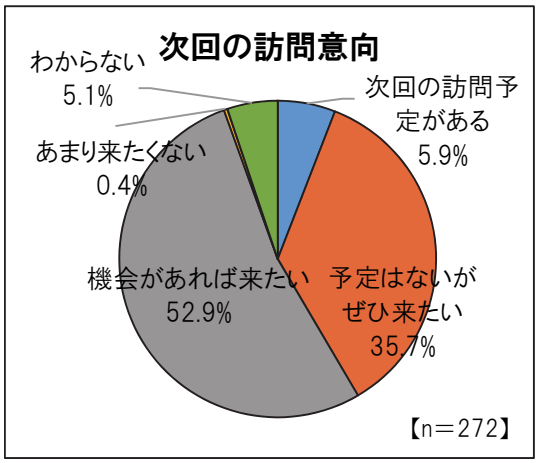
- 久高島を最初に訪問した回答者6件については、2番目に斎場御嶽やおきなわワールド、奥武島を訪問している。また、全員が南城市のリピーターであり、単独や2～3人の同行者かつ4泊以上の旅行者がほとんどであった。



属性･旅行形態、南城市やコア施設へのニーズ等（特徴的傾向）
50 代男性×単独、南城市 10 回以上/4泊以上/市外泊/次回訪問予定あり/歴史志向が強い。
40 代女性×夫婦/南城市 10 回以上/1泊2日/市内泊/土産情報と休憩スペースのニーズ
40 代女性/家族（3人）/南城市5～9回目/4泊以上/知人の車/ショッピング目的/久高島ファン
40 代男性×夫婦/南城市5～9回以上/4泊以上/市内泊/島でゆったりサイクリング･散歩派
40 代男性×友人（2人）/南城市3回目/4泊以上/歴史文化･料理体験希望

⑥次回の訪問意向

- 次回の訪問意向は、272件の回答者のうち、「機会があれば来たい」が52.9%と最も高く、次いで「予定はないがぜひ来たい」が35.7%となっている。一方、「次回の訪問予定がある」と答えた人は5.9%となっている。
- 「機会があれば来たい」と回答した人のうち、「久高島が好きだから」や「久高島等、何度きても楽しいから」という意見を挙げている人もみられた。



⑧自由意見

- 自由意見としては、観光情報の充実や斎場御嶽に関する意見が多かった。久高島に関しては、久高島の文化や自然の継承を求める意見がみられた。

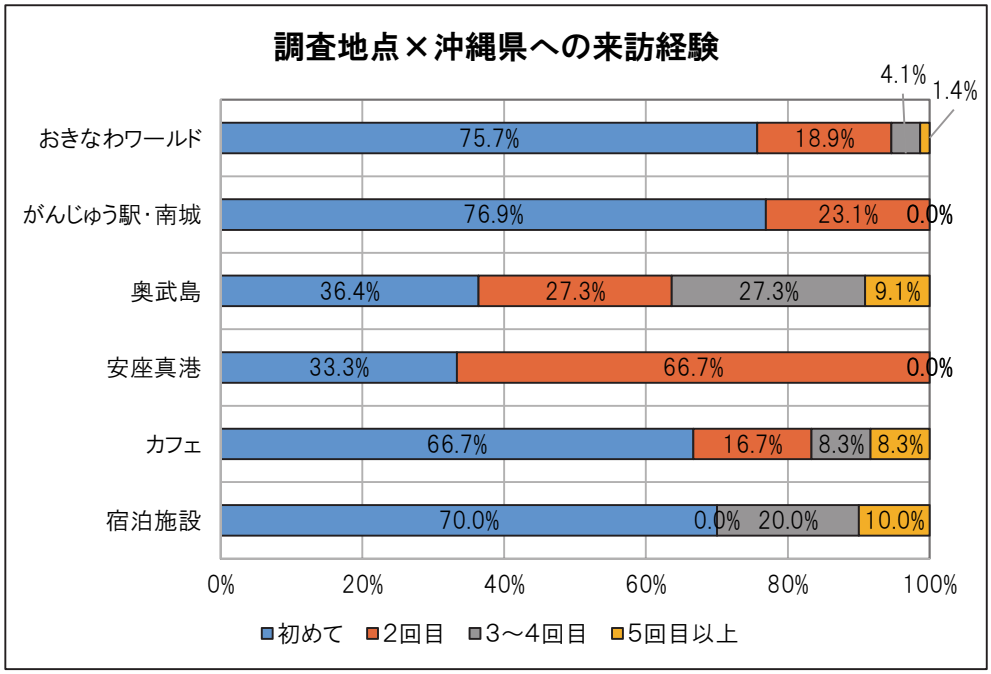
表　自由意見

斎場御嶽に何回か来ましたが最初は入場料もなく、次は入口に建物ができて入場料を払い、今では車では行けなくなってしまいました。今後、男性は入れない、又、観光禁止にする等ある様ですが残念です。でもしかたないのですね。久高島は変わらないでほしいです。
久高島の文化、自然を今後共残してほしい。

3)調査結果(海外観光客)

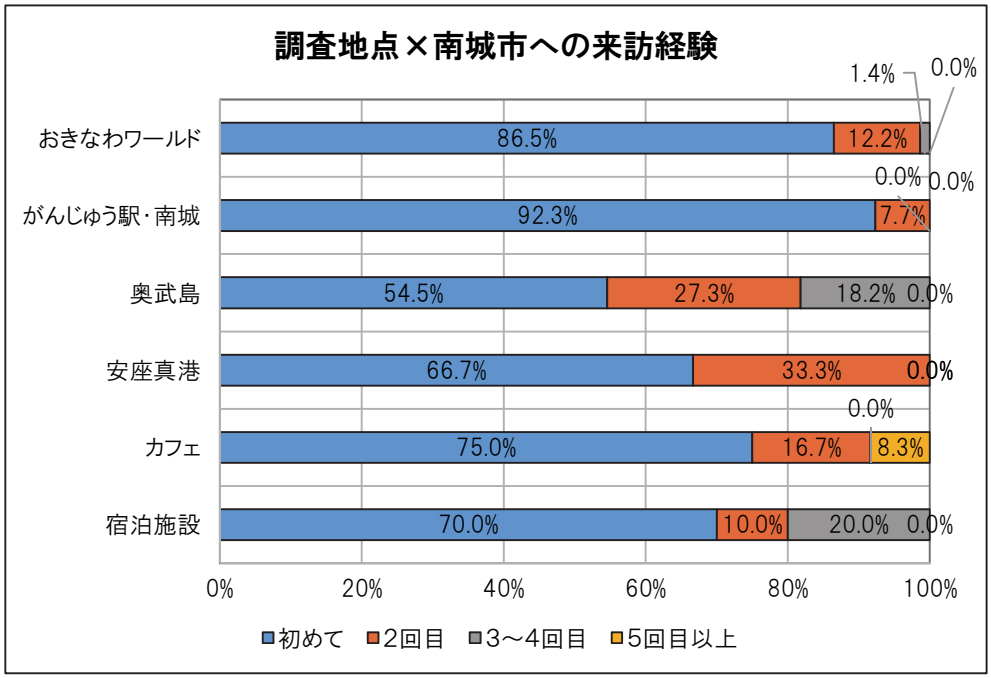
①調査地点別の沖縄県への来訪回数

- 調査地点別の沖縄来訪回数は、安座真港では「2回目」が66.7%を占めており、残りの33.3%が「初めて」であった。
- 安座真港は、他施設よりも「初めて」の割合が低い傾向がみられる。



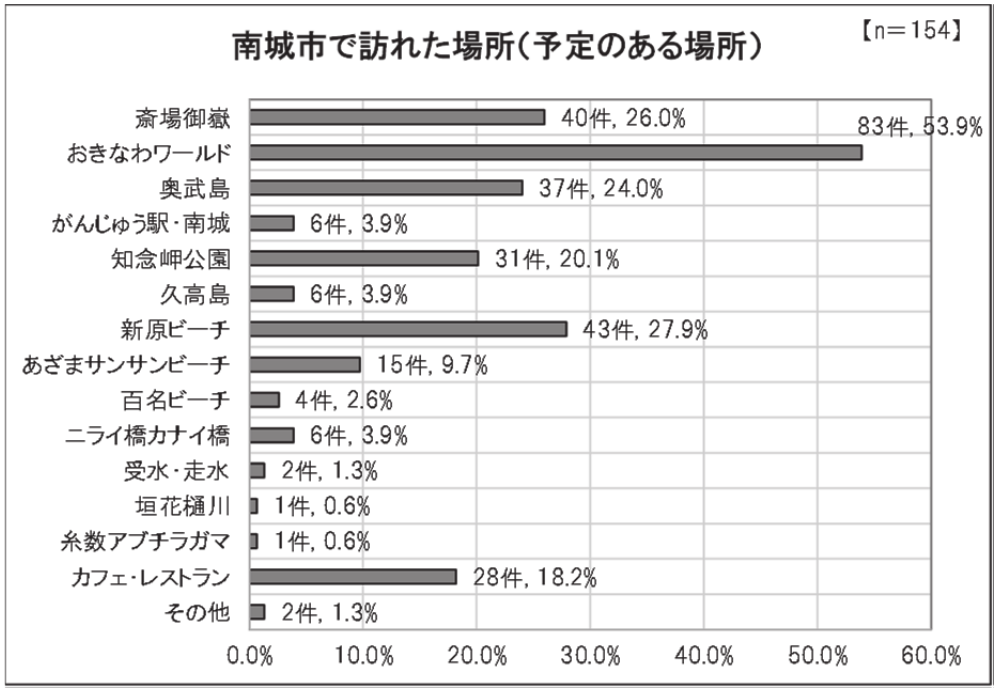
②調査地点別の南城市への来訪回数

- 調査地点別の南城市への来訪回数は、安座真港では、66.7%を「初めて」の人が占め、残りの33.3%が「2回目」であった。
- 安座真港は、奥武島に次いで「初めて」の割合が低い傾向がみられる。



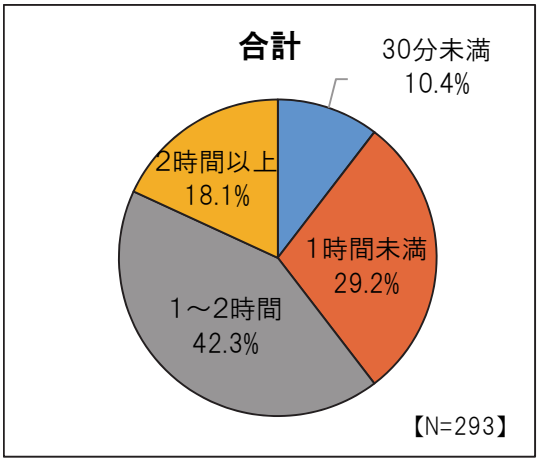
③南城市で訪れた場所（予定のある場所）

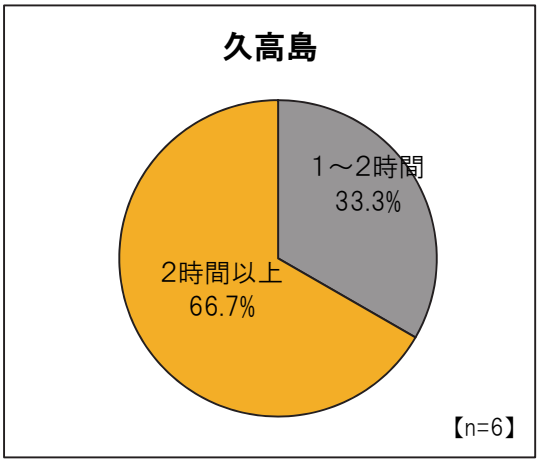
- 「久高島」を訪れた人（予定含む）は、3.9%の6件であり、低い割合であった。



④南城市で訪れた場所の滞在時間（予定含む）

- 市内観光地7ヶ所の滞在時間については、平均して「30分未満」が10.4%、「1時間未満」が29.2%、「1～2時間」が42.3%、「2時間以上」が18.1%となっている。
- 最も滞在時間が長いのは「久高島」であり、「2時間以上」が66.7%の割合を占めた。





（２）平成 28 年度第２次南城市観光振興計画策定基本調査委託業務

１）実施概要

「平成 28 年度第２次南城市観光振興計画策定基本調査委託業務」の来訪者調査において、南城市を訪れる観光客の来訪実態を把握することを目的としたアンケート調査を実施している。実施概要は下記のとおりである。

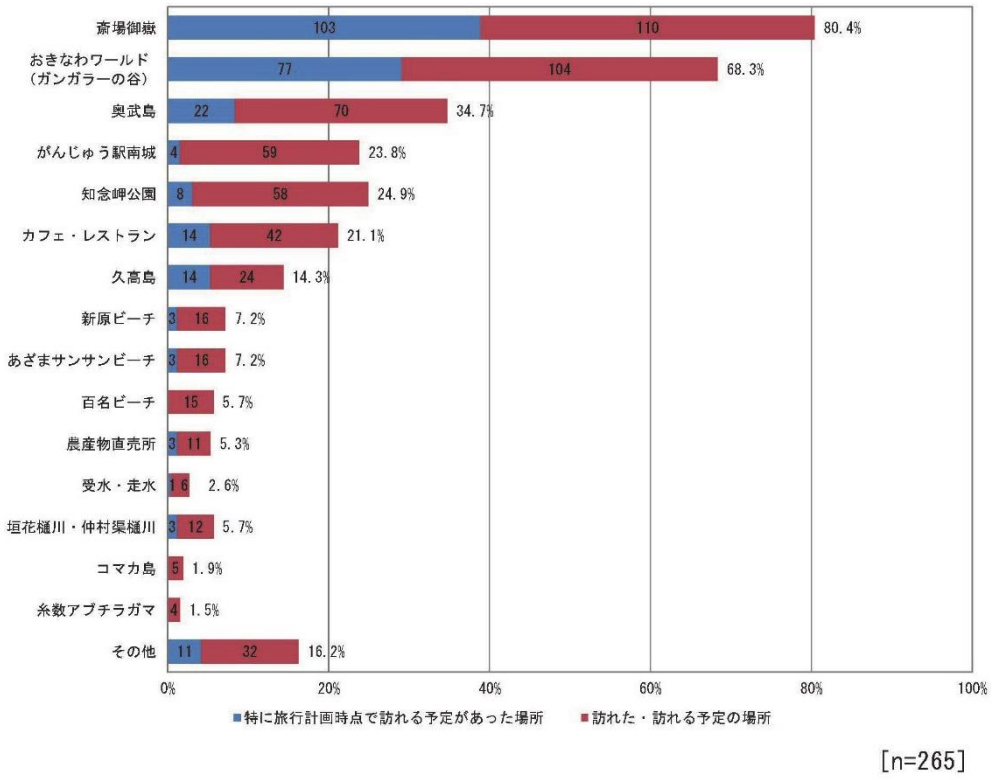
表　調査実施概要

項目	概要
実施期間	①対面：2016 年 11 月 12 日（土）、2016 年 11 月 13 日（日） ②留置：2016 年 12 月5日（月）～2017 年1月 31 日（火）
調査場所	①対面：おきなわワールド、がんじゅう駅・南城 ②留置：ユインチホテル・南城
回収数	対面　335 件／留置　82 件　　合計　417 件

２）調査結果（日本人）

①観光で訪れた場所、旅行計画時点で訪れる予定のあった場所

- 南城市で訪れた場所（今後の予定含む）は、「斎場御嶽」の80.4%と、「おきなわワールド」の68.3%が高い割合を占めた。
- 「久高島」を訪れた人（予定含む）は、14.3%の38件であった。



[n=265]

図表３２　観光で訪れた場所、旅行計画時点で訪れる予定のあった場所

②今回の旅行で最も良かった・心に残った場所、体験（自由記述）

- 最も良かった・心に残った場所や体験として、「久高島」を挙げた回答者は4件であり、少数であった。「おきなわワールド」や「ガンガラーの谷」、「斎場御嶽」と回答した人が多くみられた。

表　主な意見（一部抜粋）

おきなわワールド・ガンガラーの谷（44）／斎場御嶽（33）／景色（24）／ユインチホテル南城（15）／食事（10）／知念岬公園／ニライ橋カナイ橋（9）／久高島（4）　等

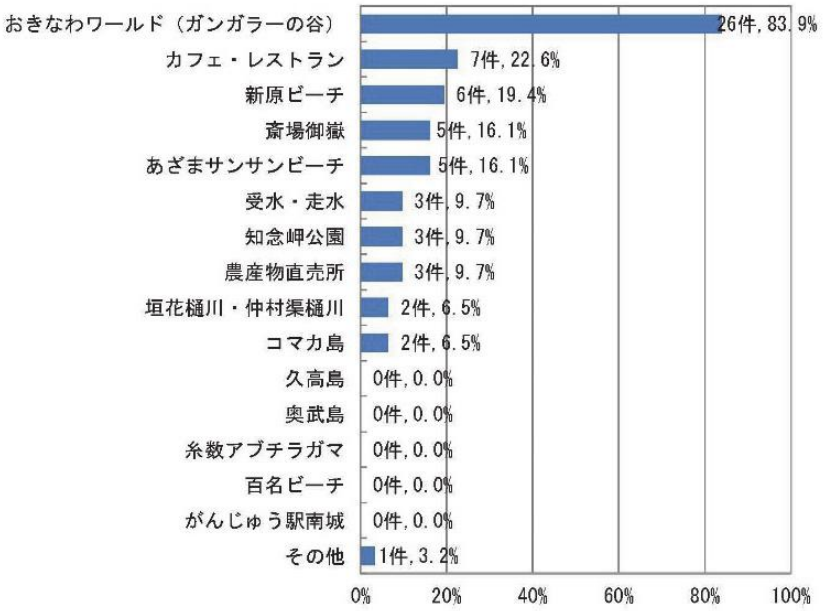
③その他、要望（自由記述）

- 自由意見として、「久高島も行ってみたい。釣りもしたい。」という、久高島への来訪を希望する意見がみられた。

３）調査結果（外国人）

①観光で訪れた場所、旅行計画時点で訪れる予定のあった場所

- 南城市で訪れた場所（今後の予定含む）は、「おきなわワールド」の83.9%が最も高い割合を占めた。「久高島」と回答した人はみられず、0件であった。



[n=31]

図表５０　観光で訪れた、または訪れる予定の場所

5. 久高島で行われている既存ツアー等

（1）調査の概要

久高島においては、住民が知らないままツアー等が行われていることや、過度にスピリチュアルな内容を謳うものがあることが指摘されている。このような状況を明らかにするために、久高島で行われているツアー等について、インターネットによる調査を行った。なお、調査にあたっては上記のような視点から、「久高島」や「観光ツアー」だけではなく、「スピリチュアル」、「パワースポット」、「チャクラ」、「リトリート」といったキーワードを加えて検索した。

（2）調査結果

調査結果は、次ページの表に示すが、概観すると下記のとおりである。

- 島内のガイド、県内の旅行会社、県内外の個人によるツアーが行われている。
- 今回調べたツアー16 件のうち、「聖地」や「パワースポット」等の表現を使用するものが複数みられる。
- ホテルと航空券がセットのフリープランや、文化や歴史に詳しいガイドによる案内、スピリチュアル的なワークを行う内容がみられる。個人がツアーの実施主体の場合、旅行業の資格を有していなかったり、島内の拝所へ無断で立ち入っていたりする可能性が懸念される。
- 行程は日帰りや2泊3日が多い。
- ツアー料金は、日帰りの場合は1万円前後、2泊3日だと3万円～10 万円程度に設定されている。スピリチュアル的な内容のツアー料金は、航空運賃が含まれないにもかかわらず、かなり高額に設定されているケースもみられる。
- 実施主体が島内の組織であるツアーは2件、県内組織等が主体であるツアーは9件で、半数は聖地やスピリチュアルなどの文言を使用する内容であった。県外組織等が主体であるツアーは5件あり、その多くがスピリチュアルな内容となっている。
- スピリチュアルな内容を謳うツアーであっても、久高島の地域住民によるガイドを頼むなど、地域を完全に無視したものではないことに注意が必要である。ただし、過度にスピリチュアルを謳う内容については、久高島内でも賛否が分かれる状況である。

表　既存ツアー一覧　※敬称略

No.	ツアー名	主体	実施年	内容	備考
1	久高島ガイドツアー	【島内】 アマミキヨ浪漫の会久高支部	2018.4時点で随時受付	神事等の立入禁止区域等に配慮しながら、久高島の歴史や文化、見どころを案内する。	日帰り1～3時間、5,000 円～7,000 円(ガイド代)
2	A:太陽神パワーと神聖なる神の域を体感する旅／B:琉球国王祈りの足跡を巡る旅／C:アマミキヨ神が最初に降り立った聖地を船上から祈る旅	【島内】 海上タクシー海峡 ジュピター観光	2018.4時点で随時受付	久高島までクルージングを行い、地元ガイドの案内で集落をめぐる。神聖なる神の域を直接肌で体感する。	8,500 円～15,000 円(船チャーター、ガイド、お土産代)
3	南城市＆久高島に泊まるプラン	【県内】 沖縄ツーリスト株式会社	2018.4時点で随時受付	久高島と南城市のホテルと沖縄県への航空券がセットになったホテルパック。	2泊3日、35,800 円～118，800 円(食事、宿泊、航空運賃代)
4	斎場御嶽・久高島～温故知新の旅～	【県内】 株式会社ホテルロイヤルオリオン	2018.4時点で随時受付	南城市教育委員会が認定した地元ガイド(知念村文化案内講師)と一緒に、斎場御嶽と久高島をめぐる。	日帰り8時間、10,000 円(ガイド代、保険、フェリー、ホテル送迎、お土産代)
5	琉球神話が残る神の島！ガイドと巡る「久高島」満喫ツアー！	【県内】 株式会社セルリアンブルー	2018.4時点で随時受付	南城市教育委員会が認定した地元ガイドの案内でパワーが強いと言われている久高島をめぐる。	日帰り8時間、8,700 円(フェリー代、ガイド、保険代)
6	最高の聖地で沖縄の魂に触れるツアー 斎場御嶽と久高島	【県内】 合同会社沖縄ネイチャーウォーク	2018.4時点で随時受付	琉球王国最高位の聖地、斎場御嶽と久高島をめぐるスピリチャルツアー。主に拝所をめぐる。	日帰り5時間半、12,000 円(ガイド代)
7	ローフード＆ヨガ in 沖縄久高島　聖なる島のリトリート	【県内】 ローフードスクール沖縄＆東京サロンミシュミシュ、イーストホームタウン沖縄株式会社	2017.7	ローフードシェフ岡本先生と一緒にローフード作りを堪能できるリトリート。本島や斎場御嶽、久高島をのんびりと回るガイドツアーも実施。	2泊3日、48,000 円(アマミキヨ浪漫の会久高支部によるガイド、宿泊、フェリー、講座代)
8	沖縄久高島ファスティング	【県内】 リトリートサロン Acha-ne	2014.6	酵素絶食を行い、朝ヨガや住民による島内ガイドを行う。参加者にアーユルヴェーダとチベット式マッサージを施す。	2泊3日、130,000 円(食事、トリートメント、岩盤浴、材料、交通代)
9	神の島・久高島めぐり／久高島＆斎場御嶽めぐり	【県内】 我那覇れな(琉球スピリチュアルガイド)	2018.4時点で随時受付	太古より残る手付かずの大自然と神話、イザイホーの聖地へ実際に足を運び、琉球の神々を感じる。	日帰り5時間、1～4名一律 2,8000 円(ガイド代)

No.	ツアー名	主体	実施年	内容	備考
10	神の島久高島聖地案内	【県内】 金城則子(プレシャス企画株式会社)	2014.4	島内散策と、魂の本質に出会い自身の内面を見つめるお清めを行い、「再誕の儀式」を行う。	日帰り6時間、15,000 円(ガイド、カウンセリング代)
11	あなたの中の女神性を呼び覚ます 聖地リトリート～神の島、久高島と古の祈りの地、玉城で魂を呼び覚ます 聖なる旅～	【県内・県外】 小嶋さちほ(八角堂)、奥野聖子(一般社団法人スピリチュアルメイク協会)	2016.12	沖縄の聖地で身体に優しく美しいソウルフードを食し、参加者と3日間を寝食共に過ごす。複数のワークをとおして女性としての自信を取り戻す。	2泊3日、58,800円(食事、宿泊、フェリー、送迎、ワーク代)
12	沖縄☆神々の島への巡礼で幸せとつながる久高島リトリート	【県外】 加藤真穂理(聖地シャスタコンシェルジュ)	2018.4 ※年1回程度実施	久高島での瞑想ワークと東御廻り及びおすすめスポットをめぐる。	2泊3日、96,500円(宿泊代、レンタサイクル、カウンセリング、ワーク代)
13	沖縄久高島神の島ドリームツアー	【県外】 メディックスコム事務局	2017.11 ※2007 年～年1回程度実施	スピリチュアルスポットをめぐり、健康的・本格的沖縄料理を堪能する。	2泊3日、54,000円(食事、宿泊、セミナー、タクシー・フェリー代)
14	奇門遁甲開運ツアーin 沖縄 久高島・古宇利島・浜比嘉島 神の三島を巡る～浄化と生まれ変わりの旅～	【県外】 東武トップツアーズ株式会社	2017.3	スピリチュアルカウンセラーあべけいこが、パワースポットで有名な世界遺産と「神の島」として名高い三島を案内する。道中であべがチャネリングで高次存在のメッセージを伝える。久高島では、専門ガイドによる島内観光も行う。	2泊3日、81,000円(食事、宿泊、送迎)
15	角さんと行く沖縄聖地巡礼＆久高島ツアー	【県外】 ヒーリングスペース夢宇	2016.10	聖地を数箇所めぐり、参加者は自分に必要なメッセージを受け取る。久高島ではレンタサイクルを借りてパワースポットをめぐる。	30,000 円(ツアー、食事、宿泊、レンタカー、レンタサイクル、フェリー代)
16	「遺伝子のスイッチをONする旅」沖縄久高島	【県外】 谷口一則(たにぐちクリニック医師)	2014.11 ※2006 年～年1回程度実施	沖縄のスローフードを味わい、古民家に宿泊する。ゆっくりと語らいながら、島の太陽、風、海、空気を感じて、自分の時間を取り戻す。	3泊4日、3,6000円(食事、宿泊、参加代)、ツアーではなく自由旅行としている

6. 小括：久高島観光の現状と課題

【観光行動】

- 入域観光客は日帰りの場合は、午前中の便で入域し、午後の遅めの時間に出域する4～5時間の滞在が多い。このような短時間の滞在では、久高島について理解を深め、久高島のファンやリピーターになってもらえる可能性は低下すると考えられるため、宿泊を伴う観光のあり方への転換が課題と考えられる。または、コンシェルジュが久高島での過ごし方をレクチャーするような観光導入が必要と考えられる。
- クチコミ分析をみると、久高島の評価の点数は、斎場御嶽や奥武島に比べて高い状況にあり、観光客は、久高島の来訪に非常に満足していることが伺える。
- 一方で、島内での消費行動については、お金を使う機会がなかったため使用しなかったとする回答が多かった。現状の久高島観光の満足度について問うアンケートにおいても、島の自然・景観や海などについては満足度が高い一方、飲食店や土産品、島内での活動等については満足度が低い結果であったことから、選択肢が少ないことや、現状の来訪者のニーズにマッチしていないことなどが伺える。
- クチコミ分析では、「時間」というキーワードが多く出現しており、久高島のゆったりした時間を感じている観光客が多いものと考えられる。一方で、観光客が長時間滞在できる観光拠点、体験活動は少なく、結果として、滞在時間が短くなっていることが考えられる。宿泊施設以外にも観光客が長時間滞在できる観光拠点、体験活動の存在が重要と考えられる。
- 別事業のアンケートでは、久高来訪者は5回以上のヘビーリピーターの割合が比較的多く、かつ数日間の滞在も多かった。これらの傾向は海外観光客では下がることから、「国内観光客の一定数は久高島に滞在の質を求める観光客である」とみることができる。買物志向でこれに該当する「品質こだわり志向」は、「カフェでのんびりしたい」と「スピリチュアルな体験がしたい」の割合が高い。島内で消費機会を創出すれば、観光消費額はもっと伸びると予想される。

【宿泊】

- ゴールデンウィークなどオンシーズン時には島内宿泊施設の客室が埋まってしまい、宿泊交流館では契約している空き家に誘導する場合がある。こうした事態に備えるため、空き家のフレキシブルな利活用を常態化することが望ましいと考えられる。
- 久高を訪れている年齢層、関心、消費意欲等をアンケートから紐解くと、上質な宿泊空間があれば高価格でも利用する層が一定程度いることが想定できる。だが現状では、そうした宿泊サービスはないし、区でも必要性を感じていないようである。
- 民宿や民泊について、高齢化による営業断念という事態が過去に生じており、今後も生じるのではないかと不安視されている。

【受入体制】

- 「久高島総合計画」の策定時には「文化観光部会」が組織され、島の観光の基本施策などを検討している。この役割を引き継ぐ組織として「久高島島建て協議会」の設立が進められている。

- 久高島振興会は、宿泊交流館、フェリー待合所、食事処とくじん、シャワー施設などの管理運営を担う。設立4年目から黒字に転じるなど島の観光受入れの中心的存在だが、現状業務で手いっぱいであり、新たな事業を広げることは難しい状況である。
- ガイド案内サービスは平成 14 年からスタートしており、現在島には5人のガイドが存在する。年間では平均して月 80 組（1組 3.5 人程度）のサービス利用があるが、ほとんどの観光客がセルフウォークであり、観光による経済効果を拡大するために、ガイドサービスの利用を高めたいが、現状では効果的な対策は講じられていない。
- 沖縄県企画部地域・離島課主管の「離島観光・交流促進事業　島あっちぃ事業」の対象であり、島が実施主体として県民対象モニターツアーを受け入れている。ただし、このような体験プログラムの運営を広げていくには人手が足りず、新たな実施主体が必要な状況である。
- 島の観光サービスでモバイル端末に対応した予約システムを持つものはほとんどなく、現在の観光行動にマッチしていない面が多々みられる。
- 久高島留学センターは、地域伝統文化学習や自然環境学習を島ぐるみで行うことにより、学校児童生徒の確保、コミュニティ活動の充実、地域住民の連帯意識の高揚、他地域との交流活動、観光の推進、地域の経済振興などを図る目的で設立された。島にとっては小学校の存続という課題への対応策でもあり、今後とも充実に取り組むことが総合計画にも位置づけてある。

【特産品】

- 特産品は島内では宿泊交流館、フェリー待合所で販売している。イラブー関連（燻製、エキス、ちんすこう等）、海ぶどう関連、塩などがある。
- 那覇市の「浮島ガーデン」が、市観光協会やなんじょうデザインセンターとタッグを組み、久高島雑穀ミックス「久高島五穀」を販売している。また、安座真の「douce cafe nanjo」で、久高島産の小豆と塩を使用した「神の島・五穀ぜんざい」を提供している。このように久高の物産を島外で加工する事例も始まっている。

【観光イメージ】

- 久高島に対して、年代を問わず「神の島」としての期待があり、その期待に対する満足度は高い状況である。一方、夏場は海水浴など海のレジャーを求めての来訪も多く、経済効果を考えるとレジャー客対応の体験プログラム開発が有望だが、住民は概して「レジャーの島ではない」という受け止め方である。
- 既存のツアーにおいては、主に県外団体等が主体となっているツアーにおいて、過度にスピリチュアル的なまなざしによるツアーが行われており、聖地への立ち入りなど含め、久高島側がどのように受け入れていくかの議論が必要である。

【観光客への住民の反応】

- 推計観光客数は 47,935 人（平成 29 年度）であり、特にオンシーズンの土日には高速船を増便するほど多くの観光客が訪れている。しかし、多数の住民は観光客が多すぎると感じており、「観光アレルギー」ともいえる敬遠傾向が生まれている。

- 観光客の増加による弊害は、「集落の中を水着で歩く」、「禁止している区域に許可なく侵入する」、「道で挨拶するのが大変」などが挙げられる。また、多くの住民は観光効果を享受できていない。
- 祭事の際に北部への立ち入りを禁止するが、日取りが直前に決定されることも多く、安座真港やインターネットで情報提供しても周知できずに、入域制限が守られないことがある。また、写真撮影もマナー無視の行動がみられる。これらは住民にとって大きなストレスになっている。
- 入域ルールづくりの必要性は以前から議論されているが、まだ実現していない。

§２
住民意向調査

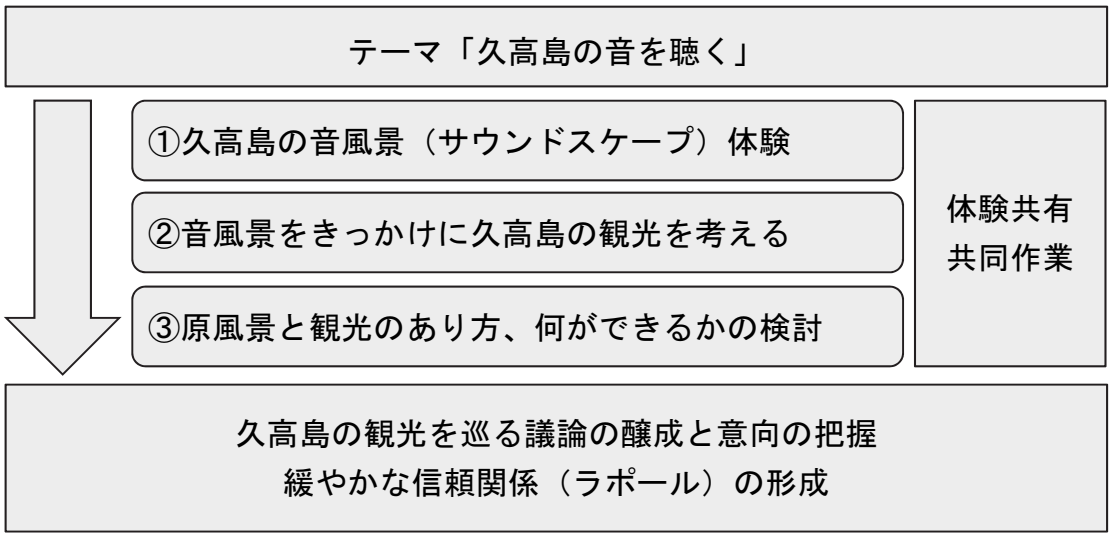
１．ワークショップの流れ　・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２．ワークショップの経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．小括：ワークショップをとおして得られた
　　住民の意向や紐帯・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

1. ワークショップの流れ

久高島の観光のあり方について、住民がプレイヤーとしてどう考えるか／何ができるかという議論の醸成と意向の把握を行い、緩やかな信頼関係（ラポール）の形成を目的に、サウンドスケープの手法を用いたワークショップを実施した。



▼ワークショップ全4回の開催概要

実施日時	概　要
■第1回　平成 30 年2月 27 日(火)10:30～12:00	導入／音風景(サウンドスケープ)体験
■第2回　平成 30 年2月 27 日(火)18:30～20:30	久高島の音風景体験をもとに意見交換
■第3回　平成 30 年4月 14 日(土)17:00～18:30	議論の醸成と意向の把握
■第4回　平成 30 年6月2日(土)17:00～19:00	モニターツアーの実施

▼音風景(サウンドスケープ)ワークショップの概要

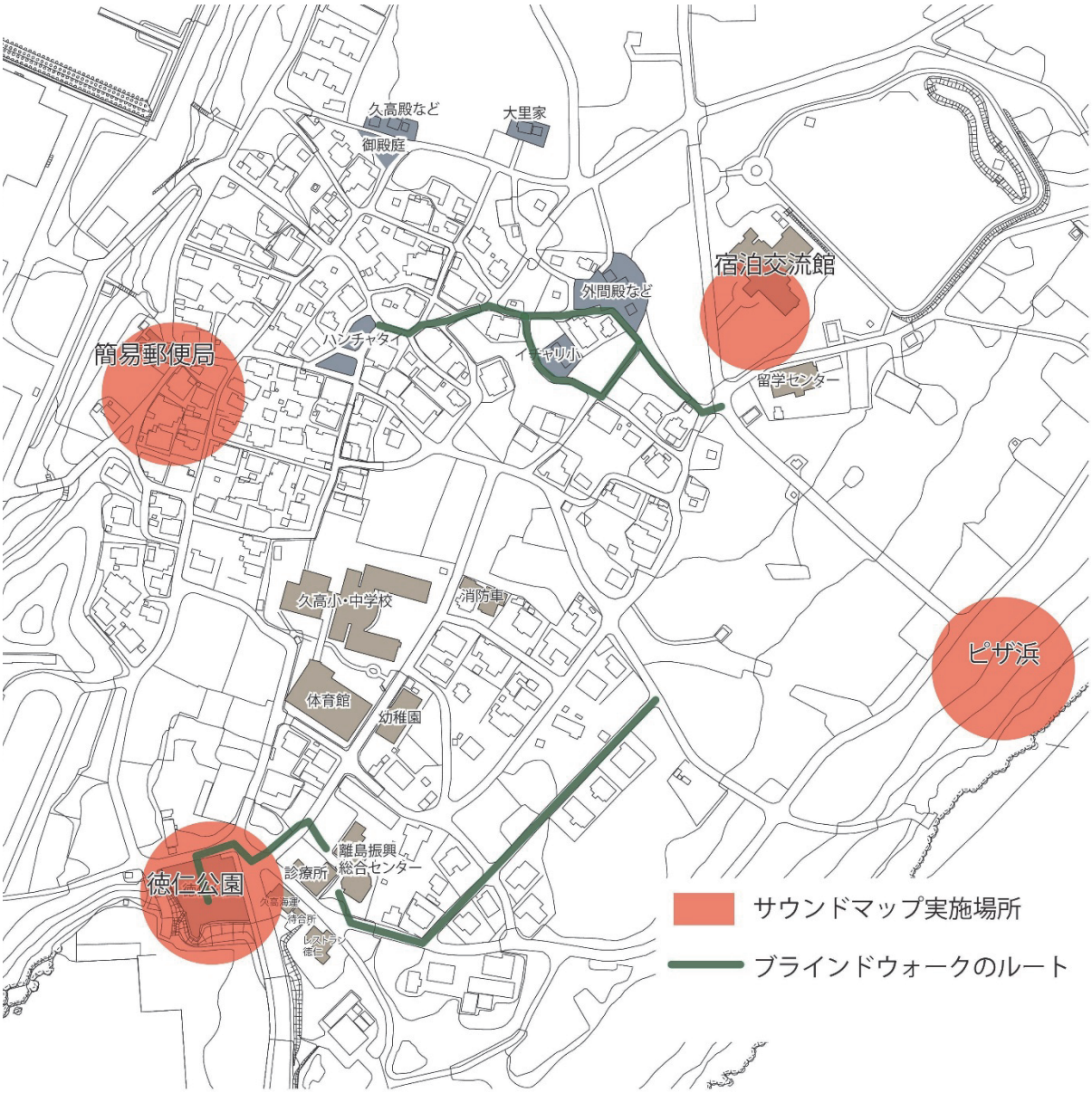
周囲の音に集中して、それぞれの音色、聞こえ方、強弱、音の発生源について意識し、紙面上に表現する。また、小鳥のさえずりや風の音など「○○の音」と名前をつけるのではなく、音そのものを意識して聞くことにより、それをどう表現するかを考える。

ひとつの場所に５分～10 分程度滞在し、聞こえてくる音を手元の紙に書き記す。紙面の中心に自分が存在することとして、表現方法は文字でも構わないが、色や線などで表現してもよいこととし、表現方法に制限はないものとした。終了後に音風景をまとめ、参加者が集まってそれぞれのサウンドスケープについて、気になる音や気持ちのよい音などの感想を共有した。また、他のアクティビティをとおして、久高島を感じる音の要素について抽出し、久高島の原風景について議論して、久高島の観光のあり方に向けた意識を抽出した。

▼調査位置

第１回のワークショップと第４回のモニターツアーでは、宿泊交流館の前庭にて、導入のガイダンスなどを行い、ピザ浜と簡易郵便局周辺で調査を行なっている。第２回では夜のピザ浜でサウンドマップづくりを行ない、第３回は雨天のため徳仁公園にてサウンドマップの作成を実施した。また、各回での移動の際にブラインドウォークのアクティビティを行なっている。

図　調査位置



2. ワークショップの経過

(1)第1回

①開催概要

【日　時】平成 30 年2月 27 日(火)10:30～12:00

【場　所】久高島宿泊交流館　島内数カ所

【参加者】西銘政秀、西銘武良、椚座信、相澤和人など

【進　行】犬塚拓一郎　**【オブザーバー】**由利充翠、秋本康治、喜瀬斗志也

【タイムテーブル】

10：30　①あいさつ／ガイダンス（久高島宿泊交流館前広場）
10：40　②自己紹介／アイスブレイク（ストレッチ）
10：50　③サウンドスケープ導入（周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く）
11：00　④久高島の音を聴く、書き留める
　　ア）浜辺の音を聴く（サウンドマップ作り）
11：15　　イ）防風林をくぐる（音の聞こえ方が変わるときを捉える）
11：20　　ウ）集落の音を聴く（サウンドマップ作り）
11：35　　エ）ブラインドウォーク（目を閉じて歩く、歩く人を支える）
11：40　振り返り／共有

②ワークショップ内容

【目標】

- サウンドスケープの手法を知り体験する。耳(聴覚)のストレッチ。島の音に注目して聴く。

【振り返りまでの内容及び手順】

①あいさつ／ガイダンス　②自己紹介／アイスブレイク(ストレッチ)

サウンドスケープの意味や今回実施する内容の説明を行い、参加メンバーが一人ずつ自己紹介とストレッチの方法を提案し、全員がそれをコピーするアイスブレイクを行った。

③サウンドスケープ導入(周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く)

聴覚に集中するため、その場で周囲の音を色々な聴き方で体験した。

④久高島の音を聴く、書き留める

久高島の風景を「耳」をとおして捉えてみることの導入として、第１回目のワークショップでは、音の違いの明確さが予想できる「浜辺（島を囲む自然）」と「集落（島での生活の場）」でのサウンドスケープ体験を実施した。実施では、記録と振り返り・共有ができるように、その場で聴こえてきた音を紙に自由に書き留めるサウンドマップを作成した。移動中は、浜辺と生活道路の間にある防風林をくぐるときの音の聴こえ方に着目することで、より細やかに「聴く」ことへの意識を促した。また、ラポール形成のため、参加者が２人組になって１人は目を閉じて歩き、もう１人が手をとり誘導するというブラインドウォークも取り入れた。

【ワークショップの様子】

③振り返りの様子とまとめ
ア．浜辺のサウンドスケープ

（主な意見）

海の「ザー」という音が一番大きくて、自分を中心にすると左右の耳元で「フー」と入ってくる。そして自分の鼻から息を吸う「スー」という音、そして鳥が飛び回っていると感じた。それから、太陽がさしたとき、あったかくて「フワー」という感じがして、時間が経つと照らされたジリジリという音なのか感覚のようなものが伝わってきた。

一番心を捉えたのは、音が海で「ゴー」と大きく鳴っていて音が自分に向かって迫ってくるような感覚を覚えたこと。

普段から海によく出ているため、海の後ろの音は「ゴー」という音が聞こえた。イノーの外、リーフのところでぶつかって「ダーン、ダーン、ダーン」という音、それらが合わさって軽い「ザァー」という音、イノーの中では「プチップチップチッ」という音、小さなリーフにプチっとあたる音が「パチパチパチパチ」としていた。

あとは鳥の声が聞こえた。鳥は会話しているような「ピィピィピィピィー」みたいな、そしてそれの連鎖。そして太陽が座っているところを照らして地面が温まって音ではないが、暖かさをモワ～ンと耳に感じた。これも音なのではないかと思う。

今日一番気になったのは、鳥の声。いくつかバラバラとしているが集団もいるなと感じられた。

僕のイメージは、海のリーフの向こうで崩れる大きい波（ビシュヌグサー）の音だった。手前側に押し寄せる波、そして風。あとは、鳥というよりセミなどの音が後ろ（島側）から聴こえた。音そのものというより、昔の感覚で覚えているような感じがした。これまでずっと見てきているものの感覚。その思いが強いのかなと思う。

それはずっとこれまで海を見ているので、記憶から聞こえている。あそこで昔よく釣りをしていた。海の音、「ゴーゴー」という音を聞いている。

リーフのところから打ち寄せる波の音。我々としてはいつもあそこの音が気になる。また、左のほうから吹いている風が、今日はちょっと暑いくらいだったので涼しいと感じて心地よかった。一方で、様々な音が混じって聴こえるので何の音かわかりにくかった部分もあった。

一番気になったのは、最初に「チューチュー」と書いた小鳥の声で、しばらく聞いてみると2種類の鳥の声がした。きっとオスとメスだろう。女のほうが「スキスキー！」と言い、男のほうも「スキスキー！」と掛け合っているように解釈した。交互に鳴いている。（紙の上ではハートマーク）

イ. 集落（生活の場）のサウンドスケープ

（主な意見）

人の声や、サンダルの足音が聞こえて、家の中での会話やサンダルの音が想像できた気持ちになった。
他の参加者が色鉛筆のケースを開ける音が「ガチャガチャー」と気になり、やっぱりここも海の音が聞こえた。そして周りで「ボー」という生活音や車の音などがした。そして落ち葉が「サラサラー」と通る音。工事現場の「カンカン」という音がした。

私は郵便局の近くで聞いていた。終始、風の音が顔の近くで「パサパサパサパサ」と聴こえていて、風が通る感じが心地よかった。その音を拾いながら、「あーやっぱり海の音も聞こえるなー」と思った。あとは商店の人の音や奥さんが帰ってきてワーっとなる話し声がした。
一番大きかった音は、マサジさんという島の人が前を通って「何している！？」って聞かれて少し会話をすると「女もおらんのに！？」という話をしたが、それがすごく現実的な音として感じた。そして少し移動したが、最後は工事の「カンカンカン」と音が聞こえてきた。それで改めて、島の集落内でも、海の音が聞こえて、風を感じて気持ちよく、工事の音がしても、まだ心地よいと感じた。

家の前にあるオバアたちが休憩するベンチで座って聞いていた。「サーッ」という波の音が遠くから聴こえた。さっき行った浜辺とは違う音だった。また、車の音や、ビンダレー（たらい）の音がして、家の中での生活の様子を想像した。そして「コンコンコンコン」というのは生活の音だと思っていたが工事の音だったようだ。家の中の音は生活感があった。

立派な石垣がある屋敷の入り口あたりに座って聞いていた。左にお店があり、ここで耳を澄ますと、そばを通る足音がした。最初は「誰かなー」と思ったが、「あ、これはきっとタカオだな～」と思って見ると、やはりタカオさんだった。足音で誰かわかる。また、右手のほうから落ち葉が地面を通る音がして、「三角地のほうだから、あそこはちょっと汚れていたなぁ」と思い出しながら、ちょっとさみしいが掃除できてないと感じた。
それから、門のところに座ると、後ろから家の門を風が通っていくのを感じた。あそこは影になっていて少し冷たい。そして後ろの家も、パンティといって集落のはずれで、あんまり掃除していないだろう、人が住んでいるのかいないのかわからないような、そんな冷たさも感じた。

ウ. まとめ

初回は、まず耳を澄ませて音を聴くという行為を体験し、その上で、久高島の風景を「音」の側面から捉えることができた。サウンドスケープ体験や振り返りから見えてきたことを以下に整理する。

■波の音を聞き分ける。海の捉え方

久高島では、波の音が代表的な音風景に含まれており、複数の人が「リーフの沖のほうで鳴るドーンという大きな音」「イノーでプチプチと鳴る音」「集落で遠くから聴こえてくる波の音」など、距離によって音を聞き分けていることがわかる。

マレーシアのジャングルに住む部族では同じ鳥でも朝の鳴き声と夜の鳴き声など鳥の声に何十種類もの区別があるように、また日本では出世魚など魚の名前が細かく分かれているように、生活のあり方と区別の細かさは密接に関連する。そう考えると、波の音を聞き分ける久高島のほうが、生活のなかで海と深く関わっていることが改めてわかった。

■肌をさすり、場所ごとに異なる風音

風の音については、複数の参加者から浜辺はやや強い風の音を感じ、集落では肌をかすめる風音や門を通り抜ける風の温度などの意見が出た。また、落ち葉が風に吹かれている音から、庭掃除が行き届いていないのではないか、集落の外れだから人が住んでいるかどうかわからないといった想像性の溢れる意見もあがった。

■記憶から聞いている久高島の原風景

久高島で育った参加者が、実際に聴こえている音以外にも、記憶としてずっと脳裏にある同じ海の光景から、色々な音が聴こえてくると表現している。数十年前からそこにある海の音は、久高島の人たちの原体験であり、島の原風景としてあるものと考えられる。

■音にならない感覚も感じられた

太陽が雲間から射し、そのモワーンとした暖かさやジリジリとした太陽光線を音のように感じとっている。また、集落内のサウンドスケープでは温度の変化のようなものを表現しており、音ではない皮膚感覚や触覚を聴覚とともに感じていることがおもしろい。また、それらを感じられる音環境であることがわかった。

■足音で誰かわかる。人の動きや声から感じる生活音

集落内では、生活の音を聞いてしばし想像してみるという場面があった。人の足音や小さな会話、ビンダレーの音といった小さな音を静かな集落内で聞き取ることができていた。コミュニケーションが密接であり、落ち葉の音から、暮らし方の一端である庭掃除や人の出入りがある場所やない場所といった状況も感じ取っていた。

（２）第２回

①開催概要

【日　時】平成 30 年2月 27 日（火）18:30～20:30

【場　所】久高島離島総合センター　島内数カ所

【参加者】西銘政秀、西銘武良、椚座信、西銘佐和子、内間一浩、西銘幸太、つしもとのりこなど

【進　行】犬塚拓一郎、由利充翠　**【オブザーバー】**喜瀬斗志也

【タイムテーブル】

18：30　①あいさつ／ガイダンス（久高島離島総合センター）
18：40　②自己紹介／アイスブレイク（ストレッチ）
18：45　③サウンドスケープ導入（周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く）
18：50　④夜の音を聴く、心に書き留める
　　ア）浜辺の音を聴く
19：00　　イ）防風林をくぐる（音の聞こえ方が変わるときを捉える）
19：10　　ウ）ブラインドウォーク（目を閉じて歩く、歩く人を支える）
19：20　⑤振り返りとディスカッション：久高島の音風景から見えてくるもの
20：15　⑥全体の振り返り／共有

②ワークショップ内容

【目標】

- サウンドスケープの体験、耳（聴覚）のストレッチをする。
- 久高島の音に注目して聴く。
- 久高島の音を振り返る、久高島の音風景から見えてくるものへの気づきを抽出する。

【ディスカッションまでの内容及び手順】

①あいさつ／ガイダンス　②自己紹介／アイスブレイク（ストレッチ）

第１回と同様に、サウンドスケープの意味や今回実施する内容の説明を行い、参加メンバーの自己紹介とアイスブレイクとして各自ストレッチを真似し合った。

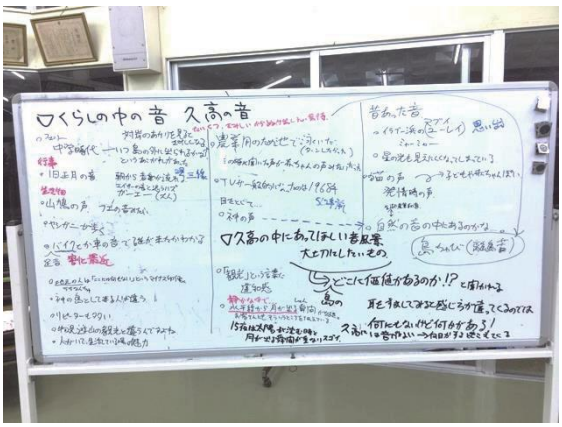
③サウンドスケープ導入（周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く）

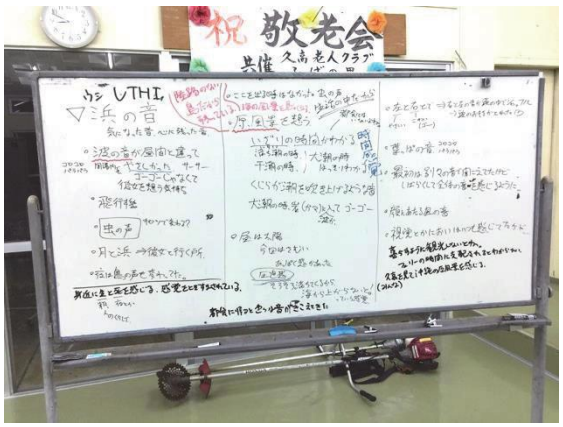
聴覚に集中するため、その場で周囲の音を色々な聴き方で体験した。

④久高島の音を聴く

昼の回と同じく、夜に久高島の風景を「耳」をとおして捉えるサウンドスケープ体験を実施した。第２回目は、昼と夜の聴こえ方の違いに注目するため、昼と同じ「浜辺」にて行い、暗闇のなかで、振り返り・共有ができるよう、その場で聴こえてきた音を今回は心に留めてもらうよう声掛けを行った。移動中は、昼と同様に防風林の音の聴こえ方に着目することや、ブラインドウォークを実施した。

【ワークショップの様子】





③振り返りの様子とまとめ
ア．夜の浜辺のサウンドスケープ

（主な意見）

波の音が昼間と違って優しかった。「ゴーゴー」ではなくて「サーサー」という感じだった。遠くで飛行機の音。虫の音。虫の音は季節で変わるのだろう。月が出ている浜はロマンティックで、彼女と行くところだなと思った。夜は鳥の声も昼間とは変わっている。

原風景を思った。久高では海が生活のなかにあって「いざり（冬場、大潮の夜に浜歩きをして漁をすること）」の時間が感じられ、満潮、引き潮、それぞれが音ではっきりわかる。海の音は時間感覚とも関係している。大潮のときは、岩（ガマ）に波が入って、クジラが潮を吹き上げるような「ゴーゴー」という音が聞こえる。久高島を出るときはいなかった虫の声を聞いた気がする。島を離れて暮らしていると海の風景を見たくなる。（久高島を出て）アパートを借りるとき、海が見える所を条件にしたくらい。陸路で来られない島だから残っている原風景なのだと思う。

昼は太陽が出ていたが、夜は少し寒い。波の音にも圧迫感があった。子どもの頃の「そろそろ潮が満ちてくるから、海から上がらないといけない！」という感覚を思い出す。

左右で聴こえてくる音が違った。右からは優しい（波）音、左からは「ゴーッ」という怖い感じの音。そのなかで聴いていると、左右から聴こえてくる音が頭でシャッフルされて頭の重さが取れた。波の音が私には、「コロコロ、パラパラ」というように聞こえた。葉っぱの音も「コロコロパラパラ」。

最初はひとつひとつの音が別々に聴こえていたけど、しばらくして全体の音を感じるようになった。
顔にあたる風の音、視覚とか匂いはいつも感じていたが、音で捉えてみるのもおもしろい。

イ. ディスカッション：久高島の音風景から見えてくるもの

ディスカッションでは、サウンドスケープ・ワークショップの参加者それぞれの体験や振り返りをもとに、暮らしのなかの音や記憶に残る昔の音など、今回のサウンドスケープ体験だけでない久高島の音について自由に参加者から意見を出してもらった。そこでは、音の話から引き出されるように、当時の感情や記憶、島への思いが溢れてきた。次に、その音風景から見えてくるもの、そして久高島で大切にしたい音風景を出し合いながら、島が持つ「物語（ストーリー）」について共有した。

（主な意見）

■暮らしのなかの音、昔の音について

- フェリーの音。

＜付帯する記憶・感情＞

- 中学時代、対岸（知念半島）の明かりをみると寂しくなった。いつ島の外に出られるかなという憧れがあった。退屈や寂しさから抜け出したいという思いがあった。
- 久高島の音は、島の寂しさや苦しさ＝「島ちゃび」をともなう原風景をはらむ。
- 旧正月の音は、朝から音楽が流れる　大人のケンカ（ガーエー）の音。
- 山鳩の声は、笛のような音がする。
- ヤシガニが歩く音。
- 足音やバイク、車の音で誰が来たかわかる。

＜付帯する記憶・感情＞

- 昔、水泳選手がプールでターンする光景に憧れて、農業用の溜池で泳いでいた。そのときに聴いた声が（いるはずのない）赤ちゃんの声に聞こえて恐ろしくなった。
- 昔あった音の風景。

＜付帯する記憶・感情＞

- イラブー浜にマブイ（幽霊）の噂があった。子どもや赤ん坊の泣き声が聴こえてくるという。本当は発情期の猫の声だったのではないか。

＜付帯する記憶・感情＞

- 星の光も今は見えにくくなっている。海も昔と比べるとものすごく変わってしまっている。久高の海が綺麗だというけれど、昔はもっと綺麗だった。
- テレビが一般的になったのは 1968 年で、今からちょうど 50 年前のこと。
- 「目を閉じて　時と所を忘るれば　神代に近き聲ぞ聞こゆる」久高島で詠んだとされる折口信夫の歌で、久高島宿泊交流館に飾ってある。神の声は自然の音のなかにあるのかもしれない。
- 地元の人は「ここには何もない」というマイナス印象を持っている。

■久高島にあってほしい音風景。大切にしたいもの。
→島のどこに価値があるのか！？とよく聞かれる。

- 地元の人は、「ここにはなにもない」というマイナス印象を持っている。
- 神の島として来る人は違う。「何もない」とは思っていない。
- リピーターが多い。
- 久高島の観光は物見遊山の観光とは違う。
- 人がいて、生活している場の魅力がある。
- 「観光」という言葉に違和感がある。
- 個人的には、静かななかで水平線から月が出る瞬間が好き。特に十五夜は太陽が沈むときと月が出るときの重なる瞬間がすごい。お客さんにもそういうところを伝えている。
- 耳を澄ませてみると、感じ方が違ってくるのではないか。
- 原風景は陸路のない島だからこそ残っている。
- 久高島には、「何もないけど何かがある！」
- ここでは、身近に生と死を感じる。感覚を研ぎ澄まされる。朝、人の暮らし方で「生」を感じ、夜になると「死」を身近に感じる。
- 波の音でいざりの時期がわかるのは、海の音が時間感覚と関係しているからで、都会にはない感覚。
- フェリーの時間に支配されないあり方がないか。
- 暮らすように観光するということが大切である。
- 都会から来ると久高島には音がないと最初は感じるが、何日か過ごすうちに色々な音が聞こえてくるようになる。
- 都会からきた旅行者が久高島で過ごして帰ると、都会でも色々な音が聞こえてくるようになったらしい。
- 久高島を見て、沖縄の原風景を感じる。

ウ. まとめ

第２回目のワークショップは、サウンドスケープに触れることに加えて、暮らしや記憶のなかの音をたどりながら、久高島にあってほしい音風景と島の価値について参加者と共有をした。１回目及び２回目の前半に実施されたサウンドスケープ体験で得られたキーセンテンスは以下のとおりである。

■サウンドスケープ体験で得られたキーセンテンス

- 波の音を聞き分けている。（遠近感覚）
- 波の音でイザリの時間を捉えている。（時間感覚）
- 記憶から聞いている。原風景を感じる。（記憶との結びつき）
- 音にならない感覚も音のように感じている。（研ぎ澄まされている感覚／未分化な感覚）
- 足音で誰かがわかる。音や声から生活を感じる。（生活に密接した感覚）
- 最初は音がないと感じるが、しばらくすると聞こえてくる。（身体や精神の変化）

次に、ディスカッションで出された意見などから、久高島の価値や観光についてのキーセンテンスを抽出した。

■久高島にある沖縄の原風景

イノーや岩場などの地形による音風景や、生活に密着した「いざり」の文化や月や太陽の感じ方など、島だからこそ残っている音風景は、記憶や生活文化と結びつき、島の原風景の想起につながる。

■感覚が研ぎ澄まされること

最初は無音に感じた久高島が、しばらく過ごしているうちに色々な音が聞こえてくる。そしてその延長線上に、波の音の遠近感覚や時間感覚、人の気配を感じることにつながる。それは、感覚が研ぎ澄まされていく環境が久高島にあることを示唆する。

■何もないけど何かがあること

感覚が研ぎ澄まされていく環境があるということが、「何もないけど何かがある」という参加者からの言葉につながっている。そこで生活する人の記憶の原風景を背景にしながら、「何もないこと」が価値を持っているのではという気づきにつながっている。

■短時間ではわからない「暮らすように観光する」こと

都会に帰ってからも色々な音が聞こえてきたという意見からは、島の記憶や静かな何もない環境に耳を澄ませることで得た感動が、いわゆる「観光」という言葉に違和感をもたせ、海や自然が暮らしのなかにある久高島の文化を理解するためには十分な時間が必要であると感じたと解釈できる。

（３）第３回
①開催概要

【日　時】平成 30 年 4 月 14 日(土)17:00～18:30

【場　所】久高島離島総合センター、徳仁公園

【参加者】西銘忠、西銘政秀、西銘武良、西銘幸太、内間一浩、古堅苗、西銘喜久など

【進　行】由利充翠、宮里幸多、飯塚慎太郎　**【オブザーバー】**喜瀬斗志也

【タイムテーブル】

17：00　①あいさつ／ガイダンス（久高島離島総合センター）
17：03　②アイスブレイク（ストレッチ、ヨガ）
17：05　③サウンドスケープ導入（周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く）
17：10　④久高島の音を聴く、書き留める
　　ア）徳仁公園の音を聴くサウンドマップ作り）
17：20　　イ）ブラインドウォーク（目を閉じて歩く、歩く人を支える）
17：30　⑤振り返りとディスカッション：久高島の観光について
18：15　⑥全体の振り返り／共有

②ワークショップ内容

【目標】

- サウンドスケープの体験、耳(聴覚)のストレッチ。
- 久高島の音に注目して聴く。
- 久高島の音を振り返る、久高島の音風景から見えてくるものへの気づきを抽出する。
- 久高島の音をきっかけに観光の方向性について住民意見をまとめる。

【ディスカッションまでの内容及び手順】

①あいさつ／ガイダンス　②自己紹介／アイスブレイク(ストレッチ)

サウンドスケープの意味や今回実施する内容の説明を行った後に、アイスブレイクとして手首や足首、首のストレッチ、簡単なヨガのポーズを実施した。

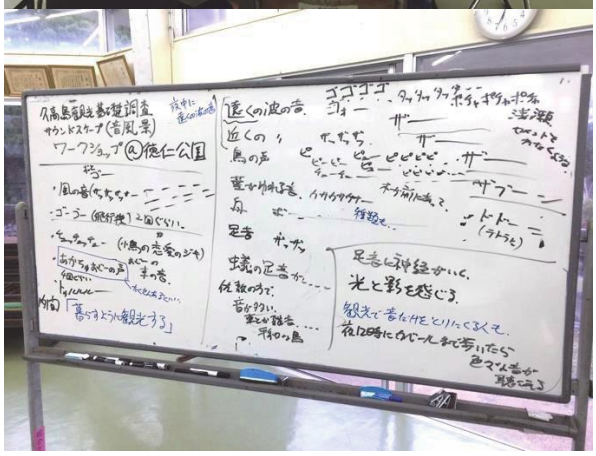
③サウンドスケープ導入(周囲の音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く)

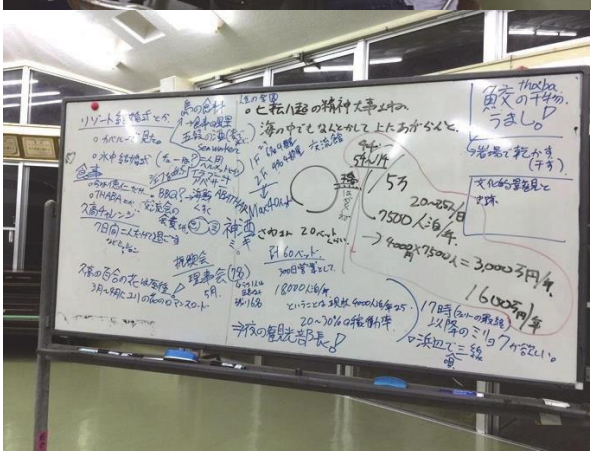
聴覚に集中するため、その場で周囲の音を色々な聴き方で体験した。

④久高島の音を聴く

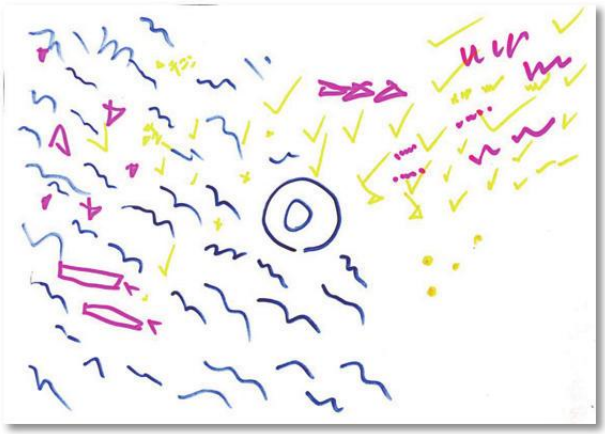
久高島の風景を「耳」をとおして捉えるため、総合センターからサウンドスケープ体験を実施した。フェリー待合所の向かいにある徳仁公園内で、各自好きな場所を選んで５～６分程度、サウンドマップを書き留めた。また、公園から総合センターに戻る際は２人グループで交互にブラインドウォークを実施した。

【ワークショップの様子】





③振り返りの様子とまとめ
ア．公園のサウンドスケープ



（主な意見）

■サウンドスケープ@徳仁公園

風の音が顔の横で「サッサッサー」と聞こえた。「ゴーゴー」という音（飛行機）が2回ぐらい。
「チュッチュッチュー」（小鳥の恋愛の時期だな）。あかちゅおじーの声（4回くらい）、おじーの車の音。
オジーの声はたくさんあるとよいと思う。
「トゥルルルー」
遠くの波の音（ゴゴゴゴ、ゴォー、）
近くの波の音（ザッザッザ、タッタッタッタ、ポチャポチャポチャ）
浅瀬、セメント（港のコンクリート壁）を叩くような音。
「ザーーーーーーーーーーーーーーーー」、「ザブーーン」、「ドドーン」（テトラにあたる音）
葉が揺れる音（カサカサカサー）
船の音（ボーーーーーーーーーーーー）
足音（ザッザッ）。
ありの足音が聞こえるような気がした。
佐敷の家族のところに行くと音が多いと感じる。車の音とか雑音。久高は平和な島なのだと感じる。

■ブラインドウォーク

目を瞑ると怖くて音に集中できなかった。
パートナーの背中だけを頼りに進んだ。
足音に神経がいく。
前を歩いている人の背中が大きくて、光と影を感じた。
観光で音だけをとりに来る人もいる。（宮里千里さんなどの著名人も来ている）
夜の 12 時にカベール岬まで歩いたら、色々な音が聴こえた。そう言った体験をしてもらったことがある。

イ. ディスカッション：久高島の音風景から見えてくるもの

ここでは、徳仁公園でのサウンドスケープから感じられた久高島の音風景と、前回のワークショップで出てきた「暮らすように観光する」というテーマを共有し、久高島の観光の方向性について、観光案内所機能や宿泊機能、物販飲食等の観光関連サービスのあり方について参加者の意見を抽出した。観光案内所機能についてその必要性だけでなく、人材の重用や継続的に運営するための事業案について意見が出ている。

（主な意見）

■観光のあり方について

- 以前、小麦の種付けを呼びかけたところ、ボランティアに喜んで手伝いにきてくれたことがある。小麦は山鳩の餌にも利用する。
- 久高島のリピーター客が草取りなどに来てくれた。作業が進まず、断った経緯もある。

■久高島の魅力について

- 月や星空、夜の海など夜の時間も魅力的、畑も地割制度により管理されており意味がある。
- これらの音についても魅力とすることができるのではないか。
- ヤシガニや追い込み漁も久高島の生活文化に欠かせない。
- 高校生の二ガナ和え体験を行っている。二ガナの収穫や調理など食文化そのものを体験してもらっている。
  →こうした魅力や取組は継続可能な事業として考える必要がある。
  →人材を育てる必要がある。

■案内所のイメージについて

- 今は久高島としての対応や振興会が窓口を担うこともあるが、全てに対応しきれない状況がある。その部分を案内所が担ってほしい。窓口となれる場所があるとよい。
- 例えば、テレビの取材を毎回協議委員会にかけて対応するわけにもいかない。
- 闇ガイド（久高島とは関係のないガイド行為）もあり課題となってきている。
- いわゆるハタ振りガイドも目にすることがある。
- 最近、少し大きめのマイクロバスが来たこともあった。集落内をマイクロバスが通ることは現実的ではなく、車の行き違いなどもできない状況となる。
- 若い人が自転車で暴走するなどの行為もあった。こうしたもの（観光による弊害）にも対応してほしい。

■コンシェルジュ（案内人）は誰なのでしょうか？

- 島の人みんながコンシェルジュという考え方もある。
- 案内所は、島の人の話が聞ける場所という意味合いでもおもしろい。

■継続的な事業について

- 今まで久高島の歴史を大切にしてきたと思うが、歴史だけでは苦しくなる。
- 屋台とか宿泊とか、周辺と一体で雇用を生んでいる。新たにグランピングの事業などもある。
- 神の島であり精神性はあると思うが、形あるものを壊して新しいものにしてしまう。路面の舗装により石畳がなくなり、ブロック塀が増えるなど。
  →今も舗装を掘り返せば石畳がでるのではないか。
  →景観指定をするという話もあるが、今あるものをどうするか考える必要がある。
  →地割制度もここにしかないもののひとつ。畑をうまく使うことも重要かと。
- リゾート結婚式とかどうか。
  →カベール岬でウエディング姿の人を見かけたことがある。
  →水中結婚式などもおもしろい。誓いの口づけも行えるシーウォーカー（2人用水中ヘルメット）というものもある。
  →「久高チャレンジ」と題して、7日間2人だけで過ごすミッションなど。
  →島の百合の花は原種に近いらしい。3月～4月に百合の花のロマンスロードを提供してはどうか。

■食事について

- 今は徳仁（食堂）だけのような状態である。
  →島の食材、食事の風景も考えたい。
  →イラブー汁、アバサー、クスクなどの海鮮はどうか。
- 市場には出回らない久高島の食材もある。（鮫の干物など）
- BBQ や交流会の食事も事業化できないか。

■七転び八起きの精神が大事だよね。

- 海のなかにいるときは、なんとか上にあがらねばと必死になる。

■宿泊について

- 現在の宿泊客数は年間 4,000 人程度である。
- 宿泊交流館は1階に6名部屋が4部屋、2階に4名部屋が4部屋で最大 40 人、8組が宿泊可能。「小やど sawa」は 20 ベッドくらい。合計 60 ベッドが久高島の宿泊キャパシティと考えられる。
  →年間 300 日営業すると、1,800 人泊／年となるが、現状は 20%～30%程度の稼働率であり、1泊 4,000 円とすると、1,600 万円程度の経済効果となっていると考えられる。
  →稼働率を上げるには、17 時以降（フェリーの最終便）の魅力がほしい。
  →浜辺で唄三線はどうか。
  →食事や風景などのコンテンツをどう伝えるか。また、夜中のカベール岬の体験、文化的景観と史跡の扱いなど、いろいろ考えられる。

■神酒（ミキ）を主題とした文化継承のトラスト制度

- 地割制度を活用し、年1回の旧正月に用意する神酒のための畑をつくってはどうか。久高島の神行事や生活文化に対し造詣の深い人に限り 20 人程度まで対応し（宿や神行事も合わせ）ともにつくるという「神酒の文化を支えるためのトラスト（信託）制度」という仕組みはどうか。

ウ. まとめ

ディスカッションで出された住民意見を以下のとおりまとめた。

■久高島の暮らしを体験するコンテンツも存在する

小麦の種植えや二ガナ和えの体験、夜中にカベール岬まで歩く体験など久高島の聖神性や歴史・文化、暮らし、営みを体験するコンテンツが存在する。ただし、単発の取組となっていることも伺える。

■案内所には負担軽減と持続的な運営が求められる

区や振興会が担っている久高島の窓口としての役割を観光案内所に期待している部分があり、案内所が窓口となってほしいという意見が見受けられた。また、案内所を継続的に維持していくために観光関連産業となる旅客運送業や、飲食、宿泊、旅行業など周辺事業との連携が必要である。

■宿泊施設の稼働率は 20%～30%程度

現在の宿泊施設の稼働率は 20%～30%程度であり、伸び代があると考えられる。また、稼働率を高めるためには 17 時以降や深夜早朝のコンテンツが鍵となる。

■飲食の満足度を高めること

現在、飲食できる場所が島内に数件あるが、ある程度の人数でも対応でき夜も営業しているのは食堂とくじんだけである。久高島の産品や島ならではの調理法などを活用し、朝食、夕食の需要に対応することができれば新たな観光コンテンツとなることも可能である。

■今あるものを生かす事業開発手法

宿泊のキャパシティを増やすためには、キャンプ場や空き家を活用した民泊なども考えられるが、住民に対し観光客の人数が多くなりすぎることもあることから、現在の宿泊施設の利用率を高めることが運営上適していると考えられる。また、「暮らすように観光する」というテーマからは、食べ物や文化風習、海との暮らし方など、島の時間に合わせた観光との付き合い方が重要であると考えられる。

久高島の住民は単一の事業者の成功や急激な変化を求めているわけではなく、今あるものを活かす事業開発手法であるため、皆でどう判断するかが大切な部分となっている。

（４）第４回（モニターツアー）

第４回は県内の学生や社会人を対象にサウンドスケープの手法を取り入れたモニターツアーを行った。

①開催概要

【日　時】平成 30 年6月2日(土)17:00～19:00

【場　所】久高島宿泊交流館　島内数カ所

【参加者】12 人(学生8人、社会人4人)

【進　行】由利充翠　**【オブザーバー】**喜瀬斗志也

【タイムテーブル】

11：00　安座真港にて集合
11：30　高速船にて久高島へ移動
11：50　食堂とくじんにて昼食
12：50　宿泊交流館へ移動
13：10　アマミキヨ浪漫の会によるガイドツアー（２時間）
15：10　チェックイン及び休憩
17：00　①あいさつ／ガイダンス（久高島宿泊交流館）
17：03　②アイスブレイク（ストレッチ、自己紹介）
17：05　③サウンドスケープ導入（周りの音を注意深く聴く／名前をつけずに聴く）
17：15　④久高島の音を聴く、書き留める
　　ア）浜辺の音を聴く（サウンドマップ作り）
17：35　イ）防風林をくぐる（音の聞こえ方が変わるときを捉える）
17：40　ウ）ブラインドウォーク（目を閉じて歩く、歩く人を支える）
17：50　エ）集落の音を聴く（サウンドマップ作り）
18：10　オ）サウンドマップについて全体で共有
18：30　⑤個別に集落内を歩いて元の場所へ戻る
18：45　⑥全体の振り返り／共有
19：00　⑦モニターツアー終了

【モニターツアーの様子】

②ワークショップ内容

【目標】

- サウンドスケープの体験、耳（聴覚）のストレッチ。
- 久高島の音に注目して聴く。
- 久高島の音を振り返り共有する。久高島の音風景から島の物語を共有する。
- 久高島の観光の課題やあり方について共有する。
- 参加者からモニターツアーについてアンケートによる評価を得る。

【手順】

①あいさつ／ガイダンス　②自己紹介／アイスブレイク（ストレッチ）

サウンドスケープの意味や今回実施する内容の説明後、アイスブレイクとして手首や足首、首のストレッチを実施した。

②サウンドスケープ導入（周りの音を注意深く聴く／名前を付けずに聴く）

聴覚に集中するため、その場で周囲の音を色々な聴き方で体験した。

③久高島の音を聴く

久高島の風景を「耳」をとおして捉えるため、宿泊交流館の前庭にてサウンドスケープ体験を実施した。浜辺へ移動し、各自好きな場所で 10 分程度のサウンドマップづくりを行った。また、防風林を抜ける際に海の音の聞こえ方の違いについて感じるよう促し、集落へ移動する間に２人１組で交互にブラインドウォークを実施した。集落では郵便局近くにてサウンドマップ作成を行った。最後に、音に敏感になっている状態で宿泊交流館まで個別に戻るよう指示し、再度集まってから感想を共有した。

③主な意見と感想

モニターツアーでは第１回のワークショップと同様に浜辺と集落内の２ヵ所でサウンドマップづくりを行った。また、共有の際に進行役より第１回から第３回までに得た住民の意見を紹介し、聞こえ方の違いやありのままの久高島を体験することの意義などを伝えている。

（サウンドマップの主な意見）

鳥の鳴き声が3種類くらい聞こえたので線で表してみた。あとは、おばあちゃんたちが喋っている声、誰かのくしゃみの音、それから猫の足音が聞こえた気がした。

林みたいな防風林の奥のほうから波の音が聞こえて、その他にもヤモリの「コケコケ」っていう音が流れていていろんな種類の鳥の声がした。あとは車の音が「ドタバタ」、そして枯葉の音が気になった。コンクリートの上を落ち葉が転がっていくような音をオタマジャクシのような形で書いた。奥の波の音が心地よかった。

「ピーピー、ピヨピヨ、チュンチュン、フィフィフィー」など、いろんな鳥の鳴き声が聞こえた。他には風で揺れる木の葉の音、車が通った音、虫が飛んでくる音、枯葉の音、近くの人がペンのキャップを閉める音などもした。

いろんな鳥の鳴き声が聞こえる中に、カラスの鳴き声が気になって黒いペンで書いた。後、家の中にいる子どもの声、会話が聞こえていた。それから足音、車、自転車がよく聞こえ、中心のハートはトラックのおじさんがきて、絵を描いていると思われて、「だー見せてぇ」といわれた。おじさんとの会話が嬉しくて、離れていくトラックの音は愛着が湧いて聞こえた。

車が来て「ドルルル」という音から書いたが、今回は集中したら「パッパッ」と葉っぱが一個一個落ちる音、たまに出てくる「パリッ」という音が聞こえたりした。鳥が鳴いていたり、（マップに描いた）これは「ピッピッピッピ」と聞こえる音。後は雨が落ちる音を感じ、ずっと緩やかな風が流れていて、自分のなかに入ってくる風を感じていた。そしたら目の前から「フーン」という感じで美味しいご飯の美味しい匂いがきてたまらず書いてしまった。

鳥が飛びながら「ピピピピー」や「ピィーピピィー」と鳴いている音、とまっている音、ヤモリが鳴いている音、風が「ざわざわー」とか「サワサワ～」という音が聞こえて、車が通る音、おじさんが「何してるのー？」と聞いてきてくる音とか、バイクが「ブルルルルー」ときて、「バサッ」と大きな葉っぱが落ちる音。そして車が来た後に、「ドン！」とドアを閉める音が一番大きく聞こえた。

まず、はじめに車の音が3～4台くらい音が聞こえて、その後バイクと自転車の音が聞こえた。人の話し声がして、足音は、すり足の足音とかすり足じゃないちゃんと歩く足音など3種類くらいあった。風の音は、「シューシューシュー」など肌に触れる風の音がして、そして「チョンチョンチョンチョン」と鳥の鳴き声がした。何種類かの鳥の鳴き声がすごく心地よかった。

風の音が2種類聞こえて、ひとつは波の音が混じった「ゴワー」という音、もうひとつは「サワサワ～」という音がした。鳥の声も3～4種類したが、カラスの声はあまり耳触りがよくなかった。他は心地よい「ピーピー」とか「チュンチュン」とか、車の音、人が歩く足音、さっきの浜に比べて、蚊が多くて羽音に敏感になっていた。

最初に聞こえたのが近くにある木の「サワサワ～」という音、そして後ろのほうにある森の音がした。数種類の木の音、葉っぱの音、後は生活音、車の音、人の足音、近くで飛んでいる虫の音、枯葉が足元で聞こえる、遠くのほうで聞こえるおばあちゃんたちの話し声、近くで話しかけて来たおじいちゃんの声が印象的だった。

鳥の声、「ピヨピヨ」とあっちからもこっちからも聞こえてきた。おばぁの話し声、何をいっているのかまではわからなかったが、すごく盛り上がっていた。草の間を風が通り抜ける「サワサワ～」という音、あそこのすごく大きな木が揺れたとき、木が笑っているように感じた。

鳥の鳴き声、風が吹いている感じ、生活音がおもしろくて人が歩いているのを2種類で書いた。あんまり目的がなく「ザッザッザッザ」と歩いている感じ。もうひとつは「ザザザザっ」て目的を持っている、たぶんあそこの商店に行く人だったと思う。

ずっと向こうのほうで聞こえている子どもの声。なんていっているのかまではわからないけど、片方の子が何かをいって、もう1人の子がそれに答えているようだった。

【ワークショップの様子】

（サウンドスケープ体験の感想）

普段、自分が住んでいるところや遊びに行く場所では感じることができない音を感じることができた。
音を感じることはできるけど、感じたことを絵にするのは難しく、うまく表現することができなかった。
日常のなかでも五感を使って色々なことを感じるように気をつけると、今日のような心地よい気分になれるような気がした。

普段の生活ではどこでも音楽が鳴っていて、ショッピングの最中は BGM が流れているし、車の中でも音楽を爆音で聞き、歩くときもイヤホンで聞いている。そんな生活を送っているので、普段は鳥の声や風、海の音などを感じたことはなかった。沖縄本島でもそんな感じなので、東京などの都会に行くともっと聞こえないかもしれないと思った。
まだ開発されていない自然のなかにある久高島でそのような体験ができてよかった。
生活のなかでも五感を研ぎ澄ませていきたいと思った。

普段は、あまり関わりのない学生たちと触れ合えて楽しかった。皆の声が弾んでいて心地よく、聞こえてくる音が黄色く感じた。
海や自然が好きで色々なところに行った。登山をする時期もあったが、しばらく行かない期間があったので、今回の体験をとおして五感が鈍っていると感じた。
自然のなかで目を閉じて、音を聞くと久しぶりに色々なイメージを思い出して、身体が喜んでいる感覚になった。

久高島へ観光に来る人はパワースポットを目的に来る人が多く、時間も限られるのでパッと来てパッと帰る人が多いのだろうと思った。一方で、住んでいる人たちは特別な島であるという自覚があって、もっと違う楽しみ方をしてもらいたいと感じている気持ちがわかったような気がした。
私は東京出身で沖縄に来て4年経った。東京に帰ると嫌な人になりそうで帰りたくない。
沖縄本島でも色々な音や光、色などを感じることができて豊かだと感じた。久高島はさらに感じるものがあるので、このままでいてほしいと思った。
自分の五感もさらに高めていきたいと思った。

今日のワークをとおして、私たちは視覚が優位だと改めて感じた。普段は目に頼っているので、目を閉じると怖くて不安な気分になった。普段、使っていない聴覚が刺激され、何度もやっているうちに敏感になった感じがした。使っていない感覚を刺激するとそこが研ぎ澄まされ、それに引っ張られて他の感覚も敏感になるのを感じた。
若い人たちの表現がおもしろくて、それも楽しむことができた。

音を聞いてそれを書く（描く）というアプローチがおもしろいと感じた。
文字で表現する人もいれば、点や線で表現する人、きちんとした絵になる人もいてそれぞれの違いが出ていた。
鳥の鳴き声など、特定の音をその音として捉えて聞くということがあまりなかったのでおもしろい体験だった。体験をとおして久高島を知れたことで、より久高島が好きになれたと思う。

最初、「サウンドスケープをします」といわれたときに、正直、そんなにおもしろい音があるとは思っていなかった。しかし、同じ島の中でも場所が違うだけで聞こえる音が違い、場所が同じでも人によって聞こえる音の捉え方や感じ方が違っていて、とても新鮮でおもしろい貴重な体験だった。

はじめてこんなに音を気にして行動し、多くの音を感じて心が浄化されたような気がした。
普段の生活でも、音に集中して感じてみることでストレス解消になればよいと思った。

音を絵にするということは中学生のときに美術の授業でしたことがあったが、その授業では音楽を聞いて絵で表現するというものだったので、今回は自然の音を絵にするという作業はそれより難しかった。
他の人の感じ方との違いや普段は感じることができない音の発見ができておもしろかった。
今は大学で観光について学んでいるが、「音」という視点から観光を考える発想がなかったので、五感を使ってありのままの自然を楽しむ方法を考えるのもよいと思った。

私は離島が好きで、色々な離島に行くときは事前にどのような島か調べている。そうすると、多くの島では「自然」をアピールしている。確かに島によってそれぞれの自然があるが、しばらくすると「あの自然はどこだったっけ？」というように場所と風景が一致しなくなってしまう。
今回のように音を聞いて絵に描くことは、島のことを覚えられる（記憶に定着できる）し、知ることができてよいと思った。

毎日生活していると「課題やらなきゃ」、「学校行かなきゃ」ということばかり意識していて、音に集中することはあまりない。
初めて久高島を訪れたが、音を聞くことや自然のなかで1日ゆっくり過ごす、時間をかけて自然を楽しむといったことが普段はあまりなかったので、それが久しぶりにできてよかった。

私は自然が好きなので、普段から森や海に行ったり家の周りを散歩したりと、今日したことは普段から割としているので、改めてそのよさを感じることができた。
久高島には初めて来たが、友達に行くと伝えると「何もないよ」といわれた。でも久高島にはカナブンなど色々なものや、久高島独特のものがたくさんあった。
久高島には観光客がたくさん訪れるイメージがあったが、観光スポットを回るスタイルではなく、今回のようにありのままの姿を伝えようというスタイルのツアーはとてもよいと思った。

【感想まとめ】

- 普段は、あまり意識しない「音」に集中することで、普段、積極的に使っていない聴覚が刺激され敏感になり、それにつられて他の五感も研ぎ澄まされたような感覚になった。普段から五感を研ぎ澄ませて生活したい。
- 海や風の音、鳥の鳴き声など、普段の生活のなかでは意識しない音を感じることが、ストレス解消やリフレッシュにつながる気がした。
- 久高島には都会にはない音がたくさんあり、それが心地よい。一般的な観光ツアーでは観光スポットを見て回るスタイルが多いが、今回のモニターツアーのように、体験型でありのままの生活文化を伝えるツアー形態もよいと感じた。
- 聞いた音を絵や文字で表現するという体験が新鮮だった。また、久高島という自然豊かな場所でその体験ができてよかった。

【モニターツアーアンケート】

＜アンケート概要＞

モニターツアー後の参加者アンケートでは、全員が有料でも参加したいと答え、ツアーの適当な価格帯について 12,000 円と 15,000 円の回答が最も多い結果となった。また、誰と参加したいかという問いでは、彼氏や友人、家族などの回答が多く、２～3 人もしくは 4～5 名程度のグループという回答が見られた。

■対象：モニターツアー参加者（12 名）

■実施方法：ツアー終了時に記入・回収（回収率 100%）

問：年齢層

18 歳～25 歳	30 歳～39 歳	50 歳～59 歳
8 人	1 人	3 人

問：このツアーの価格はいくらが適当だと思いますか？

10,000 円	12,000 円	15,000 円	18,000 円	20,000 円
2 人	4 人	4 人	1 人	1 人

問：有料でも参加したいと思いますか？

はい	いいえ
12 人	0 人

問：誰と何人くらいで参加したいですか？

誰	何人
彼氏	2 人
友人	2～3 人
ツアーに興味がある人	5～15 人
友達・家族	3～4 人
惣志郎心コンセルジュ代表	30 人
友人	4 人
友人	2～3 人
友人	3～5 人
友人	3 人
家族	4 人
友達	3 人
娘、子孫	2～3 人

（ツアーに参加しての感想）

- 正直、神的なパワーなどは何も感じませんでしたが、ガイドさんの説明が資料館で儀式中の写真とその場所を照らし合せてみるととても感慨深く思いました。ガイドさんのお話は全部興味を惹かれるもので楽しかったです。でも短距離の移動も車でしたので、もう少し 10 分くらいは歩いて島を感じられるといいなと思いました。ワークショップについては新しい観光形態でとても良いと思いました。島は何もないけど自然しかないけどそれがいいんだよと良く聞くし私も思います。しかし実際に行くと本当に何もない！早く帰りたいと思ってしまいます。だから音をじっと聴くだけという観光スタイルがあることがもっと広がれば観光客も「観光＝楽しむ」＝騒ぐではなく、静かに島を感じ、癒されに来る人が増えると思いました。最後に BBQ をしてお酒を飲みながら三線と歌を聴きながら過ごせたのも、久高島に来た！という感じがしてとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ガイドさんとまわった2時間のツアーがとてもよかったです。久高島に住むということ、神との繋がり、生活について…など、本当にたくさんのことを奥深くまで聴くことができて、聖地について久高島について色々考えることができました。音のワークショップは自分では思いつかないアプローチの仕方で興味深かったです。受けた後はずっと音に集中していました。自由行動の時に回るべき自転車マップや歩いて行ける範囲のマップなど詳しいものがあればいいなと思いました。
- 皆が期待しているスピリチュアル、パワースポットとしての久高島を それだけでなく、自分自身が感じる久高島として 今日その時の久高島を感じることができて 音のワークショップはとても面白かった。また、一人ではなく、皆の感じ方を共有できたことも興味深かった。久高島ガイドは今まで男性ガイドで2回お願いしたことがあったが今回初めて女性ガイドで女性の視点に立った話が聞けたので、女性ばかりのツアーではそのほうが共感できるところも多いと思う。宿泊、料理（バーベキューも含めて）自然の中でという意味では満足している。五感を使うという点、ストーリー性の部分では、島にわたる前から何らかのワークやポイントを説明しておいてわたる前までの感じ方の違いや自分の中の気づきが得られるようなものにすると面白いと思った。月と連動させるとかも良いと思う。
- ”観光地”として見れば、店や必需品を買う場所が揃っているわけではないし、ところどころに町のわかりやすい地図があるわけでもないけど、まだ手の加えられていない、ありのままの姿が残った離島をはじめて見たような気がしてよかった。みんなで同じ宿泊所に止まり、夜は BBQ をして久高の人たちも混ざって家庭料理とか食べさせてもらって、三線弾きながらみんなでカチャーシーして私が理想としていた島の姿が1泊で見られ とても満足だった。初めての久高がこのツアーで本当によかった。
- 初めての久高島ツアーでこれてよかったです。観光で来るのに村の人の暮らし、しきたりがあること、歴史文化等ガイドさんから聞くことができ、そして島の人とのふれあいに心豊かになれました。ワークショップがあるのもとても良いと思います。ただ観光だと、一緒に参加している人の表面しか見えないが、ワークショップを通して、内なる心に触れるような、素敵な時間です。今回の音のワークも、感性、五感が鈍っていくような現代社会の中でとても必要な感じがします。「何もない」を楽しむとたくさんの楽しみがある。自然の「もうあしびー」もいいですね。ゆったりと流れる時間、空間を伝え、ただ五感を意識して座る。「歩く」も、今の時代のニーズかもしれない。ガイドさんの「新生、再生」の言葉が残っています。ちかこさんの思いやりや愛を感じ、とても良かった。貴重な体験、時間、空間をありがとうございました。
- 今回のツアーに参加して見て、ただ単に島をガイドしてもらうだけでなく、音を聞いて島を感じる体験もできてとてもよかった。音を使った体験やガイドさんのお話は他の離島で過ごす時間との差別化を与えるコンテンツになり得るなと感じました。また、久高島での時間が印象に残りもっと久高島を好きになってもらえれば、島のことを学んだり、行事を学んだりする人が増え、マナーも良くなっていくのではないかと思った。
- 久高島の神行事が多くこの島に残っていて、独特の空気感と言うか、時間の流れを感じた。宿泊に関しては、思っていたより施設が充実していて過ごしやすかった。料理もおいしかったが、一日目のランチのニガナのサラダが少し苦手だった。今までニガナは好きで食べられていたので、他の調理法で食べたい（二種類くらいを事前に選ばせてもいいのでは？）。ガイドさんは、ただ説明をするのではなく、ちょっとしたおまけ話もしてくれて、まちあるき観光のいいところが出ているなと思った。ただ、移動が車だったが、頻繁に乗り降りするのが大変だったため、徒歩でもいいのかなと思う（ターゲット層によっては車がいいが）。ワークショップは普段できない体験ができるため、楽しかった。朝、夜でまた聞こえてくる音も違うと思ったため、2 回程やっても面

白いかなと思う。個人的には、地元の人ともう少し交流して話をしてみたかった。

- 久高島の神聖な島であることは知っていたが、立ち入り禁止の場所や木、石などを持ち出してはいけないなど、様々な規則があり、そのような中で久高の神聖さは保たれているのだと感じた。宿泊施設は想像していたより大変きれいで、過ごしやすい室内空間だった。ガイドの方はとてもフレンドリーなかたで、楽しく久高島について知ることができた。サウンドスケープというものは初めての体験で音を感じることがこんなにもリラックスできるとは知らなかった。心が浄化された。サウンドスケープにおいて、人それぞれの音の感じ方を絵や文字で表しておいて、面白いなと思った。カナブンとネコの人懐っこさにはたいへん驚いた。自然の豊かさと島民のフレンドリーさには感動した。ガイドツアー時の移動手段として車を使うのはかえって不便だと感じた。たった数分の距離なら徒歩や自転車のほうが車の乗り降りの手間がなく便利だと思う。
- 【神、スピリチュアル】◎特に信仰がないと私にとって、昔から強く神を信じて、儀式を行ってきた久高島の文化がすごく新鮮で見ごたえがありました。△県外出身のため自然に対する信仰心の概念が薄くそれらの説明が「知っている前提」で進められていた時には理解が難しかった。【宿泊・料金】◎すごく綺麗で落ち着いた施設で過ごしやすかったです。お料理も豪華かつ美味しくて最高でした。△ランチで出てきたニガナが思っていたより苦くて、好き嫌い別れる味だと思ったので郷土料理も選択できるようにするともっと良いと思います。【ガイド】◎とても親しみやすい良い方で良かったです。一緒に BBQ を体験できる機会もなかなかないし、三線も聞けて嬉しかったです。【ワークショップ・五感】◎今まで発想になかった“音”で景観や島の雰囲気を感じて楽しむという体験をして、観光の概念が「観る」ものから「五感で体感する」ものへ変わりました。
- 久高島には初めて訪れたんですけど、よく言えばイメージ通りで自然豊かで人のあたたかみを感じました。また、神聖なパワースポットや拝所に訪れてなんかパワーをもらった気がしました。料理もおいしくて、久しぶりに畳で寝て昔にタイムスリップしたかのような気がしました。ガイドも自分たちだけで訪れたら分からないところも全部聞けて久高島がより好きになりました。でも途中でのどが乾いたのではじめに“飲み物持参”とか“虫が苦手な方は対策を”と促すと良いと思います。五感が研ぎ澄まされたので、色んなことに目を向けていきたいです。
- 「神の島」と言われていることは知っていたけど、ガイドさんをつけることで、自分たちだけでは絶対分からなかったその場所で起きた歴史や、島の人たちにとってのその場所の意味や重要性を知ることができてとても良かったです。五感を集中して使うワークショップでは普段意識しない音やにおい、雰囲気を感じることができて新鮮でした。今日のツアーで久高島のことをよく知れたので、このツアーに参加してよかったし、内容にとても満足しています。ありがとうございました。人々との交流もとても楽しかったです。
- ツアー、ありがとうございました☺左に左に行ったら元に戻ってしまいました☹焦ったけどなんとか間に合いました👆久高島 3 回目ですがガイドさんの話は始めて聞いたのですがとても良かったです。個人で頼む事はなかなか無いと思うので good🤘サウンドスケープのワークも地味なのですが後味が🤘とても良い✨❣ □ラポールを築く目的もある目を閉じての誘導も良かったです。初対面の人達との交流も楽しかったです。帰りは急ぎの便で残念でしたが波も比較的穏やかで間に合った事に安堵しております☺朝は 1 人で散歩しながら時を忘れて海を眺めたり、砂浜を歩きとても心地よい時を過ごさせて頂きました。命の源に触れるような感覚を味わったのは今回初です。ガイドさんのお陰だと思います。色々ありがとうございました☺

3. 小括：ワークショップをとおして得られた住民の意向や紐帯

（1）住民意見のまとめ

第1回と第2回のサウンドスケープは、昼夜の音の変化を比較し、住民で共有することができた。また、そこから久高島の原風景について議論することで、音から想起する島の暮らしやそこでの課題を共有し、久高島観光の方向性について議論を深めることにつながっている。さらに、第3回のサウンドスケープでは女性や若者が参加して、島の音風景から海や風、生き物や生活文化の大切さについて共有し、後半のディスカッションでは島の課題に対応した事業案について議論を行うことができた。

今回の住民意向調査をとおして、久高島の住民が得たと思われる気づきや、出された意見を下記に示す。

（気づき）

- サウンドスケープ体験により感覚が研ぎ澄まされること。
- 久高島は沖縄の原風景を残している。
- 何もないけど何かがあることを感じることができるようになる。

（観光の方向性）

- 短時間ではわからない「暮らすように観光する」こと。
- 今あるものを生かす事業開発の手法。
- 案内所には負担軽減と持続的な運営が求められる。
- 久高島の皆でどう判断するかという点が大切である。

（2）久高島のパイロット事業(※)案

第4回のモニターツアーでは、島外の住民にサウンドスケープを体験してもらい感想を得ることができた。ここでは、サウンドスケープ及び住民とのディスカッションから抽出された意見をもとに、持続可能性や島外との関係性等について配慮しつつ、久高区のみなさんへ提案するパイロット事業案としてまとめる。

（※）パイロット事業…試験的に先行して行う事業のこと。テスト事業。

①久高島サウンドスケープツアー

概要	**＜サウンドスケープ体験ツアーの構築＞** モニターツアーとして実施した内容をもとに、音に注目して久高島を体験するツアーを構築する。最終便のフェリーが出発した後の比較的観光客が少なくなる夕方の時間に行うことで、より集中して取り組むことができる。また、外部から来る人と地元住民の音の捉え方の違いなどを説明し、久高島の暮らしを追体験してもらうことで、生活文化に対する理解を深める。

キーワード	・何もないけど何かがある ・今あるものを活かす事業開発手法 ・暮らすように観光するというコンセプトの実現
将来像	久高島の自然や生活文化を体験するツアーとして取り入れ、南城市全体の観光体験方法として展開する。
運営主体（案）	アマミキヨ浪漫の会、NPO 法人久高島振興会、ツアー企画会社　他
実現に向けた課題	・ツアー参加者だけの特典がつけられるか。 ・リピーターとなることが見込めない。

②久高島麦畑トラスト

概要	**＜麦畑の信託制度＞** 地割制度のもと使われていない畑地を活用し、米や麦などの作付けに対して、あらかじめ1口いくらという出資者を募り、取れ高に応じて配当する。また、穀物を活用して神酒づくりを行う6次産業とすることも考えられる。神酒や神事などの文化継承と久高島の神行事に対する理解を広げることが狙い。
キーワード	・耕作放棄地（地割制度）の活用 ・お神酒文化の継承
将来像	五穀発祥の地として小麦や粟などを栽培し、小規模醸造に適した形態の模索、年間の行事の参加者増など。
運営主体	有志（農業）
実現に向けた課題	・酒造免許の取得（もしくは例外として認定）。 ・神酒などに加工するには一定程度の安定した収量が必要となるため、一定程度の畑地の確保や農業用水を確保することが可能かどうか。

③ナイトタイムエコノミーの活性化

概要	**＜宿泊と飲食、体験など＞** 宿泊施設の稼働率にまだ余裕があることから、夜（夕方以降）のツアーや飲食を伴う体験が求められている。鮫の干物や島で獲れた魚介、自生するニガナを使った料理、木ノ実を漬け込んだ果実酒など本調査の期間内にいくつも資源を発見することができた。こうした特徴ある飲食物や、真夜中のカベール岬や星を観察するアクティビティや三線と島唄など、午後5時以降の活動によりナイトタイムエコノミーのシーンを活性化する余地は大きいと考えられる。
キーワード	・宿泊施設の稼働率増加 ・飲食の満足度を高める ・今あるものを活かす事業開発手法
将来像	久高島の夜を体験することが観光の目的となる状況
運営主体（案）	NPO 法人久高島振興会、観光コンシェルジュ　他
実現に向けた課題	体験や飲食をコーディネートする人材の確保

（３）住民の紐帯

久高島では平成 28 年度に久高島総合計画を策定し、平成 29 年度に総合計画の実施計画をまとめている。また、平成 30 年度からは実施計画の内容を具体化するため、久高島総合計画（実施計画）の検討委員会のメンバーで構成する「久高島島建て協議会」を発足し、複数の事業を展開する段階にきている。

住民意向調査におけるサウンドスケープ・ワークショップ及び意向把握の議論では、区長や検討委員会の委員長などをはじめ、若手や女性などからも貴重な意見を得ることができ、これらと並行し、組み合わせることで実施計画の実行段階に移ってきた。

また、五感を研ぎ澄ませたワークでは、相互扶助が必要なブラインドウォークや互いの聞こえ方を共有する時間などをとおし、共通体験による緩やかな信頼関係を構築するとともに、ワークショップを通じて、久高島の自然環境や沖縄の原風景に対する志や、久高島の土地管理の方法などを再確認し、「暮らすように観光する」ことや「今あるものを活かす事業開発手法」の必要性など、住民が普段から考えているのであろう意向を汲み出すことができた。

本調査における住民の意向調査で得られた内容は、久高の住民の物事に対する考え方や捉え方に加え、事業化に向けたアイデアの議論やモニターツアーによる外部からの視点など、「久高島総合計画」および「実施計画」で掲げた文化観光関連事業の具体案についての検討も含んでいる。

さらに、極めて久高島らしい方針として、久高島における地域づくりに資するためには「久高島の皆でどう判断するかが大切」という視点が欠かせないことが示されている。計画の実施段階では事業の継続性を担保するため、個別の主体が舵取りを行う必要があるが、久高島の文化や歴史、自然を保ちつつ、住民の緩やかな紐帯を実現させていく必要がある。

§3
古民家・空き家実態調査

1. 久高島の人口・世帯数の推移 ・・・・・・・・・ 1

2. 調査の前提・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3. 調査記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

4. 地域円卓会議の記録 ・・・・・・・・・・・ 19

5. 小括:空き家活用の可能性と提言 ・・・・・ 28

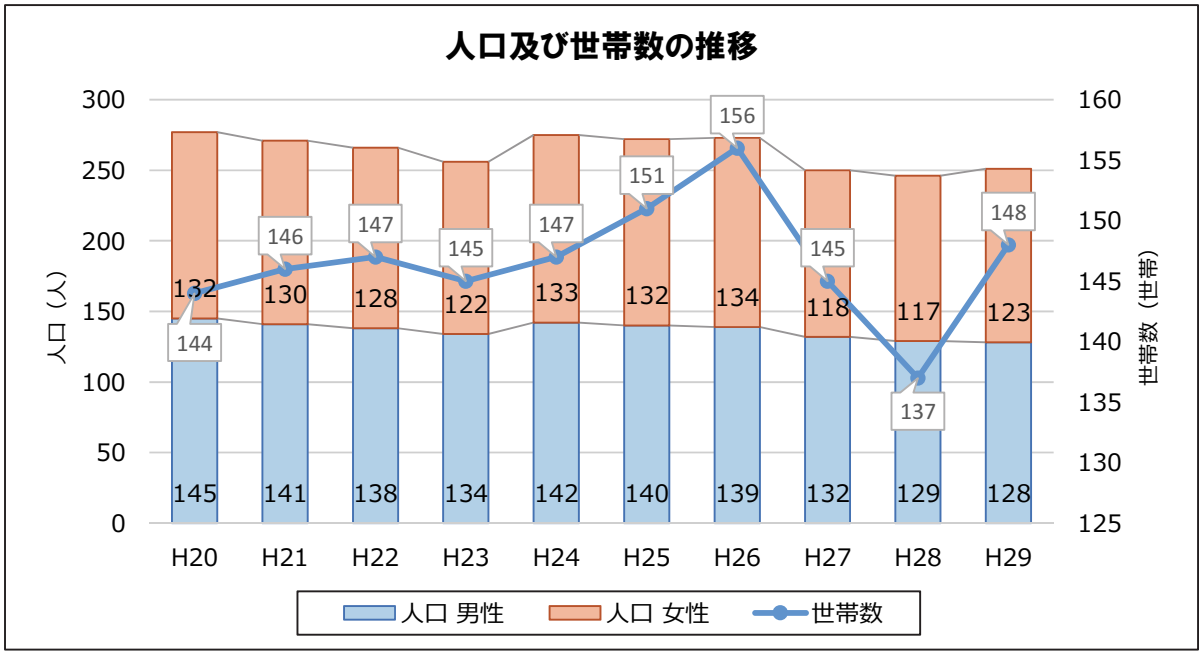
1. 久高島の人口・世帯数の推移

(1)人口・世帯数の動向

久高島の人口及び世帯数は減少傾向にある。平成 20 年 12 月時点で 277 人（男性 145 人、女性 132 人）だった人口は、平成 29 年 12 月時点では 251 人（男性 128 人、女性 123 人）となっている。一方、世帯数は平成 26 年まで微増する傾向にあったが、近年は乱高下している。

平成 30 年 1 月現在の久高区の行政区別住民登録人口は、人口 247 人（男性 126 人、女性 121 人）、世帯数 147 世帯である。ただし、実際の居住人数はさらに少なく、区の調査では平成 30 年 5 月末の実質居住人口は 195 人（男性 100 人、女性 95 人）とされる。また、久高島にも沖縄本島にも自宅がある二地域居住のような形態の住民も存在する。

図　住民基本台帳における人口及び世帯数の推移



資料：南城市

注記：各年とも 12 月現在の人口・世帯数である。

「南城市人口ビジョン」から南城市全体の人口動向を概観すると、市全体の人口は増加傾向にあるが、年少人口（子ども）は低下し老年人口が上昇しており、少子高齢化が進んでいる状況である。なかでも知念地区は人口減少傾向にあり、少子高齢化が最も顕著な地域とされ、久高島もその例外ではない。

実質居住人口を年齢別にみると、65 歳以上の老年人口の比率は 39.5%と高く、超高齢社会となっている。なお、年少人口（15 歳未満）は 11.8%、生産年齢人口（15 歳以上 64 歳未満）は 48.7%である。年代別にみると、60 代の住民が最も多く、次いで 50 代と 80 代となっており、子どもを除いて、いわゆる若者とされる 20 代～30 代の人口は 20 人で居住人口

のおよそ 10%となる。

若い世代が少ない要因としては、高校進学にあたって島外に出なければならないこと、島に住みながら島外で働くのが難しいこと（欠航など）等があげられるほか、若者世代が家族を連れて U ターンをするためには住居の確保が大きな課題となっていることが考えられる。

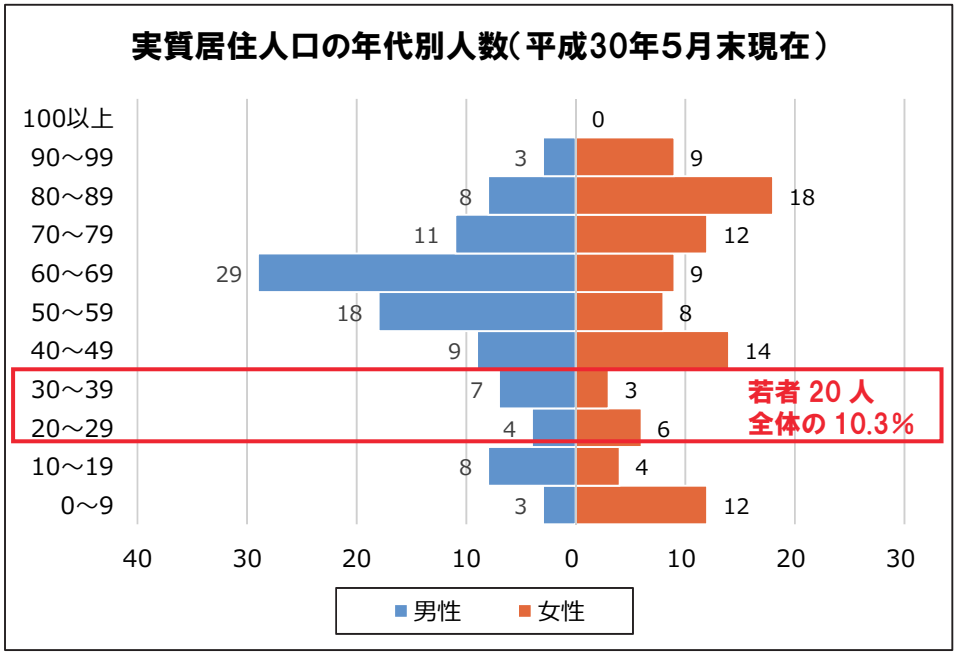
表　実質居住人口の年齢階級別人口と割合（平成 30 年5月末現在）

	男性	女性	合計	割合
年少人口（0～14歳）	9	14	23	11.8%
生産年齢人口（15～64歳）	55	40	95	48.7%
老年人口（65歳～）	36	41	77	39.5%
合計	100	95	195	100.0%

資料：久高区

図　実質居住人口の年代別人数（平成 30 年5月末現在）

年齢	男性	女性	合計	割合
0～9	3	12	15	7.7%
10～19	8	4	12	6.2%
20～29	4	6	10	5.1%
30～39	7	3	10	5.1%
40～49	9	14	23	11.8%
50～59	18	8	26	13.3%
60～69	29	9	38	19.5%
70～79	11	12	23	11.8%
80～89	8	18	26	13.3%
90～99	3	9	12	6.2%
100以上	0	0	0	0.0%
合計	100	95	195	100.0%



資料：久高区

（２）将来人口の推計

久高島における住居の問題を議論するため、久高島の将来人口を仮に推計してみる。これは 2018（平成 30）年５月末現在の実質居住人口をベースに、下記の仮定に基づいて推計した数値であり、人口ビジョン等で示された将来人口推計ではない。若者の U ターンや移住がない現状が続くとどうなるかという議論の参考として示すものである。

人口推計は、３パターンで算出した。

パターン①　：　市全体の数値を用いた推計。基準値と考える。

- 2018（平成 30）年5月末現在の実質居住人口をベースに、国立社会保障・人口問題研究所が算出している南城市全体の合計特殊出生率と移動率を使用して推計した。

パターン②　：　島民の動きを具体的に仮定してみた推計。

- 2018（平成 30）年5月末現在の実質居住人口をベースに、次の仮定にしたがって推計した。

●自然増減

- 毎年1人ずつ子どもが生まれると仮定した（男女の振り分けは仮に交互に振り分けている）。
- 85 歳以上 100 歳未満の人口の 50%が施設入居等により島外に出ると仮定した。
- 100 歳以上の人口は0人とした。

●社会増減

- 16 歳から 25 歳（高校進学から大学卒業後数年）までの 50%が島外に出ると仮定した。
- 定年退職を迎える 65 歳が毎年男女1人ずつ久高島に戻ってくると仮定した。

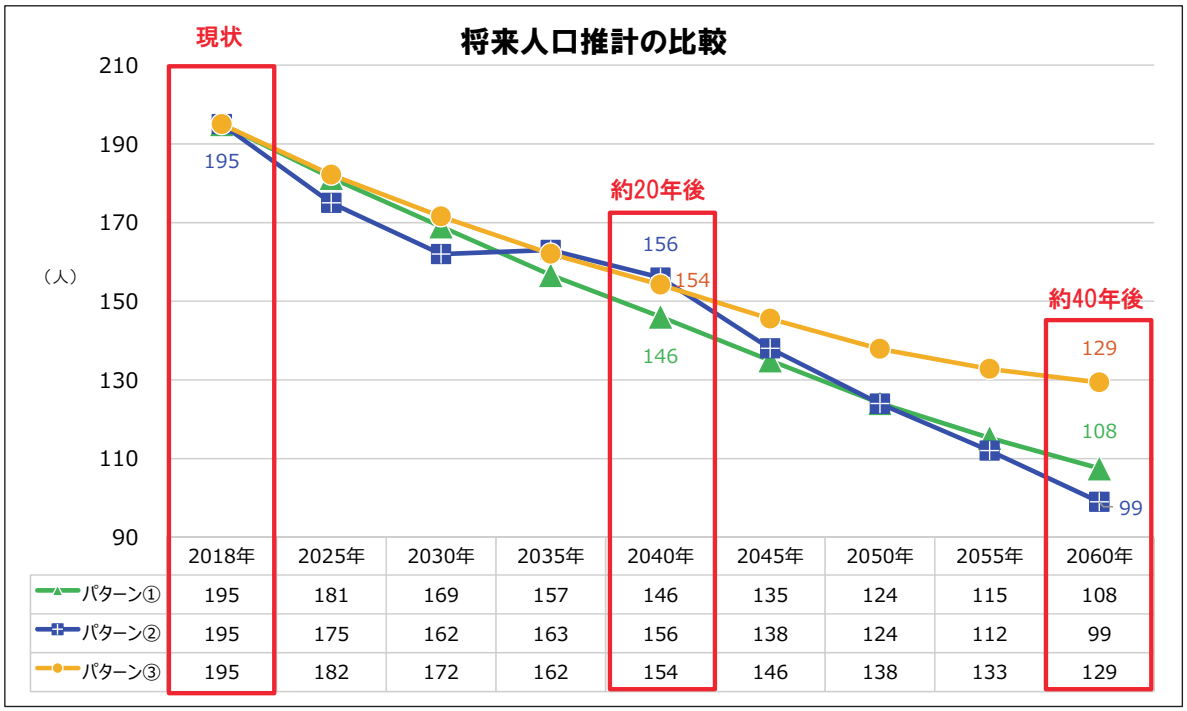
パターン③　：　若者の流出がストップした場合を想定した推計。

- 2018（平成 30）年5月末現在の実質居住人口をベースに、次のとおり合計特殊出生率及び移動率を想定して推計した。
  - 合計特殊出生率は、「南城市人口ビジョン」における将来展望の数値を使用した。
  - 移動率は、15 歳～30 歳までの移動が均衡（移動なし）になると仮定した。

推計結果の概要

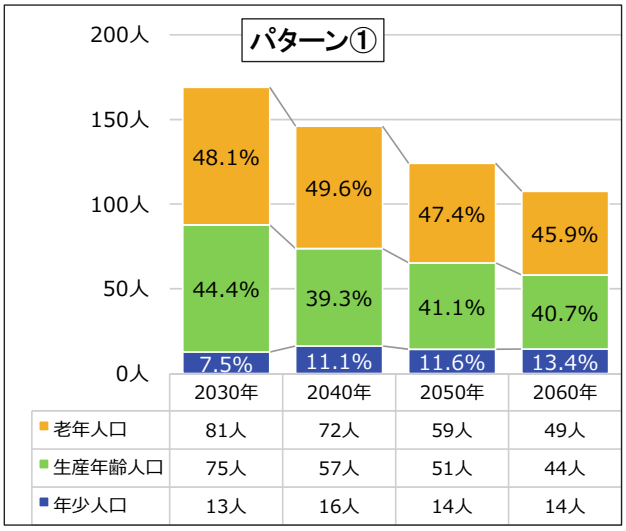
- すべての推計で、12 年後の 2030 年には、現在人口のおよそ9割程度（良い数値で 88%、悪い数値で 83%）の人口となる推計となった。
- 基準値として推計した、市全体の合計特殊出生率及び移動率を用いたパターン①では、2030 年には総人口が 169 人（現在人口の約 87%）、約 40 年後の 2060 年には 108 人（現在人口の約 55%）という推計となった。2060 年の高齢化率は 45.9%となる予測であり、現状の高齢化率よりも低くなっているが、生産年齢人口を上回る状況である。
- 若者の半分が流出すると仮定したパターン②は、もっとも人口の減少幅の大きい推計となった。2030 年には現在人口の 83%となる 162 人まで、2060 年には現在人口のおよそ半数である 99 人まで減少する推計となった。定年退職者のUターンがあると仮定したため、2060 年の高齢化率は 75.8%と非常に大きな予測となった。
- 若者の流出がストップした場合を想定したパターン③は、もっとも人口の減少幅が小さい推計となった。2030 年の人口は 172 人（現在人口の約 88%）で、高齢化率はおよそ 47%である。2060 年の人口は 129 人（現在人口の約 66%）、高齢化率はおよそ 38%である。
- 若者の流出がストップすると仮定したパターン③の場合でも、現在人口の 66%まで減少する推計となっていることから、40 年後まで現在と同程度の人口を維持するためには、島出身者のUターンや移住を促進するなどの対応が必要と考えられる。

図　久高島の将来人口の推計

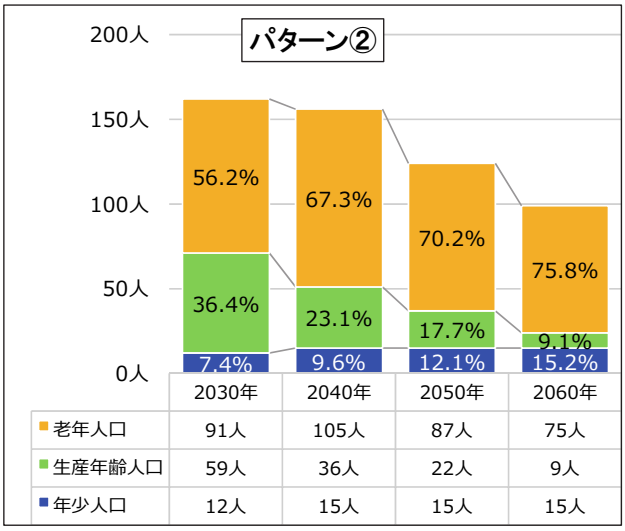


	2018年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン①	195	181	169	157	146	135	124	115	108
パターン②	195	175	162	163	156	138	124	112	99
パターン③	195	182	172	162	154	146	138	133	129

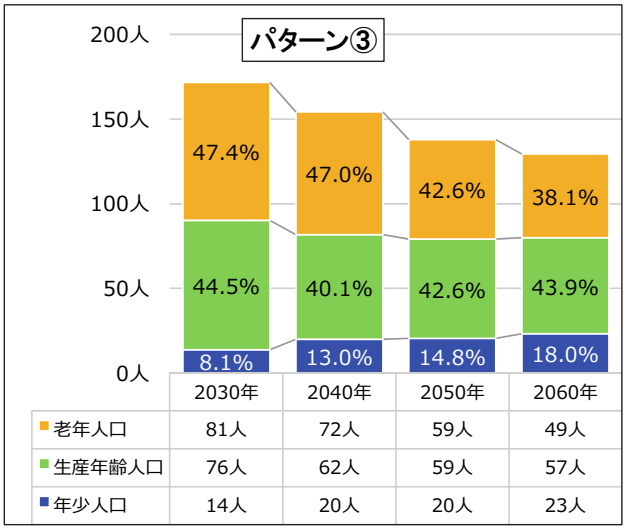
図　各推計の年齢3区分別人口の割合



	2030年	2040年	2050年	2060年
老年人口	81人	72人	59人	49人
生産年齢人口	75人	57人	51人	44人
年少人口	13人	16人	14人	14人



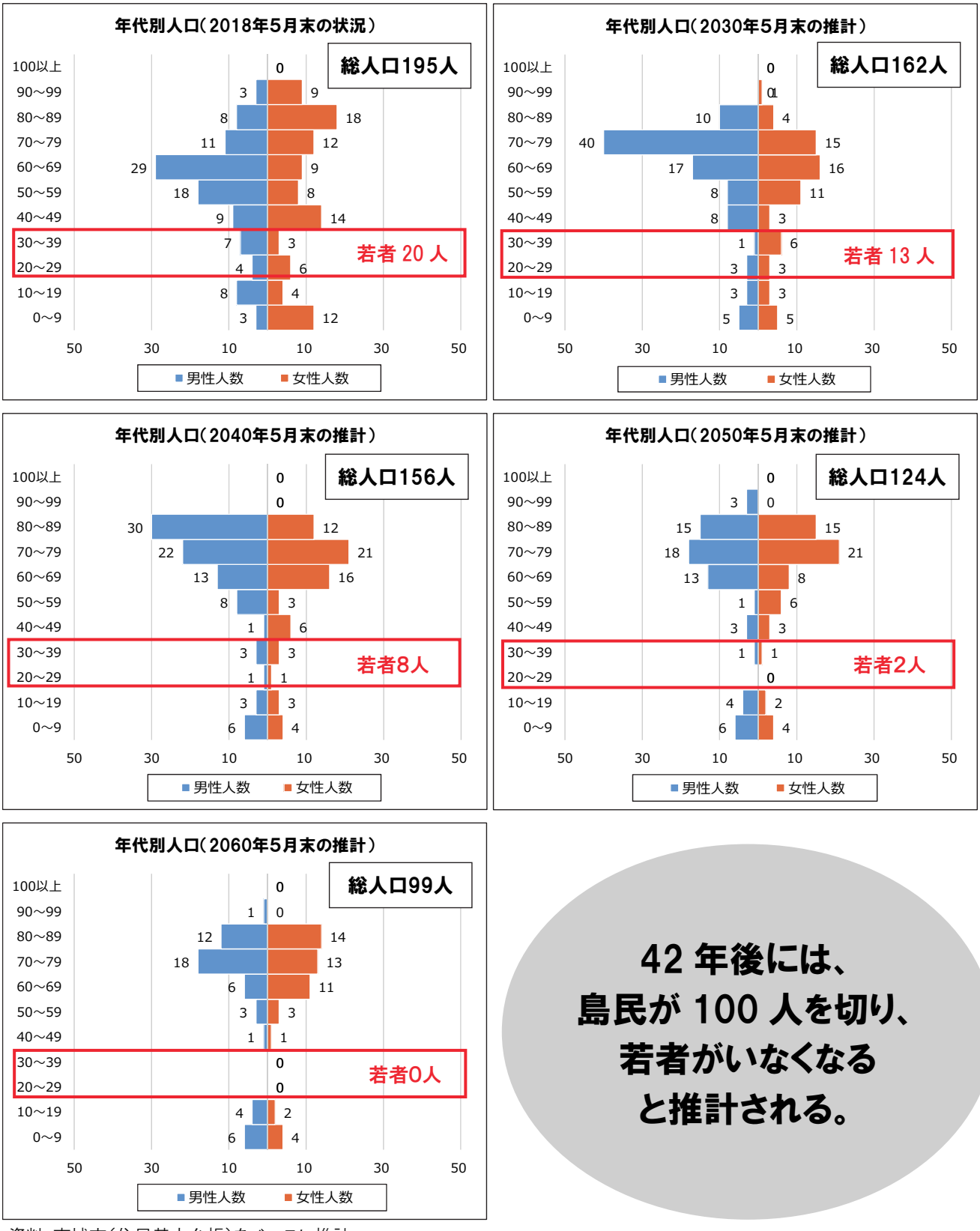
	2030年	2040年	2050年	2060年
老年人口	91人	105人	87人	75人
生産年齢人口	59人	36人	22人	9人
年少人口	12人	15人	15人	15人



	2030年	2040年	2050年	2060年
老年人口	81人	72人	59人	49人
生産年齢人口	76人	62人	59人	57人
年少人口	14人	20人	20人	23人

３パターンの推計のうち、もっとも人口減少幅の大きかったパターン②において、年代別人口がどう変化するかを確認するために人口ピラミッドを作成すると、次のとおりとなる。

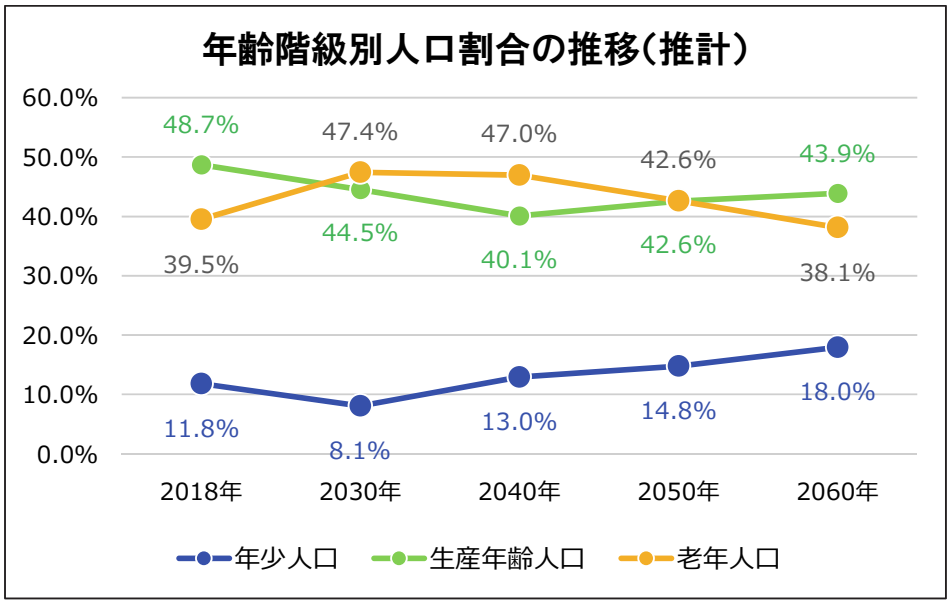
図　年代別人口の変化



42 年後には、
島民が 100 人を切り、
若者がいなくなる
と推計される。

資料：南城市（住民基本台帳）をベースに推計

図　パターン②の年齢階級別人口割合の推移



パターン②の年代別人口の推計結果の概要

- 総人口は、2018 年現在の 195 人から、2060 年には約半数の 99 人まで減少する推計である。
- 定年退職を迎えた男女が1人ずつUターンするという仮定に基づいた試算であるため人口の減少率は劇的ではないが、2040 年には 20～30 代の若者がほぼいない試算となり、人口ピラミッドは逆三角形の形をとる。2060 年の推計値では、20～30 代の若者の数は 0 人となる。
- 年齢階級別人口の割合をみても、およそ 10 年後の 2030 年には老年人口(65 歳以上)比率と、生産年齢人口(15 歳～65 歳未満)の比率が逆転する試算となる。20 年後には、いわゆる青年と呼ばれる人口は数える程度しかいない状況となる。
- 青年層が島内で居住できる環境の整備が急務であると考えられる。

2. 調査の前提

久高島における古民家・空き家の実態を把握するため、空き家の特定および所有者意向調査を実施した。

（１）全国的な空き家の問題

現在、人口減少が進み、住宅のニーズ変化及び産業構造の変化などに伴い、空き家が年々増加していることが全国的な社会問題となっている。

空き家について、総務省統計では主に下記の４つに分類している。

①別荘等の二次的住宅（別荘など常に住んではいないが使われている）
②売却用の住宅（売りたいが買い手がいない）
③賃貸用の住宅（借り手がいないため空き家となっている）
④その他（ほとんど使用されておらず用途不明）

この中で特に問題となっているのが④のほとんど使用されておらず用途不明の空き家であり、これに該当する住宅には、所有者が死亡し、介護施設への入所で空き家となっている場合なども含まれている。

空き家が増えている原因には経済的な理由も多い。住宅のない土地では固定資産税が最大 4.2 倍に増え、併せて解体の費用もかかってしまうため、使用していなくとも解体することができないことにつながっていると考えられる。

空き家によってもたらされる問題は、適正な管理がされないまま放置されることにより、公衆衛生の悪化や安全性の低下、景観の阻害などで、地域住民の生活環境にも深刻な影響を及ぼしている。その他にも土地利用の非効率化なども問題とされている。

このような状況を受けて、国策として平成 27 年２月に「空き家対策特別措置法」が施行され、危険度の高い空き家に対し、強制的に対処できる規定が設けられた。この特別措置法により改善勧告を受けた場合は、固定資産税に対する特例処置も外されて税負担が増加される措置がとられている。そのほか、「空き家バンク」という空き家を貸したい所有者と利用希望者をマッチングする制度を行う自治体も増えてきているなど、各地域で空き家対策が取り組まれている。しかし、土地の所有者が不明なことや、空き家の存在が知られていないために住居を探している人へ情報が届かないといったこと等、空き家対策にはまだまだ課題がある。

（２）本調査における「空き家」

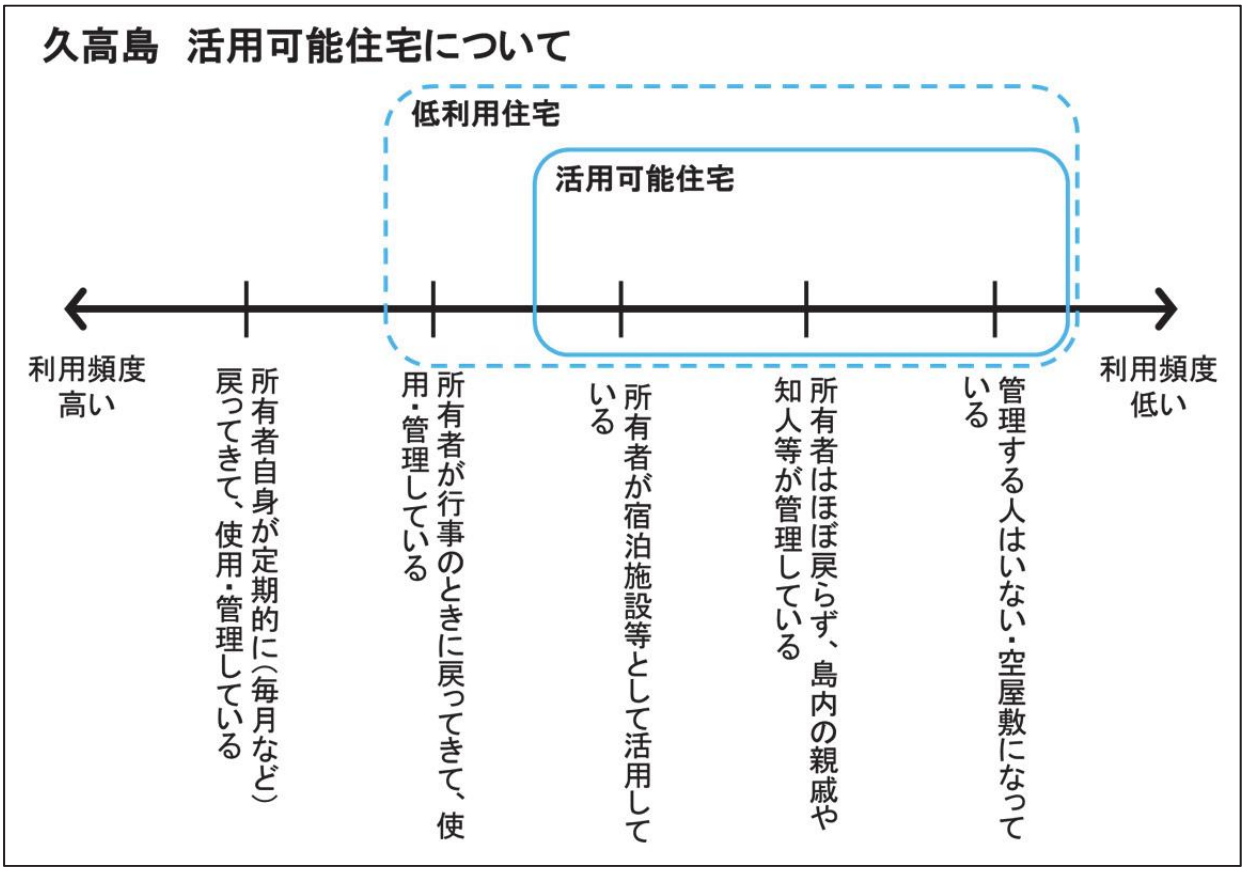
「久高島総合計画」で島内の空き家０件と記載されているとおり、事前ヒアリング等からは、久高島における空き家には、「仏壇があり行事のときに使う」「いずれ（退職後など）戻ってくるつもり」という、いわゆる「二次的住宅」であるために空き家と認識されていない家屋が多いことが伺えた。本調査においては、久高島における活用可能住宅を設定すること

に焦点をあてて、「常に人が住んでいるわけではない家屋のうち、日常的に管理が行われていない」を便宜上空き家の定義とした。

想定される空き家の状態

①所有者が行事のときに戻ってきて、使用･管理している。
②所有者が宿泊施設等として活用している。
③所有者はほぼ戻らず、市内の親戚や知人等が管理している。
④管理する人はいない･空屋敷になっている。

また下記の図のように、利用頻度の低い低利用住宅の中から、本来の意味の空き家に近い形態の住宅を「活用可能住宅」と考えてよいのではないかと提案する。



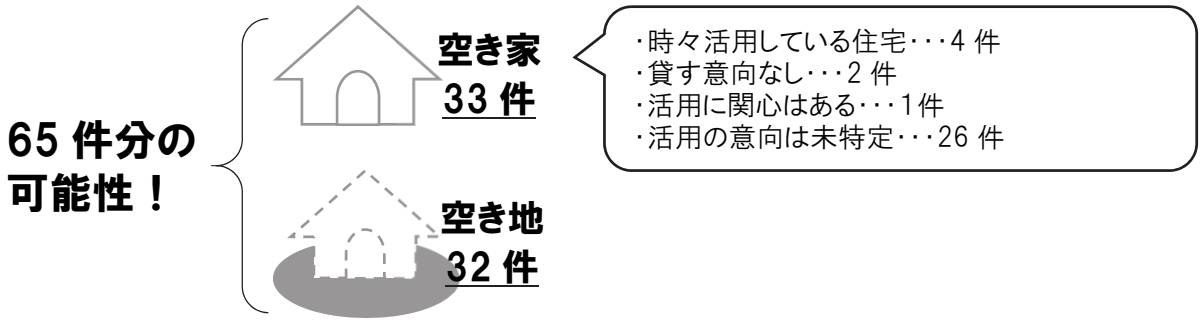
（３）空き家の特定

空き家の特定にあたっては、まず現地調査を行い、雨戸や窓の開放、照明の点灯の有無等をもとに空き家ではないかと思われる住居についてピックアップを行い、区長ヒアリング等によって特定した。その後、所有者意向調査や外観調査の際の近隣住民へのヒアリング等により、適宜、追加や削除を行った。

また、久高島総合計画実施計画検討委員会の土地活用部会では、今後の土地利用について

議論するため、島内で人が住める状態の家屋が何件あるかという調査を実施している。照らし合わせて整理すると、本調査における空き家の定義では、島内には時々活用されているものも含めて 33 件の空き家がある（住居として活用されている家屋除く）。また、空き地となっている屋敷が 32 ヶ所あり、計 65 件の活用可能性のある住宅等が存在することがわかった。

なお、区の調査では、このうち人が住める状態の家屋は 22 件であり、このほか住居として他人が借りている住宅が 26 件あるという。

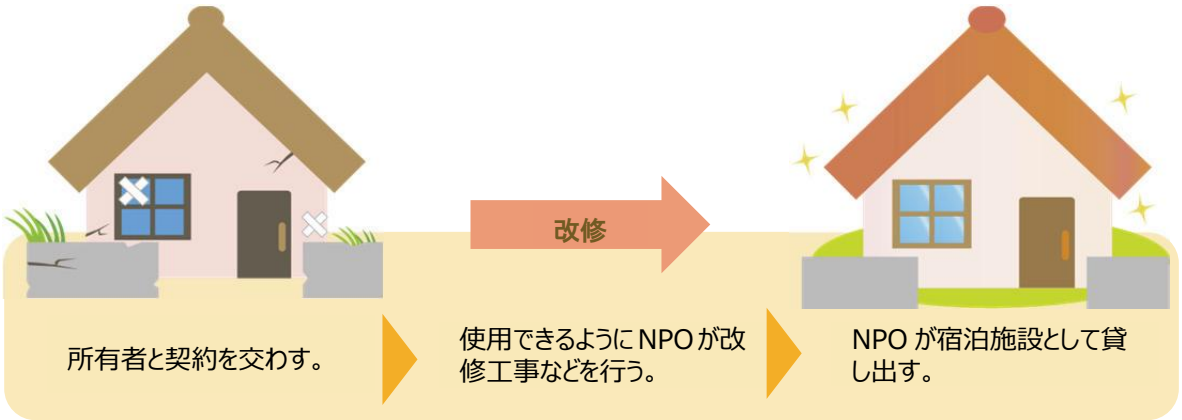


（４）島内での活用事例

現在、久高島内の空き家の活用事例としては、個々の所有者がそれぞれ自由に住居や別荘として貸し出している事例が見られる。島内で建設工事などが行われる際の作業員の休憩所や管理事務所として活用されている事例もあり、このような場合は区長を介して紹介や依頼が行われているようである。

また、久高島宿泊交流館の指定管理を受託する NPO 法人久高島振興会では、現在、島内の２件の空き家を借りて、民宿のような形態で貸出を行なっている。現在の借り受け条件は次のとおりである。所有者にとっては、改修費用を NPO に出してもらえることに加え、月額の家賃収入を受け取ることができるメリットがある。

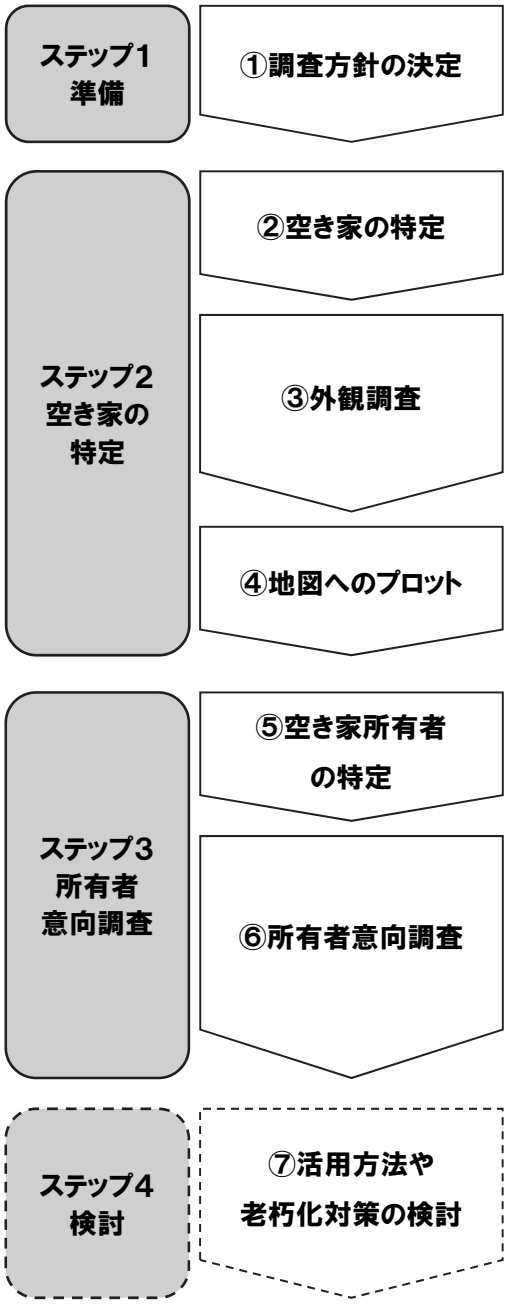
①活用のために必要な改修やリフォーム等は NPO が出資して実施する。
②NPO は、リフォームに要した費用を回収するまで、対象の空き家を自由に活用することができる。
③上記期間中、所有者には月額の家賃を支払う（月１万円）。
④費用回収後は、所有者が希望すれば、対象の空き家を返却する。



3. 調査記録

（1）調査の実施手順

調査は下記のとおり４ステップで実施した。なお、本調査においては間取り調査について所有者の承諾が得られなかったことから実施していない。



【調査の準備段階】
・本調査において、どのような物件を空き家とするかなどを決定する。

【調査の実施段階】
・区長へのヒアリングや現地調査等から、空き家を抽出する。

・特定された空き家について、状況を把握するために外観による調査を行う。
・周辺住民がいた住宅は、使用状況についてヒアリングを実施する。

・空き家の位置を、ゼンリン地図にプロットする。

・区長等へのヒアリングから、空き家の所有者を特定する。

・特定された空き家の所有者に対して、使用実態や今後の利活用意向を把握するためアンケートやヒアリングを行う。
・調査票については、久高島の活性化のために利活用へ同意を促すような内容とする。

【検討段階】
・所有者の承諾を得た空き家に対して間取り調査を行い、活用方法などについて検討を行う。
・間取り調査の結果、使用不可の空き家に対しては、管理手法や老朽化対策について検討を行う。

（２）各種調査の手順

空き家をリストアップした後、所有者意向調査、外観調査を実施した。なお、空き家調査を実施するにあたっては、今後区が調査を進める際に活用したり参考にしたりできるよう、調査シートを作成して実施した。

①所有者意向調査

所有者意向調査については、空き家の所有者が帰島する可能性が高い旧正月の日程にあわせて実施した。空き家を訪問し、戻ってきた所有者等へ直接ヒアリングを行ったほか、所有者等が戻らなかった空き家については、調査票と返信用封筒を投函することでコンタクトを図った。

②外観調査

リスト化した空き家について、外観から伺える使用状況の有無や、家屋の状態を確認するために外観調査を実施した。また、あわせて近隣住民へのヒアリングも行った。

表　調査手順

ステップ		内容	資料等
1	訪問	・空き家候補の物件を訪問し、所有者・管理者が帰省しているかを確認する。 →いなければ2へ／いれば5へ ・旧正月に投函してきた返信用書類が置かれたままか、回収されているかを確認して、空き家リストに記載する。	空き家リスト
2	外観調査	・外観調査個票に従ってチェック項目を目視で確認する。 ●低利用住宅である可能性（郵便物・メーターの確認） ●対象住宅の状況・老朽化（階数/外壁/屋根/開口部/庭・駐車スペース/屋敷囲い/管理状況など）	外観調査個票
3	写真撮影	・外観調査個票で要求されている家屋及び敷地の写真を撮影する。	〃 カメラ
4	近隣住民への聞き取り	・対象住宅の両隣及び道向いの住民に対し、対象住宅の管理状況や影響、活用した際の影響等についてヒアリングする。	外観調査個票
5	事業・趣旨説明、連絡先の確認	・南城市観光商工課の事業で空き家（使用頻度の低い住宅）について調査していること、久高島が「久高島総合計画」を策定して活性化に向けて取り組んでいることなどを説明する。 ・所有者の氏名・住所・連絡先を確認する。	調査趣旨 空き家個票
6	使用状況の確認、意向調査	・現在の使用状況（どの程度戻ってきているのか、日常の管理はどうしているのか）について確認する。 ・今後の意向について確認する。	空き家個票
7	返信用書類の投函	・忙しい等の理由で対応してもらえなかった場合は、所有者氏名・住所・連絡先を確認するためのシートを渡し、返信用封筒での返信を依頼する。	調査趣旨 返信記入用 返信用封筒

③間取り調査

所有者意向調査の際に、活用等について興味を示した所有者へ間取り調査について打診したが、所有者の同意が得られなかったことから、間取り調査は実施していない。

想定していた手順及び調査シートについて示す。

表　調査手順(想定)

<table>
<tr><th colspan="2">ステップ</th><th colspan="2">内容</th><th>資料等</th></tr>
<tr><td>1</td><td>調査申込</td><td colspan="2">・所有者意向調査で活用に興味を示した2名に調査申込を行う。
・所有者の許可を得られた住宅の内観調査の日程調整を行う。内観調査日は所有者へのヒアリングも行いたいことも説明する。</td><td>空き家リスト</td></tr>
<tr><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">内観調査</td><td colspan="2">・実際に訪問して目視等で確認する。
・一名(A)は建物内の調査を行い、もう一名(B)は所有者へ建物についてのヒアリングを行う。</td><td rowspan="3">外観調査個票
カメラ、メジャー</td></tr>
<tr><td>(A)建物内の調査</td><td>(B)所有者のヒアリング</td></tr>
<tr><td>・対象となる住宅の間取り・部材の状況、敷地の広さなどを確認する。
・室内設備(キッチン、トイレ、お風呂)の使用状態を確認する。
・確認する際に、その状況や建物内の写真を撮影する。</td><td>・所有者へ建物及び今後の活用意向についてヒアリングを行う。
・ヒアリングの内容
建物の年数、電気・ガス・下水道などの状態、雨漏りなど不備の確認、活用する場合の条件や希望</td></tr>
</table>

調査許可の調整を行った際にヒアリングした課題等について下記に整理する。

- 雨漏りや、水道についてはお金をかければ自分たちで整備できるが、シロアリの被害や、屋根の破損部分などから野良猫が侵入したり、水道を閉め忘れたりなどの状況があり、このようなときに島内に管理者がいてくれればと思う。そういう観点から、活用については興味がある。
- 兄弟とも貸し出すなどの活用について相談したが、家屋の損傷がひどく修繕費用の負担が大きいため、現在は何もできない状況だ。修繕費用を援助してくれるなどの話があれば聞きたい。

久高島低利用住宅　調査個票

No.	

空き家住所		空き家屋号	

【所有者情報】

所有者①

氏名		生年月日	
連絡先			
住所			
備考			

所有者②

氏名		生年月日	
連絡先			
住所			
備考			

【管理者情報】

管理者①

氏名		生年月日	
連絡先			
住所			
備考			

管理者②

氏名		生年月日	
連絡先			
住所			
備考			

【使用状況等】

使用状況	☐ まったく使用していない → 年 月 頃から その理由：
	☐ 行事の時期に寝泊まりしている 必ず帰省する行事：
	☐ 別荘のように使用している 使用時期：
	☐ 人に貸している → 年 月 頃から 貸出形態：
	☐ その他
管理状況	☐ 自身で管理している → 頻度：
	☐ 近隣の親戚などに管理をお願いしている
	☐ 管理していない
	☐ その他

【今後の意向】

今後の予定	☐ 将来自ら住む予定である → 年後
	☐ 貸したい
	☐ 取り壊す予定である
	☐ 未定 その理由：
	☐ その他

【活用可能性】

久高島の活性化に役立つとしたときの活用可能性	☐ 自らが住むまでの間なら、貸してもよいと思う 備考：
	☐ 行事のときに位牌を拝むことができれば、貸してもよいと思う 備考：
	☐ 改修や下水道整備等をしてくれるのであれば、貸してもよいと思う 備考：
	☐ 条件付きなら、貸してもよいと思う 備考：
	☐ 貸すつもりはない 備考：
	☐ その他

【備考】

外観調査シェックシート

No.	0

【外観調査用シート】

空き家住所			0
屋号	0	調査日	

【低利用住宅の可能性】

郵便物の状況	☐ 溜まっている	☐ 溜まっていない	☐ その他（　　）	
メーターの状況	☐ 電気のみ稼働	☐ ガスのみ稼働	☐ どちらも可動せず	☐ 確認できず

【建物の状況】

階数	階			
屋根	☐ 赤瓦	☐ セメント瓦	☐ コンクリート	☐ その他 その他内容：
外壁	☐ 木造	☐ 非木造		
正面開口部	☐ 木製ガラス戸	☐ アルミサッシ	☐ 雨戸	☐ その他 その他内容：
老朽度（屋根）	☐ 問題なし	☐ 一部破損	☐ 全体的に破損	
老朽度（外壁）	☐ 問題なし	☐ 一部破損	☐ 全体的に破損	
老朽度（開口部）	☐ 問題なし	☐ 一部破損	☐ 全体的に破損	☐ 防犯に問題あり
使用可能性	☐ 使用可能	☐ 修繕の必要あり	☐ 老朽化が進み危険	
備考				

【敷地の状況】

庭	☐ あり	☐ なし		
駐車スペース	☐ あり	☐ なし		
屋敷囲い	☐ 石垣	☐ 生け垣	☐ ブロック塀	☐ その他（　　）
フクギ	☐ あり	☐ なし		
その他の建造物				
管理状況	☐ 問題なし（手入れされている） ☐ 雑草が伸びている、庭木が荒れている ☐ ごみ等で衛生面に問題あり ☐ 屋敷囲いが破損または未手入れ ☐ その他　　その他内容：			
備考				

【その他】

近隣住民の意向	（近隣住民が対象家屋の活用についてどう考えているか等）
備考	

対象住宅全景	庭
家屋正面	家屋背面
右側面	左側面
その他の建造物	メモ（敷地等）

内観調査シェックシート

No.	23

空き家住所			0
所有者名		調査日	2018

建物概要

建物概要・ 建築的所見	（建物の特徴や、調査して気づいたこと）

【所有者ヒアリング】

構造形式		敷地面積	約　　m2
建物年数	年　　備考：		
使用されている部材	状況：		
使用できる設備	☐ 電気　☐ ガス　☐ 下水道		
建築主	氏名：	生年月日：	
	備考：		
改修・増築履歴	☐ 有　☐ 無　備考：　　年ごろ		
建物状態	☐ 問題なし　☐ 一部破損・ひび割れ　☐ 修繕の必要あり　☐ わからない		
	備考：過去に被害などはなかったか？		
位碑	☐ 有　☐ 無		
備考			

【建物の状態】

玄関・廊下	☐ 問題なし	☐ 一部破損・がたつき	☐ 全体的に破損	☐ わからない
台所	☐ 問題なし	☐ 一部破損・水漏れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
押入・収納	☐ 問題なし	☐ 一部破損・劣化	☐ 全体的に破損	☐ わからない
トイレ	☐ 問題なし	☐ 一部破損・水漏れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
浴室	☐ 問題なし	☐ 一部破損・水漏れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
部屋（　　）	☐ 問題なし	☐ 一部破損・ひび割れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
部屋（　　）	☐ 問題なし	☐ 一部破損・ひび割れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
部屋（　　）	☐ 問題なし	☐ 一部破損・ひび割れ	☐ 全体的に破損	☐ わからない
天井	☐ 問題なし	☐ 一部破損・雨漏り	☐ 全体的に破損	☐ わからない
照明・コンセント	☐ 問題なし・使用可能	☐ 一部問題あり	☐ 使用不可	
気になった点				
備考				

【その他】

空き家になった経緯	
今後の活用に 対する意向	

居間	台所
気になる箇所（他にない設備、破損している箇所など）	
間取り記入	

【間取り（内観）調査用シート】

【調査リスト】

No.	意向調査																					
	使用状況				管理状況				今後の予定						活用可能性							無回答
	まったく使用されていない	行事の時期に寝泊まりしている	別荘のように使用している	人に貸している	自身で管理している	近隣の親戚などに管理をお願いしている	管理していない	その他	将来自ら住む予定である	貸したい	取り壊す予定である	未定	その他	回答なし	自らが住むまでの間なら、貸してもよい	位牌を拝めれば、貸してもよい	改修等をしてくれれば、貸してもよい	条件付きなら、貸してもよいと思う	貸すつもりはない	その他	回答なし	
1	●						●							●					●			
2																						●
3																						●
4																						●
5	●						●							●							●	
6																						●
7		●						●				●								●		
8																						●
9																						●
10																						●
11																						●
12																						●
13	●							●						●							●	
14		●	●		●							●							●			
15																						●
16																						●
17		●		●	●							●									●	
18																						●
19	●							●						●							●	
20				●	●								●			●						
21																						●
22				●	●								●							●		
の件	4	3	1	3	4	0	2	3	0	0	0	3	2	4	0	1	0	0	2	2	4	13

No.	外観調査																																		
	屋根				外壁		正面開口部				老朽度（屋根）			老朽度（外壁）			老朽度（開口部）			使用可能性			庭	駐車スペース	屋敷囲い				フクギ	その他建造物	管理事状況				
	赤瓦	セメント瓦	コンクリート	その他	木造	非木造	木製ガラス戸	アルミサッシ	雨戸	その他	問題なし	一部破損	全体的に破損	問題なし	一部破損	全体的に破損	問題なし	一部破損	全体的に破損	使用可能	修繕の必要あり	老朽化が進み危険	あり●・なし△	あり●・なし△	石垣	生け垣	ブロック塀	その他（フェンス）	あり●・なし△	あり●・なし△	問題なし（手入れされている）	雑草が伸びている、庭木が荒れている	ごみ等で衛生面に問題あり	屋敷囲いが破損または未手入れ	その他
1			●			●		●					●		●		●				●		△	△			●		●	●	●				
2		●				●			●		●				●		●				●		●	△	●		●		●	●		●			
3		●			●	●			●		●				●		●			●			●	△	●		●		●	●		●			●
4		●			●				●		●			●			●			●			●	●			●		●	●	●				
5		●			●				●			●				●		●				●	●	△	●				●	●		●			
6			●			●			●		●			●			●			●			●	●			●	●	△	△		●			●
7		●		●	●	●		●			●					●	●				●		●	△			●		△	●	●		●		
8		●				●		●	●		●			●			●			●			●	●	●				●	●					●
9		●				●			●		●			●			●			●			●	●		●	●		●	●					●
10		●			●	●		●			●			●			●			●			●	●	●		●		●	●	●				
11			●			●		●				●			●		●				●		●	△	●		●		△	●	●				
12	※																																		
13			●			●		●				●			●		●				●		●	●	●				△	●	●				
14			●			●		●				●			●		●				●		●	△	●		●		●	●	●				●
15	●		●			●		●			●			●			●			●			●	●	●				●	●	●				
16		●			●				●				●			●			●			●	●	△	●				△	●		●		●	
17		●			●			●			●			●			●			●			●	●		●	●		●	●	●				●
18				●		●			●			●			●			●			●		●	●	●		●		●	●		●			
19			●			●		●			●			●			●			●			●	△			●		△	●	●				
20			●			●		●			●			●			●			●			△	△			●		△	●	●				
21			●			●		●			●			●			●			●			●	●			●		●	●	●				
22		●			●			●			●				●		●			●			●	●	●		●		●	●	●				
の件	1	11	9	2	8	16	0	13	9	0	14	5	2	10	8	3	18	2	1	12	7	2	19	11	12	2	16	1	14	20	13	6	1	1	6

※調査期間中に改修工事が行われたため、外観調査は未実施

4. 地域円卓会議の記録

本事業の成果を地域に報告し、かつ久高島の課題についての議論を深めるために、「久高島へのUターンを考える　地域円卓会議」を実施した。

会議の前半では、久高島観光基礎調査報告会として、調査から見えてきた久高島観光の動態や空き家調査の結果、先進地事例調査の結果などについて報告した。その後に行われた会議後半では、久高島青年団の団長を論点提供者として、若者のUターンを促すという切り口から空き家対策や住居対策について意見交換を行った。

円卓会議で出された主な意見として、空き家活用にあたって相談や仲介を行う組織が必要であることや、空き家所有者との調整には時間がかかるため公営アパート等の別の住まいの確保が必要ではないかという意見、若者が定住するには仕事があることに加えて保育や医療などの子育て環境の整備も必要であり、これらが確保できればUターンを希望する若者もいる等の意見があった。

表　開催概要

日時	2018 年6月3日（日） 13:00~16:30
場所	久高島離島振興総合センター
主催	南城市、久高区
協力	公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

「沖縄式地域円卓会議」とは

沖縄式地域円卓会議とは、公益財団法人みらいファンド沖縄が主催する新たな対話の方法である。地域社会の課題解決にむけた対話の場として、テーマに関心を持つ人々がオープンに参加できる場として注目されている。地域の現状から事実にむき合い、参加者で共有することに主眼をおく。

【報告】久高島へのＵターンを考える 地域円卓会議

■日　　時：2018 年 6 月 3 日（日）13:00-16:30
■場　　所：久高島離島振興総合センター
■着席者数：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：18 名（地域住民・行政・企業）
■主　　催：南城市、久高区
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄
　　NPO 法人まちなか研究所わくわく
■お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供　**西銘 幸太 氏**（久高島青年団 団長）

久高島への若者のＵターンを促すための住居施策について考える ～空き家対策を中心に～

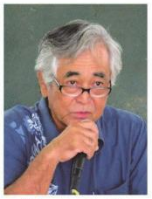
久高島は、南城市知念の安座真港から高速船で 15 分程の海洋上に位置し、神の島と呼ばれる通り琉球王朝成立以前から重要な祭祀行事が行われてきました。また、独特な土地制度でも知られており、島の全ての土地は神から与えられた共有のものであるという定義のもと、土地憲章が掲げられ区から借り受ける制度となっています。

近年は観光客が増加し、資源管理と産業振興の両輪をもって島の発展を推し進めていく新たな文脈が生まれてきておりますが、その担い手である島出身の若者の大半は沖縄本島に居住し、島に戻って来たくても戻れない状況になっております。その理由の１つが住居の確保であり、ここではその解決策の１つとして考えられる空き家の活用を主軸に据えながら若者のＵターン促進について議論しきたいと考えています。

センターメンバー

西銘 幸太
久高島青年団
団長

西銘 忠
久高区
区長


並里 和博
土地管理委員会
委員長

仲間 俊郎
人材育成・地域
活性化コンサル
タント オフィス
仲間 代表

赤嶺 政信
琉球大学
人文社会学部
教授

西銘 政秀
南城市ガイド
アマミキヨ浪漫
の会 顧問

山城 興朝
沖縄タイムス
読者局
局長

➢ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 久高島（以下：久高）の基礎情報
  - ✓ 住民基本台帳の記載人数 247 人（2018 年 1 月）
  - ✓ 実際に住んでいる人は 170 人程度（2018 年 3 月）
  - ✓ 高齢化率 45%
  - ✓ 人が住んでいる家は 115 件、空き家が 22 件、合計 137 件の家がある
  - ✓ 人が住める条件の空き家 22 件の内、トートーメーがあり位牌が設置されている家が 5 件ある。その 5 件は今後も利用されるため、他の人が利用できない
  - ✓ また他に、借家が 26 件ある
  - ✓ 年に数回だけ使う家も含めると空き家は 47 件となる
  - ✓ 人口のピーク時は 500 名を超えていた
  - ✓ 島に住んでいる久高出身の 30 代は 3〜4 名、それに加えて奥さんがいる
  - ✓ 以前は、毎月行事があったが、担い手不足のために、行事は減ってきている
- ✓ 12 年に 1 度行う祭祀イザイホーは 1978 年に開かれたのを最後に、その後、行われていない
- 島での仕事は、主に、NPO 法人久高島振興会やマリンショップ、もずく漁等がある
- 久高出身の若者は、南風原町や那覇市に住んでいる人が多い。そこから南城市に車通勤後、船通勤をして、もずく漁などを行う人もいる
- 島の土地は皆の土地で、土地管理委員会が管理している
- 土地の所有権は認められていないが、土地の利用権は子どもに譲ることができる
- 家を借りたい人は、家主を見つけ、個別交渉をしなくてはいけない
- 3〜4 年前に借家を探したが、仏壇があったり、リフォームしないと住めなかったりなどで、家を借りることができなかった
- 現在の空き家 22 件は、電気、ガス、水道が使えるため、少し手を加えれば、住むことができる
- 島内にある築 50 年の実家には、ネズミ、ムカデが出る。古すぎるため修復は難しいと言われた
- 久高島留学センターがあることで、久高小中学校が維持されている
- 過疎化対策のために、久高島総合計画検討委員会が 2015 年に立ち上がった。その中で、産業や働き手、住居、福祉施設について、久高の人たちで話し合った
- アマミキヨ浪漫の会のガイドは 80 名程度。ビジネス目線も持ちながら、南城市の文化の保存、継承を行う
- 久高島には、年間に 57,000 名の観光客が来る。4〜5 名のガイドで、月に 400〜500 名を案内している
- ガイド料金は、人数に関係なく 1 時間 3,500 円、2 時間で 4,500 円、3 時間で 5,500 円
- 島にはアパートを建てられる土地はある、土地を提供することは問題ではない。島の人は、市営住宅を望んでいる
- 島に市営住宅は現在、4 世帯ある
- 島に帰って来たい若者はいるが、住む家が無く、また、保育所が無いなど、子育て環境が整っていないため、帰ってくることができない
- 働く場所があっても、学童保育や幼稚園など、子どもを預ける場所がないため、なかなか働くことができない
- 1979 年当時も、島には 20〜30 代の人は数えられる程度しかいなかった
- 久高島には、絶家等をしたときに、ヒヌカンなどを家の東側で奉るヤシキグーン（屋敷御恩）という文化がある。前居住者に敬意を示し、空き家を有効活用する知恵
- 南城市では、ムラヤー（公民館）を活性化し、地域力を高める（地域のことは地域で行う）事業を行っている

評価の提供

- 行事（追い込み漁等）では、60 代が中心に活動している。そのため、10〜20 年後には行事ができなくなると心配している
- 地域を盛り上げたいと思う若者がいるが、人数が少ないために、想いを形にするのが難しい状況。しかし、ポテンシャルは高いと考えている
- 地域を自分たちで何とかしようとする意識が高い
- 石の切り方に手が込んでいて、石垣の景観がすばらしい
- 久高島は暮らしやすい場所である
- 以前は、久高の一部の人だけが市役所とやり取りしていたが、現在は、要望書等を自分たちで書くなど、行政との関係性がつくられてきている
- 位牌などがあり、所有者が正月や盆に返ってくるため、空き家の活用は基本的に難しい
- 久高島は、ガイドをすることで、観光客の満足度が高まる場所である
- 久高の人たちが、本日の円卓会議のような話し合いに、より参加してくれるとよい

視点の提供

- 現在の土地管理委員会では空き家と借りたい人の仲介をする機能はないが、相談窓口や仲介機能が必要だと思う
- 給料を支払い、役割を担う人を確保して、帰省希望者の窓口をつくることが重要
- NPO 法人久高島振興会が仲介業務を担ってはどうか
- 家主との交渉には時間がかかるため、まずは公営アパートをつくり、住める状態をつくってから交渉を続けてはどうか
- 総有地制度とは、久高の総意の下で、島人たちが使わなくなった土地を回収して、再度使えるようにすることである。それが出来ない例外があるので、それを早急に明確にすべき
- 危機意識を持って、今の若者にお金を投資して、戻ってくることができる状況をつくるべき
- 島の土地は総有（皆の土地）であると、島民の皆で改めて確認をする必要がある。屋敷御恩などの先人の知恵を活用しなければ、土地が荒れ放題になってしまう
- 土地に関して、権利の無い人と一緒に決めることはおかしいため、はっきりと区分したい
- 土地憲章も守られているところと、守られていないところがある。それは、記載されている文言の解釈の違いである。文言の理解を統一して、島で決めたことは、しっかり守るべき
- 家は、住めなくなる前に手を入れないと朽ちてしまう
- 若者は、家と保育所、医療が整えば島に戻ってくると思う
- 伝統だから残さないといけないわけではなく、まずは人の生活があっての祭事であると思う
- 島に住む人がゆったりと過ごせることが大切で、沢山の観光客はいらない
- 島に来た観光客は場所が分からずに、自転車で右往左往している。早急にガイドを養成していきたい
- 市営住宅は、子育て世代が住み、子育てが終わったら出て行き、また、他の人が入るような状況になって欲しい。そうしないと、また建てなければいけない状況になる
- 市営住宅の人に一軒家の紹介や、一軒家に住んだら、その家に一生住める権利が発生するなどの仕組みがあれば、出入りが多くなるのでは
- 個人任せにするのではなく、島を経営するような仕組み、組織が必要。今年に設立した島建て協議会が、その役割を担うべきだと思う
- 塩やウニ、ヤギなどを観光業と絡めて産業にするとよいのでは
- 野菜工場ができる計画や、ウニ、ヤギ、観光の事業を行いたい人がいる。そのため、島建て協議会をしっかり運営して、産業を一つ一つ立ち上げていけば、5～7 年後には、50 名程度の雇用は可能だと思う。そして、若い世代が住むようになれば、教育、福祉の環境も相乗効果で上手くいくはず

事例の提供

- 名護市の事業として、地域にビジネスをつくり定住者を増やす目的で、古民家を活用し、宿泊体験施設やカフェを開始した
- 伊平屋村では、一括交付金を活用して、村が空き家を買い取り、修復して、村外から子どものいる人を優先して公募し、3 件が活用されている

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 持続可能な島のあり方を、島建て協議会で決定し、南城市はそれに対して、寄り添った支援計画を
- 事業計画の特に重要な目標設定は、観光業を含む産業構造とインフラ、それを勘案した人口プラン
- 22 件の空き家は、住居利用のみに拘らず、計画を成功させるための資源として効率的に活用させる

■参加者によるサブセッション

「久高島への若者のＵターンを促すための住居施策について考える
～空き家対策を中心に～」（原文のまま）

① ニーズが明確でない・・・
→実際は何名のＵターン希望者がいる？
→3 名は確実。リノベか新築か。
2～3 万／月
実家と近くで住む活

② ・小学校 19 名。島の人は 10 人いない。先生の子どもなど
・市営住宅が切り札
・空き家の活用が進まないのは、本島と近く、行き来が簡単なこと。（別荘的住い方）
・島の空き家を借りるには、島の事情をしっかり伝えるしかない
・住居の利用権は相続されても、畑はもどしてもらわなければ、土地利用がまわっていかない。
・NPO は法人なので、島以外の人もいる。こういうところで交流することは重要。

③ 100 坪以内
大工 3 人（内 1 人）
・振興会が仲介
・働く人を外から呼ぶ。→移住コーディネーター（地域おこし協力隊）
・島内の大工がリフォーム。

④ 公営住宅の現状（3LDK×4 世帯）
目的：子育て世代のために、、、
現状：子育て終了世代が多い
普通のアパートでもいい
市ではなく区で建ててはどうか？
ト―トーメーの集合住宅を作る
住宅のあっせん業務を区で実施→つきしろの区画整理してはどうか？

⑤ 空き家対策
・総有地制度の適切な理解⇒抜本的見直し（時代に合わせた）
→久高区規約・土地憲章の文言があいまい⇒解釈を揃える［作業着手中］→順調でしょう！
島人会、区民総会、別々に役割。
予算・自治会、及び、NPO（振興会）ミッション

⑥ 赤嶺チーム
≪若者の働く場の提供≫
・インターネット環境を整える
・IT 関連会社のオフィスをおき、雇用は地元の人と条件を付ける
≪空き家対策≫
・仮住居（市営等）を置き、古民家が整い次第、移ってもらう方法
・イノベーションがうまくいくと利用者が多くなる（事例：壱岐市）

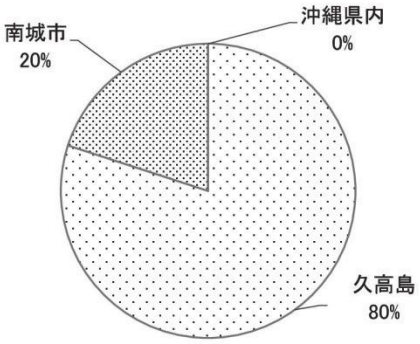
⑦ 空き家対策など、
・数をみておどろいた。
協議会などで管理しては？
↳改修して（土地も大変だから）
古民家の修復費が気になる
観光
・観光がうまくいけば、雇用につながると思うが嫌がる人がいる

久高島へのＵターンを考える地域円卓会議
参加者アンケート集計

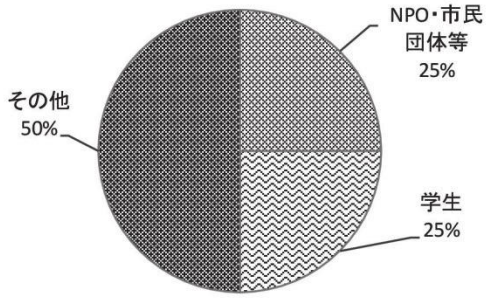
◆概要

・日時：2018 年 6 月 3 日（日） 13:00-16:30
・場所：久高島離島振興総合センター
・着席者：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
・参加者：18 名（アンケート回収 5 名、回収率 28%）

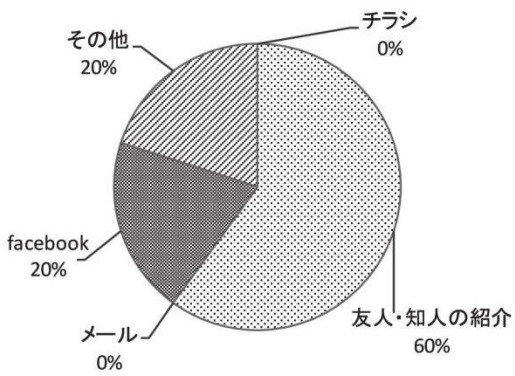
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：**4.5**（5 点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足してない	1.不満足
2 名	2 名	1 名	0 名	0 名

５．満足度の理由

（5．満足）
・ 久高島は、円卓会議をやったことがなかった。また、島の人が会議の重要性を知ったと思う。
・ 今まで住宅の件や、子育て（保育所）の件、とても気になってたので、今日、少しの間しか参加できなかったですが、色々話が聞けてよかったです。

（4．概ね満足）
・ もう少し島の人がいて欲しい。
・ 観光、空き家の現状が理解できた。

（3．普通）
・ 生活してみて、感じてたことを話していた。

６．観光基礎調査結果報告会で印象に残ったこと

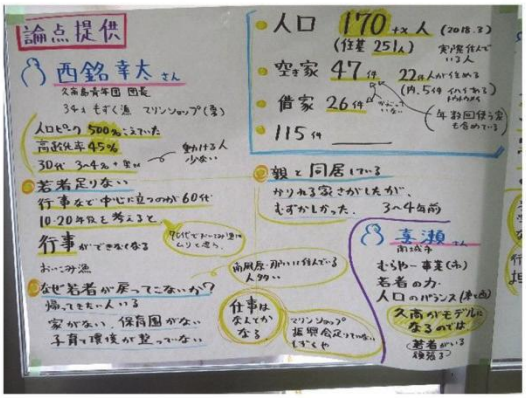
・ 古民家、改修
・ 区民が少ない
・ 調査結果と実態が違うという意見もあり、調査の難しさを感じた

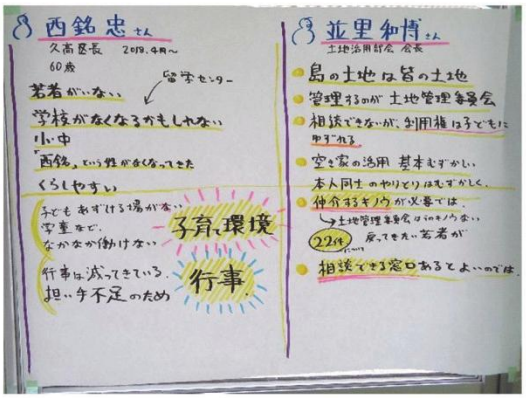
６．円卓会議で印象に残ったこと

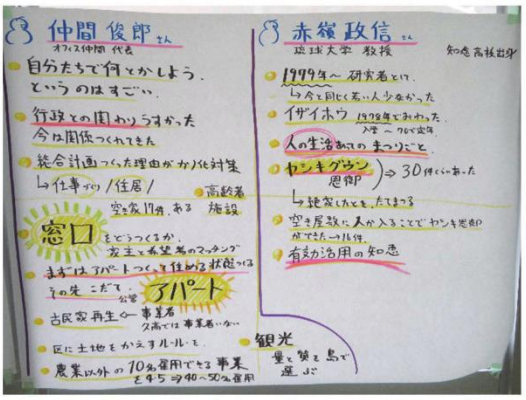
・ 島の代表が、久高の思い（神行事）を強く思っている

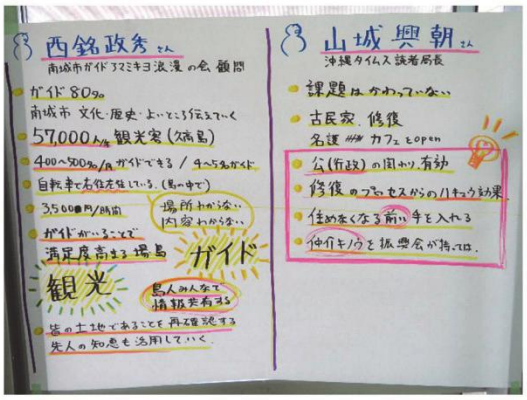
（写真）会場の様子

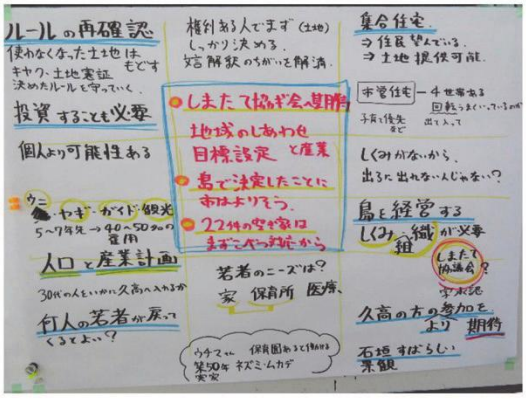
久高島観光基礎調査結果報告会
久高島へのUターンを考える
地域円卓会議
2018.6.3
13:00-16:30
久高島への若者のUターンを促すための住居施策について考える空き家対策を中心に
主催 南城市・久高区
調査報告
②観光実態調査
③住民意向調査
④古民家空き家調査
⑤他地域先進事例調査
若者の定住促進が課題。でも島内に住む場所は？
島内の空き家
47件
全戸数の約
1/3
有効活用することで島の活性化の可能性
観光客
はじめての来訪 8割
日帰り 8割
人口 251人 198世帯
人口減少
人口統計
南城市
久高島

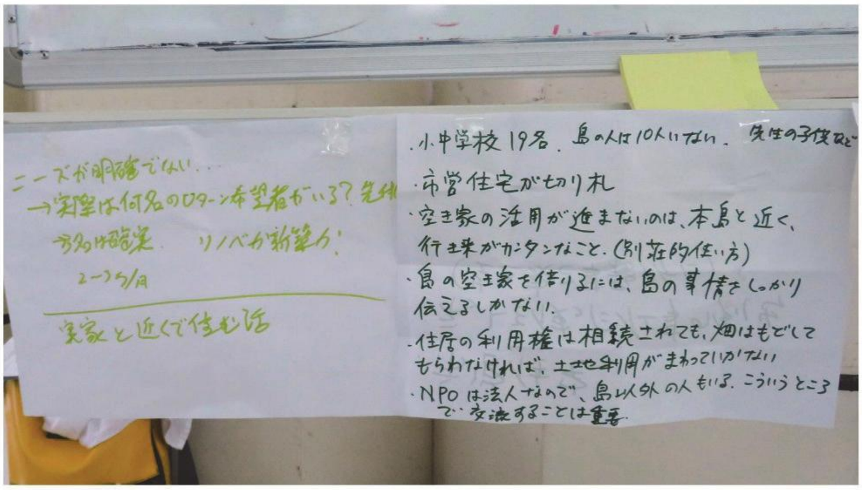
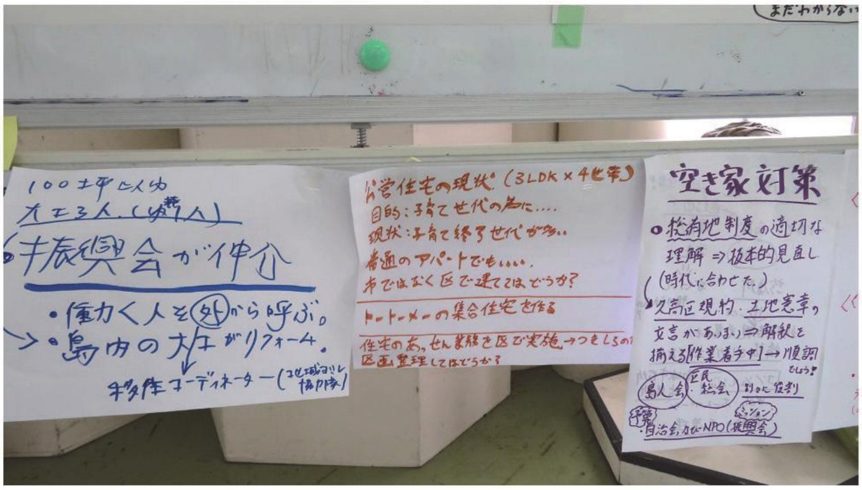
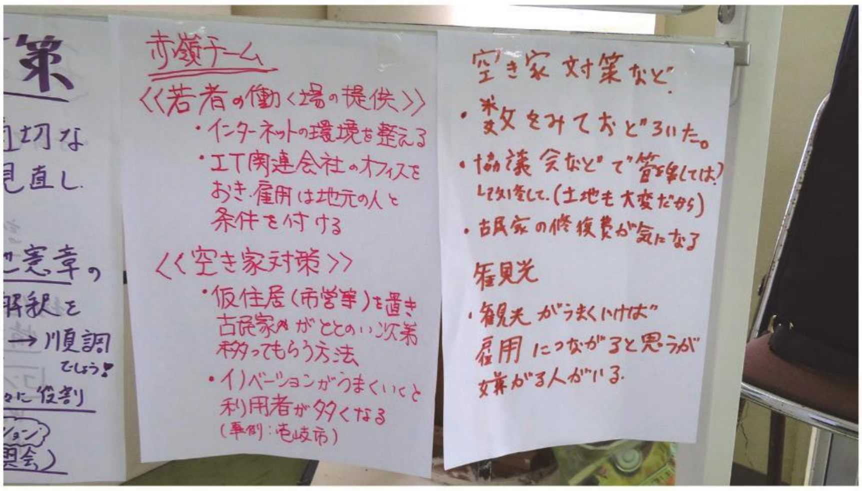

論点提供
西銘幸太さん
久高島青年団 団長
人口 170+α人 (2018.3)
(住基 251人)
実際住んでいる人
空家 47件
22件人が住める
(内、5件くらいあれば)
借家 26件
(年数回使う家も含めている)
115件
若者足りない
行事などで中心に立つのが60代
10-20年後を考えると
行事ができなくなる
若者が戻ってこないか？
帰ってきたい人いる
家がない、保育園がない
子育て環境が整ってない
仕事はなくてよくなる
親と同居している
かりれる家さがしたが、むずかしかった。3〜4年前
喜瀬さん
むらやー事業(株)
若者の力
人口のバランス(津波)
久高がモデルになるのでは
若者がいる線引き


西銘忠さん
久高区長
2018.4月〜
60歳
若者がいない
学校がなくなるかもしれない
小・中
"西銘"という姓がなくなってきた
くらしやすい
子育て環境
行事
行事は減ってきている
担い手不足のため
並里和博さん
土地活用部会 会長
島の土地は皆の土地
管理するのが土地管理委員会
相続でなかが、利用権はうごいてもめごとになる
空き家の活用 基本むずかしい
本人同士のやりとりはむずかしく、
仲介業者のやりとりはむずかしく、
仲介業者ノウハウが必要では、
22件
戻ってきた若者が
相談できる窓口あるとよいのでは


仲間俊郎さん
オフィス仲間 代表
自分たちで何とかしよう、というのはすごい。
行政との関わりうすかった
今は関係つくれてきた
統合計画つくった理由がカノ化対策
↳仕事づくり/住居/
高齢者施設
空き家17件、ある
窓口をどうつくるか、
友主×希望者のマッチング
まずはアパートつくって住める状態では
その先こだて
アパート
古民家再生→事業者
久高では事業者いない
区に土地をかえすルールで
農業以外の10名雇用できる事業
を4-5→40〜50名雇用
赤嶺政信さん
琉球大学 教授
知念高校出身
1999年〜研究者として
↳今と同じく若い人少なかった
イザイホウ 1978年でおわった
人の生活あっての祭りごと
ヤシキグヮン
屋敷
⇒30件くらいあった
↳建物はたてまえ
空き屋数に人が入ることでヤシキ屋敷
が建てたい件
有効活用の知恵
観光
量も質も島で違う


西銘政秀さん
南城市ガイドスミキヨ浪漫の会 顧問
ガイド80名
南城市 文化・歴史・よいところ伝えていく
57,000人/年 観光客(久高島)
400へ500名/日 ガイドできる / 4〜5名ガイド
自転車で右往左往している。(島の中で)
3,500円/時間
ガイドがいることで
満足度高まる場所
観光
場所わからない
内容わからない
ガイド
島人みんなで情報共有する
皆の土地であることで再確認する
先人の知恵も活用していく
山城興朝さん
沖縄タイムス読者局長
課題はかわっていない
古民家、修復
名護 カフェ10件
公(行政)の関わり有効
修復のプロセスからのハネウ効果
住めなくなる前に手を入れる
仲介ギョウを振興会が持っては


ルールの再確認
使わなくなった土地はキヤク、土地実証もどす
決めたルールを守っていく。
投資することも必要
個人より可能性ある
ウニ
ヤギ
ガイド
観光
5〜7年先→40〜50名の雇用
人口と産業計画
30代の人をいかに久高へ入れるか
何人の若者が戻ってくるとよい？
権利ある人で話す(土地)
しっかり決める。
姑解釈のちがいと解消。
しまたて協が会場調整
地域のしあわせ目標設定と産業
島で決定したことに市はよりそう。
22件の空き家はまずこれから
若者のニーズは？
家 保育所 医療
集合住宅
⇒住民望んでいる。
⇒土地提供可能。
未管住宅
4世帯ある
回転うまくいってない
子育て後先
出て入って
しくみがないから、
出るに出れないんじゃない？
島を経営する
しくみ組織が必要
しまたて協議会？
字単位
久高の方の参加をより期待
石垣すばらしい
景観


ニーズが明確でない…
→実際は何名のUターン希望者がいる？
リノベか新築か
2~3万/月
実家と近くで住む方法
・小中学校19名。島の人は10人いない。先生の子供など
・市営住宅が切り札
・空き家の活用が進まないのは、本島と近く、行き来がカンタンなこと。(別荘的使い方)
・島の空き家を借りるには、島の事情をしっかり伝えるしかない。
・住居の利用権は相続されても、畑はもどしてもらわなければ、土地利用がまわっていかない
・NPOは法人なので、島以外の人もいる。こういうところで交流することは重要。
まだわからない

100坪以上
振興会が仲介
・働く人を外から呼ぶ。
・島内の大工がリフォーム。
移住コーディネーター
公営住宅の現状 (3LDK × 4世帯)
目的：子育て世代の為に….
現状：子育て終了世代が多い
普通のアパートでもいい。
市ではなく区で建ててはどうか？
の集合住宅を作る
住宅のあっせん業務を区で実施
区画整理してはどうか？
空き家対策
・共有地制度の適切な理解 ⇒ 抜本的見直し
(時代に合わせた)
文言があいまい ⇒ 解釈を揃える[作業着手中] → 順調でしょう！
島人会
ミッション
自治会及びNPO(振興会)

策
適切な
見直し
憲章の
解釈を
→ 順調
でしょう！
に役割
ション
興会)
赤嶺チーム
《若者の働く場の提供》
・インターネットの環境を整える
・IT関連会社のオフィスをおき、雇用は地元の人と条件を付ける
《空き家対策》
・仮住居(市営等)を置き古民家がととのい次第移ってもらう方法
・イノベーションがうまくいくと利用者が多くなる
(事例：壱岐市)
空き家対策など
・数をみておどろいた。
・協議会などで管理しては
(土地も大変だから)
・古民家の修復費が気になる
観光
・観光がうまくいけば雇用につながると思うが嫌がる人がいる。

5. 小括：空き家活用の可能性と提言

（1）空き家活用に関する久高島のルールと課題

所有者意向調査により、貸してもよいと回答した人は、すでに貸出していることや、低利用住宅と特定した家屋の管理者は活用に関心がある人がいることがわかった。空き家活用について、久高島の上位計画等には以下のように位置づけられている。

■『久高島総合計画』での位置づけ

「定住人口の減少による過疎化問題は深刻さを増し、現在では最重要課題といっても過言ではありません」 6頁

「移住・定住者の推進と、これから島の経済を担い、重要な働き手となる若年者とその家族のための住宅確保については、現在目立って増えつつある空き家対策から実質的な現状把握とその活用を、さらに市営又は県営住宅の可能性について議論を深め実現に向けた活動を開始致します」 6頁

■「久高島土地憲章」での位置づけ

「久高島の土地は、固有地などの一部を除いて、従来字久高の総有に属し、字民はこれらの父祖伝来の土地について使用収益の権利を享有して現在に至っている。字はこの慣行を基本的に維持しつつ、良好な自然環境や集落景観の保持と、土地の公正かつ適切な利用、管理との両立を目指すものである」 前文

「字民は従来の屋敷地を利用することができる。字民は世帯主として家屋を築造するときは、土地管理委員会の決定および字会の承認を得て宅地を利用することができる。但し土地使用貸借契約から二年以内に着工しなければ、土地を返還しなければならない。また土地管理委員会は子孫不明または家祭祀の途絶えた屋敷地についてはこれを回収しなければならない」 第二条①宅地

また、旧正月行事の際に帰省した島出身の若者に対してヒアリング調査を実施したところ、空き家活用について次のような意見があった。

■出身者ヒアリングでの意見

若い世代のUターン意思や、Uターン後の住居についてどのような考えを持っているのかを確認したところ、ほとんどの若者はUターン意思があるという結果となった。

Uターン後の住む場所については、学生は「実家がある」や「島の人なら土地をわけてもらえる」と答え、特に問題と思っていない傾向がみられた。一方、社会人になると「妻子がいると実家には住みづらい」「土地は分けてもらえても、家を建てる貯金が必要」などの理由で、住居の確保が難しいと思っていることがわかった。

その他、若い世代が島に戻りにくい原因として、「仕事がない」「島に戻っても同じ世代がいないので退屈・辛い」「島で定住するためには共働きになるが、子どもを預ける場所がない」ことなどが挙げられた。

まとめると、島には人口減少の危機感が強くあり、空き家をこの対策として役立てようと計画策定されている。一方、土地憲章の前文にある「土地の公正かつ適切な利用、管理」に照らすと、空き家のうち少なくとも「活用可能住宅」に関して、現状のように未利用・低利用のままでよいのかという点は再考の余地がある。また、第二条に示される「土地管理委員会は子孫不明または家祭祀の途絶えた屋敷地についてはこれを回収しなければならない」についても、厳格な適用は図られていないようである。需要がなければそれでもいいだろうが、

空き家を活用した人口対策や若者の帰村意向が示される中では、改めてこの憲章の実効性を自治会などで議論すべき段階にきているように考えられる。

これらをふまえ、久高島において空き家の活用がなかなか進まない原因を整理する。

①空き家を貸すことに抵抗がある所有者が多い

久高島に限らず県内全域でいえることだが、空き家には仏壇があるため貸したくないと感じる所有者が多い。また、久高島は現在でも様々な祭祀等の年中行事が行われているが、このような行事の際には親戚が帰省して集まる親戚の紐帯の場となっていることから、活用に消極的な所有者もいる。

②久高島土地憲章など特殊な事情

久高島には「久高島土地憲章」があり、島の人であれば土地を分けてもらうことができる。つまり、土地に関しては購入や固定資産税等の負担がない状況であり、いつか子が戻ってきたときに使えるようにとりあえず維持しておく（権利を手放したくない）という状況が生まれていると思われる。そのため土地憲章の運用も比較的ゆるやかである。

③活用にあたって費用面の負担

久高島における空き家は手入れや定期的に管理されているところが多く、外観調査では活用可能と思われる空き家が見受けられるが、区長等へのヒアリングでは、内部は雨漏りや老朽化による破損が進んでいるという話もあり、活用にあたってリフォームなどの改修工事が必要な空き家が多いとされる。また、下水道が整備されていないところもあると考えられ、そのような改修費用などを負担してまで、活用したいという所有者は少ないと考えられる。

（２）久高島で空き家を活用する意義

久高島においては人口の半数以上が 65 才以上と高齢化も深刻化しており、定住人口の増加が課題となっている。定住人口の増加を考えたときには、久高島のアイデンティティや伝統文化の継承という観点から、何よりも島出身の若者世代のＵターンを促進することが重要と考えられる。

久高島で空き家を活用する意義は、大きく次の３点に整理できる。

①空き家を活用することで移住･定住の推進を図り、人口増加につなげる。
②活用することで管理不全な状態と建物の老朽化を防ぐ。
③久高島の土地は区民の総有のものであり、久高のために活用されることが望ましい。

空き家活用が進み、人口減少に歯止めがかかることで、次のような将来像を描くことができる。

空き家を活用した島の将来像

島出身の若者が島に戻ってきて、島の歴史文化やアイデンティティが継承される。
家族が移住することによって、久高小中学校が維持される。
島の人口が増えることで、区の行事などの担い手が増え、島が活気づく。
島の資源を活かして、島の活性化に寄与できる。

（３）空き家活用案の提案

①雇用創出に向けての活用

前述のとおり、久高島では人口減少及び高齢化が深刻な状況であり、若者の定住促進が課題となっている。円卓会議においても、若者の定住を促すためには、①住居の確保、②Uターンする若者の仕事、③保育所などの子育て環境の整備が必要であることが挙げられた。このうち、①住居の確保についてはもちろん、②についても空き家のビジネス活用を進めることで一助になる可能性がある。

IT 産業などインターネット環境が整備されていれば場所を選ばない企業等を誘致したり、島内で観光に携わりたい事業者等の事務所や事業所として活用してもらうことで、雇用を創出することが期待される。

空き家の活用が消極的な理由に、位牌があることや行事等の際に使用すること、将来的に子どもが使用する可能性があること等がある。このような理由で活用が進まない空き家については、使用状況に融通がきく店舗や事務所として活用することが有効と考えられる。祭事などの所有者が必要とするときには使用できる条件で事務所等として活用することにより、空き家の所有者にとっても、久高島が抱える課題にとっても、どちらにもメリットのある形での活用が可能となる。

活用イメージ①

定年退職後は久高島に住む予定だが、それまでは使わない住居を、所有者が移り住むまでの間、土産品店などの店舗・事務所として希望者に貸してみる。

借り手：島内で仕事ができる／貸し手：賃料が入る

活用イメージ②

島外に自宅はあるが、位牌が島にあるので行事のときに帰ってくる住居を、行事のない期間は、宿泊施設として活用できるよう、島内の団体に貸してみる。

借り手：事業展開ができる／貸し手：未使用時期の手入れをしてもらえる

②コミュニティビジネス促進による活用費用の工面

空き家を活用するにあたっての課題として、改修費用などの資金の問題がある。所有者のなかには、活用してもよいと考えている人がいるものの、貸すためには改修が必要であり資

金が工面できないためそのままにしているという人もいると想定される。

その解決方法として、空き家を活用した雇用創出や定住促進を島ぐるみのミッションと捉え、久高区あるいは区と連携できる組織を主体としてコミュニティビジネスを行い、その収益で空き家等の改修費用を工面することが考えられる。観光業を中心に、島の特産品を活用した商品の開発・販売を行い、島への来訪者や島外在住者をターゲットにコミュニティビジネスを行うことで外貨を獲得し、その収益を空き家の活用に活かすイメージである。

コミュニティビジネスの実施にあたっては、島外の事業者と連携することも考えられる。久高島で収穫された雑穀を商品化した「久高島五穀」を那覇市の会社が販売している事例もあり、このように関係者を巻き込んだコミュニティビジネスの展開も検討していく必要がある。

③活用に向けた体制の構築

島内の空き家の活用については、活用を推進する組織の必要性が指摘されている。久高島の土地管理については区の組織として「土地管理委員会」があるが、区と家屋所有者の権利を明確にするためにも、区のものである土地の管理と、所有者のものである空き家の活用については分けておく必要があると考えられる。

体制については、組織されたばかりの「久高島島建て協議会」が主体となり、すでに空き家活用を実施している NPO 法人久高島振興会や、土地管理委員会などと連携する体制を提案したい。島内の人材の面からも、複数の組織が立ち上がるよりもひとつの組織の機能を強化していくほうが適していると考えるからである。島建て協議会が空き家の調査→家主との交渉→活用希望者とのマッチング等を進め、放置された空き家については土地管理委員会と、活用の部分では NPO や島内外の事業者などと連携・役割分担する体制を整えることで、地域の連携強化にもつながると考えられる。また、「久高島土地憲章」の運用についても区を中心に議論し、制度の厳格化、ヤシキグーン（屋敷御恩）※という民俗文化の発展的継承も含めて方向性を再確認する必要がある。

(※)ヤシキグーン(屋敷御恩)…空き屋敷に別の家筋の者が入居する場合、家屋の外に祠等を設けて、元の居住者の家筋の香炉等を祀ることがある。この家屋の外で祀る形態をヤシキグーンと呼ぶ。

図　運営体制案

§４
他地域先進事例調査

１．他地域先進事例調査の概要　・・・・・・・・・・・・1

２．調査記録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

３．小括：参加者の反応・住民の反応・・・・・・・・・　18

1. 他地域先進事例調査の概要

(1)事例調査の概要

久高島では､｢久高島総合計画｣で位置づけられた課題や取組を実施するための組織として、島建て協議会が発足した。また、今後は観光に関する法人の立ち上げなども検討中であり、今回の事例調査は、協議会の活動や法人設立の検討に寄与することを目的として実施した。そのため、参加者は島建て協議会のメンバーとし、調査地は「神の島」である久高島との類似点を有する高千穂町及び壱岐市とした。

表　参加者等

調査日程	2018 年5月 23 日(火)～2018 年5月 26 日(水)　3泊4日
参加者	島建て協議会:外間長裕(会長)、内間一浩、古堅苗、西銘亜紀、内間翔 事務局:喜瀬、後藤、相澤
調査地	宮崎県高千穂町、長崎県壱岐市

表　事例調査の行程

工程	日付	時間	内容
1日目	5月 23 日 水曜日	11:10 ～ 12:55	那覇空港出発～福岡空港到着
		13:20 ～ 14:20	昼食
		14:20 ～ 17:50	レンタカー移動で高千穂町到着
		18:00 ～ 18:00	夕食等
		20:00 ～ 21:00	高千穂神社の観光神楽視察
		21:30	チェックイン
2日目	5月 24 日 木曜日	09:00 ～ 14:00	(一社)高千穂町観光協会によるガイド、情報交換等
		14:00 ～ 15:20	高千穂町企画観光課及び副町長との意見交換会
		15:40 ～ 16:30	五ケ村公民館長との意見交換会
		18:30 ～ 20:30	五ケ村による神楽実演、交流会
3日目	5月 25 日 金曜日	08:00 ～ 13:45	レンタカー移動で博多港到着
		～	阿蘇門前町商店街(水基の道)
		13:45 ～ 15:55	フェリーで芦辺港(壱岐島)到着
		16:00 ～ 16:50	空き家活用事例 PIC 壱岐の視察
		17:00 ～ 18:20	壱岐市企画観光課及び観光協会との意見交換会
		18:30	チェックイン
4日目	5月 26 日 土曜日	9:00 ～ 12:30	壱岐市観光協会によるガイド、情報交換等
		12:30 ～ 13:30	昼食
		13:30 ～ 14:00	空き家活用事例ゲストハウス LAMP 壱岐視察
		14:00 ～ 17:00	壱岐市観光協会によるガイド、情報交換等
		17:10 ～ 18:20	高速船で博多港到着
		20:20 ～ 21:50	福岡空港出発～那覇空港到着
		22:00	解散

（２）調査地の概要

①高千穂町の取組

【概要】

宮崎県高千穂町は県の最北端の山間部に位置し、山林が６割以上占めており、高千穂峡に代表される景勝地を保有する自然豊かな地域である。また、五ヶ瀬川をはじめとする河川や農業用水などの水源を有し、農林業や黒毛和牛などの畜産も盛んである。

さらに、古事記や日本書紀の高天原神話や天孫降臨神話の舞台となった場所であり、神話を題材とした高千穂神楽や、神話・伝説にゆかりの深い天岩戸神社や天安河原など、歴史文化も有名である。

高千穂町は、宮崎県内でも代表的な観光地のひとつであり、近年は日本人だけでなく外国人旅行者にも人気が高まっている。このような動きを受け、高千穂観光協会を中心に平成 28 年 12 月に日本版 DMO への登録申請を行うなどの取組を行っている。

資料：パンフレット「神都高千穂　日本発祥の地」

総土地面積	23,754ha　※平成 27 年の農林業センサスより
人口･世帯数	12,441 人（世帯数 5,038）　※平成 30 年5月1日現在の住民基本台帳より
ホームページ等	高千穂町　http://www.town-takachiho.jp/index.html 観光協会　http://takachiho-kanko.info/

【観光に関する主な取組等】

<u>夜神楽体感ツアーおよび観光神楽</u>

観光協会では国の重要無形民俗文化財として指定されている伝統芸能「高千穂の夜神楽」を体感できるツアー（１泊３日）も実施しており、人気を集めている。

高千穂の夜神楽は毎年 11 月末から翌年２月にかけて、高千穂地方の集落ごとに夜通し三十三番の神楽を舞う伝統芸能である。夜神楽は人口が減少したことによる後継者問題と、一般客がなかなか観ることができないという課題があった。そこで、高千穂観光協会では、昭和 47 年から観光神楽を始めた。現在は「高千穂神楽」として、県内外から訪れた多くの観光客にいつでも夜神楽を観てもらうことができることで人気を集めている。

<u>世界農業遺産･ユネスコエコパーク</u>

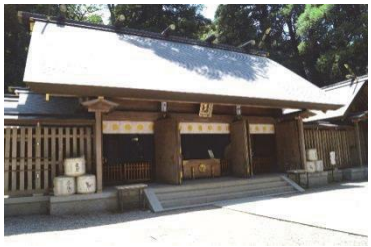
高千穂町では、高千穂郷・椎葉山地域が世界農業遺産として認定されているほか、祖母・傾・大崩山系周辺地域がユネスコエコパークとして登録されており、これらの地域資源を活

かしたまちづくりを推進している。

その他主な観光資源および特産品

高千穂峡

高千穂神社


天岩戸神社

歴史民俗資料館

国見ヶ丘

高千穂町観光協会直営売店

高千穂牛

神楽うどん

高千穂米

資料：高千穂町ホームページ、高千穂町観光協会ホームページ

②壱岐市の取組

【概要】

長崎県壱岐市は、平成 16 年に島内の４町が合併して誕生した。九州北部の福岡県と対馬の中間地点の玄界灘に浮かぶ南北約 17km・東西約 15km の壱岐本島と 23 の属島からなる島である。地形は主に丘陵性の玄武岩をなし、一部地域が壱岐対馬国定公園に指定されている。

壱岐市は離島でありながらも、福岡県の港から高速船で約１時間、長崎空港から飛行機で約 30 分という地理的優位性をもっている。

資料：壱岐市ホームページ

「魏志倭人伝」や「日本書紀」にも登場する地で、「国境の島　壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として日本遺産に認定されている。国指定特別史跡である「原の辻遺跡」や、国指定史跡の「勝本城跡」、「壱岐古墳群」等の貴重な歴史遺産が数多く所在する。

人口・世帯数は、平成 30 年４月末現在で 36,978 人、世帯数 11,646 世帯である。

総土地面積	13,942ha　※平成 27 年現在の農林業センサスより
人口･世帯数	26,978 人（世帯数 11,646）　※平成 30 年4月末現在の住民基本台帳より
ホームページ等	壱岐市　　https://www.city.iki.nagasaki.jp/index.html 観光連盟　　http://www.ikikankou.com/

【観光に関する主な取組等】

古事記の国生み神話において天界と地上を結ぶ要所とされている天比登都柱（アメノヒトツバシラ）のストーリーと、神道発祥の地とされる月讀神社、潮の満ち引きにより参道が現れため日本のモンサンミッシェルと呼ばれている小島神社などが所在し、島全体がパワースポット、「神々の宿る島」といわれている。

壱岐なみらい創りプロジェクト

「壱岐なみらい創りプロジェクト」は、壱岐市役所が富士ゼロックス支援のもと、子ども・若者・住民の豊かな暮らしのために企業や学校、観光事業と連携して取り組んでいるプロジェクトである。市民を募り、観光客誘致や人口増加につながる新しい産業育成、住みやすいまちづくり等のテーマについて語りあう場を設けている。発散された意見をもとに、島内の神社 150 社の中から壱岐に住む人々が大切に継承してきた 42 社を巡るガイドブックの作成などを行っている。

その他主な観光資源および特産品

月讀神社

小島神社

原の辻遺跡

一支国博物館

猿岩

あまごころ壱場

壱岐牛

うに（海産物）

壱岐焼酎

資料：壱岐市観光連盟ホームページ、ふるさとチョイスホームページ

2. 調査記録

(1)宮崎県高千穂町

①高千穂町観光協会の取組

【対応者】 高藤文明（高千穂町観光ガイド）

【主なヒアリング内容】

■観光協会の取組内容

- 高千穂町の観光については、観光協会が窓口となっている。現在、60 人ほどが在籍している。
- 自主財源で運営しており、メインは観光神楽と物産販売、貸しボート業である。町からのサポートとしては、運営資金等の補助ではなく、事業を観光協会へ委託する等の支援の仕方である。
- 観光神楽は、高千穂町観光協会が主催し、舞手は町内の各地域が交代制で担当している。観覧料は1人 700 円で、神楽に関する DVD やお守り等の販売も行っている。
- 高千穂のはしご酒祭り「高千穂直会」を実施している。1枚 1,000 円で参加店舗共通で使えるチケットを販売し、複数の居酒屋を巡って麦焼酎等を楽しんでもらおうというものだ。
- 高千穂町観光ガイドは、試験があって認定を受けた者がガイドとなる。ガイドの人数は多いが、実際に観光客への対応を行っている人数は少ない。

■観光アレルギー等について

- 高千穂では現在、観光アレルギーや、スピリチュアルな側面で語られることに対する反感は感じられていない。もともと神話の地であり聖地であるため、パワースポットといわれるのは自然な流れだと受け止めている。
- 直接的に観光に関わる事業者だけではなく、農家も特産品販売などで観光収益を得る仕組みができているので、観光客は産業全体のターゲットに位置づけられている。

（参考）神職による聖域の案内

- 天岩戸神社では、西本宮本殿の裏側にある天岩戸を、神職の案内により遥拝所から参拝することができる。案内は無料で、団体客は事前予約が必要だが、一般参詣者は当日の8時半～16 時半の間に授与所で申し出て参拝することが可能である。
- 神職が案内することで、ここから先は聖域であると参拝者（観光客）へ伝えることができる。

②高千穂町との意見交換

【対応者】 興梠高彦（副町長）、山下正弘（企画観光課　課長）、谷川祐一（同　課長補佐）、甲斐恒平（同　観光振興係長）、児玉龍之介（同　観光振興係）

【主なヒアリング内容】

■高千穂町の取組について

- 高千穂町の観光における課題は、宿泊型ではなく通過型の観光だったこと。観光客は 27 年が最も多くておよそ 160 万人の入込があったが、平成 28 年には熊本地震の影響で減少した。平成 29 年の入込数は 130 万人だが、宿泊者の数が増えた。一人あたりの消費単価は大幅に増えており、宿泊してもらえれば単価は高くなるようだ。（表参照）

表　高千穂町における平成 25 年～平成 29 年の観光統計

	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
入込数	1,445,600	1,429,100	1,616,200	1,166,300	1,302,000
貸切バス	279,000	242,100	253,000	169,400	163,000
宿泊数	142,700	146,900	177,100	161,600	191,100
消費額	376,944 万円	414,039 万円	527,320 万円	424,597 万円	544,078 万円
1人消費額	2,600 円	2,900 円	3,300 円	3,600 円	4,200 円

資料：高千穂町

- 高千穂町で観光に関する取組が始まったのは昭和4年で、有志による高千穂観光同好グループが結成された。昭和 25 年には高千穂峡が日本観光地百選の渓谷の部で3位に入選し、多くの観光客が訪れるようになった。昭和 47 年から、高千穂神社で観光神楽が年中無休公開となった。平成2年には観光客が 120 万人を突破し、平成 19 年に東国原県知事が誕生。高千穂町が多くのメディアに取り上げられ、スピリチュアルブームが到来した。このように、高千穂町の観光まちづくりは 90 年にわたる積み重ねである。

表　高千穂町の観光の歴史

年	内容
昭和4年	地元有志で観光同好グループが結成、活動を開始
昭和9年	高千穂峡が名勝天然記念物に指定される
昭和 22 年	日向 10 景8勝の中に高千穂峡が入選
昭和 25 年	日本観光地百選に高千穂峡が渓谷の部で3位に入選、高千穂峡観光ブームが訪れる
昭和 26 年	高千穂町観光協会設立／この年の観光客8万人
昭和 33 年	モミジ宣伝隊を熊本・福岡・北九州市に派遣／このころより宣伝隊を各地に派遣するようになる
昭和 35 年	第1回正調刈干切唄大会開催／この年の観光客 23 万人
昭和 40 年	祖母・傾が国定公園に指定される
昭和 45 年	大阪万博に宮崎県代表として高千穂神楽が出演
昭和 46 年	国鉄高千穂線に東洋一の高さの「高千穂鉄橋」が完成／観光客 60 万人突破
昭和 47 年	観光誘致宣伝隊を大阪、神戸、岡山、北九州に派遣／高千穂神社に神楽保存館が完成、観光神楽として年中無休公開となる／国鉄高千穂線が開通／観光客 80 万人を突破
昭和 49 年	観光客 100 万人を突破
昭和 52 年	宮崎日日新聞主催「新観光地百景」で高千穂峡が1位に
昭和 53 年	高千穂の夜神楽が国の重要無形民俗文化財に指定される
昭和 55 年	高千穂の夜神楽がヨーロッパ4ヶ国を訪問
昭和 59 年	観光宣伝隊を東京に派遣
昭和 62 年	新日本観光地百選に高千穂峡が入選
昭和 63 年	星空の町コンテストで全国3位に入選
平成2年	日本の滝百選に真名井の滝が入選／観光客 120 万人突破
平成4年	全国高校総体剣道競技が高千穂町武道館で開催される
平成 17 年	台風 14 号による甚大な被害により高千穂鉄道経営を断念、廃線へ
平成 19 年	東国原県知事誕生、多くのTV番組に高千穂町が取り上げられ、スピリチュアルブーム到来
平成 21 年	観光客 150 万人突破

年	内容
平成 22 年	市街地に高千穂がまだせ市場（高千穂牛レストラン・直売所）グランドオープン
平成 26 年	高千穂の夜神楽ブラジル公演実施
平成 27 年	宮崎空港内にアンテナショップ「神都高千穂そら市場」オープン／世界農業遺産高千穂峡・椎葉山地域認定／観光客 160 万人を突破
平成 28 年	熊本地震発生、観光に甚大な影響を及ぼす
平成 29 年	祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録／高千穂の夜神楽シンガポール公演実施

資料：高千穂町

- 神楽は 11 月～2月に行われる行事なので、それ以外の時期に高千穂を訪れても観光客が見学することはできなかった。そこで宿泊者を主なターゲットとした夜の観光サービスとして夜神楽（観光神楽）を開始した。現在は 365 日、観光神楽を実施している。
- 高千穂町へは熊本県経由で入域する観光客が7割であるため、熊本地震の影響は大きかった。
- 最近はインバウンドの影響で外国人観光客が多い。欧米からの観光客が多く、その満足度を高めることが課題である。
- ガイドの育成などは観光協会が担っているが、神話の研修会開催などに関して町から支援している。
- 神楽の奉仕者（舞手）は高齢化しているが、若い世代も育っている。現在、舞手は6歳から 82 歳まで 420 人いるといわれている。

■質疑・意見交換

- 観光神楽を始めるときには、地域の人などから神事を見せることに対する抵抗感や、観光アレルギーはなかったか。（視察団）
  - 観光神楽の構想が出たときには反対意見が多かったようだ。しかし、たまたま当時の総代さんが観光関係事業者だったことや、神楽の文化財指定に伴う記録保存のために老朽化した神楽殿建て替えを観光協会が行ったことにより、実現に至った。現在では、多くの町民に神楽を観光資源として活用することに対して理解いただき、協力していただいている。（高千穂町）

- 観光神楽の見学者は昔から多かったのか。（視察団）
  - 昭和 60 年頃の見学者は年間3万人程度だったが、現在は年間4万人程度となっている。昔は、入込客数は少なかったが、交通の便が悪いことから宿泊率が高かった。このような観光客への夜の観光サービスとして始まったので、見学者は昔から多かったようだ。（高千穂町）

- 外国人へのサインやマナー周知の部分の取組はあるか。（視察団）
  - 高千穂町ではサイン整備等について、景観を乱さないよう最低限に留めた。しかし、立入禁止区域へ立ち入ってしまうなどの課題はある。（高千穂町）

- 神話について、高千穂の人は皆語ることができるのか。（視察団）
  - 神話について語ることができるのは、旅館など観光関連事業者の方が中心だと思う。学校教育の中で神話について学ぶ機会を取り入れてはどうかという議論もしている。（高千穂町）

- 今回、高千穂町を巡りながら、観光客は何を求めて高千穂へ来るのだろうかと考えていた。やはり神楽なのだろうと思う。（視察団）
  - BS などの TV 番組で久高島が取り上げられていることがある（ニライカナイ橋からの眺めなど）。このような番組を見ている視聴者は、一度は久高島へ行ってみたいと思うのではないか。（高千穂町）

- 久高島を訪れる観光客は現在、年間5万5千人程度だが、本来立ち入ってはいけない場所に観光客が入ってしまったりするなどのトラブルも起きている。（視察団）
  - 沖縄県の御嶽は自然の中にあるので、本土の人からは聖地とわかりづらい。そのため立入禁止区域に入ってしまうのではないか。（高千穂町）

- 久高島へ観光に来て何をするか、何をしていけないかをどう伝えるかということについて考えるべきと思っている。（視察団）
  - 最近の観光客は、ゆっくり時間を過ごしたいという人が増えている。久高島もそういう雰囲気の観光客が増えてくるのではないか。（高千穂町）

- 久高島は祈りの島である。島には神楽のような舞いはないが、神行事がある。しかし、神行事を見せることに対する怖さがある。（視察団）
  - 高千穂では神楽のことを「神遊び」といい、神事としての一面と、地域の農民たちの芸能としての楽しみという面があったようだ。この楽しみという面があったため、観光との結びつきはスムーズだったのではないか。（高千穂町）

③五ケ村との意見交換会

【対応者】 藤田利廣（五ケ村公民館長）／工藤正任（五ケ村村おこしグループ代表）

【主なヒアリング内容】

- 五ケ村は現在 66 戸で、8～9割が 70 歳以上の高齢者がいる世帯である。一人暮らしが 15 世帯で、100 歳以上の方が集落内に4名いる。
- 高千穂の神楽は、神庭（こうにわ）と呼ばれる場をつくり、その下で神に捧げるものとして舞う。19 時頃から開始し、翌日の 10 時頃まで夜通し踊り続けるのが本来の夜神楽である。
- 町内の神楽を行う地域の多くは、公民館が会場となっている。岩戸地区では、五ケ村村おこしグループが中心となって設置した民宿「神楽の館」があり、そこを貸してもらうこともある。
- 五ケ村では、一時期神楽が廃れていたが、地域で話し合って、夜神楽を続けようと決めた。神楽の継承が課題で、そのために、5年かけて飾りの付け方や、流れ、奉仕者（神楽の舞手）に出す料理の献立などの、マニュアルのような記録を残す作業を行った。クリアファイルで見やすく整理できたかなと思っている。

（参考）五ケ村村おこしグループの取組

- 本調査で宿泊した民宿・神楽の館は、地域の村おこしグループが古民家を移築し、民宿として運用している。
- 五ケ村村おこしグループは、「ふるさと創生基金」で行われた温泉採掘事業の担い手として、農産物直売所、軽食・休憩施設を運営する組織として平成5年に設立された。設立当初は9名で、メンバーの平均年齢は 60 歳であった。
- その後、温泉茶屋のオープンや、夜神楽衰退対策として夜神楽体験ツアーの実施、民宿「神楽の館」の移築・運営などを手がけた。

【視察の様子】

高千穂神社での観光神楽の様子

観光神楽の会場　高千穂神社　神楽殿

宿泊施設･神楽の館　外観

宿泊施設･神楽の館　内部

天岩戸神社　神職によるガイド

天安河原視察の様子

高千穂峡

高千穂峡　観光協会直売店

がまだせ市場（高千穂牛レストラン･直売所）

高千穂町と意見交換

 五ケ村公民館	 五ケ村公民館長と意見交換
 村おこしグループとの交流	 五ケ村による夜神楽の様子

２)長崎県壱岐市

①壱岐市及び壱岐市観光連盟との意見交換

【対応者】 塚本和広(観光商工課　課長)、齋藤克重(一般社団法人壱岐市観光連盟　事務局次長)、徳永満智子（同　誘致促進班係長）

【主なヒアリング内容】

■壱岐市の観光動向について

- 壱岐市の観光客数は、平成3年の 756,000 人が最高で、年々減少傾向にある。平成 20 年頃から年間約 55 万人を推移しており、観光客増加にむけた取組に力を入れているところだ。
- 平成 27 年度に「国境の島　壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として日本遺産の認定を受けた。また、「実りの島　壱岐」をコンセプトに、観光資産のパワーアップに努め、観光振興、外国人観光客誘致、モニターツアーの実施、PR 活動などの情報発信に努めている。
- 一次産業の衰退に伴い、外貨獲得のために観光振興に力を入れている。

表　壱岐市の観光客数及び消費額

	平成3年	平成8年	平成 13 年	平成 18 年	平成 23 年	平成 28 年
延観光客数（人）	756,173	751,616	708,786	614,126	547,468	543,910
観光消費額（千円）	14,084,839	15,831,797	13,987,792	12,047,861	7,449,724	7,917,479

資料：壱岐市

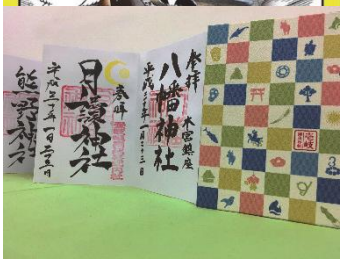
有人国境離島法に基づく滞在型観光促進事業（平成 29 年度～）

①COZIKI プロジェクト（古事記をモチーフとした漫画活用による誘客促進）

- 大小 1,000 以上の神社・祠が点在し、「神々の宿る島」とされている壱岐市への誘客促進を図ることを目的として、古事記・神話をモチーフに著名な漫画家による漫画制作・販売、漫画の情報発信及び関連グッズ制作・販売を実施している。

②壱岐市オリジナル御朱印帳活用による御朱印巡り

- 壱岐市への誘客促進と滞在型観光の促進を図ることを目的として、近年の神社ブームにあわせ、壱岐市オリジナル御朱印帳の制作・販売、御朱印めぐりコースの開発及び受け入れ基盤の整備を実施している。



③体験事業者の育成・人材確保

- 壱岐の素材を活用した体験プログラムの開発により滞在時間を延ばし、地域活性化を促進するため、地域おこし協力隊による人的支援を実施している。現在、3団体に補助を出している。

有人国境離島法に基づく雇用機会拡充事業（平成 29 年度～）

- 平成 29 年4月に施行された有人国境離島法の施策のひとつである雇用機会拡充事業を活用して、地場雇用の確保及びU・Iターン等による移住定住の促進を図っている。
- 島内で 24 事業を採択し、78 名の雇用が創出された。例えば、PIC 壱岐やゲストハウス LAMP 壱岐などである。

壱岐行き教育旅行推進事業補助金（市単独）

- 教育旅行については、観光資源や体験・食が豊富であることを活かし、昭和 55 年より受け入れを行っている。教育旅行の拡大が、壱岐への誘客の入口と考え、市の重要施策と捉えている。このことから、旅行学生に対し、経費の一部を補助している。
- 県内小・中学校の修学旅行（自然野外活動含む）等において、壱岐市内の有料宿泊施設に宿泊すること及び壱岐市立一支国博物館の見学を必須とし、3泊4日で児童生徒一人あたり最大 7,000 円を補助する。県外小・中・高生は、上記の条件で泊数に関係なく一人あたり最大 1,800 円を補助する。

（参考）壱岐神楽について

- 壱岐の神楽は、昭和 62 年1月に国の重要無形民俗文化財に指定された。神楽舞も音楽も神職のみで奏されており、極めて神聖視されている文化財である。
- 神楽は「幣神楽」「小神楽」「大神楽」「大大神楽」の4つに分けられており、鑑賞するためには1席 50,000 円が必要。団体ツアーの場合、旅行者1社あたり 20,000 円を補助する制度がある。

一支国博物館・原の辻ガイダンス施設

- 一支国博物館は、調査研究機関である県の埋蔵文化財センターと、展示・交流施設である壱岐市立博物館が一体となった、効率的で機能的な複合施設である。生涯学習、人材育成、体験交流、観光振興の拠点となる。
- 「発見」と「感動」がある展示として、子どもたちが発掘の疑似体験や土器のパズルを楽しめる「キッズこうがく研究所」、高さ5メートルのガラス越しに埋文センターの収蔵庫内の出土品を見ることができる「オープン収蔵庫」など、考古学や歴史に親しみを持ち、知的好奇心を高めることができる展示演出を取り入れている。
- 一支国博物館から一望することができる原の辻一支国王都復元公園では、一支国の王都を再現している。隣接する「原の辻ガイダンス」では、大人の教育旅行として発掘体験や勾玉づくりなどの体験ができる施設となっている。

■観光連盟の活動について

- 平成 25 年4月に、壱岐市観光協会・壱岐体験型観光受入協議会・壱岐イベント振興会・壱岐名産品協会が合併して、壱岐市観光連盟を設立した。平成 26 年4月には「地域限定旅行業」を取得し、収益事業を実施している。
- 正副会長・専務理事を含む理事 20 名と幹事2名、職員 21 名で運営している。
- 壱岐市における観光推進の中核組織として、壱岐市及び観光関係事業者、農業協同組合、漁業協同組合などの関係団体及び他市町村と連携して、自然・景観・食・温泉・歴史的遺産・文化的遺産を活かし、観光振興を図るとともに、島内における各種産業の連携により、ふるさとへの愛情と誇りを持つことができる地域社会の構築をめざし、国内をはじめ国際観光の振興に努めて交流人口の拡大を図ることを目的としている。

地域限定旅行業

- 平成 26 年に地域限定旅行業の登録を行い、博多港・唐津東港発着フリープラン型の旅行商品を中心に企画・造成・販売。

壱岐ちゃりレンタル事業

- 郷ノ浦・印通寺・芦辺の観光案内所及び壱岐島荘・大幸物産・マンパル・玄海交通で、電動アシスト自転車の貸出を実施中である。
- 料金は1台につき、4時間 1,000 円、1日 2,000 円、1泊2日 2,500 円。有料で各港観光案内所間の乗り捨て可能。

事業年度	利用台数	事業収益
H27	781 台	865 千円
H28	1,046 台	1,167 千円
H29	1,283 台	1,959 千円

資料：壱岐市観光連盟

- 平成 25 年度に 50 台導入後、平成 29 年度に 60 台を追加し、110 台で運用している。

着地型観光商品販売

- 壱岐市の産業や文化など様々な魅力を活かした着地型観光商品の取扱・販売を実施している。
- 漁業や農業など一次産業に関連するものや工房・遊覧船・観光ガイド手配など、島内体験事業者の活用促進を図る。

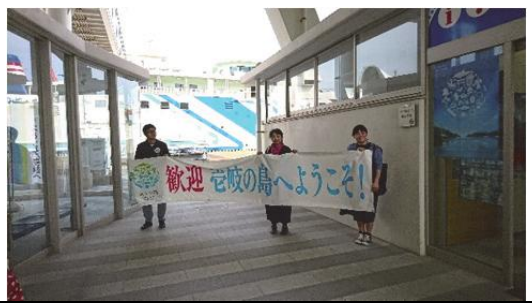
事業年度	体験者数	事業収益
H27	3,414 人	355,530 円
H28	2,927 人	303,709 円
H29	6,947 人	422,185 円

資料：壱岐市観光連盟

■質疑・意見交換

- 外国人観光客については、現在どのくらい来ているのか。（視察団）
  - 1,200～1,300 人程度だ。韓国からのお客さんが多い。サイン整備等については、日本語・英語・韓国語・中国語（繁体字・簡体字）を使用している。（壱岐市）
- 麦焼酎の麦は、すべて島内で生産しているのか。（視察団）
  - 全量はまかなえていないのが現状だ。島内の農地では、高齢化により遊休地となっている土地もあり、そのような土地の活用についても考えていかなければならないと思っている。（壱岐市）
- 地域おこし協力隊は何人いるのか。（視察団）
  - 現在4人で、移住してくる人も多い。一人は海女の後継者として移住しており、壱岐の観光ポスター撮影などにも協力してもらっている。（観光連盟）
- 連盟ができたことで変わったことはあるか。（視察団）
  - 窓口を一本化できたことが大きい。一度連盟として話を受けたあとで、各セクションへ役割分担をして事業を実施している。（観光連盟）

【視察の様子】



芦辺港観光案内所	芦辺港観光案内所
壱岐市及び観光協会との意見交換	あまごころ壱場(ウニ博物館)の視察の様子
あまごころ壱場(ウニ博物館)の視察の様子	あまごころ壱場　内部
観光協会による島内案内の様子	男岳神社　神職による説明
小島神社　宮司によるガイド(有料)	壱岐市立一支国博物館
原の辻ガイダンス施設	郷ノ浦港観光案内所　内部

②PIC 壱岐（Pencil Innovation Central）

【対応者】 梅門啓ニ（ゼネラルマネージャー）

【主なヒアリング内容】

- 株式会社ペンシル（http://www.pencil.co.jp/）のサテライトオフィスである。もともとは壱岐テレワークセンターのサテライトオフィスに入居していたが、壱岐市の雇用機会拡充事業に採択され、現在の空き家を活用したサテライトオフィスを開設した。
- PIC 壱岐では、高度な専門知識を必要としないウェブコンサルティングの支援業務を担当しており、地域から、子育てや介護などにより就業時間や就業場所に制限がある主婦や高齢者、元 IT 従事者などを雇用できる。来年度までに計8人を壱岐市で雇用する。
- 壱岐を選んだのは、博多港から簡単に行き来できるため。内装については、女性の多い会社なので、可愛い雰囲気となっている。福岡オフィスも似たような雰囲気だ。
- 空き家の紹介や所有者との交渉は市が行ってくれたため、その点での苦労はなかった。離島であることの不便さも現在のところは感じておらず、むしろ集中して作業ができると感じている。苦労した点としては、空き家の再生は初めてのため、主にハード面の工事などに関して勝手がわからなかったことだ。その点についても、市に業者さんを紹介してもらうなどサポートしてもらった。

【視察の様子】

<table>
<tr><td>
PIC 壱岐　外観</td><td>
PIC 壱岐　視察の様子</td></tr>
<tr><td>
PIC 壱岐　室内（仕事場）</td><td>
PIC 壱岐　室内（仕事場）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
</table>

PIC 壱岐　室内	PIC 壱岐　室内

株式会社ペンシル　研究開発型インターネットコンサルティング

- 1995 年設立。ウェブコンサルティングを柱に、ウェブ広告（プロモーション）、システム開発、ウェブサイト制作、ウェブサイト運用、ウェブサイト分析等を手がける。
- 現在、東京、福岡、シンガポール、台湾、フィリピン、ベトナムにオフィスを構える。また、非属人的な支援業務を行うペンシルイノベーションセンター（PIC）として、PIC 愛宕、PIC 壱岐を構える。

③ゲストハウス LAMP 壱岐／BistroLAMP

【対応者】 せこ（LAMP 壱岐　支配人）、のん（LAMP 壱岐　女将）

【主なヒアリング内容】

- 株式会社 LIG（https://liginc.co.jp/）がプロデュースするゲストハウスである。築 90 年の旧つたや旅館を再生し、ゲストハウスとして活用している。平成 30 年5月 19 日にオープンしたばかりである。また、併設の壱岐焼酎蔵跡を改装し、レストランとして開業する。こちらは5月 27 日にオープン予定である。
- 1階はドミトリータイプとなっており、1人1泊 4,000 円からとなっている。17 床あり、男女混合。
- 2階及び3階は個室タイプで、1部屋 12,000 円から。セミダブルベッドを設置し、高級感を出している。ひとりから宿泊可能で、6人まで宿泊できるファミリータイプの部屋もある。
- もともと旅館として営業していた建物であり、障子などは活用できるものは活用した。
- 市の雇用機会拡充事業の補助をいただいて再生したが、自費負担分のほうが大きい。
- ホームページ：https://lamp-guesthouse.com/iki/

【視察の様子】

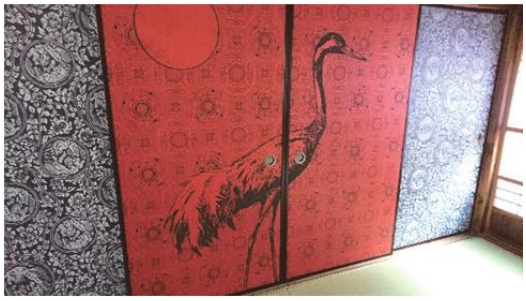
ゲストハウス LAMP 壱岐　外観

ゲストハウスに隣接するビストロ LAMP

ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(ドミトリー)

ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(ドミトリー)

ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(個室)



ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(個室)

ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(個室)

ゲストハウス LAMP 壱岐　室内(個室)

株式会社 LIG 台東区上野発の Web 制作会社、世界へ

- 2007 年設立。ウェブ制作、コンテンツ制作、ゲストハウスやコワーキングスペース･飲食店の運営、教育事業、地方創生事業等を手がける。
- 現在、東京、長野、京都、広島、長崎、大分、フィリピンにオフィスやゲストハウス、店舗などの拠点を構える。

3. 小括：参加者の反応・住民の反応

（1）参加者の反応

参加者の主な意見は次のとおりである。観光客としての目線を体験することで、現在の久高島における観光サービスの改善点などについて気づきを得た参加者が多かった。また、高千穂町及び壱岐島は観光地として先進事例であり、観光事業者と行政及び地元住民の連携が取れていることや、観光を進める仕組みができていることなどに感銘を受けた様子が見受けられた。

【食】※最後の（ ）内は対象地域

- 魚が新鮮で美味しかった。島でも生け簀や水槽等を用いて新鮮さを出したらよい。（高千穂）
- 店内の生け簀等は久高島でも近海の魚で取り入れ可能だと思った。（高千穂）
- 見栄えも良く、刺身は新鮮で、天ぷらもサクサクしていて美味しかった。店内は広く、落ち着いた雰囲気のお店で、メニューも多く、値段も手頃だと感じた。食堂とくじんで、沖縄風の天ぷらと、サクサク感のある天ぷらのどちらかを選べるメニューがあれば選択肢があっていいと思った。とくじんでも定食のメニュー、おつまみメニューを増やしていけるようにしたい。（高千穂）
- 食材も新鮮で、価格も手頃だった。いつでも簡単に入手できるのだろうなと思った。久高島では難しい問題だ。（高千穂）
- 宿泊場所と食事の場所が分業していたが、久高島でも可能だと思った。（高千穂）
- 料理の味も大事だと思うが、器やテーブルなどから先にチェックして、汚れているものや欠けている器はお客様に出さないなど、まずそこから先にやらなければいけないと感じた。これはすぐにとりかかりたい。交流館の朝食も定食のようなメニューにしたい。卵、魚、納豆は必ず取り入れるなど見た目にもこだわり満足できるようなメニューを考えていきたい。（高千穂）
- 2日間とも朝食に納豆が出てきたが、2日目のものはタマゴ入りで食べやすかった。1日目にそのまま残した人がいたせいかなと感じた。食事をつくる人は、食べた後の状況を自分なりに分析しているのかなと思った。（高千穂）
- お客さんへの対応がたいへん良かった。久高島では教育が必要だと感じた。（高千穂）
- 器がとてもおしゃれで高級感があった。天ぷら、いなり、そば、デザートとボリュームがあり、そばの麺も細くて食べやすかった。器のデザインでも雰囲気が変わると思うので、料理によってどの器にするかなどもっと勉強しなければいけないと思った。（高千穂）
- 博多港のベイサイドプレイス博多で海鮮丼を食べたが、ボリュームもあり、ウニも入っていて刺身も新鮮でとても美味しかった。味噌汁も魚の出汁がでていて値段も安くてとても良かった。とくじんの海鮮丼のネタの種類を増やしたい。久高島の海人が新鮮な魚で海鮮丼や天ぷらなどのお店を出したら久高島の港もにぎわうと思った。（博多港）
- 朝食のアジの干物が美味しかった。久高島でも近海の魚を干物にして取り入れられるのでは。（壱岐）
- 海人がとってきたイカを一夜干しにして朝食のメニューに取り入れたい。（壱岐）
- 久高島にはウニはいないので、取り入れ可能なものは、モズクを流しそうめんみたいに食することかと思う。（壱岐）

【宿泊施設】※最後の（ ）内は対象地域

- 沖縄にはないようなところ。ただ古いだけではなく、癒やされる感じだった。（高千穂）

- 沖縄とはまた違った雰囲気があり、庭からも段々畑や山の景色も見ることができて和む宿だった。部屋は香りも良く、綺麗に掃除もされていて、ドライヤー、シャンプーなど完備されているのは良かったが、まだ使用していないタオルに髪の毛や毛玉がついていたりしたのが気になった。交流館でもタオルの貸し出しは行っているが、使い捨てではないので色あせていたり、髪の毛などついているかもしれないので、今後きちんとチェックをさせたい、使い捨てタオルの検討もしたい。（高千穂）
- 久高島では雰囲気のある古民家は難しい面もあるが、空き家はたくさんあるので、なんとか利用できる家は再生して使用できるのでは。（高千穂）
- 部屋に梅干し、お茶のサービスもあり、他の宿泊施設でもこういったサービスがあるが、交流館はまだこのようなサービスが充実していない。今後、少しでも喜んでもらえるようなサービスを取り入れたい。女性用のアメニティを取り入れる（スキンケア用品など）。交流館は建物が古くなっているので、掃除やサービス面で満足してもらえるようにしていかなければいけないと感じた。（壱岐）

【フェリー・高速船、自転車】※最後の（ ）内は対象地域

- 自転車が全部電動アシスト付きで乗りやすいと思う。（壱岐）
- フェリーは大きいので、長距離でもくつろげる。（壱岐）
- フェリーも高速船も、乗船時間は長すぎず、フェリーは枕もあり寝そべることもできるので良かった。高速船は席が少し狭く感じた。切符を渡すときに、ちゃんと列になって並べるようになっているのは良かった。高速船は席が指定されているので混んでいても席があるのは良いと思う。（壱岐）
- 自転車には実際に乗っていないが、電動アシスト自転車は良いと思った。自転車が綺麗で手入れがされていると思った。自転車が塩害ですぐさびるので手入れの仕方やあまりにもさびが目立つのは交換するなど今後の課題。（壱岐）
- 久高島の定期船は現在、久高からは朝の8時に出るが、できれば朝の7時くらいに出て、安座真港からも朝の7時に出る交互運航がよいのではないか。夕方の最終便も6時から7時くらいの交互運航にすれば通勤・通学も久高から可能になると思う。（壱岐）
- 久高島では水牛車や馬車なども考えられる。久高島の東側の道路は自然を残すらしいので、1年に1回ぐらいの保全が必要である。サイクリングの自転車のデコボコ道はいかがなものか。

【土産・特産品】※最後の（ ）内は対象地域

- お茶の種類が多かった。農産物の加工品が多いと思った。（高千穂）
- 久高島で取り入れ可能な方法として、①麦を畑で生産して、麦の関連商品を開発する、②貝殻を商品化する、③アダンの葉で民芸品をつくる、など。（高千穂）
- 酒の種類が多い。とにかく海の幸が新鮮だった。（壱岐）
- ウニ、お菓子、お酒など品揃えが豊富。限定品がいくつかあり、久高でも久高でしか購入できない久高島限定の商品の開発ができるようにしたい。お土産にも喜ばれると思う。（壱岐）
- 久高島で取り入れ可能な方法として、①ラッキョウを畑に植えて商品化する、②アダンの根を乾燥させて民芸品をつくる、③海岸の漂着物・流木等を商品化する、など。（壱岐）

【印象に残ったことなど】※最後の（ ）内は対象地域

- ガイドさんがとても分かりやすく説明してくれて良かった。（高千穂）
- 今回担当していただいたガイドは、人柄が良く、話し方もゆっくりで聞きやすく、歴史や言い伝えなど説明も分かりやすくてとても良かった。（高千穂）

- 久高島でも女性が踊るグルイなどを見せることはできないこともないが、難しいかなと感じた。（高千穂）
- 小枝も持ち帰ることが許されない島全体が神域とされていると聞いて久高島と一緒だと思った。（壱岐）
- 同じ島とは思えないほど何でもあって、何不自由なく生活できると思った。島にも空き家が多いので、できれば古民家を再生できたらよい。（壱岐）
- 古民家を再生して、IT 関連事務所として利用するのはよかった。（壱岐）
- 古民家を再生したオフィスは内装がとても綺麗でおしゃれだった。古民家のこういった利用方法もあるということが勉強になった。久高でネット環境を整えたい。（壱岐）
- 一支国博物館は、ビューシアターが終わった後に原の辻遺跡が見える仕掛けはとてもよかった。たくさんの出土品が展示されていて壱岐島だけでこれだけの出土品や古墳があることに驚いた。交流館にある資料室はレイアウトの見直しをして久高島の歴史を分かりやすくできるような資料室にしたい。（壱岐）

【全体の感想】

- この3泊4日の旅はとても勉強になり、いい経験になりました。高千穂や壱岐島は、観光業者と地元の人の連携ができており、見ていて気持ちが良かったです。まずは久高島もそこからだと思いました。もともとまったく神社などに興味もなかったけど、今回の視察のおかげでいろんなことを勉強しようと思いました。ありがとうございました。
- 今回の視察でまず感じたのが、高千穂町や壱岐島ではないのですが、川のゴミが多く、汚い印象を受けました。久高島は神の島と言われており、神の島＝神聖なイメージ＝清潔感なイメージをする方も少なくないと思いますが、海には漂着物やゴミが多く、道のそばにもゴミがまとまって放置されているときもあり、観光客の方も目につくところにゴミがあるとがっかりされると思います。今年度からは海岸清掃のボランティア活動を取り入れることが決まっているので、協議会のメンバーを中心にクリーン活動に力を入れていき、ゴミのない島をめざしていきたいと感じました。
- 久高島と比べてですが、高千穂町では花が多いと感じました。久高島は花が少ないので島内の方や島外から来られた方がよく出入りをする場所、特に総合センター（公民館）や、交流館に花を植えると明るくなると思うので、少しずつ花を植えていこうと思いました。久高島は観光の島ではないのですが、中には騒ぐ観光客やマナーの悪い観光客もおり、ゴミもなく、海も綺麗で島中が緑や花が多いと、ゴミを持ち帰るなどマナーの良い方が増えるのではないかと思っています。
- 今回の視察で、高千穂町や壱岐島は久高島とは広さや規模が違うので比べるのは難しいですが、どちらも地域の人やガイド、行政の方との連携が取れていて、観光の受け入れ体制が整っていると感じました。自分が観光する側になって気づいたところがたくさんあり、とても勉強になりました。見せ方は違いますが、伝統を守っているところは同じなので、久高島でも歴史ある伝統行事や祭祀を今後も守っていくようにしたいと改めて感じさせられました。とても良い視察になりました。ありがとうございました。

【協議会の進め方や組織体などについて】

- 昨年度までの検討委員会ではひとつのことに取りかかるのに時間がかかりすぎて、行政の方に迷惑をかけているので、今年度の協議会からはまず先にできるものからすぐ取りかかり、地域との意見交換会も3か月に1回はするなど地域の意見も取り入れながら進めていけたらと思っています。資金調達としては、入島税や入島料などを取り入れたいと思っているので、行政のアドバイスを受けながら早めに取り入れられるようにしたいと考えています。
- 現在、早急にやらなければいけない事業として、①コンシェルジュ事業、②グランピング事業があります。

このふたつの事業を海連・サウスポーで実施するにあたり、皆で協力可能なところを一体となって進め、成功させることだと思います。これをきっかけに次のアイディアが生まれ、ひとつずつ確実に実施可能な状況（環境）を作り上げていくことだと考えます。法人組織等はこの次のステップだと思いますが、一般社団法人　久高島観光連盟はどうでしょうか？　もう少し、色々な勉強が必要だと考えます。

- 法人組織をつくるには、たくさんの課題があると感じました。資金調達は「未来の久高島のために投資してもらえませんか」との呼びかけに郷友会などが応じてくれると考えているが、誰が責任を持って継続してやっていくのか。個人の感想としては、現在ある NPO 法人久高島振興会で十分ではないかと思います。人材もいない小さな島で人材の奪い合いが起きるのではないかと危惧しています。NPO 法人を発展させて、この中から独立心旺盛な方が独立していく方法が最善の道ではないかと思います。

（２）住民の反応

６月３日（日）に久高島で開催された地域円卓会議において、事例調査の報告を行った。反応は次のとおりである。

- 壱岐市の町並みはきれいで、新鮮な食べ物がある。久高島にはレストランが1件、食堂1件ほどで、夕食に困っているお客さんがいるのが問題だと感じている。
- 久高島にも来る目的があれば、日帰りでなく宿泊してくれると考えている。島内では宿泊施設の数が限られているが、これからグランピング事業などを手がけるようなので、それに期待している。
- 高千穂町の観光協会のガイドが少数とあるが、何人いるうちの何人ほどなのか。アマミキヨ浪漫の会では、3分の1くらいがガイド対応している状況だ。
  - 50 人いるうちの 10 人くらいという。
- 空き家を住居ではなく、ネット関係の仕事の事務所として活用するのはよい案だ。

§５
首都圏等ニーズ調査

１．離島フェア 2017 での意見　・・・・・・・・・・・・・ 1

２．全国の仮想ターゲット層・地域おこし人材の意見・・　14

３．小括：上記意見をふまえた
　　久高島へのまなざしの分析　・・・・・・・・・・・・ 54

１. 離島フェア2017での意見

（１）調査概要

「離島フェア2017」の久高島ブース周辺において、主に久高島ブースを覗いた来場者を対象に対面でインタビュー調査を実施した。

離島フェアは、離島フェア開催実行委員会（18離島市町村、沖縄県、沖縄県離島振興協議会）が主催するイベントで、離島市町村の紹介や各離島の特産品販売、伝統芸能の紹介等が行われる。2017（平成29）年は、11月17日（金）～19日（日）の日程で、沖縄セルラーパークを会場に開催された。インタビュー調査は、11月17日（金）に実施した。

インタビューを実施した対象者は19人で、県内在住者（県外出身者含む）がほとんどであるが、県外在住で沖縄旅行中に来場した方が数人含まれている。これらのうち、久高島へ行ったことがある方が７人、久高島について知らないと答えた方が２人である。

【質問内容】

- 離島フェアにはよく来ますか？
  お目当ての離島ブースがありますか？　どこの離島ですか？　その理由は？
- 沖縄県の離島にはよく旅行に行きますか？
  離島観光のときの楽しみはなんですか？
  あなたが考える離島の魅力は？
- 普段、どのように離島観光の情報を入手していますか？
- 離島観光で困ったことなどはありますか？
- 離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいと思いますか？
- 久高島は知っていますか？　行ったことはありますか？
  久高島にはどんなイメージを持っていますか？（イメージワード）
- 他の離島と違うところはどんなところだと思いますか？
- （行ったことがある人）久高島の良かったところ・魅力は？
- （行ったことがある人）久高島のここはちょっと…と思ったところ・改善点は？
- （行ったことがない人）久高島に行ってみたいと思ったことはありますか？/なぜ今まで行かなかったと自己分析しますか？
- その他

（２）調査結果概要

①離島全般のイメージについて

離島の魅力は、海や森、空気などの自然環境が素晴らしいことや、沖縄本島や日本本土とは異なる文化や島ごとの個性が見られること、ゆったり・のんびりした雰囲気、酒や食事が美味しいことなどの意見が多かった。

離島観光で困ることは、悪天候などにより船が欠航してしまうことという意見が多い。また、島の情報の入手のしづらさ（見どころ、特産品、観光地・名所など）、島内での食事や宿泊、移動手段が無いことが多いこと、雨天時になにもすることがないなどの意見もあった。

②久高島のイメージについて

久高島のイメージとしては、「神の島」や神聖な場所という意見がほとんどを占める。また、日帰りできる島、小さな島という答えもあった。神聖な島なので興味はある、一度は行ってみたいと思っているという意見がある一方で、神聖なところなので軽々しく立ち入ってはいけない、おそれおおいと感じるという意見もあった。

久高島へ行ったことがある方のイメージとしては、神聖な島というイメージを損なわない、静か、自然が豊かな島であったというイメージが多いが、御嶽がキレイではない、案内サインがないなどの改善点についても意見があった。ただし、観光地化するよりは、そのままがよいという意見もある。

③その他

離島活性化のためには、情報発信やPRを行って、まずは島の人に浸透させること、地場のものを活用した産業を生み出すことなどの意見があった。

（３）調査記録

次ページから掲載。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男2
対象者住所	県内	対象者年齢	10～20代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	離島フェアには初めて来た。 琉球大学の学生で、授業の一環として離島フェアを訪れた。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	宮古圏域へは授業でよく行く。 離島の魅力は、沖縄本島や日本本土とは全く文化が違うことを感じることができること。島の空気や、道、食べ物からも、その島の文化を感じることができる。 現在のところ、離島観光で困ったことはない。 離島の情報は、インターネットや大学の図書館等で入手している。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	Iターン、Uターンを増やすこと。雇用をつくること。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	（知っている/行ったことはない） 聖なる島というイメージ。 しかし、そもそもどうやって行くのかがわからない。 （行ったことがある） 神の島。近場で日帰りもでき、気楽に行ける島だ。
（行ったことがある人） 良かった点は？	聖なる島というイメージを損なわない雰囲気を感じた。コンビニもなく、店もなく、人も多くなく、素朴なところだ。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	住むことを考えると、医療の面で不安。 また、老後のことも考えると、島で最期を迎えることができないのでは。病気になって本島の病院に運ばれて…というのは嫌だろう。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	県内の離島を巡ってみたいという思いはあるので、久高島へも行ってみたいとは思う。ただ、これまでは、行ってみたい！と思う理由や、今行けばコレが見られるというような、久高島へ行こうと思わせる動機づけがなかった。
その他	（行ったことがない人） 個人的には走るのが好きなので、マラソン大会等が行われていれば久高島へも行くだろう。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1女1（夫婦）
対象者住所	県内	対象者年齢	60代以上

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	離島フェアは数年ぶり。ちょうどラジオでフェア開催の話題があったので、来てみた。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	建築関係の仕事をしていたため、県内の離島は久高島と粟国島以外は行ったことがある。 離島の良さは、 ・人がよい。気さくに話しかけてきてくれて嬉しい。 ・お酒がおいしい。海産物がおいしい離島が多いので、海産物を買ってお酒と一緒に飲むとよい。 ・のんびり、ゆっくりと過ごすことができる。 困ったことは、お酒をつい飲みすぎてしまう。

質問	回答メモ
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	わからない。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	・小さい島。 ・行ったことがない。 ・テレビなどでイラブーをとる映像をみたことがある。真夜中に懐中電灯を持って穴の中に手を突っ込んで、すごいと思った。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	仕事のタイミングがなかった。今は仕事を引退して時間はあるが、なかなか腰が重い。
その他	※久高島を津堅島と勘違いしている部分もあり、場所もよく分からなかった可能性がある。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県外	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	初めて来た。県外在住で、たまたま沖縄旅行に来たらフェアを開催していたので立ち寄ってみた。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	沖縄自体が今回初めてである。 沖縄県に限らず、離島観光はあまりしたことがない。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	わからない。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知らない、聞いたこともない。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	あまり離島観光はしないが、なにか特産品があるとか、珍しい「食」があるという情報があれば、離島でも行ってみようかなと思う。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	女1
対象者住所	県内（離島出身）	対象者年齢	60代以上

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	よく来る。毎年ではないが、なるべく来るようにしている。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	宮古島出身である。石垣島や久米島など、他の離島にもよく行く。 個人的には乾物が好きなので、その島の乾物がどのように作られているのかなどに興味がある。島々で製法や乾物そのものが違うのが面白い。 離島観光で困ることは、情報がないこと。お土産はどこの島でも売っているが、島自身の情報がない。知りたくても問い合わせるべき窓口も分からない。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	大切な部分は守りつつも、行政が中心になって情報発信すること。PR不足だと思う。また、まずは島民へ浸透させることも重要。 例えば、宮古島はエコで売っているが、島の人自身が、具体的にどこが・なにがエコなのか知らない。まずは島民から。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	久高島へは行ったことはないが、神聖な場所として非常に興味がある。宮古島市の大神島も神の島であるが、久高島は世界的に有名ではないか。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	久高島には興味があり、行ってみたいと思っている。これまでは仕事をしていて、なかなか久高島など本島周辺離島へ行く機会がなかった。また、神聖な場所なので気軽に行ってはいけないという、気後れする部分もあったのだと思う。
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内	対象者年齢	50代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	毎年来ている。飲食店を経営しているので、情報収集と仕入先への挨拶が目的だ。 伊江島などはよい物産があるので、ついつい長くブースに滞在してしまう。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	昔は観光客だったため、離島へもよく行った。 離島のよいところは、海がとても綺麗なところだ。 沖縄の離島ならではの困ったエピソードとしては、旧盆のため船が出ずに帰れなかったこと。十数年前だが今でも覚えている。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	今の沖縄はジャンクフード天国だが、かつては歴史文化的な食生活があり、そのために長寿県となっていた。地元の食材・食文化に特化した、島の個性を活かした産業を構築することだと思う。そうすることで雇用を生み出すことができる。また、高齢者が働ける優しい産業を構築することも重要ではないか。 このような取組を行うことで、島の楽しさが伝わると思う。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメー	仲間たちと釣りへ行ったことがある。 その前までは、やはり聖なる島というイメージがあり、あまり立ち入ってはいけな

質問	回答メモ
ジ 他の離島と違うところは？	い島だという印象があった。行ってみると、普通の生活を営んでいる人々のいる島なのだとわかったが、行ってみるまでは行きにくい島だった。
（行ったことがある人） 良かった点は？	神々しいイメージ。 自然が多く、個人的な願いとしては、あまり開発してほしくない。島の人は不便かもしれないが、勝手な願いとして。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	個人的には観光地化してほしくない。 久高島の人が観光客に対してどう思っているのか、島の人の意見が出てこない。今はインターネットでいろんな情報があるが、それは沖縄好きの人たちが好き勝手に書いているだけで、島の人自身がどういう方向に行きたいのか分からない。 もしも島の人が観光客にきてほしいと考えているなら、島へのアクセス方法などの情報発信が重要だと思う。本土の人は旅行の計画をたてるときに時刻表を気にするので、そういった情報にアクセスしやすくしたほうがよい。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	もしも島の人が観光をやっていくつもりなら、イラブーなど伝統的な食材を活用したダイニング企画はどうか。琉球料理的な要素ではなく、少しおしゃれな感じを演出して、久高島でしか食べられないフレンチ・イタリアンなどを提供する。「太陽の下で」「海に囲まれた島で」という展開があれば、コアな人々だけではなく、一般の人も久高島へ行きたいと思うのではないか。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	女1
対象者住所	県内	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	初めてきた。開催していることを知っていたので、なんとなく来てみた。 親が伊良部島出身なので、伊良部島のブースや、行ったことのある離島のブースは興味がある。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	橋で繋がった離島には行く。 島ごとに歴史文化の違いや個性があるのが、離島の魅力だと思う。 困ったこととしては、島のお店は閉店が早いこと。結局コンビニなど、島でなくても入手できるものを買っていることが多い。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	よそとは違う、久高島でしかできないことをしたほうがよいと思うが、久高島の歴史文化的な特徴は「神の島」なので、これを活かしたまちづくりとしては、イザイホーを復活させることなのではないか。もちろん、島の人達にその気があればであるが。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	行ったことはある。 「神の島」というイメージがあるが、島に行ってみると島の人が見えないと感じる。この島に住んでいる人が出てこない、生活が見えづらい。
（行ったことがある人） 良かった点は？	地形は面白いと思う。平たくて、畑なども短冊型だ。本島とは違う景色である。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	歩くには広すぎて、車で回るには狭すぎる。自転車は程よいアイテムだが、歩いていけるところ、自転車等を借りたほうがよいところなど、コース分けがあるとよい。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったこと	—

質問	回答メモ
はあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	
その他	―

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1女2（兄弟）
対象者住所	県内	対象者年齢	70代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	毎年来ている。目的は買物と食事。八重山かまぼことかつおぶしは必ず買う。他に赤米、黒米、漬物等。 目当ての離島はない。毎年買うのがかまぼこなので、あえて言えば石垣島。 物産目当てなのは普段は手に入らないから、新鮮だから等。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	数年に１回。 自然、買物、食事が楽しみ。他にゆんたく。理由は普段は離れて暮らしている兄弟が久しぶりに集まる機会だから。 だいたいはレンタカーで回っている。 魅力は、空気がきれい、行ったことがない場所に行くという楽しみ。 情報はテレビから。また友だちと情報交換している。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	働く場所が必要。空き地を野菜工場等にすればいいのでは。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	行ったことがある。 イザイホーの島というイメージがあった。ウエイトリフティングの糸数。
（行ったことがある人） 良かった点は？	いい印象はあまりない。 本土からの一人旅の若い女性に会い、おしゃべりしたり食事をおごったりした。手紙を書いたけど返事がなかったのが残念。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	雑草が生い茂るなど思ったより寂れていた。漁港に船が停泊してなかった。 御嶽があまりきれいではなかった。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	―
その他	―

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内（定年まで県外）	対象者年齢	70代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	過去に１回来たことがあるだけ。 今回はたまたま知ったので買物をしに来た。また、民謡ショーがあるようだったのでそれも期待している。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？	20年ほど前に久高島に行ったことがある。 離島にあまり興味はない。

質問	回答メモ
離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	沖縄の地場のものを食べるような取組が必要。地産地消をすれば離島ももっと光が当たるのでは。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知っている。 神の島。他の離島と違って近くて日帰りできるのはメリット。
（行ったことがある人） 良かった点は？	静か。 海がきれい（東海岸）。 駐車した自転車が倒れたので、神の存在を意識した。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	【20年前の印象】 人がいない。観光客がいない。道が未舗装。見所のマップがない。 クボウウタキに看板が立ってなく、観光客がおしっこなどするのではないかと思った。目印に鳥居など建てたらよいのでは。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	駅にポスターを貼るなどしてもっと知ってもらわないと。同じところをぐるぐる回っていた。ブースの数を減らすなどもう少しわかりやすくしてもらいたい。

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内（出身は県外）	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	初めて来た。友人に誘われて。 目当てはない。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	年に１回程度。 楽しみは食事で、特に肉料理。 魅力は自然環境。 インターネットで情報収集する。 困ったことは、天気が悪いと行くところがない。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	移住ブームなので、移住者を取り込む。久高島は留学制度もあったと思うので、それを広げたらどうか。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	10年ほど前に１回行った。 特に事前のイメージはなかった。 魅力は島へのアクセスがよいところ、歩いて回るにちょうどよい大きさであるところなど。
（行ったことがある人） 良かった点は？	自然と、静かであるところ。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県外（千葉県在住、島根出身）	対象者年齢	40代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	はじめて来た。 目当ては、伊平屋酒造と外の南都酒販。泡盛を買いにきた。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	よく行く。大東島と宮古以外は行った。 島それぞれ違うところがよく、ここで暮らしている様子、生活感を感じる。 情報は、インターネット。 困ったことは、天気。台風で船が出なかった。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	人材の誘致。教育施設を誘致する。 隠岐島（島根県）では、高校をつくって教育する大学生を誘致している。 また、水産業を行い、チルド冷凍など、新しい取り組みをしている。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	久高は日帰りで行ったことがある。 イメージは他の島より、制限された島。 他の島との違いは、竹富島に近いが、より外部を受け付けない。
（行ったことがある人） 良かった点は？	制限された分、御嶽を感じられる。 ウミヘビの乾燥場が楽しかった。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	改善しなくてもいい。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	女1
対象者住所	県内	対象者年齢	40代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	毎年来ている。 目当てのブースは特になく、全体的に見て、いいなぁと思うものがあれば買う。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	離島への旅行は与那国島、久米島、宮古島、石垣島などに行ったことがある。 風景が楽しみ。名所を見ることも楽しみ。 親の実家も離島である。（出身ではない） 魅力は、風景、キレイ。 情報は、インターネット。よく見るのは県の無料Wifiで発信しているもの。また島あっちーは、友人がモニターツアーに行ったと聞いて興味がある。 困ったことは、特にないが、いざという時にコンビニがない。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	地域活性化。 直行便があるなどの行きやすさ。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	行ったことがある。 イメージは、神々しく、おそれおおい島。 他の離島と違うところも同様。

質問	回答メモ
（行ったことがある人） 良かった点は？	そう聞いて行ったからかもしれないが、雰囲気が違う。 やはり、神々しく、一目をおいている。 行って良かったところは、神に近い所、神秘性がある。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	そのままでよい。 変に観光、観光するより。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内	対象者年齢	80代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	昨年も来ている。 目当ては、伊江島のハイビスカスで、離島フェアで買えると聞いてきた。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	県内の離島観光はしたことがない。 離島の魅力は、石垣の西表島、川平湾。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	人口減少は難しいが、若者がとどまるような仕事が大事。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知っている。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	行く機会がなかった。
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県外	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	旅行ついでに初めて立ち寄った。色々と見てみたかった。 情報は、インターネットで日付とイベントで調べたらヒットした。

質問	回答メモ
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	沖縄の離島観光はしたことがない。 国内だと与論島に行ったことがあり、海、ゆったりとした時間と雰囲気が魅力である。 情報は、あまり調べたことがない。 離島観光で困ったことは、別にない。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	リゾート化すれば、若い人が集まり、何か活動する。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知らない。 ブースの印象は、パッと見た感じ堅そう。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	沖縄自体の離島へ行ったことがない。
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	女1（子連れ）
対象者住所	県外（出身は県内）	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	２回目。目当てのブースは、伊是名島の「お米プリン」と玄米。昨年お菓子が美味しかったが、買い損ねたため。父からは、お酢（どこのブースか不明）を頼まれている。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	離島旅行は、結婚前によく行っていたが、現在は県外で暮らしているため行っていない。楽しみは、海と食べ物で、土地の雰囲気も魅力がある。 情報は、インターネットが主で、離島フェアなどで気になるパンフレットも見ている。観光で困ったことは、道が狭くて、レンタカーだと不安。また、ご飯がないことがあるので前もって調べている。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	離島は本土の人が多いイメージだが、移住しても、そこで働くのが大変そうで、自分には勇気がわかない。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知っているが、行ったことがない。 霊感があり、神聖な場所なので足を踏み入れてはいけないようなイメージがある。 他の離島との違いは、神秘性。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	行ってみたいと思ったことはある。 自分の中で、神高い場所なので、どんな空気なのか、伝統や歴史なども知りたい。
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内	対象者年齢	40代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	毎年来る。 目当ては、宮古島の決まったメーカーの生り節。宮古島へ行ったときに食べて、美味しかったから。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	離島は、宮古島と石垣島、伊江島へは観光目的でよく行く。 一泊二日で行けて、レンタカーで周れて、ゆっくりでき、飛行機の便も多いのが魅力。 情報は、インターネットか観光マップ（離島フェアなど）で入手する。 困ったことは、台風で缶詰めになってしまうこと。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	県外の人の移住、仕事や産業。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知っているが、行ったことがない。 久高島は観光のイメージがない。 他の離島との違いは「神の島」であることで、一度は行こうと思っている。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	行っていない理由は、観光のイメージがないから。
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	男1
対象者住所	県内	対象者年齢	50代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	毎年来ている。 目当てのブースは、部下が出店している「伊江島」。 オススメは、宮古島、八重山のブース。理由は事業を始めた頃に参考にした、八重山広め隊が活発に活動しているため。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	よく行く。久米島、宮古島、伊是名島、伊平屋島など。行ったことがないのは、南北大東島くらい。 情報は、仕事で事業展開をしているため、仲間から入ってくる。 困ることは、そんなもんだろうと思うが、宿があるかないか。
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	島の魅力を、行政中心に広めた方がよい。 親も、せっかく大学へ進学させたので、離島に戻ってきて働く必要はないという考えがあるようなので、意識改革が必要。 若者へ魅力発信・PR。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	知っている。 イメージは、ちょっと変わっている。 昔ながらの文化を学びながら観光しないと、地元に迷惑がかかる。そのため、看板での呼びかけなどが大事だと思う。

質問	回答メモ
（行ったことがある人） 良かった点は？	人間の温かみがある。声かけなど、お客さんに不自由をさせない努力をしている。
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	土地自体が島のものだから、貝などを拾うと、後からダメだと注意されることがある。注意事項などを説明する場所が必要。
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	—
その他	—

調査日	平成29年11月17日（金）	対象者性別	女1
対象者住所	県内（出身は県外）	対象者年齢	30代

質問	回答メモ
離島フェアにはよく来るか等	離島フェアへは２回目。 目当てのブースはないが、泡盛が目的。全部周って試飲する。フェアでしか販売されない限定ものがあり、今回は産業まつりも中止になったので、そのときの限定もあるはずだと思い来た。
沖縄県の離島には旅行するか/離島観光のときの楽しみや、離島の魅力は？ 離島観光の情報入手について 離島観光で困ったことなど	そんなに多くはないが、この間は伊是名島へ行った。他には久米島、与那国島、石垣島に行った。 目的は、泡盛と海。 情報収集は主にインターネット。 困ったことは、島内での移動手段がない。（レンタカー）
離島の人口減少の歯止めのために、何をしたらよいか？	住んでいる人を増やすには、まず観光に力をいれて、観光客を定住へつなげること。
久高島は知っているか？/行ったことはあるか？/久高島のイメージ 他の離島と違うところは？	行ったことはない。 イメージは「神の島」。観光客が増えて、入ってはいけない所が立入禁止になると聞いたので、その前に行きたい。
（行ったことがある人） 良かった点は？	—
（行ったことがある人） 良くなかった点・改善点は？	—
（行ったことがない人） 久高島に行ってみたいと思ったことはあるか？/なぜ今まで行かなかったか？	行ってみたい。 これまで行かなかった理由は特にないが、タイミングがなかった。
その他	—

２. 全国の仮想ターゲット層・地域おこし人材の意見

（１）調査概要

久高島の観光地域づくりを進めていくにあたって、顧客ターゲットになり得る層にニーズ調査を実施し、久高島で今後行う取組の参考となる情報として蓄積する。

今回の調査では、顧客ターゲットとなり得る層として、旅好きで離島や中山間地域での地域資源を活かした観光、現地の人と交流を伴う観光、地域づくりへの関わり等へ興味関心の高い層に対して、聞き取り調査とアンケート調査を平行して実施し、合計34件の回答を得た。

【質問内容】

- 性別･年齢･居住地･職業
- 久高島を知っていますか
- 久高島にどのようなイメージを持っていますか
- 久高島へ行ったことがありますか
- 久高島に行って良かったところ･好きなところ
- 久高島に行ってあまり印象が良くないところ･改善点
- 久高島の観光地域づくりについて強みになりそうな点
- 久高島の観光地域づくりについて弱みになりそうな点
- 久高島の観光についてどのような可能性を感じるか
- 久高島の魅力を多くの人に届けるためにどんな手法が効果的か
- 田舎や離島･過疎地域と関わることについて魅力を感じるか
- 何度も足を運びたいと思う地域はどんな場所か
- これまでに田舎や離島･過疎地域で印象的な体験はあるか、またその理由
- 離島や過疎地域が持続可能であるためにどんなことが必要だと思うか
- その他、久高島に関するアドバイス、ご意見など

※調査記録表中の表現は上記を簡略化している。

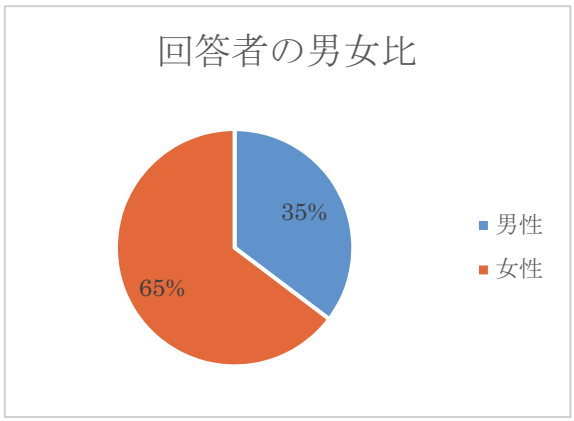
（２）調査結果概要

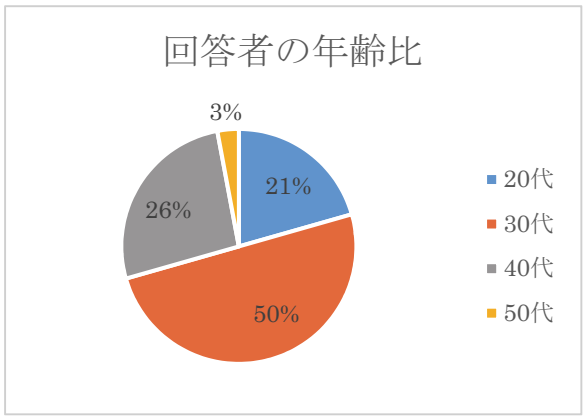
①回答者の属性等

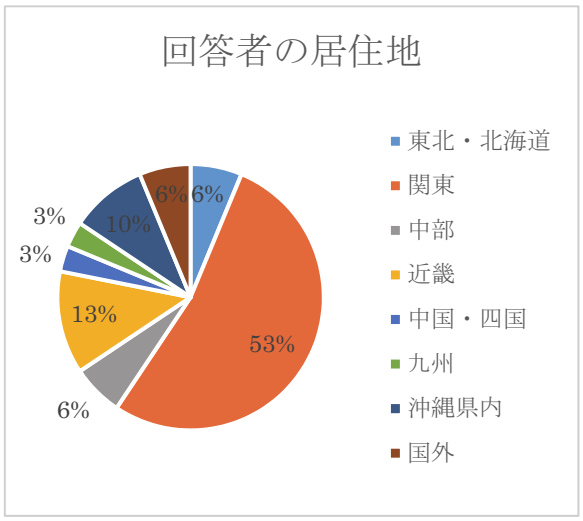
回答者のうち、約３分の１が男性、３分の２が女性となっている。年齢別では、30代が半数を占め、次いで40代が26%、20代が21%となっている。

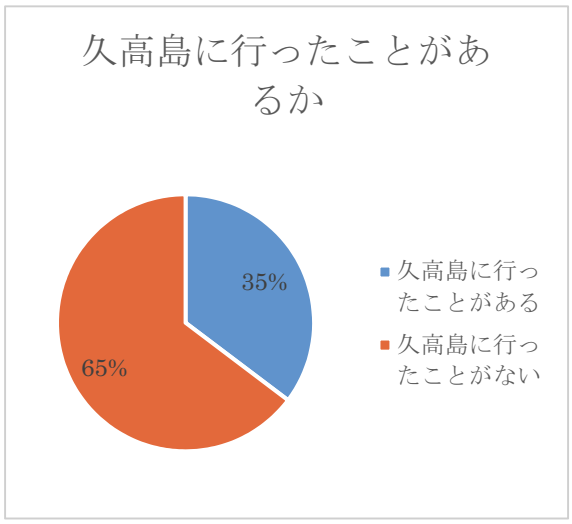
居住地別では、関東地方が53%で一番多く、次いで近畿地方13%、沖縄県内10%、中部地方が６％となっている。また、回答者のうち65%が久高島を知っており（「名前は聞いたことがある」含む)、35%が久高島に行ったことがある人であった。

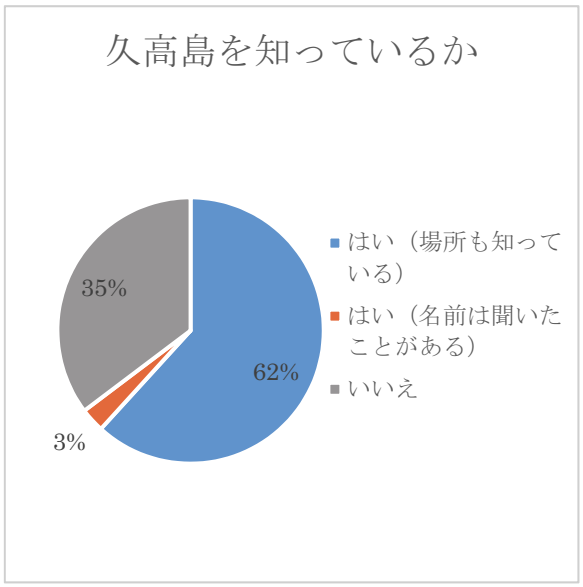
図　回答者の属性等


回答者の男女比
35%
65%
男性
女性


回答者の年齢比
3%
21%
26%
50%
20代
30代
40代
50代


回答者の居住地
6%
6%
3%
10%
3%
13%
53%
6%
東北・北海道
関東
中部
近畿
中国・四国
九州
沖縄県内
国外


久高島に行ったことがあるか
35%
65%
久高島に行ったことがある
久高島に行ったことがない


久高島を知っているか
35%
62%
3%
はい（場所も知っている）
はい（名前は聞いたことがある）
いいえ

②久高島のイメージについて

久高島のイメージをあらわす言葉としては、「神の島」「聖地」「琉球の原風景」「手つかずの自然」といったキーワードがみられた。やはり、イメージとして強いワードは「神の島」「聖地」といったものになるが、単にスピリチュアルスポットであるということよりも、琉球発祥の地であるという歴史的な部分に多くの人が関心をもっていた。

③久高島観光において可能性を感じる点

「神の島」、「聖地」であることに可能性を感じている人が多かった。前述のとおり歴史的な背景を踏まえて知りたいという回答が多く、ガイドを伴ってのツアーについて可能性が感じられるとの意見が多かった。神の島、聖地であるということは、他の地域にはない唯一の強みなので、これをもっと活かせるとよいという回答も多かった。

また、沖縄本島からアクセスのよい離島として、離島の非日常性や、古い集落の雰囲気があることは強みになるという意見も多くの人が回答していた。

④久高島観光において課題となりそうな点

インフラ面の課題として、ふらっと立ち寄れて休憩できる場所やトイレが少ないということが挙げられた。また、島での体験として現地の人との交流を魅力として感じている人が多い一方で、実際に交流できる機会やプログラムがまだまだ少ないのが現状であり、島内で現地の人との関わりや交流を持てる機会が少ないということも課題と考えられる。

ガイドやしっかりとした説明ができる人や場所だけでなく、ふらっと立ち寄れて、気軽に島の人と交流できるような場があるとよいと考えられる。

情報発信については、島の魅力を伝える情報だけでなく、具体的な情報（アクセス・宿泊・食事・行くべきスポットなど）に関する発信の必要性について指摘するコメントが見られた。

⑤その他

調査では、田舎や離島・過疎地域と関わることについて魅力や、印象的な体験等についても質問した。特に久高島でも参考になると考えられるポイントについて、以下に整理する。

- 「島暮らし」の一部を体験できることに魅力を感じる。土地に根付いた暮らしは様々なので、どういった暮らしをしているのか知りたくなる。
- 神聖で神秘的な空間に身をおくと心が浄化するような気がするので、何度も足を運びたくなる。
- 地元の人と会って話すことが楽しい。その土地のことを知っている人から色々な話を聞けると、その土地のことを深く知ることができ、近く感じられる。
- Instagram やブログで紹介しやすいところ。自分以外の誰かに見せたい絶景がある。自分以外の誰かに話したくなる印象的な体験ができる。
- 好きな人、また会いたいと思う人がいる土地にまた訪れたい。

（３）調査記録

次ページから掲載。

性別	男性	年齢	50
居住地	兵庫県	職業	自営業
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	久高島の強みになりそうなところは、海が近いことや静かな生活が送れそうなところが挙げられると思う。都市部に生活していて島を訪れる理由は、街の喧騒から逃れたいと思っている人は少なくないので、そのターゲットに向けたＰＲは功を奏しそう。海でのアクティビティも魅力があり、どんな体験かできるのかというところも具体的に伝えると期待感は高まりそうに思う。		
久高島の観光地域づくりの弱み	久高島の弱みとして考えられるのは、資料にあるように閉鎖的な人間関係があるという部分から訪問者に対して十分な受け入れ態勢が整えられにくいというところがありそうに思う。また施設や店舗などもインフラ整備も十分でないところがある部分もウィークポイントになる場合があるかもしれない。訪問者を増やしたいのであれば、それを受け入れる体制を整えて「いつでもお越しください、満足する滞在をご提供します、さぁどうぞ」という意気込みはあって欲しいとは思う。		
久高島の観光の転移可能性	可能性で考えられるのは、自然のなかにある環境。海での釣り、ダイビング、スイミング、船舶操縦などジャンルは豊富にあるのでこれらのアクティビティを活用することが挙げられる。単に「釣りができますよ」というのではなく、「ビギナー向けグレ釣り一日コース」のようなガイドがついて案内してくれるコースが多彩に用意してあると具体的に楽しみ方が想像できて参加しやすくなるのではないか。その他の島での植物や昆虫動物などの観察や自然食体験なども楽しそう。パワースポットとしてだけで売り込んでしまうと、これらの自然に対する興味を持つ人たちの訪問は少なくなるかもしれない。あえてパワースポットというワードは使わずにアピールしてみるのも手だと思う。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	島の魅力を伝える手法は、まずネットでの情報発信は筆頭として必要。ツイッター、インスタ、YouTube、FBページなどを使い更新頻度を高くしてアピールすることが大事。もしこれらの情報発信する人材がいないのであれば、希望者を島外から募集して定期的に訪問してもらいその都度に情報発信を即日してもらうなどの体制を整えておくというのもいいかもしれない。アンバサダー制度などを立ち上げておけば、協力者は必ず見つかるはず。人材は募集することで見つけられるので、まずは魅力を伝えるためのコンセプトを固めておくことが大事かと思う。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。都市部にはない生活が体験できそうな部分。		
何度も行きたい場所は	佐世保市		
田舎や離島等での印象的な体験	アメリカに住んでいた時に人口80人程度のミシシッピ川沿いの町があって好きな場所だった。小さいカフェがあってそこにいくか川を眺めに行く、夏にはアートフェスティバルがある。そんな程度の街でも気に入ると何度でも足を運んだ経験がある。		
持続可能であるために必要なこと	離島の持続可能という質問だが、なによりも一定の収入になる活動を継続させることが柱になると思う。それが観光であれば、これまでアンケートに答えたこともヒントのひとつになるはず。それ以外に島民の数を増やすことも大事なのだが、実際に離島に永住するという決断は簡単にはできない人が多いはず。そこで一か月単位で一年未満など短期で島に住んでもらう制度があると人の往来は増えるのではないか。ネットがつながっていれば仕事になる職種の人たちであれば、少しの間であれば島で生活しながら過ごしてみたいと思う人も少なくないだろう。自分もこのような短期滞在ができる制度があれば試してみたい。そのためには荷物ひとつで生活できるように家財道具が揃ったレンタル住居などがあるといいと思う。その中にはひょっとしたら永住や長期滞在者が生まれるかもしれない。		
アドバイス、ご意見など	もし提案したアンバサダー制度などを実施するのであれば、私はぜひ協力したいです。そのときにはぜひお声がけください、なにかしらのちからにはなれると思います。		

性別	男性	年齢	21
居住地	三重県	職業	アルバイト
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	沖縄・離島という日本の他地域とくらべて大きく違う文化の歴史はとても強みになると思います。「神の島」としての歴史だけでなく、風葬の葬送歌や地割制度なども十分に売り出していけるポイントかと思います。 沖縄という立地柄、離島に対するハードルが下がっており比較的アクセスも良いと思われるので、観光客を迎え入れる設備環境さえあれば観光客は訪れると思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	聖地であるが故の立入禁止の多さ、一部の地域住民が観光客をよく思ってない点（資料で読んだだけですので程度は把握できませんが）でしょうか。 この2点と離島という独特の雰囲気が重なって、ちょっと怖いから観光するのをやめておこう、とか子供連れだし避けよう、となっている可能性は否めないかと思います。 また、観光の目的が「文化や歴史を学ぶ」という方向性以外あまり期待できないという点もあり、リゾート目的で沖縄を訪れている観光客の人は久高島を訪れようとしないのではないかと思います。 ただ、沖縄を何度も訪れているリピーターの人や、長期滞在でリゾートを楽しむという人々にはアクセント的に選んでもらえる可能性はあると思うので、そういった層にアプローチしてみるのもいいのではないでしょうか。		
久高島の観光の転移可能性	島の歴史や文化についてはかなり高いポテンシャルを持っていると思います。地割の制度的に厳しいと思いますが、高級な小規模ホテルを誘致し、宿泊者に島独自の文化や歴史を体験してもらえるプランを組むというのも面白いと思います。高級宿を利用する人は人と違った体験が出来ることは非常に喜びますし、本島への船による送迎なんかも付いていればある程度の料金になっても泊まりたいという人は出てくるはずです。また基本的にそういった富裕層のほうがマナーはいいと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	不特定多数に呼びかけるのではなく、質の高い観光客を呼んだほうが島内の理解も得られていいかもしれません。「神の島」や「パワースポット」といった表面的な文言で観光客を集めるのではなく、文化や歴史に深く興味のある人を集めて島のことを知ってもらい、その人を伝って久高島のことを知る人が増えていくといった流れのほうがマナー良く、島のことを理解してくれる観光客が増えるのではないかなと思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	いいえ。自分自身過疎地域に住んでおり、田舎で生活しておりますので「田舎」や「自然」を売りにして観光客を呼び集めているところはあまり魅力に感じません。あまりに自然すぎず、ほどよく生活の流れ（通勤や通学など）が見える地域のほうが魅力的に感じます。		
何度も行きたい場所は	香川県高松市、新潟県十日町市、愛媛県松山市		
田舎や離島等での印象的な体験	瀬戸内国際芸術祭の時に瀬戸内の離島（小豆島・豊島・直島・犬島）に行きましたが、どこも島内の案内に関して徹底していました。大規模なイベント期間中というのもありましたが、ベネッセが全体を管理しているという強みを感じました。		
持続可能であるために必要なこと	その地域に現住している高齢者の方と付き合う時間はおそらく短いです。その代に理解が得られても、次の代の人間が、島で起きていることを知っていなければ事態はいい方向に進んでいかないと思います。なので、現時点で島に住んでいる人より、その人の次の代へのアプローチをしっかりしたほうがいいと思います。住民の理解を得ながらゆっくりと観光地化していくのが一番ではないでしょうか。		
アドバイス、ご意見など	文化や人口など少し違いはありますが、香川県の大島が離島として面白い例ではないかなと思います。		

性別	女性	年齢	44
居住地	東京都	職業	自営業
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	観光地化されておらず、素朴なところ		
良くない点・改善点	レンタルサイクルを借りに行き、なかなかひとがでてこないなど、観光客をあまり歓迎していないような印象を受けました。それも「観光地化」されていないメリットともとれますが。		
久高島の観光地域づくりの強み	昔ながらの慣習、習俗が残っている点。久高島特産イラブー汁やニガナ和えなど、ここにしかない食。御嶽などパワースポットが島内に点在していること。数々の神事。自転車でまわれるコンパクトさ。観光地化してない素朴なビーチ（浜）。草に囲まれた舗装されていない道。島の暮らしを守り続けるおじい、おばあの存在。石垣に守られた集落。那覇から日帰りできる交通の便のよさ。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民のなかに、観光地化を望んでいない方がいらっしゃること。よくも悪くも濃厚な人間関係。離島のマイペースさ。「祈り」「聖地」に魅力を感じますが「見える化」が厳しかったり、抵抗があるであろうこと。観光地化することで、素朴さがなくなるであろうこと。那覇からの日帰りが可能なので、宿泊にともなう金銭が落ちない。		
久高島の観光の転移可能性	那覇から日帰りでも行くことのできる「神の島」。観光地化していないがゆえの、素っ気なさ。昔ながらの暮らしが残っている点。今も神様につながる年間行事を大切にしている点。安易な開発はせずに、島の伝統を守ってきたおじい、おばあの存在。石垣に囲まれた集落は魅力的で、集落内の民家に宿泊できたらよいのでは（抵抗する方もいるでしょうが）。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	久高島で暮す方達が、自らSNSを使い情報発信をしてみては？伝える情報のコントロールができますし、意図せぬとらえられかたが防げます。「島のものを島外に持ち出さないこと」などの注意点を必ずつけ（かえって神聖さをアピールすることにもなる）、そうしたことを受入れる方のみ来島してもらうことに気を配ったほうがよいかも知れません。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。ひととの濃厚な関係、自給自足的な考えなど、都会で生まれ育った人間にはない発想があるから。		
何度も行きたい場所は	埼玉県の秩父。住んでいる東京から近く、食べ物がおいしいし、季節ごとに風景が変わるから。		
田舎や離島等での印象的な体験	沖縄の渡名喜島（となきじま）。民家を改装した赤瓦の宿に宿泊しました。早朝に、道路をお掃除する方が多い、など「島暮らし」の一部を感じることができました。		
持続可能であるために必要なこと	その土地の歴史を振り返り、守るべき「何か」に気づくこと。その「何か」を、若い人たちに伝えること。そして、今の時代に受入れられるカタチに変えていくこと。若い人たちが、そこで生きていきたい、と思える場所になること。若い人たちが、納税者になる仕組みがあること。自給自足が厳しいなら、周囲から人を受入れる環境をつくること。		
アドバイス、ご意見など	観光地化せずに、持続してほしいです。		

性別	女性	年齢	45
居住地	東京都	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神聖な場所、手つかずの自然が残る島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	のどか、自転車で島内1周できる		
良くない点・改善点	港の近くにしかトイレがない		
久高島の観光地域づくりの強み	本島からフェリーで20分という近さであり、1日何便か往復しているため行きやすい島であること。島全体がパワースポットとして多くの観光客に認識されていること。パワースポットに興味がある人であれば、本島側の港近くにある斎場御嶽とセットで行きたい場所であること。海水浴に適したビーチがあり、親子連れでも楽しめること。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民の少子高齢化と観光事業に消極的な点。島の人々にとって神聖な場所を汚すこと、開発することは悪という認識があり、仮に観光地化したとしても高齢者は快く受け入れないだろうと思います。地割制である点において、何らか施設を作るにも島民の説得に苦労する。小さい島では、何かあるとすぐ島全体に悪い噂が広まるため慎重に進めないと失敗すると思います。		
久高島の観光の転移可能性	島での足となる自転車に乗れない高齢者や子連れなどは、港近くのビーチ、食堂、東屋くらいしか行く場所が無い。また雨が降っている日だと自転車も辛い。こういう観光客がもっと楽しめるようにフェリーが着く時間に合わせ、島内観光用のワゴン車を出すとか、壬の日に神が馬にまたがって島を廻った伝説を応用して馬車を出すなど、観光客向けのサービスがまだまだ不十分なので、できることはたくさんあると思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	テレビや雑誌で取り上げられるのが手っ取り早いとは思いますが、観光事業に消極的な島民にとっては、急に観光客が押し寄せてきては逆に迷惑になると思います。それであれば、集客に重きを置かず、島の特産品を使って、たとえば島で採れるモズクにイラブーの粉を混ぜたタレを付けて、元気が出るモズクのような気軽にお土産に買えそうなものを作って空港で売れば良いと思います。イラブーの粉末が練り込まれた「イラブーきんそこう」があるそうですが、知名度が低すぎます。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。東京に住んでいるので、都会の喧騒から離れてのんびり静かに過ごしたいときに離島は居心地が良いです。		
何度も行きたい場所は	久高島と同じように何も無い島ですが、ケラマの阿嘉島に毎年行っています。民宿やダイビングサービスの人々が温かく、何もなくても充実感が得られる場所です。（日帰りだとここまでの充実感は無いかもしれません）		
田舎や離島等での印象的な体験	離島で初めて原付バイクを運転した。免許を取得して約25年運転したことが無かったが、人も車もほとんどいない離島だから気兼ねなく練習できた。		
持続可能であるために必要なこと	島外からの移住者をよそ者扱いする傾向があり、新しいことを素直に受け入れようとしない島民の意識改革がまずは必要だと思います。また、島に学校が無いがゆえに、若者が本島に出てしまい、島に戻って来ないケースも多い。後継者を探そうにも、賃金水準が安すぎて担い手がいない。何か継続的に売れる特産品を作るか、観光客向けのサービス向上、英語ができる人を増やすなどの努力が必要だと思います。		
アドバイス、ご意見など	久高島で真夏に自転車を借りて観光する場合は、帽子、水分、日焼け対策が必須です。		

性別	女性	年齢	43
居住地	埼玉県	職業	個人事業主のライター
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	沖縄本島の南東に浮かぶ小さな島で、琉球王国の聖地。世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つにある斎場御嶽とセットで楽しめる場所。一方で、昔ながらの小さな島で自然以外何もないので日帰り程度の観光で十分なイメージ		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	平坦な島なのでレンタサイクリングで十分周れたところ。海がきれいで海風が気持ちよく、のんびりした雰囲気が気持ちをリラックスさせてくれる		
良くない点・改善点	わたしが訪れたのはもう20年近く前。当時は案内標識も不足気味で現状と比較できないためもう改善されているかもしれないですが、いかに小さな島とはいえ土地勘が無い者にとっては迷いやすいので、案内標識、説明ボードなどが充実していると良いと思いました。当時は日差しを避けて休憩する場所が少なく、当然自動販売機やお店も少ないため、喉が渇いたとき、ちょっと小腹が空いたときに立ち寄れる場所があると便利だと思いました。		
久高島の観光地域づくりの強み	もちろん、“琉球王国の聖地・神の島”ということに尽きると思います。聖地巡礼がブームなように、また伊勢神宮や出雲、高千穂、あるいは最近世界遺産に登録された神宿る島・沖ノ島のように、どこか神聖不可侵で近寄りがたい雰囲気を持った土地、神話が宿る土地は、特に日本人にとっては強く惹かれるものがあります。また手つかずゆえに自然のままの海が美しいところ、島が平坦で個人でも周りやすいところなどは強みだと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	聖地であるがゆえに制限が多く、立入禁止区域が多いのはやはりどうしても弱みだと思います。それは島の禁忌であり、決して犯してはならない事だと分かっていても観光資源につなげにくい点は魅力として欠けてしまいます。また「日帰り程度の場所」という認識が強いため、観光客の滞在時間が短く、その分収益性も落ちると思います。民宿が少なくお食事処やお土産処など立ち寄る場所が少ないという点は観光客がお金を落とす場所が少ないという意味で島側にとっては機会損失だと思います。ただ、事業拡張をするにしても高齢化、人材不足、何より「島民間での危機意識の差」というのが深刻な問題であると思うので、そこをどう改善・解決していくかが肝だ思います。		
久高島の観光の転移可能性	他の島にはない、本当の意味での「聖地」あるいは「神の島」というパワーを感じます。そこを活かした観光コンテンツに可能性を感じます。 もちろん、手つかずの自然と島時間の流れる非日常空間としての良さもありますが、案外それはどこにでもあり、わざわざ久高島へ出かける強い要素にはならない気がします。シュノーケリングが手軽にできるとかカメの産卵が見られるとか特別なことがあれば海のアピールも可能性として広がりますが… 禁忌の部分が現代に応じて多少緩和されればもう少しパワースポットとしての観光コンテンツの幅が広がりそうな気がします（まずは島住民の理解という難問があるかもしれませんが）。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	今はスマホやネットで手軽に情報が入る時代です。現代の流れに沿って、あらゆるSNSや旅メディアを駆使して情報発信することが必要だと考えます。関連サイトをザッと拝見した感じでは、久高島専用アカウントでのFacebookやinstagram、Twitterはないとお見受けします。専任者をつけて定期的に発信し地道ながらもファンを増やす努力が必要だと思います（あるいはフォロワーをお金で買うこともできると思いますが）。SNSのインフルエンサーなどに島旅をしてもらい情報発信してもらうなどの手法もあります。また、可能であれば、英語や多言語での情報発信を心がけたら世界にマーケットが開けます。河内 藤園のように世界の人に認めてもらって、日本全国に人気が広まったという事例もあります。 沖縄の交通各社や旅行系メディアによるタイアップ企画などは行われているのでしょうか。そういうアプローチもありだと思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。ネットと電気・水道がつながるのであれば、Webで仕事をする分にはのんびりした田舎や離島は住んでみたいと思うことがあります。自給自足の生活にあこがれもあります。ただ、どうしてもネット環境だけは譲れないので、移住となると躊躇してしまうことが多いです。		
何度も行きたい場所は	海・山・川・自然が豊富で民族文化が面白く、ご当地食が美味しく、人々のホスピタリティーが素晴らしい土地はリピートしたくなります。便利さ、豪華さは、自分にとってはあまり重要ではありません。具体的には、この前訪れた座間味島、与論島などはリピートしてみたいです。冬はホエールウォッチング、夏はダイビング、食も美味しく人も優しいので。海外ではこの前訪れたベトナム・ダナンはいいところだと思います。現在進行形でビーチリゾート開発中ですが、		

	昔ながらの風景も残ってご当地食や安く美味しく、海はキレイでアクティビティも豊富、人がとても優しかった。 聖域、という意味では屋久島、高千穂、出雲、熊野などは何度も足を運びたくなります。神聖で神秘的な空間に身を置くと心が浄化されるような気がするからです。
田舎や離島等での印象的な体験	昔、北海道の礼文島に行った際宿泊したホステルでは、宿泊客参加型の歌え踊れのお祭り騒ぎが印象的でした。地元も客も一体になって騒いでいるのを見るとほほえましかったのを覚えています。また一人で歩いていると声をかけられることも多く、その際、親切にご飯やデザート、果物をご馳走してくれたり、自営の工場などを見せてくれたりとサプライズの出来事がありがたかった記憶があります。やはり地元の人に話しかけられたり、貴重なお話を聞けたりするのはとても嬉しいです。
持続可能であるために必要なこと	月並みですが、後継者育成だと思います。また、現代の流れに応じた若い発想力、機動力なども重要だと思います。伝統を守ることは確かに重要です。でも古い考えに固執するあまりそれを守ることすらできなくなったら本末転倒です。どこで折り合いをつけるか、島の文化を風化させたくなければ、ある程度の妥協点と共通理解のもとで進める地域活性化は重要でしょう。もちろん自分たちでやるには人も資金も限界があるので、県や地方自治体なども巻き込んだ取り組みが重要だと考えます。
アドバイス、ご意見など	久高島がこんな危機に瀕しているとは正直驚きました。世界遺産の斎場御嶽とセットのようなものなので、観光客の流れはあると思ったのですが、受け皿とする人材が深刻な問題に直面していたとは。 12年ごとの秘祭も執り行う者が不在になったため現在は行われていないとのこと、しかし映画が残っているのであれば祭りを復活させる機運はないのでしょうか。観光客の呼び水にしにくいのであれば復活の意義に欠けますが、禁忌の場所にしても、宮司や地域住民の理解を得るなどして鑑賞範囲を広げられたら良いと思います。どこかの村では、古い禁忌の場所も宮司が亡くなったことで地元住民相談のうえ参詣範囲を拡張したという話を聞いたことがあります（観光地ではなかったですが）。そうすると、昔からの言い伝えに固執して頭から”できない”と思い込んでいることもあるのではと思ってしまいます。 高齢化が進み、現代のネット社会についていけない事情があるのはお察しします。そこは行政などがサポートして、あるいは若手に運営を任せて、現代の事情に合わせてたPRの仕方を展開するのが効果的です。 あとインフラ整備もある程度は重要だと思います。景観を乱さない範囲で、分かりやすい標識（現在はQRコードで観光案内を表示させるなど流行ってますし有料の音声ガイダンス機器も有効）、旅人にとってはリアルタイムに発信ができるWiFiスポットなどがあると非常にありがたいです。それから散策の途中に青空市場や自販機があるのもありがたいですし、農家の料理が食べられるスポットが点在しているのも回遊効果が上がります。 素人考えで規制上など法的問題などを無視した要望ですが、旅人目線では以上のようなことを考えます。 神の島・久高島の今後の発展を心より祈念します。

性別	女性	年齢	31
居住地	沖縄県	職業	カメラマン・ライター
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	聖地、御嶽がたくさんあるイメージ		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	起伏が少なく見所がたくさんあるのでサイクリングが楽しめる、静かでのんびりできる、浄化できる感じがする		
良くない点・改善点	ごはんを食べる場所を探すのに苦労しました、定休日などもあるので船の近くでお弁当やおにぎりなど買えればありがたいです		
久高島の観光地域づくりの強み	沖縄随一のパワースポット・聖地であること。こじんまりした島なので自転車で楽に廻れること。ビーチや岬、クバの森、古民家など、沖縄の原風景のような景色が広がっていて見所がたくさんあるところ。斎場御嶽から近く併せて観光ができること。イラブー汁という内地ではなかなか食べられない滋養強壮のパワーフードが食べられること。		

久高島の観光地域づくりの弱み	発展や観光促進を望んでいない島民の方がたくさんいるので（実際行った時にそれを感じました）他の島と比べてウェルカムな感じがしない。レストランやカフェが少なく、休憩できる場所がない。売店も少ないので気軽に食べられる場所がない。アクティビティやツアーなどの案内が少ない。船に乗ればすぐ着くのに、「離島」ということで遠そうなイメージがある。
久高島の観光の転移可能性	自然の包容力を感じられるところ。岬やロマンスロードではダイナミックな地形が見られるし、立派なガジュマルや、珍しい植物なども気軽に見られるところ。神事を大切にしていて昔からの伝統を守っているところ。揺るぎなさを感じます。斎場御嶽とセットのツアーで売っていけそう。聖地でとれる農産物や加工品ってなかなか買えるものではないのでフェリー乗り場の前で直売所やマルシェとかやってくれたら買いたい・・！猫が多い猫の島としてSNSでアピールもできそう。
久高島の魅力を届ける効果的な手法	インスタやFBの投稿で行き先を決める人も多いと思うのでSNSの強化。でも観光地化されていない、守られている聖地というところも久高島の魅力だと思うので「誰でもかれでも観光にきて！」という感じではなく、観光客にも自然や慣習、島の人に敬意を持って欲しい。そのためには島の人と直接ふれあうことができればと思う。おばあに島でとれた野菜や薬草で料理や酵素ジュース作りなどを教えてもらえる体験や、島に伝わる神話や御嶽などの話を聞かせてもらいながらぜんざいを食べるなど。（これやったら絶対SNS投稿したくなる）久高島の自然の中でヨガも気持ち良さそう。朝日ヨガ、夕日ヨガ、星空ヨガなどのイベントがあれば宿泊にも繋がりそう（実際にあったら行きたいです）イラブー汁は見た目に抵抗がある人が多いと思うので、メインの一品ではなく、少ない量で気軽に食べらたりすると嬉しい。あと、島の食材を使った料理が食べられる古民家カフェがあればといつも思います・・。「聖地」や「パワースポット」として有名だけど実際「何がすごいのか」「何の聖地なのか」をちゃんと知っている観光客は少ないと思うので斎場御嶽に入る前に見るVTRのような久高島の説明&守るべきマナーについてのVTRを船や待合室で流してほしい。（外国語付きで）
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。自然が多い場所が多くて癒されるし、田舎の人たちは土地の繋がりが深く、あたたかいなぁという印象があり、子供ができたら田舎に移住したい。
何度も行きたい場所は	伊平屋島（行くのが少々不便ですが、とにかく島の人たちがあたたかくて面倒見がよく、何回行っても違う魅力を発見できるので飽きない）
田舎や離島等での印象的な体験	伊平屋島の豊年祭に偶然参加したのですがすぐ仲間に入れてくれておもてなししてくれ、忘れられない体験になりました。また、国頭村ヨナ地区で行われているクリスマスパーティに参加したところ、過疎地域ですが東京からも学生が手伝いに来ていたり、いろんな場所から人が集まっていて、ヨナの人たちの集落を盛り上げようという気合いに驚かされました。また、沖縄移住前に今帰仁村の豊年祭を見たときに「これはすごい・・！」と思いましたがそういった島の伝統行事に観光客を受け入れてもらうのって難しいのでしょうか？一度参加させてもらったらその土地がすごく好きになると思うのですが。
持続可能であるために必要なこと	島民の方たちが連携して島を盛り上げていこうという気持ちや行動。お金をかけなくても内地の私たちからしたら、魅力的なアクティビティってたくさんあるし、ただそれを観光客として行ったときに体験する術がないので参加できたら嬉しい。伊平屋島は民泊を行なっているところもたくさんあって島の人と仲良くなりやすいし、それが高校生の修学旅行にも繋がっているそうです。
アドバイス、ご意見など	久高島は心からリラックスできるいい場所だと思いますが島民の方の「観光地化したくない」という気持ちもわかります。観光客のマナーの悪さで立ち入り禁止になってしまう場所などを見ていると「久高島はこんな風になってほしくない」とも思います。なので外国語でも注意喚起を徹底するなどしたほうがいいと思います。また、イラブーやムーチーなど、沖縄の人からしたら当たり前にわかることも観光客からしたら「？」なのでわかりやすく説明があったり島のパンフレットにも色々と情報が載っているとより楽しめると思います！ ちなみにこちらの記事で久高島を少し紹介しています→https://travel.spot-app.jp/okinawa_suzukisarasa/ また近々内地から来る友達と行こうと思っていますのでインスタなどで宣伝します♪久高島の魅力が広がり、島の人たちも楽しめるような形で盛り上がっていくことを心よりお祈りしております！

性別	女性	年齢	27
居住地	東京	職業	会社員
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	他の離島とは雰囲気が異なり、久高島は島全体が「聖域」となっており、今でも島の人たちでその聖域が守られている点が魅力的だと感じた。また、その聖域を自転車や歩いて気軽に回れて、パワースポット巡りなどがしやすい点が良い点だと思った。海もまた美しく、パワースポット巡りだけではない楽しみ方ができる点が良いと思った。		
久高島の観光地域づくりの弱み	食べて見たい特産品がないこと お土産も買いづらいこと パワースポットではあるものの繰り返し行く理由がないこと あまり知られていなく、沖縄に行ってわざわざ訪れるハードルが高いこと 他の島から離れているため、さまざまな島めぐりがしづらいこと		
久高島の観光の転移可能性	観光開発が進んでいないが、アクセスも悪くなく、昔の原風景が残っている点。 島全体の危機感の浸透や方向性の統一などができていない状態での現在であること。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	THE scene Hotel のフォロ割などのように、企画自体に話題性があり、かつ影響力のある人が自ら来る理由をつくること。 そこでしか得られない体験をつくること。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。離島が特に好きで、よく訪れるので、なにか自分も還元できたらと思うため。		
何度も行きたい場所は	京都 街全体の雰囲気が統一されているにもかかわらず、新しいものと古いものがうまくコラボレーションしていると感じるため。何度訪れても新たな発見がある場所だと思う。		
田舎や離島等での印象的な体験	民宿の人と宿泊者みんなでご飯を食べて仲良くなったこと。 離島や田舎の人はとても親切にしてくれる人が多く、お客さんとの距離も近いところがとてもよかった。		
持続可能であるために必要なこと	アクセスのよさの担保。 他地域との連携や他組織との連携。例えば、しまぽなどは他の島にも使えるよい仕組みだと感じた。また、島全体で島の良さや発信したいことの統一などをする必要があると感じた。		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	30
居住地	イタリア	職業	学生
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神様の島		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	南城市から船で20分と近いこと、神の島という分かりやすく少し神秘的なイメージがついていること、観光開発がほとんどされず自然や昔ながらの景色がそのまま残っていること、若者たちが中心となって新しい観光の形を作っていっていること。特に、地元の人との交流や生活体験は、ここでしかできないもので得られるものも大きいと感じる。		
久高島の観光地域づくりの弱み	神の島ということが、観光のポイントにもなるが、資料に記載のあるように、過剰に取り上げられすぎて島民の皆さんの気持ちと離れてしまったものになっていること。神、という存在が、気軽に観光と直結しにくいものなのかもしれない。ただ久高島＝神の島というのは、もうイメージとしてついているため、崇高さを保ちながら、観光となるようにしていけたら良いのかと思った。		
久高島の観光の転移可能性	イラブーの燻製が特産、漁業が盛んというのは知らなかったので、食に関する部分はもう少し盛り上げられると感じた。また、資料にあるような、島民との交流や島の生活を体験できるツアーなど、島民の皆さんの意思に反しない企画が、お互いにとって良いものになる気がします。船でも遠すぎず、斎場御嶽に行った後にぜひ行ってみたい！と思う場所だと思うので、ツアーにしてもいいと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	自然豊かで、本島とはまた違う景色があると思うので、SNSなどで写真を発信したり、イメージビデオなどを作る。観光業として、久高島のどこを打ち出していきたいのか、島民の皆さんの意見とうまく交わりながら、目的が定まっていくとよい。島内でのツアーも、歴史などを語り、この場所の大切さをしっかり伝えられる人が同行するようにする。久高島に来たら、コレを食べなきゃという、昔ながらの特産品を打ち出していく。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。都会とは全く違う良さがあるため。その場所での生活(自然、食事、歴史など)に興味がある。		
何度も行きたい場所は	現在イタリアに住んでいますが、南の州にある田舎町は時間がゆったりしていて、自然があって、海があって、街も昔からある建物が残っていたり、とても居心地がよかった思い出があります。もちろん遠いのですぐには行けませんが、またあそこでゆっくりとした時間を過ごしたいなぁと思わせてくれます。		
田舎や離島等での印象的な体験	地元の人と会って話すこと。この土地のことを1番知ってる人からいろいろな話を聞けると、その土地のことをもっと知り、近くに感じられる。		
持続可能であるために必要なこと	観光客も、島民の皆さんも、この島が好き！と思えるように、特に島民の皆さんは意思の統一がある程度必要なのかもしれません。誇りを持って住めるように、外からのお客さんを呼べるように、そのためには若い人は1度外に出てみるのもいいと思います。外に出て、違う街を知って、やっぱり自分の生まれ育った場所が1番だと思う気持ちも芽生えると思います。新しいやり方もどんどん思いつくようになると思いますし、不便だけどここに住みたいと思えるその良さを打ち出していきたいです。		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	33
居住地	東京都	職業	自営業
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	人が少なくて、島もこじんまりしていて神聖な感じがよかった。		
良くない点・改善点	レンタサイクルの方の接客があまりよくなかった		
久高島の観光地域づくりの強み	島の方のお家に泊まらせてもらい、神事伝統の儀式などを体験すること。ファームステイならぬ、神事ステイみたいな。マナーの悪い観光客や神の行事を軽んじている観光客への抑止力として、島の住民とともに過ごすことで、島の人や島に愛着が湧くのではないかと考える。		
久高島の観光地域づくりの弱み	観光客に対しての住民の対応がハードルになりそうだと思う。やはり観光するにも、移住するにも、島民の対応によりまたここに来たいかどうかが大きく決まると思う。少なくとも観光客への嫌悪感をなくすのが1番難しく大事な部分だと感じる。		
久高島の観光の転移可能性	神事の伝統行事をいまでも島民でやりつづけているのは、あまり他の離島にはない点。また、LCCなどが飛んでいる那覇からもかなり近い離島のため、距離的ハードルが低いのはメリットだと思う。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	SNSや広告での拡散は必須ではあるが、まずは久高島の魅力のブランディングを行い、実際に無料でもいいから影響力のあるひとやコンセプトにフィットしそうな方に体験してもらう。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。非日常を味わえる、時間をゆっくり味わえる		
何度も行きたい場所は	ゆっくり出来る場所、リラックス出来る場所　沖縄の離島や温泉地域など		
田舎や離島等での印象的な体験	ファームステイ　そこに住む方と交流できたから		
持続可能であるために必要なこと	離島や過疎地域でしかできないビジネスをつくる、コンセプトのある観光化、第2拠点としての二拠点居住、シーズン移住など		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	31
居住地	大阪府	職業	会社員
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	パワースポットがあるという点。マナーの良くない観光客が来てしまうこともちろんあるでしょうが、ある程度は割り切りが必要。沖縄本島のせーふぁうたきも、最近になってパワースポットとして有名になったようにも思います。行ったことがありますが、海外からの旅行客もいました。海外にもＰＲしていくことが必要だと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	観光にネガティブな印象を持っている人たち。確かにお気持ちはわかりますが、それでは今後どうするのですか？このままではいけないと感じているのは、若い世代ばかりなんでしょうか。観光にネガティブな印象をお持ちの方はもっと危機感をもたないといけないと思います。観光地化されることがネガティブな側面もあるでしょうが、必ずポジティブな面もあるはずです。		
久高島の観光の転移可能性	もずくや海ぶどうの養殖をおこなわれているとのことなので、収穫体験などおこなってみてはいかがでしょうか。もしくは、島で採れたてのもずくや海ブドウを食べられる食堂を作るとか。料理教室とかもあるとおもしろそう。「そこでしか食べられない」というものに、旅人は価値を見出すと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	まず「そんな島知らない」という人が多いと思うので、知ってもらうことが大切だと思います。インスタグラマーやユーチューバーを起用して島をＰＲしてみてはいかがでしょうか。それなりの影響力を持つ人にお願いすると費用がかさむと思うので、難しければ、ＳＮＳを使ったプレゼントキャンペーンをおこなうのもいいかもしれません。航空券とフェリー代金、ホテル代を景品にすれば、かなりの応募が集まるとおもいます。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。離島は海がきれいだから、というのと、レア感があるから。正直、沖縄って行ったことがある人が多くて特別感がなくなってきています。でも「離島に行った」といえば、ちょっと「おっ」となります。		
何度も行きたい場所は	やっぱりごはんがおいしいところ。あとは、わたしはインスタやブログをやっているので、そこで紹介しやすいところ。誰でも行きやすいけど、あんまりまだみんなが行っていないところが良いです。		
田舎や離島等での印象的な体験	沖縄の伊是名島と伊江島に行きました。伊是名島はテレビ「旅猿」を見て行きました。テレビ番組でＰＲできれば、多くの人がいきたいと思うかもしれません。伊江島ではカーサビエントという宿に泊まりました。とてもおしゃれな宿でした。伊江島は正直これといった魅力はなかったですが、おしゃれな宿があったので行きたいと思いました。		
持続可能であるために必要なこと	観光客に来てもらうことだと思います。ＳＮＳに投稿してくれる若者をよべばお金をかけずに島を広めてくれるはず。観光にネガティブな意見を持つ気持ちもわかりますが…人に来てもらわないと始まらないと思います。「頑固な島」とかで、いっそルールに厳しい島ってことにしてみては？？		
アドバイス、ご意見など	初めて名前を聞きました。10回以上沖縄には行っているんですが…。 調べてみると、本島からもけっこう行きやすいんですね。行ってみたいなと思いました。		

性別	男性	年齢	31
居住地	徳島県	職業	フリーライター
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	沖縄本島の中でも特に神聖な場所		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	まず、沖縄本島から近く那覇から日帰りで行ける点。次に沖縄独自の文化を知ることができる離島だという点。那覇を拠点にして行くことができる離島はいくつかあると思いますが、基本的にマリンアクティビティをする所ばかりです。なので、久高島のようにアクセスが良く、沖縄の文化を知ることもできる（もちろんきれいなビーチもある）離島は観光スポットとしてそれだけで十分すぎるくらいの強みを持っていると思います。ちょっと違うかもしれませんが、八重山でいう竹富島のようなアピールの仕方ができるのではと考えられます。		
久高島の観光地域づくりの弱み	これは強みにもなる点だとは思うのですが、周辺のスポットよりも特に神聖な場所とされている点が弱みにもなりうると思っています。というとわかりづらいかもしれませんが、実際私は斎場御嶽には何度か行ったことがありますが、久高島には行ったことがありません。斎場御嶽を訪れる時にはぜひ行きたいと思いながらも、久高島に行くには少し事前の準備が必要ですし、島内のルールも厳しそうなため、気軽に行ってはいけないのでは？という思いがあるからです。その時その時の状況で行き先を決めるタイプの人間にとっては、ちょっと行きづらい島かなぁ、というのが現状の久高島に対する私のイメージです。		
久高島の観光の転移可能性	「ウディ浜」や「カベール岬」など、離島ならではの手つかずの自然はもちろんそれだけで魅力的ですし、島全体が特別な聖地とされていることからも上陸すること自体が観光客には魅力的に映ると思います。それに加えて、「やぐるがー」や「イシキ浜」など美しい景色であるだけでなく、沖縄の文化に影響を与えているであろう伝説などのガイドが加われば数時間の滞在でも充実した観光だったと満足できると思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	魅力は十分だと感じられるので、あとは発信の機会を増やすことが重要。現在特に効果を発揮するかな、と思われるのはネット上での情報発信です。とりわけSNS（インスタグラム・ツイッター・フェイスブック）は発信の場として最適なので、例えばインスタグラムで久高島の公式アカウントを作って毎日1枚島内の写真をあげていけばどのような島かリアルな情報が伝わりやすく、「沖縄に行くときはここに行ってみたい」と思う人を増やすことができると思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。田舎や離島には何もないと言われることが多いですが、都市には物が溢れすぎているのが現代です。私の個人的な好みでいえば、物に囲まれた生活よりも自然に囲まれた生活の方が豊かだと思っています。旅行や移住はそういった自分に合う生活場所を見つけることにも繋がっていくとても面白い分野だと感じています。		
何度も行きたい場所は	私にとっては熊本県の阿蘇や菊池がそれに当たる場所です。阿蘇や菊池渓谷の自然は季節によってそれぞれの魅力があるので、色々な季節に訪れたくなります。また仲の良い知り合いが多いということも理由の一つです。		
田舎や離島等での印象的な体験	つい先日のことですが、徳島県の南部に位置する「海陽町」に行ってきた時に多くの移住者がいて驚きました。徳島県民ながらほぼ行ったことのない地域でしたが、知らない間に「若者が集う町」といった印象になっていました。その繋がりは「サーフィン」であったり、「藍染め」であったり、と人によって色々でしたが、今後注目される場所になる気運を感じました。		
持続可能であるために必要なこと	柔軟であること、が最も大事ではないかと思います。もちろんその土地ならではの文化やこだわりがあるとは思いますが、それにばかり固執してしまうと移住者や新しい気運を受け入れるのは難しくなってしまいます。譲れない部分はありながらも、柔軟に対応・変化できる部分は修正していくといった考え方がないと今後は人が減っていくばかりだと思われます。 またそういった地域に必要なのは、新しい魅力ではなく元々備わっている魅力をきちんと再認識してアピールしていくことだと個人的には考えています。その内容は豊かな自然であったり、美味しい食材であったり、色々だとは思いますが。		
アドバイス、ご意見など	久高島には何度か行こうと考えた結果行けていないので、もう少し手軽にいくことができたらいいな、と個人的には思っています。本島から距離は近いですが、なんとなく行きづらいイメージがあるとも思います。（実際、より遠い久米島には行きました。）また事前に得られる情報が少ないようにも思われるので、上で述べたようなSNSなどの活用によって身近さを感じられる物が増えるとさらに行きやすいとも思っています。		

性別	女性	年齢	33
居住地	長野県	職業	自営業
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	・沖縄本島から日帰りで行けるという距離・アクセスの良さ。宿泊をせず、1日で観光を楽しむことができるというのは気軽に訪れやすい。 ・琉球神話における聖地という神聖な場所を実際に体感できる。また、そのことで開発が進んでおらず、昔ながらの琉球の土地の雰囲気を楽しむことができる。 ・ウミヘビを食べられる。食べることで半年分の元気がもらえるという言い伝えは魅力的。		
久高島の観光地域づくりの弱み	・島民が観光にネガティブな気持ちを抱いているという点。観光の思い出として長く強く心に残るのは現地での人との関わり。「また行きたい」「良い場所だった」と思えるのは笑顔で話しかけてもらえたり、親切にしてもらったり等現地でのコミュケーションの数が多いほどそう思える。現状だと再訪したいと思う人の割合が低いのではないかと感じる。 ・日中、気軽に立ち寄って一休みするようなハブがなさそうなところ。資料を拝見した限りではカフェとまでいかなくてもお茶屋のような場所もなさそうな印象。気軽に行く観光地というよりも気合いを入れて訪れる必要がある観光地のように感じる。		
久高島の観光の転移可能性	・昔ながらの琉球の土地というのは、時間を重ねていくごとにより価値のある貴重な場所になっていくのではないか。今後さらに注目されていく可能性は感じる。神聖な土地ということもあり、住んでいる人たちが歴史や景観を大切に守っていることで土地の特色は今後も長く観光を訪れる人たちも楽しめるように感じる。 ・資料に添付されていたURLを拝見しても現地の人が見えない。現地の人の顔が一切想像出来ないというのは訪れる人にとって不安な要素になる。今後、顔の見える観光PRを試んでいけるという余白の部分に可能性を感じる。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	・観光PR動画配信。動画だからこそ伝わる景観の美しさや自然の音もあるのではないか。また、別府温泉のPR動画など動画で注目された観光地も少なくない。若い世代～50年代あたりへの幅広い世代へのPRになるのではないか。 ・漫画や小説などの舞台になる。独特な歴史とそのことによって今も現地の人たちが抱いている独自の感性やルールがあるという点も島の魅力の一つとして伝えられるのではないかと思う。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。 ・過去に福岡県上毛町にワーキングステイに訪れた経験あり。今の状態からより良い状態へと変化していきたいという町民のやる気を感じ、自身もパワーをもらった。今後どう変わっていくのかというワクワク感があった。 ・田舎や離島など、都会では体験できない景観や文化を経験できるというのは何よりも魅力		
何度も行きたい場所は	景色が壮大、食事が美味しい地域 ・奄美大島の離島、加計呂麻島 アクセスは非常に悪いがそれでも何度も足を運びたくなる海の美しさ、原風景の残る自然と町並み。現地の人達も観光客にフレンドリーでリラックスして過ごせる。		
田舎や離島等での印象的な体験	・鹿の狩猟後の血抜き、捌く様子の見学、その後に実際に食べる 生き物を食べるということを実感した。 ・ドライブ中にイノシシの家族が道路を横断したり、鹿に遭遇したり。動物にぶつかると車の保険がきかないという緊張感もあり印象深く残っている。		
持続可能であるために必要なこと	・移住者を受け入れる。全ての人が受け入れるというのは難しくても、移住者を受け入れてくれるコミュニティーの存在は必要。 ・若い世代の頑張りを応援できる環境。変化に抵抗はあるご年配もいるかと思うが、しっかり向き合って皆で力を合わせて進んでいくことが必要。		
アドバイス、ご意見など	聖地だからこその難しさがありそうですが、離島らしい肩の力の抜いた観光が楽しめると嬉しいです。応援していたます！		

性別	女性	年齢	33
居住地	埼玉県	職業	主婦・主夫
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島、美しい海、		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	カベール岬の海が美しい、ウディ浜で海に入ると素晴らしい透明度で熱帯魚と泳げる。		
良くない点・改善点	観光するには設備は不十分、島の北側には何もないので観光化するならば北側にも一箇所、トイレなど休憩できる場所があれば嬉しい。		
久高島の観光地域づくりの強み	沖縄唯一の神の島であること（ただしあまり知られていない）手付かずの自然と美しい海があること。私が観光に求めるのは「ここでしか観られない絶景」と「ここでしか食べられない食事」なので、絶景のカベール岬や沖縄らしい家屋、名産の海ぶどうなど是非訪れたい条件は揃っています。		
久高島の観光地域づくりの弱み	那覇からのアクセス方法や、船の利用など、知らない人にとっては「どうやって久高島へ行けば良いか」がわからない。 島内での観光の仕方も、 神の島に敬意をはらって観光したいと思うが、立ち入り禁止箇所と何処は立ち寄ってよい場所か、少しわかりにくい。港の総合案内所のような場所で島内案内図やルールをわかりやすく提示してもらえると助かる。		
久高島の観光の転移可能性	近年は港付近にレンタサイクルや宿泊施設、夜も利用できる食堂など設備が充実してとても良いと思う。 小さな島でも歩いて一周するには大変なので自転車は必須。せっかく離島までアクセスしたのだから宿泊してゆっくり久高島を見たい。島の食べ物を食べられる食堂は魅力的！！		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	やはりWebで。旅行サイトや「沖縄　離島」などの検索から久高島に辿り着く人が多いと思う。知っている人は何度でも訪れたくなる島なので、旅行サイトをきっかけに島を訪れた人が更にSNSで拡散することで広まるのでは…。SNSなら私も協力したい。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。穴場の絶景が好き。あまり知られていないけど面白い場所はたくさんあると思う。ブロガーなのでそれを誰かに紹介するのも楽しい。		
何度も行きたい場所は	自分以外の誰かに見せたい絶景がある。もう一度食べたい美味しい食事がある。アクセスが難しくない場所。（北海道のオロロンライン、エサヌカ線、オトンルイ風力発電と近辺の食事、沖縄宮古島の絶景、伊勢志摩の地中海村、季節によって楽しみ方が違う京都など）		
田舎や離島等での印象的な体験	岐阜の下呂小坂（下呂ではなく下呂小坂）の滝めぐり。あまりの水の透明度と美しさになんでこんなに知名度ないのかと不思議に思うほど。		
持続可能であるために必要なこと	観光なら明確なアクセス方法。食事が美味しいこと（景観が素晴らしくても食事が不味いと2度は来ないです） 暮らすなら、食べ物、仕事、学校、病院がないと暮らせないです…。		
アドバイス、ご意見など	那覇からのアクセス方法（バスならどれに乗れば良いか、車なら何処を目指し、駐車場はあるか）と船の利用方法がわかり、 久高島に渡ったあとはレンタサイクルや島内での周り方、神の島でのルールがわかり、 宿泊したい場合の宿泊施設、 食事したい場合の食事場所、 が明確化していると良いと思う。 久高島は本当に美しい島だと思うので、久高島の美しい写真を見た人は絶対に来たくなってしまう場所。 応援しています！		

性別	男性	年齢	46
居住地	沖縄県	職業	自営業
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島、神聖な場所、琉球開闢の聖地、過疎が進む離島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	沖縄の原風景が色濃く残る点		
良くない点・改善点	海岸や森等、観光客によるものと思われるゴミ		
久高島の観光地域づくりの強み	強みは、「琉球の原風景」や「古き良きうちなー」等で言い表される、「昔ながらの沖縄」が、文化＆風習、ロケーション、いずれの面でも色濃く残っていること。これは、沖縄本島では、はるか昔に失われし、また県内他離島でも、徐々に消えつつある貴重なものであるため、県内でも唯一無二のアイデンティティとして標榜できると確信している。		
久高島の観光地域づくりの弱み	これは、日本全国で、遍く広く根深い問題として取り沙汰されることだが、言うまでもなく人口減少や若者の流出。ことさら、離島や僻地等の限界集落等、地域の規模が小さければ小さい程、存続そのものが危ぶまれるのは言わずもがな。また、伝統を守りつつ、その地域を発展させるのは、ブレーキとアクセルを同時に踏んでいるようなもので、多くの場合、両立は難しい。方向性に関して、住民間で合意形成が成されなければ、残念ながら解決は難しいであろう。		
久高島の観光の転移可能性	やはり「パワースポット」や「スピリチュアル」等のキーワードは、今後も（特に旅好き女子）には、欠かせない要素であり続けるであろう。個人的には、この世界観を、今以上に、深化させ、かつ厳かなものと位置づけることで、本来あるべき「琉球のあり方」に繋がるのではないだろうか。それは、引いては、大小様々なレベルで沖縄が抱える苦難や不条理、また沖縄への無理解・無関心、それらがもたらす言いようのない閉塞感に対する打開策になりうる。少し論点はズレるかもしれないが、そこにこそ久高島の存在意義が立ち現れてくるのではなかろうか。そのような部分に可能性を感じる。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	無戦略のPR（例えば、本部町の「ワルミ」の二の舞い）は絶対に避けるべき（御存知の通り、ワルミは「知られざるパワースポット」等と、ネット上で口コミが広がり、本来静寂に包まれてた神聖な場所が、多くの観光客が大挙し、不法投棄や路上駐車等、住民生活に多大な悪影響を及ぼし、現在は閉鎖されている）。島民が望む方向性を明確にした上で、確固たるブランド感を築き上げ、それを元に（行政・観光協会等）関係者全員が同じ方向を向いて、各種チャンネルで情報発信をするべき。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。開発や近代化は難しくないが、（田舎や離島、過疎地域にこそ残る）伝統や風習、文化、そして方言等、失われしものを取り戻すのは、ほぼ不可能だから。		
何度も行きたい場所は	県内では、渡名喜島、粟国島、伊是名島、伊平屋島、竹富島、多良間島、大神島等（つまり、昔ながらの世界観をしっかり残している離島）。		
田舎や離島等での印象的な体験	伊良部島佐良浜の伝統的な、カツオ一本釣り漁（伊良部大橋架橋で佐良浜漁港の衰退が危惧されたが、逆手に取り、観光コンテンツとしてしっかりと定着させた）等。		
持続可能であるために必要なこと	既出だが、これは国全体が抱えている大問題であり、正直、特効薬は無いに等しい。ただ、全国を見渡すと、知恵を尽くして、乗り切ろうとしている（または乗り切った）参考例（ヒント）は、少なからず存在する（具体的には、外からの、心ある移住者を呼び込む戦略的施策）。それらを、一つ一つリサーチ及び分析し、久高島のアイデンティティに即したものを、地道に作り上げて行くしか無いだろう。		
アドバイス、ご意見など	私は、出身地・東京の出版社で13年、沖縄に移住し広告代理店で5年、現在はフリーランス（ディレクター／エディター／ライター／カメラマン）として、沖縄観光情報の発信に深く携わっている（大手メディアにて、久高島の記事執筆も→ https://www.cinra.net/column/nanjyo_aoyagi）。それら経験から、久高島の様な、いわば「沖縄最後の原風景」に対して、何かアクチュアルにコミットできないか、常々模索している。仕事として関われる可能性があれば、喜んで馳せ参じたい。		

性別	女性	年齢	28
居住地	埼玉県	職業	自営業
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島、神聖な場所		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	民宿のおばあの優しさ、海の綺麗さ、歴史を感じる遺跡		
良くない点・改善点	飲食店が少なく、食事に困った		
久高島の観光地域づくりの強み	一昨年に訪問した際には手つかずの自然や観光地らしくないところが久高島の魅力であると感じたので、開発をしないで今の状態を残していくことは将来的にも強みになると思います。また安座真港からフェリーですごく近いという点も他の離島とは異なり、気軽に本島から訪れることができる良い点です。島に宿泊しなくても日帰りで一日島を巡って帰ることができるのも良いと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	石を持ち帰ってはいけないといった島のルールがあるため外国人からの観光には向いておらず、国内からの観光客頼みになっているのは弱みだと思います。観光に対して地元の方々がネガティブなイメージを持っている点も将来的な人口減少や観光客減少の原因だと思います。大きなホテルは作らなくても久高島らしい素朴な民宿や飲食店はもう少し増やし、観光客が増えても清潔さを保つために島内を清掃する人などがいても良いのではないかと考えています。		
久高島の観光の転移可能性	イザイホーの話を聞き当時の写真を見た時、本島でも見ることのできないとても神聖で素晴らしい儀式だと思いました。現在では行われていないということなので何らかの形でお祭りや儀式を再開してくれたら良いなと思います。また、世界遺産の斎場御嶽から久高島全体を見ることができるというのも「久高島に行ってみたい」と思わせてくれるポイントです。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	久高島自体、あまり沖縄県以外の人には知られていない存在なので、ウェブメディアで体験記や訪問記があると行きたいと思う人が増えると思います。リゾート地ではなくあくまで手つかずの自然と遺跡、開発がされていない昔ながらの集落があるということで、島民が観光ツアーに反対していることもあり、団体客よりも一人旅や二人旅など少人数での訪問に向いていることを訴求すると、行きたい人が増えるのではないかと思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。現在、都心から離れて山々の自然が残る郊外に暮らしていて田舎暮らしの良さを感じているため。		
何度も行きたい場所は	海がキレイで人が自然と出会える場所。久高島、逗子、台湾など。		
田舎や離島等での印象的な体験	一昨年に久高島を訪れ、予約していた民宿のおばあが腰を痛めており「500円まけるから」と部屋の掃除を頼まれ、すごくほっこりしました。1日に3人しか宿泊客をとらない民宿で、他の2人とも仲良くなり、次の日には一緒に南城市を回るなどして今でも交流があり、人の出会いを嬉しく思った体験でした。		
持続可能であるために必要なこと	おきなり大きくメディアが取り上げるなどして一気に観光地化してしまうと、一時的には良いかもしれませんが観光客の流入で環境悪化や地元の人との温度差などさまざまな問題が生じ、持続的な場所にはならないと思います。住んでも観光しても良いと思える普遍的で唯一無二の“良さ”を保ち続けることで、「何度も足を運びたい」「ここに住んでみたい」と思わせることができるのではないかと感じます。また、将来的には子どもや子育て世代が住みやすい場所であることが絶対条件になってくると思うので、税金を投じてでもその政策には力を入れるべきだと思います。		
アドバイス、ご意見など	沖縄県の他の離島とはまったく違う良さを持つ久高島は、開発や観光化に大きく舵を切るよりも現状の良い点を残して島民の温度感をはかりながら少しずつ観光客や人口を増やしていく政策をしないと個性もなく人も離れていってしまう島になるのではないかと思っています。		

性別	女性	年齢	31
居住地	神奈川	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	信仰の文化があり、戒律の強い場所のイメージ。		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	過疎の進む日本の地方は、まずその場所を人に知ってもらう・興味を持ってもらうことから始まります。それからやっと足を運んでもらっています。けれども久高島は既に年間で5万人もの人が島に訪れているのは大きな強みになります。また、既に特産品があること、そしてその背景となる歴史（ストーリー）があることも強みです。島の景観が、観光地ではなく島の生活の原風景が残っていることも都心部や一般観光地との差別化をしています。他の観光地には絶対にない風景が歴史とともにあります。そして、その久高島に行くのに何時間もかからず、本島からのアクセスが近く、安いことも日帰りも滞在も容易になるので大きな強みです。		
久高島の観光地域づくりの弱み	強みと弱みは両面性を持っていると思います。強みの部分で書いたような来島者の多い状況は、島民内での過疎化の危機意識にばらつきを生む側面もあるかもしれません。また、「島の地域の資源や島の人たちとの交流に主軸を置いた観光地域づくり」と最初に書いていらっしゃいますが、観光地域づくりにおいて目指している一番大事なことは、観光客の人数を増やすことなのでしょうか？観光による島の収入を増やすことなのでしょうか？それとも島民を増やすことなのでしょうか？その優先順位はどうなっているのでしょう？その先に、どんな島にすることを考えているのでしょうか？このプロジェクトにあたる方と島民の目標の共有がされれば、それが一番の強みになると思います。		
久高島の観光の転移可能性	近年、地方では移住者を求めるより前にまず、その土地に関心を持ってくれる何らかの関わりをもつ人々である「関係人口」を増やすことに力を注いでいます。それは、その土地の野菜を定期的に買ってくれる人や、手紙のやり取りをする人、定期的に泊まりにくる人などを含めて、遠い関係でも近い関係でも、その場所との繋がりを持つ人を増やすという考え方です。ツアー型観光のように大人数が一瞬で通り過ぎて行き、その場所との繋がりを持たない場合は、いくら大人数が来ても関係人口になりません。既に来てくれている大人数の人とどのような関係や繋がりを作っていくかということが一つ大事なことになると思います。つまり、今取り組まれている島での生活体験などの交流の上で、島から帰った人との関係の保ち方もポイントになるかと思います。それは、手紙でも、フェイスブックオンラインサロンでも、メルマガでも様々な方法があるかと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	本当に「多くの人」に届けることが目的なのでしょうか？届けた先に目指していることが重要かと思っています。人数は少なくても移住してくれる人や、大人数でなくてもマナーよく過ごしてお金を落としてくれる観光客を狙うこともできると思います。満足度が高ければ口コミが広がります。効率よく大人数に周知することだけを考えるなら、そしてお金をかけられるなら、楽天やるるぶなどの観光ページに乗せてもらう・フェイスブックやインスタに広告を出すこともできます。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。これからは、一箇所に定住というライフスタイルよりも、気に入った多所に拠点を持って、そこを行き来しながらの仕事や生活をする人が増えるかと思います。久高島が目指すのは、そのスポットの一つ、「帰ってきたいホーム」となることでもいいのではないかと思います。田舎や離島、過疎地域には生々しい生活と自然があり、都会とは全く違う常識や生活リズムがあります。そこに入ることで、自分の中に持っていたルールを壊すことができるのが魅力の一つです。それにより、生きる力を取り戻せるように私は感じています。		
何度も行きたい場所は	オーストラリア、シドニー湾に浮かぶコカトゥーアイランドという世界遺産の島です。何度も足を運びたいと思うかどうかは、私はその場所での思い出や記憶・人との関係性によります。綺麗な島ではありますが、その場所で船に住んで一緒に生活・仕事をしていた人たちとの楽しかった記憶や関係性が自分に足を運ばせると思います。		
田舎や離島等での印象的な体験	鹿児島県口永良部島で地域活性事業に携わったことがあります。鹿児島からのアクセスは→屋久島→口永良部島と、1日以上かけての移動でアクセスも悪く、主産業だった牧畜は廃れていました。活性事業にはとても苦しい状況でしたが、島の中に入って生活することは楽しい時間でした。人口8人ほどの集落に住んでいたため、人数が少ないのもあったか周りの人が助けてくださり島の生活と仕事に馴染んでいきました。島に住んでいた時から５年以上経っていますが、今でも島民の方とやり取りが続いています。		

持続可能であるために必要なこと	住む人を増やすことが持続可能につながるのだとすれば、 １、プロジェクトをやっている人が、その場所を居心地よく、人が来ようが来まいがまず大好きであること。 ２、客観的に見て住みごごちのいい場所であること。（仕事があるかどうかよりも、自分がそこに住んだら大事にされるか） ３、その場所に惹かれてきた人を受け入れられるシステムを作っていること。（移住後のトラブル削減のためには、もし島が移住者に求めていることやカラー・生活スタイルなどがあれば、それを事前に明確に示している） が大事だと思っています。
アドバイス、ご意見など	「観光客は来て欲しい。でもマナーをよく過ごして欲しい。」 島民の意見に沿った久高島の観光のシステムを作り、島民が住みやすい環境ができれば、その島に外からきて住みたいと思う人が増えるかと思います。 島に来る人に信頼感を持って気持ちよく迎えられるようにするには、島に来る人に対して厳重な注意書きや呼びかけをするよりも、一つの案として私は会員制にしたほうがいいのではと思います。コストコを例に挙げると、商品の値段を下げられている理由の一つに商品棚の整理・管理をするスタッフ人数を減らせていることが挙げられますがそのまま運営するとスタッフの目が少ないため盗難が懸念事項になります。会員制にすることによって、顧客への信頼度を高める（信頼性を求めている）とも言えます。その方が魅力も伝わりやすく満足度も来島者・島民双方に上がるのではないでしょうか。会員制にしなくても、来島する人に信頼感を持ち、お互いに満足度の上がるシステムを作れればいいのではと思います。

性別	女性	年齢	44
居住地	日本、東京	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	かつて、イザイホーという神事が行われていた神の島。 聖地、斎場御嶽参拝の際に三角岩をくぐり、久高島遥拝所から久高島を 拝見した事があります。今もなお、久高島には一般人は立ち入り禁止の 区域があるとも聞き及んでおり、島自体にも単なる観光といった 安易な気持ちで立ち入るべきではない、といった印象があります。		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	琉球神話における聖地という事で、独自の文化が色濃く残っている点。 非常にミステリアスで、少々畏怖の念を覚えますが惹かれます。個人的に パガージマヌパナス、テンペストといった池上永一氏の作品ファンである事から、現地のノロ(祝女)から沖縄の伝説や、神事についてのお話を伺ってみたいと感じます。また、観光地化されていないが故に、訪れる観光客が多くない事から、静けさが保たれている事。美しい自然と昔ながらの佇まいを残した点。		
久高島の観光地域づくりの弱み	（地理的要因） ①本島への移動は船のみになる為、天候に左右される ②那覇市内からのアクセスも含め、観光に便利な島とは言えない （島の性質上の環境的要因） ③宿泊の受け入れ人員数が低い ④島の性質上、客層を選ぶ ⑤家族連れが気軽に楽しめる場所ではない印象 （受け入れ側の要因） ⑥ガイドツアーを申し込むには、スケジュールの限られた観光客都合ではなく、ガイド都合に合わせる必要がある ⑦頂いた情報を確認したところ、宿泊先やガイドの連絡先等欲しい情報にたどり着くまでのルートが猥雑。情報が丁寧に記載されている箇所もあれば、丸投げの個所もある ⑧宿泊先やガイドに直接電話、メールなどして日程の調整を行う手間がかかる		

	⑨観光地化されていない、また開発を望んでいないが島民もいる事から顧客目線が低い 上記を踏まえると、余程の関心や旅程に余裕がないと行きづらいです。もっと言えば、久高島を旅の目的にするくらいでないと存分に魅力を楽しめない。沖縄は2～3日で気軽に行けるリゾートという点から考えると、少々二の足を踏む方が多いかもしれません。
久高島の観光の転移可能性	頂いた資料から、久高島に年間5万人、平均して 135人/日の観光客がある事に驚きました。島の若者が島での生活体験や、島民との交流を推奨されているという事でこのままでは文化が廃れると感じ、この島にしかないものを配信されようとしている点に可能性を感じます。いずれ世代交代が起こった際に、久高島を神の島たらしめている伝統文化が多少は形を変えても、持続可能である事が大事であると感じます。 また、観光地化する事で豊かな生活やお金など、目先の事にとらわれずある程度の抑制力が働くのもまた、良い点であると感じます。
久高島の魅力を届ける効果的な手法	魅力の伝達手法自体より、今後誰に久高島に来てほしいのか？何を伝えていきたいのか？を、ある程度明確にする必要があると感じます。理由としてターゲット層によって、魅力の伝達手法が変わってくると感じるからです。 1978年よりイザイホーが行われておらず、伝統文化の衰退が危ぶまれております。突飛なアイディアかもしれませんが戦後、イザイホーの参加資格が緩和された経緯もありますので2026年にイザイホーを復活させるのを目標とし、これまでの慣習に手を加え文化が新生していく様子を情報伝達するのはいかがでしょうか？
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。都会に住んでいると何をするにも便利で良いのですが、自然回帰願望が掻き立てられるため。その地域にしかない伝統文化や宗教、料理などに惹かれます。
何度も行きたい場所は	インドネシア、バリ島・フランス、パリ
田舎や離島等での印象的な体験	①フキノトウ摘み(長野県野沢温泉村) 理由：日常生活ではフキノトウを見かける機会も、ましてや摘みに行き、料理する機会もない為。 ②巻き狩り猟見学(東京都檜原村) 理由：野生動物の痕跡を探したのちに、犬を使って野生動物を追い立て、仕留めた後に運搬、解体し頂くという体験。スーパーに行けばなんでも揃っていますが、捕って食べるという原始の喜びを体感した貴重な体験となりました。 ③ビーチバー(阿嘉島ヒズシビーチ) 理由：阿嘉島の民宿街から、街灯のない道を懐中電灯を持って夜道を歩き、ひっそりと佇むビーチバーに行きました。飲んで騒ぐのではなく、ビーチに横たわり波の音を聞きながら星を眺めたのは、都会ではできない体験でした。
持続可能であるために必要なこと	①若い人材の受け入れとアイディアの活用。 ②その土地独特の文化、伝統の維持と情報発信方法の確立。 ③観光客誘致が第一ではなく、まずは若年者にその土地ならではの伝統を伝え、文化や伝統の担い手を探す必要があるのではないでしょうか？ ④そこに何があるのか？そこでしかできない体験は何か？と魅力を掘り下げて考え、情報を十分に用意。 ⑤観光地として活性化する願望があったとして、離島民や過疎地域がどんな客層ならどこまで受け入れられるか？と、何を目指すのか方針を明確にする必要があります。
アドバイス、ご意見など	①久高島ガイドさんの連絡先について。ezweb.ne.jp、docomo.ne.jpとキャリアメールが目立ちますが、情報は最新でしょうか？ ②自然が多く、ヒンドゥー文化を色濃く反映しているバリ島に惹かれ、ここ20年で6度訪れています。観光客が比較的多い街に足を運ぶと、昔と比較し随分と様変わりしてきているのを感じます。具体的には以下をご確認ください ・パーティ好き、お酒を飲んで騒ぐのが好きな人が多くなっている ・裸同然の服装で街を歩いている ・車が多く、渋滞が発生しやすくなっている ・芸術の村ウブドは観光客で溢れ、かつては絵画や彫刻を販売していたお店が外国人向けのサマードレスやアクセサリーを扱っており、単なるリゾート地に変貌していました。 久高島にはそんな風になって頂きたくないし、高級感、お忍び感漂うリゾートホテルも、西表島のような、島民に遺恨を残すようなリゾート開発も必要ありません。観光地として荒らされすぎないよう、入場制限をかけても良いくらいに感じます。

性別	女性	年齢	39
居住地	熊本県	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	斎場御嶽のあたりから見える。スピリチュアルな島というイメージ。		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	久高島全体がパワースポット的な場所であるというのは強みになると思う。女性向けにアピールできそう。本島から近いので、比較的簡単に行けるのに橋などで陸続きになっていないところを、神秘性を高める材料にできるのではないかと感じる。		
久高島の観光地域づくりの弱み	若い人がおらず、移住者も少ないということで、閉鎖的な雰囲気になってしまうと厳しそう。何もないところは魅力だが、とっつきにくく不便すぎるのは弱みになりそうと感じる。都会の若者や単身で訪れるOLなどが、ある程度気軽に楽しめる雰囲気があると良いと思う。		
久高島の観光の転移可能性	沖縄本島から近いのにあまり知られていない離島、ということで、ある程度色々なところを訪れた沖縄通やリピーターにアピールできる。スピリチュアルな雰囲気のあるところが魅力なので、斎場御嶽に訪れる客層にもっと訴求できそうだと思う。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	島の美しい風景を写真でアピールする。絶景ブームはまだしばらく続きそうなので、ベストシーズンの青い海や島の緑などを美しくとらえた写真が魅力的だと思う。SNSでバズらせるようなこともいいと思う。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。非日常的な雰囲気を楽しめるから		
何度も行きたい場所は			
田舎や離島等での印象的な体験	宮古島。		
持続可能であるために必要なこと	ある程度の数の若い移住者を集め、定住してもらうこと。子育て世代を積極的に呼び込むこと。いちげんの観光客も、島の自然破壊や規律を乱す行為がひどくない限りは歓迎する下地を作ること。		
アドバイス、ご意見など	イザイホーなどが気になるので、いろいろ難しい点はあると思うが島の文化として継承してほしいと思う。		

性別	男性	年齢	30
居住地	沖縄県	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	沖縄の離島の中でも別格		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	開発がされていないところ。島の時間が残っているところ。		
良くない点・改善点	他の離島に比べ、島民（地域住民）とのふれあいが少なかった。		
久高島の観光地域づくりの強み	他の離島に比べ、観光化が進んでおらず素朴な雰囲気が残っている所。また、島の規模も大きすぎず、日帰りで行き来できるアクセス性も良い。目的地となる目玉的な観光スポットも多いわけではないので、島でゆっくりとした時間を過ごすことができる。自分たちの足でその土地の魅力を見つけたり、地域に残る伝統や文化をそのまま体感するといったスタイルの旅を求めている層にとっては、非常に魅力的だと思う。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民（地元の人たち）の意識が観光に向いていない点。観光に前向きでないだけなのか、そもそも島の魅力そのものに関心が無いのかにもよるが、外部の人間だけで観光地としての久高島を推進しても難しい。また、島民の観光への関心を高める際にも、本人たちのリテラシーが無いなかで進めてしまうと、折角の貴重な文化や景観が、浅はかなものになりかねない。		
久高島の観光の転移可能性	ガイドブックに載るような、表面的な沖縄、SNS映えのする観光地を目指すのではなく（またそのような客層をターゲットにするのではなく）今の島の状態をできるだけ守り、島の日常や暮らし、何気ない風景に魅力を感じるような層をターゲットにできたら良いと思う。今後そのような観点（ローカル発見型）で観光をする人は増えてくると思う。長期滞在型の民泊や、ボランティア体験、WWOOF等が適していると思う。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	まず、観光地域として久高島を推していくのかを考え直すべきだと思う。沖縄全体が観光の波に乗っているなかで、短期的な視点に乗るのではなく、長期的に島のことを考えた計画をするべきだと思う。その上で観光地として魅力を発信していくのであれば、島民（地元）が第一に島を観光地として誇れるような、土台づくり、人間関係づくりを時間をかけてしていくべきだと思う。短期間で多くの人に観光地としての久高島をPRする方法があったとしても、一時的なものになってしまう危険を十分に検討する必要がある。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。そこにある暮らしに触れることが旅だと思うから。		
何度も行きたい場所は	モロッコ　シェフシャウエン　山岳地にある街　観光と地元の暮らしが同居していた。		
田舎や離島等での印象的な体験	富士宮市の集落にある非電化生活の家で２週間有機農業ボランティア。（WWOOF）観光ではなく、暮らしを通じて、土地のことを知るという体験だった。時間をかけて一緒に過ごすことで、田舎に暮らすことの不便さや、豊かさを感じることができた。		
持続可能であるために必要なこと	住民の地域に対する誇りの醸成は何よりも必要だと思う。もともとそこに住んでいる人たちが気づいていないその地域の良さと、それに気づいて外部からやって来る人（観光客ではなく移住者）の人間関係。地元の移住者に対する理解と風通しの良い関係。自立した仕事と、都市部へのアクセス。それらを理解し、支持できる外部や行政からの支援。		
アドバイス、ご意見など			

性別	男性	年齢	26
居住地	茨城県	職業	自営業
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	久高島の強みとしては、離島であることと沖縄本土からのアクセスがよいことの2点が挙げられますが、そこに加えて筆者にとって大変興味深いと思ったのは、共有地制度などの琉球王国時代から引き継ぐ制度を有し、島民によって自治が行われている点です。文化人類学的にとてもよい研究対象になるのではないかと考えられます。		
久高島の観光地域づくりの弱み	1㎢強の面積に対して、年間観光客数50,000人という数字は、人を呼びすぎなのではないかと思われます。定住人口が200人であることから、実質の島民数（定住人口＋1日あたりの観光客数）が340人前後となり、人口密度としては伊豆大島とほぼ同等ぐらいになります。島民が観光に対してあまり積極的でなく、外部との気持ちの乖離が置いているのも問題かと。		
久高島の観光の転移可能性	観光客数を大幅に制限し（例えば1日あたり20人＝現状の1/7）、そのかわりに観光資源として島民の暮らしや歴史、久高島での文化に深く関わることができる、長期かつ質の高い観光にシフトしていく点で可能性を感じています。外部からの企画ではなく、久高島の島民や南城市からの企画として観光客を呼び込むのがいいのではないかと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	多くの人に届けるのは逆効果ではないでしょうか。現状の宣伝・広告によって人が来すぎている（と筆者は感じている）ので、多くの人に魅力に感じてもらうような方向にもっていくのではなく、来てほしい人だけに来てもらうぐらいでちょうどいいのではないかと思います。多数に宣伝するのではなく、あえて隠した方がプレミア感も増すのではないでしょうか。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。それぞれの地域で育まれた文化・歴史・環境は唯一無二のものであり、旅行や移住を通じてそれらを体感することができるから。		
何度も行きたい場所は	その土地に住む方の人柄が良いところ。昔の成功体験に確執せず、今を生き抜くためにどうすべきかを一緒に考えてくれるような場所。		
田舎や離島等での印象的な体験			
持続可能であるために必要なこと	程よく外貨を稼ぎながら、自分たちのコミュニティの中で経済をまわす。具体的には、コミュニティ内での衣食住やエネルギーの自給自足を基盤としてコミュニティ内のお金を外に流出させないようにしながら、観光などで適度に外貨を自分たちの経済に取り入れていくこと。加えて、世帯単位ではなくコミュニティのみんなで子育てができる環境を整えること。		
アドバイス、ご意見など	パワースポットツアーによる来訪客は一過性が強いため、持続可能性は薄いのではないかと考えられます（久高島に限らず、他の地域でも同じ）。		

性別	女性	年齢	46
居住地	アメリカ	職業	主婦・主夫
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島、パワースポット、琉球神話聖地の島、イザイホーの島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	・昔ながらの沖縄の集落が残っているところ　・自然がたくさん残っているところ ・とても気持ちの良いエネルギーを感じれるところ ・島の人たちが聖地や伝統を大切にされているところ		
良くない点・改善点	・いくつか宿泊施設があるようですが、日帰り観光が中心である点が残念に感じました。		
久高島の観光地域づくりの強み	スピリチュアルなパワースポットを観光することが、旅の目的の一つになってきている今、神の島であり、琉球神話聖地であることは、他のどの島にもない大きな強みだと思います。中に入ることはできなくとも、御嶽などの島の聖地を見て回れるのは観光者にとっては魅力です。また、他ではなかなか食べられないイラブーや、昔ながらの沖縄の集落や生活を見ることができるのも大きな強みだと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民が開発を望んでいない、島外の人が住むことによる島民との人間関係の難しさは他の沖縄の離島でも聞いた話ですが、地割制があり、島外の人が家や土地を購入し辛い状況は弱みであると感じました。また、日帰り観光がメインとなってしまっている点が弱みだと思います。久高島にはたくさんの沖縄の伝統的な家があるので、それを利用しないのも逆に弱みになっている気がします。		
久高島の観光の転移可能性	昔ながらの生活を続けてこられた沖縄のおじぃやおばぁと交流がしたい人は、たくさんいます。私が初めて沖縄本島に到着したとき、あまりにも都会で沖縄の伝統的な家とおじぃ、おばぁはどこに行けば会えるんだろうかと残念に思った記憶があります。その点、久高島には沖縄の伝統的な集落とおじぃ、おばぁに会える場所です。沖縄の伝統的な家でおじぃ、おばぁと観光客が交流できる場所を作ってみるのはいかがでしょうか。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	インスタグラムで「久高島公式サイト」を立ち上げて、「今日の久高島」というように、久高島の美しい景色を発信するのは良いのではないかと思います。インスタグラムで「久高島」を検索すると、22000件以上の写真がヒットします。多くの人が久高島の写真をインスタグラムに投稿しています。最近の若者は、グーグルで検索する前に、インスタグラムのハッシュタグで検索するという話も聞きます。「久高島公式サイト」を立ち上げることで、久高島ファンと繋がることができますし、観光者のリピートや新しい観光者へのアピールにもなるのではないかと思います。また施設、観光品、観光場所などの投稿も良いアピールになると思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。自然の景色が心と身体を癒してくれる。／美味しい食べ物が味わえる。／地元の人との交流により、その土地について歴史や文化を知ることができる。		
何度も行きたい場所は	北海道　美瑛町、摩周湖周辺、サロマ湖周辺⇒　・自然が素晴らしい　・食べ物が美味しい　・良いキャンプ場がある　・温泉がある 屋久島⇒　・素晴らしいハイキングコースがある 沖縄⇒　・ゆったりした時間が流れている　・郷土料理が美味しい　・海がきれい　・暖かい		
田舎や離島等での印象的な体験	座間味島のキャンプ場に滞在していた時、台風がきたのですが、地元の漁師さんが家に泊めてくださって、そこから2週間程お世話になりました。漁師さんの船に乗って、追い込み漁や貝類を採ったり、漁の網を直したり、NHKの取材に参加させていただいたり、地元の方の屋根の張替えを手伝ったり、地元の方の生活を体験させていただいたことです。		
持続可能であるために必要なこと	その土地の文化や伝統を守っていくことと、外部の人を受け入れていくことの両立が必要だと思います。過疎地域の空き家に外部の人が住めるような環境作り、外部の人が住んでからの地域のサポートや交流なども必要になってきます。また、地元の人には当たり前すぎてわからないことが、実は観光資源につながることもあります。外部の人に依頼をしていくことも必要だと思います。		
アドバイス、ご意見など	宿泊をして島を回るモデルプランをホームページで提案していくと良いのではないでしょうか。宿泊者が増えることは島の活性に繋がりますし、観光者も日帰り観光では味わえない、島の魅力を体験することができます。Airbnbのような民泊システムを利用すれば、宿泊施設の問題も解決できますし、沖縄の伝統の家に泊まりたい方はたくさんいると思います。また、島民との交流の機会も増えますし、島民に会いに来るのが目的になるリピーターの方もでてくるのではないでしょうか。		

性別	男性	年齢	38
居住地	東京都	職業	カメラマン
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	まず、那覇市内からも日帰りで気軽に行けるという点、それも安座真港からだと高速船やフェリーを使って短時間・低予算で渡れるというのが良いと思いました。観光地域づくりをするという前提で言えば、そこまでの知名度が無いことがかえって良い。資料を拝見させていただいた限り、見所や目玉になりそうなスポットが多いので、集客を推し進めやすいのではないかと思いました。		
久高島の観光地域づくりの弱み	観光に対して悲観的な島民の方々がいること。どの程度の人数でいらっしゃるか分かりませんが、少数以上いらっしゃるのであればまずそちらを解決すべきかなと思いました。今後、観光地域づくりを積極的に進めるのであれば島全体としての意見が固まっておらずはっきりしていない限りは推進力は弱いのではないかと。その次のステップが観光への工夫だったり方法を模索する段階だと思います。		
久高島の観光の転移可能性	資料を拝見させていただいた上では可能性はいくらでもあると感じました。神の島として御嶽や拝所などが数多く存在していたり、中には厳かな場所まであるようなので、観光の芯にするにはとても良いと思います。しかし反面、老若男女、特に若者を含めた多くのターゲット層を考えるのであれば、やはりポップな印象・観光内容・アプローチの仕方も必要ではないかと。ただの島ではない、特徴的な島の云われが魅力的です。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	今一度インフルエンサーや専属のアンバサダーを取り入れるのはいかがでしょうか。それと一番大事なのはバランスだと思います。私の中で久高島は大観光地になるよりは今までを残しつつ必要な分だけ観光化するぐらいが適度なのではないかと感じます。昔から伝わったもの・風景・人々の思想は何にも変え難いものですから。その意味では伊豆大島は絶妙なバランスで観光地として潤った印象があります。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	どちらでもない。一般的な田舎や離島には魅力を感じます。ですが久高島に関しては露骨に「はい」と言って良いものか迷います。先述の通り、島の中には観光に消極的な方もいらっしゃるということがあるからです。		
何度も行きたい場所は	私の場合はカメラマンなので、前提として素晴らしい景観があることです。あとは歴史でしょうか。日本人には真似出来ないほど見事なまでに歴史を現代と上手にミックスさせているヨーロッパはやはり素晴らしいと思います。都市ではプラハ、ブダペスト、ポルトです。		
田舎や離島等での印象的な体験	こちらも前述で過疎地域ではないのですが、大島を訪れた際は感心してしまいました。島民の方々も観光に関して悲観的な印象に少なくとも私の目には映らなかったです。むしろ楽しそうに生活していらっしゃる笑顔が印象的でした。		
持続可能であるために必要なこと	この先何十年、それ以上と続いていくことですから、最も重要なことは若者に感心を持たせ、続けさせることだと思います。その点では近年の流行であるSNS映えするような風景スポットを推し出すアプローチも効果的ではないかと思います。今は誰でも携帯電話やスマートフォンで気軽に写真を撮ってシェアする時代。風景や写真の力は意外と侮れません。インターネットでシェアされることで良い意味での伝染、口コミも期待出来ます。「拡散」などという言葉も流行りましたが、上手くいけば、それこそ一気に広まる可能性もあると思います。		
アドバイス、ご意見など	ぜひ島民の皆様が同じ方向を見て将来をつくれるようになることを願います。一本化・一体化したパワーこそ、どんな企画より一番大切であり、強力だと思います。それをまとめる優秀なリーダーが必要ですね。		

性別	男性	年齢	31
居住地	東京	職業	会社員
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	①東京の忙しさから解放されるような、イージーゴーイングな空気感・自然・地元の人々の存在。神事的な魅力も合わせて、「都会で疲れたときに行きたい」という切り口は強みになるのではないでしょうか？ ②絶景。写真のインパクトは「すごいな～！」と思いました。Instagramや記事などもっとWebで写真をドンドン公開していくことで、「あれってどこなの？行きたいんだけど！」というマインドを生み出せないかなと思いました（ひと昔前のウユニのようなイメージ）。		
久高島の観光地域づくりの弱み	アクセス。たくさん乗り換えが発生し、そのぶん費用もかさむイメージがある。自然と「行ってみたいけど、難しい」という印象を抱いてしまう。 あとは、地元の人が団結して町を盛り上げようとしている土地は、その様子がもうとても魅力的です。もし島民の中で意見の対立などが生まれているようであれば、それはとても残念だなと感じました。		
久高島の観光の転移可能性	あらゆる土地が行き尽くされた感のある今の旅行業界において、「未だ手つかずの土地」という秘境感。また、ソトモノが迂闊に知ったかぶりをできないような、独自の歴史・文化。神事などは「気軽に文化体験」という見せ方よりも、「高尚で尊いもの」というレアで不可侵なものというブランディングをしたほうが、結果的に観光客にも刺さるのではないか。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	上で述べたような切り口で、いくつかの島との関わり方を提示してあげてはいかがでしょうか？ ①「都会で疲れたときに訪れるべき」デジタルデトックスの聖地 ②「沖縄好きの中でもあまり知られていない、未だ手つかずの秘境」 ③「ソトモノが迂闊に踏み込んではいけない」神の土地・不可侵の文化で守られた島 また、①～③を伝える上では写真がとても強みになると思いますので、SNS（Instagramなど）や記事でWebを中心にプロモーションするのが効果的ではないでしょうか？		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。人の温かみを感じながら暮らすことができそう。自分の力を活かして貢献することで、その土地の文化や人々の生活を守ることにやりがいを感じる。都会では得られないものを得ることができ、救われる感じがする。		
何度も行きたい場所は	好きな人・また会いたい人がいる土地。訪れたときには「迎えてくれる人」がいて、“行く”というよりも“帰る”という感覚にしてくれるような土地。 具体的には「岐阜県・飛騨市」「栃木県・さくら市」「京都府・京丹後市」。		
田舎や離島等での印象的な体験	再度訪れた時に、みんなが集まって迎えてくれたこと。口々に「おかえり」と言ってくれたこと。その後また東京に戻った後も、SNSで常にいいねしてくれたり、応援してくれたりしていること。		
持続可能であるために必要なこと	移住にこだわらないことだと思います。関係人口ではないですが、その土地に貢献したいと考える人々を、たとえそれが出身の人ではなかったとしても、積極的に受け入れていく姿勢が重要だと思います。地元の人が団結して何とかしようと頑張っている“姿勢”を見るだけで、「何かしたい・何ができるか」を僕は自然と考えてしまいます。		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	40
居住地	東京都	職業	無職（旅人）
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	光煌めく神聖な島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	美しい砂浜、青い空、青い海……は、沖縄全体にある魅力ですが、さらに久高島には他の島にない独特の『静けさ』があり、とても印象的でした。疲れた人の心を溶かして解放してくれるような心地よい静けさは、ニライカナイ伝説の神秘性と融合し、この島を他にはない特別な空間として感じさせてくれました。		
良くない点・改善点	たまたまタイミングが悪かっただけなのかもしれませんが、地元の方に挨拶をした際に無視されてしまったのは悲しかったです。『観光客』が良く思われていないのだな、と委縮してしまいました。ただ、マナーが悪い観光客が存在しているのも事実でしょうから、お互いに気持ちよく過ごせるような工夫が必要だと感じます。例えば、島へ行くフェリー内でマナーに関するビデオが上映されていましたが、あまり真面目に見ている人がいなかった印象でしたので、「乗船前にビデオを見て、マナーに関する同意書にサインをしてからでないと乗船できない」くらいのことをやっても良いのかもしれません。		
久高島の観光地域づくりの強み	『まだ変に観光地化をされていない、琉球神話の聖地』というだけで、とても魅力的な土地であるという印象を与えられるのは大きな強みです。そしてそこまでの魅力を持ちながらもフェリーで20分という利便性も、アドバンテージであると言えます。周囲8キロほどの小さな島であるゆえに、頑張れば徒歩でも一周できるという点も、ゆっくり散策したい旅人に対しては惹きのある要素の一つです。		
久高島の観光地域づくりの弱み	いくら魅力的な土地でも、後を継ぐ者がいないと廃れてしまうのが現実です。ありきたりな回答で申し訳ないですが、高齢化、かつ昔ながらの排他的な要素によって島外の若い人が定住し辛い、観光客があまりよく思われないという点は弱みです。さらに、島民自体があまり開発を望んでいないという点は致命的な弱みであり、このまま何もしないでいると島の文化そのものが消滅しかねません。また、『聖地』であることが変に独り歩きをしてしまい、一部のおかしな観光客を引き寄せてしまっている点も弱みと言えるのかもしれません。		
久高島の観光の転移可能性	私は日本中を旅をしてきましたが、『観光地化されている観光地』は楽しいけれど少し物足りず、『観光地ではない密かな名所』は、趣があるけれど交通的に不便であることが多いです。久高島は島そのものの存在に魅力があるにも拘わらず観光地化されておらず、かつ交通的には行きやすいという、とても貴重な条件の土地です。この環境を決して壊すことなく、かつ知名度を高めていくことができれば、あっという間に大人気になる可能性はとても高いです。個人的にはあえて入島条件を厳しくして特別感を出すのもありだと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	離島は偶然たどり着くことはできないので、とにかく『知ってもらう』ことが重要です。久高島の魅力をダイレクトに伝えるのには、美しい写真と少しだけ神秘的なキャッチコピーを活用することが一番効果的だと思います。TwitterやInstagramで島の風景を紹介し、わかりやすい島の公式ページを用意すれば多くの人に魅力が伝わる可能性が高くなります。さらに、島のビジュアルを大きく使ったポスターを各空港に掲示することができれば、立ち寄ろうと思う旅人が増えるかもしれません。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。私自身がずっと東京暮らしであるため、離島などの非日常的な生活に触れることをとても魅力的に感じます。綺麗な空気と景色、ゆっくりとした時間……地元の人から見たら『あたりまえ』かもしれないものが、私には宝石のようにキラキラと輝いて見えるのです。無いものねだりは、旅の原動力の大きな要素だと思います。		
何度も行きたい場所は	その土地でしか見ることが出来ない景色がある場所は、何度も行きたくなります。 ・宮崎の鵜戸神宮（洞窟の中にある神社） ・青森の弘前公園の桜（桜の剪定方法が特殊で見応えがある） 等が最近では印象に残っています。 また、地元の方に親切にしていただいた場所も、また訪れたくなります。		
田舎や離島等での印象的な体験	秋田県の大阿仁で「ムラ旅」という企画に参加しました。 なかなか訪れることのできない集落を回り、リンゴ狩りやきりたんぽ鍋作り体験等その土地ならではの経験ができて良かったです。電車を使って参加をしたのは私だけだったので、最後は		

	皆さんが駅で見送って下さったということも含めて、とても印象深かったです。 ・その土地ならではの体験 ・地元の人の優しさに触れる という要素があると印象に残りやすいと思います。
持続可能であるために必要なこと	理想論を言うと、古くから住んでいる住民の方と、その土地が好きで移住してきた若い人たちが協力し合って盛り上げていく、というのがベストです。その地域に根付いた行事や食べ物などにまつわる観光客参加型のイベントを企画し、それをネットでどんどん情報発信していき、必要に応じて行政ぐるみで大きな広告を打つ等をすれば効果的ですが、やはり一番肝心なのは住民の方に協力する意思があるかどうか、だと思います。新しいものを受け入れられない土地は新陳代謝が止まってしまう、という意識を持つことが大切です。
アドバイス、ご意見など	久高島は『変に観光地化されていない』点が大きな魅力の一つですが、現状の形で維持が難しい場合はある程度の観光地化もやむ得ないかもしれません。しかしながら本当に個人的な意見で恐縮ですが、久高島の魅力は独特の静けさにあると思うので、大勢の観光客が騒ぎながら闊歩する……という状況にはなって欲しくないです。そのため、観光客側にも『環境を守る』意識を強く持ってもらえるような施策を立てることが大きな課題になると思います。観光客のマナーが改善されれば、開発反対派の島民の方の意識も少し変わるかもしれません。地元の方と久高島が好きな旅人が協力し合えば、より良い未来が開ける可能性が高くなります。応援しています！

性別	女性	年齢	35
居住地	神奈川県	職業	自営業
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	聖地。普通の沖縄観光コースではできないことができそう。		
久高島の観光地域づくりの弱み	認知度の低さ。ここならではのことは何なのか、いまいちよくわからない		
久高島の観光の転移可能性	聖地。伊勢神宮もそうだけど、そのようなこと好きな人多い		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	まずは島にきてもらう。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。新しい出会や発見、日常では得られないもの		
何度も行きたい場所は			
田舎や離島等での印象的な体験			
持続可能であるために必要なこと	ローカル経済がまわるようにする		
アドバイス、ご意見など			

性別	男性	年齢	31
居住地	千葉県	職業	会社員
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	島の伝統や自然がそのまま残されている点。土地が区の総有地であることや自然物の持ち出しの禁止などからは、神聖かつミステリアスな雰囲気を感じるので、スピリチャルな体験をしたい人間にとってはすごく魅力的。過度に観光地化されていないこともあり、沖縄本来の姿を楽しみたい観光客にとっては新鮮だと思います。 また「沖縄発祥の地」というのもコピーとして魅力的。本島から日帰りできるのも、手ごろでよいとの印象を抱かせる。		
久高島の観光地域づくりの弱み	【ターゲットが不鮮明】 受け入れたい観光客の層（年代、家族連れ？カップル？外国人？）を絞り切れていないように感じられる。 添付資料内から久高島の多数の紹介ページに飛びました。一見きれいですが、名所を羅列しているためページが長く、そのため読み込まないと、訴求ポイントを理解できませんでした。多くの人がサイトをスマホで見て、かつ流し読みしながらスクロールすることを考えると、「ここに行けば『何』を得られる」というのをはっきりさせる必要があるかと思います。		
久高島の観光の転移可能性	【リソースが豊富】 神話の舞台めぐり、きれいな海、サイクリング、イラブーなど、売りにできるリソースがたくさんあるため、ターゲットの明確化と、彼らに訴求するためのキャッチコピーと写真の選定→ウェブサイトでの発信により、久高島のよさをよりはっきりと発信できるはずです。大規模な観光開発はあり得ないという点にも好感が持てます。何度も戻ってきたいという安心感を抱かせる土地であると感じます。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	・他の神話の里との連携協定 神話の里といえば宮崎、島根などが思いつくが、彼らと「神話の里めぐり」をテーマにしたウェブサイトを作成し、国内の神話の里とそれぞれのストーリーがわかるプラットフォームを作る。 ・紙芝居の図書館・学校への寄贈 神話を題材にした紙芝居または絵本を作成し、本島の図書館や学校に寄贈する。道徳が教科化されるので、その時間にそれを副教材として使用してもらえれば、久高島の名前を子供→親というルートで知ってもらうことができる。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。日常を離れることで、自分が本当にやりたいことは何なのかを考える、つまり自分と向き合うことができるから。		
何度も行きたい場所は	上高地。奥入瀬渓流。大自然に触れると、自分の悩みがいかにちっぽけだったかがわかる。すべてをリフレッシュさせてくれるポテンシャルを、久高島も持っていると思う。		
田舎や離島等での印象的な体験			
持続可能であるために必要なこと	①よそ者、若者、ばか者の流入 ②住民が補助金や支援に頼らず、自分たち自身で自立の方法を考えること。 その土地の魅力を最も知っているのは住民だが、他の地域から見れば特色あることがいつしか当たり前になってしまい、アピールポイントであるとの認識がなくなる。それに気づかせてくれるのが、他の地域の住民や新鮮な発想を持つ若者・ばか者。①と②が定期的に交流することで、これまでにない発想が生まれると考えます。		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	32
居住地	東京都	職業	アルバイト
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神の島、神聖、気軽に訪れにくい		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	人、信仰、文化、集落など、久高島そのものが昔ながらのままに守られているということ。島が経てきた歴史をそのままに感じることができるということにとても惹かれます。手付かずの島を体感したい人や人が少ない場所が好きな人、パワースポット巡りが好きな人にとっては、そういう部分はとても魅力的に感じられると思います。港から近く日帰りで行くことができる点も良いと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民が観光地化を望んでいないということ。例えば竹富島は今ではとてもメジャーな観光地になった反面で、観光客を排除するのではなく、昔ながらの集落を守るために島民同士で同じ方向を向いていることで島を守っていられるのだと思います。また、久高島＝神の島というイメージが一番強いので、気軽に観光に行く場所という感覚になりにくいと思います。沖縄の離島というとどうしても渡嘉敷座間味や北部の水納島など西側の島でアクティビティも楽しめる点がポイントになっていると思います。		
久高島の観光の転移可能性	一番はやはり「神の島」であるということ。パワースポット目的として訪れたいと思う人はたくさんいると思います。また、最近は南城のサボテン畑なども有名になっているので、本島の観光と絡めて日帰りでおすすめできると思います。沖縄に観光に来る方はマリンアクティビティを楽しみたいと思う人がとても多いと思うので、東側ならではの海の楽しみ方をアピールするなどの面を強化することもできると思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	まずは認知度を高めるために、SNSでの拡散が一番効果的だと思います。安っぽい広告のような宣伝ではなく、久高島の神聖な雰囲気を壊さないような写真や文章で、島のマナーやルールも入れ込みながら発信していくことで、これから訪れようという人に久高島がどんな場所かということをきちんとイメージ付けすることが大切だと思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。自然が好きだから。またどんな田舎でも歴史があり、そこに根付いた生活をする人がいるので、どういった暮らしをしてきたのか知りたくなります。		
何度も行きたい場所は	私は自然が好きなので、秘境や絶景はリピートしたい場所がたくさんあります。（奥西表の鹿川、下地島の鍋底、一ノ関の猨鼻渓、八戸など）またその土地の歴史を知ったり、人に触れることもポイントになると思います。どんなに素晴らしい場所でも、受け入れられていない印象を受けるとリピートしにくいです。		
田舎や離島等での印象的な体験			
持続可能であるために必要なこと	どんな場所であっても、人がいてこそ生活が持続するものだと思います。その生活を守るために、観光客など外から人をいれるようにするのか、それともその土地の人たちだけで守っていくのか、まずは暮らす人がきちんと方向性を定めてなければいけないと思います。観光客を増やそうとするのであれば、香川県観光局のHPであるうどん県旅ネットのようなPRの形はとても効果的だと思いました。先日、男木島と女木島という小さな離島へ行きましたが、このHPのおかげでイメージしやすく、滞在がより充実したものになりました。		
アドバイス、ご意見など			

性別	女性	年齢	30
居住地	東京都	職業	自営業
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	沖縄本島から近く、本土観光と併せて訪れやすい。観光開発がされていないので、リゾート地や観光地に飽きた旅人は魅力を感じそう。神聖なスポットが多く、パワースポット巡りや御朱印集め、お遍路などが好きな旅人と親和性が高そう。都会の仕事に疲れた人や静かに過ごしたい人にとって理想的な場所だと思う。		
久高島の観光地域づくりの弱み	資料に記載のあったように、「観光客をよく思わない地元の方がいる」という空気が伝わると訪れにくさを感じる。必ず訪れるべき場所（ゲストハウス、カフェなど）がわかりづらく、最初に訪れるきっかけを作りにくい。入ってはいけない場所や神事に関するルールなどがあると、敷居の高さを感じる旅人もいると思う。（ただ、島の文化は尊重すべきだと思いますし基本旅人もそのように考えているとおもいますので、「してはいけないこと」「守ってほしいこと」をきちんと伝えることができれば問題ないと思います）		
久高島の観光の転移可能性	まだ島自体の知名度が高くないため、少しでも多くの人に知ってもらうきっかけさえあれば観光客の数は増えそう。また、島の若い方が観光に関する新しい取り組みを行なっているということで、東京やその他都市部の若者ともつながりができればこれまでにない斬新なアイディアが生まれると思う。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	若い方が中心になり、島のフリーペーパーやSNSサイトで発信を行う。小豆島カメラ（http://shodoshimacamera.com/）のように、現地の方が撮った写真を定期的に公開していき、島の空気を伝えるのはいいのではないか。島の歴史や見どころをきちんと知っておくほうが楽しめる場所だと思うので、現地の人がアテンドしてくれるツアーなどあれば魅力的だと思う。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。東京の中心で働いているので、ときどきは静かな場所に行ってリラックスしたい。出身地（千葉県）にあまり愛着がないので、移住とまではいかなくても定期的に訪れる「第２の故郷」のような場所がほしい。		
何度も行きたい場所は	観光客や移住者を受け入れてくれるような案内人がいる場所。現地に「おかえり」と言ってくれる人がいると、その地域に足を運ぶ理由になる。		
田舎や離島等での印象的な体験			
持続可能であるために必要なこと	移住とまではいかなくても、定期的に訪れる人（関係人口）の数が増えること。SNSなどのサービスを活用して、世界中で情報を見られるようにすること。観光や移住のために訪れた人を迎え入れる「案内人」がいること。観光客や関係人口として関わる人を歓迎する空気があること。		
アドバイス、ご意見など	グループで訪れる観光客はどうしてもマナーが悪くなりがちなので、カップル旅または一人旅のおすすめ場所として認知されるといいのかなと思いました。私自身、このアンケートに答えるまで久高島の存在を知らなかったのですが、行ってみたくなりました。		

性別	女性	年齢	28
居住地	東京都	職業	自営業
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	沖縄本島から近いのどかな離島		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	琉球神話における聖地の島。		
久高島の観光地域づくりの弱み	観光ツアーに反発の声があること		
久高島の観光の転移可能性	沖縄本島に近い離島ということでアクセスが良いこと。アクセスが良いのに、離島ならではののどかな雰囲気や、長年根付く琉球文化を感じられること、自然の恵やパワースポットもあること。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	「神が降り立った聖なる離島」「大都市からアクセスが良い秘境」などの切り口。屋久島などは神秘的な島として人気を集めていると思うので、参考にしたらどうかな、とは思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。過疎であるということよりも、独特の文化が残っているガラパゴス的スポットに興味があります。どうしてその文化が残り続けてきたのか、そういう理由が知りたいです。		
何度も行きたい場所は	適度に安全な場所で、均一化されていない（チェーン店ではなく個人店が多いなど）その地域ならではの文化がある場所。適度なエンタテイメント性と美味しい料理がある場所。		
田舎や離島等での印象的な体験	三宅島、御蔵島に取材で行ったことがあるのですが、コンビニがないのはもちろん、東京からの物資は1週間に1度しか届かないこと、海が荒れれば2週間以上船がつかないことなど、想像以上に不便を強いられていることにびっくりしました。人を呼ぶためにはそんな不便な環境でも「行きたい」と強く思える何かが必要なんだと思います。		
持続可能であるために必要なこと	本当にその土地を愛してくれる人だけを移住させるプログラムを行うか、移住を目的とせず観光地化して観光客を増やすか、企業を誘致して関係人口を増やすか、何かを諦めて何かに舵を切る必要があると思います。全てを叶えるのは難しいと思いますので。		
アドバイス、ご意見など			

性別	男性	年齢	46
居住地	京都府	職業	専門職（トラベルガイド・コンサル）
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	奇祭の島		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	久高島での強みは、何と言っても「南の島の非日常性」でしょう。（気がついていない人は多いのですが）沖縄は世界でも有数の美しい海と島の集合体です。そこに、人口200人という小ささでありながら、文化も歴史もあるというは、世界的に見ても興味深いところです。いわゆる「パワースポット」の地としてもアピールすることができる（しかし、これは議論が別れるところでもあります）。さらには、孤島でありながら、沖縄本島からさほど遠くなく日帰りができる事であると思います（ただし、この辺りは難しいところで「日帰りができないような秘境」というのにも人は憧れます）。		
久高島の観光地域づくりの弱み	資料にもありましたが、地元の人たちが、そもそも「観光で地域づくり」をしたいとは思っていないというところでしょう。そうすると、島の観光的な整備もされず、従って、島における観光のマナー・ルールなどの周知もできず、好き勝手に「観光」されてしまう、というところでしょう。海はきれいですが、ビーチがないのも弱点かもしれません。 人口が少ないというのも弱点です。20代、30代がどれくらいいるのかわかりませんが、おそらくほとんどいないのではないでしょうか。これだと、新しく街をつくることは極めて難しいです。 これに加えて、島と外部との温度差もあるでしょう。ヨソ者は歓迎されていないでしょうから（これはここに限らず観光の抱える問題の一つ）、外部が何をいっても聞く耳は持たないはずです。あれをしてはならない、これをしてはならない、というのが多すぎます。それでいて、お土産は買ってください、というようなのはムシがいいとしか言いようがありません。		
久高島の観光の転移可能性	場所としては、ポテンシャルは高いと思われます。ほとんど手つかずのエリアなので、そういう場所は日本ではかなり貴重でしょうから、手つかずの場所という良さはあります。さらには南国の島ですからそれだけでも可能性を感じられます。しかし、何かをアクティブに行うというのではなく（できるような場所もそもそもない）、例えば天体観測のようなものとか、特に何もしなくてもいい、ということが上手く軌道に乗ればいいのではないかと思います。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	いくつか、写真、YouTubeなどを見ましたが、正直いずれも素人の、決してレベルが高いようなものではありませんでした。そういう意味では、しっかりとした美しい作品を残すというのは大事です。流行り言葉的にいうなら、「インスタ映え」するようなものが必要です。 さらには、美味しいものを、食べさせてほしいと思います。そこでしか経験できないものの一つは、間違いなく「食事」です。ここにできる限りの労力をそそぐべきかと思います。 もちろん、あっさりと007シリーズや、ハリウッド映画、そこまでいかなくても、アニメ作品なんかの舞台になれば「聖地」とやらになって、とりあえず多くの人に魅力は届くと思われます。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。私自身が、ツアーガイドやコンサルタント的な業務をすることがあり、そこで大事なのは「価値」です。まだまだ多くの場所には有形無形の価値がある場所が多いのですが、それを発掘できずにいることは非常に多く、その価値もわからないまま、結局新しい建物を作ってしまったり、全く歴史的な文脈を理解せず、さらには外部「コンサルタント」の言いなりになって、何も残らなかったということが多いのです。しかし、そこの訪れるだけの「価値」がある限り、その価値は決して地元のものだけではなく、人類が共有すべき普遍的価値があるはずです。それを確認、理解、共有させるのは、当然のことであると考えます。		
何度も行きたい場所は	フランスのパリ、日本の京都、イギリスのロンドン、タイのバンコク、中国の各都市。歴史があるところ、食べ物が美味しいところ、圧倒的な何かがあるところです。あとは安全も重要です。		
田舎や離島等での印象的な体験	ラオスのムアンノゴイ（Muang Ngoi）という村があります。ここは、インドシナ半島の中央部、ルアンパバンからバスで４時間、さらにメコン川をボートで上って、約１時間という場所にあります。しかし、その「秘境」感から多くの外国人観光客を呼び寄せています（私もその一人です）。内陸なので、もちろん海はありませんが、メコン川での川遊びと、自転車で滝に行くくらいでしょうか。それでも、その何もなさを楽しみに行くところです。電気は夕方７時から11時まで。それでも結構な人が楽しんでいました。おそらく、人口は200人くらいでしょう。		

持続可能であるために必要なこと	はっきりいうと、自分たちだけでどうにかなることは、この先あり得ない。自滅するだけです。日本自体も、このままだと絶滅します（誇張表現ではありません）。本当に持続させたいというのであれば、腹をくくって、外から来る人を、心から歓迎するという意識の改革をするほかはありません。それができないと、ここの島の文化は消滅し（すでに消滅しかかってます）、運がよければ外部資本に買収され、リゾートアイランドになることでしょう。 そうなりたくないのであれば、意識改革するしかありません。
アドバイス、ご意見など	アドバイスは本一冊くらいありますし、私はできますが、とりあえず「できることからしっかりやる」です。facebookや instagram twitter、毎日のブログの更新などは毎日できます。したほうがいいと思いますよ。twitterの最終更新っていつだったか、覚えてないですよね？

性別	男性	年齢	26
居住地	宮城県	職業	自営業
知っているか	はい（名前を聞いたことはある）		
久高島のイメージ	以前沖縄を調べていて見かけた。ちょっと厳しいかもしれないが、農村を含め観光＋ローカル交流を押し出しているところは多々ある中、琉球神話のはじまりの地というのが興味深い。歴史好きは好きなんじゃないか。		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	何といっても、琉球神話の始まりの地というアイデンティティが素晴らしい。これだけで歴史的な背景と、行動指針やPR面での背骨ができる。文化保護の観点から言っても地割制の恩恵が強く、一度確立できたものを守りやすいということでもある。また、外部が活性化モデルとして期待してくれているという内部以外のバックアップ面も、強い環境のひとつだと思う。8kmというのもツアーや旅行の中でピンポイントに組み込みやすく、コンパクトさは武器になりうる。あと立地的な問題もいい。20分の船旅でいけるのは距離感的にも近く感じる。コンサルティングのしがいがあると感じた。		
久高島の観光地域づくりの弱み	島民自身が開発を望んでいないという部分が気になる。もちろん、程度問題だとも思うのだが、内部が嫌々観光で人を集めようと思ったとしても、できるわけがない。話し合いを十分にした上での施策がなされていない印象を受けるが、外部と内部の意見の乖離性やすり合わせ不足は、とても致命的な問題になりうると思う。また、外部から投入された人材や事業が発生したとしても一過性のものになっているのは、根本的な活かし方がわかっていないだけ・わかってないからこそだと思う。これに関しては、中立的な、内部にある程度の発言権や良好な関係性を持ちつつ、外部の事情やビジネス感覚がわかる中間人材の設置が必要だ。もし私が関わるとしたら、根本的な問題の洗い出しと方針決め、先述の人材の確保と、住民との寄り合い会から始めるだろう。		
久高島の観光の転移可能性	観光可能性としては、「割とアクセスがいいところ」、「歴史的な背景がしっかりある」、「良くも悪くも8kmというコンパクトな中にまとまっている」。辺りだろうか。また、資料にあった過剰なスピリチュアルツアーが組まれるという点は、言い方を変えれば「きちんとした情報が伝わってない中でツアーが組まれてしまっている」（発信や伝え方の不足）、「きちんとした情報がなくてもツアーが組まれ人がくるだけの魅力がある」と言い換えることもできる。あとは観光客はすでにとても多いので、それを利用して何ができるか、と今ある資源を利用して考えるにはとても恵まれたリソースを保有していると感じる。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	まず、魅力になるポイントは非常に恵まれている方だと思う。島の歴史や、歴史を背景にしたスポット、海、自然、サイクリング道（？）、などなど。観光パッケージツアーのようなものを考えるならば、海外の白人向けのツアーは一考かもしれない。今回はコンサルではなくアンケートなので調査結果などでお伝えはできないが、若者が今島で頑張っているということで、切り口の一つの提案として神事そのものを魅力として押し出すのではなく、『神事と島の自然と共に生きてきた島人の生活や文化・背景』を、体験や身近に感じてもらえるイベントを通して発信するのは島の情報を肌で感じてもらうためにもいいと思う。神事ではなく島人という枠に変		

	えることで、神事そのものを観光利用することに抵抗がある層と和解できれば尚良し。
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。私自身が田舎の出身で、そこまで田舎！！って感じではないとはいえ、隣の家が数百メートル離れてたり、夏場は家の横と前の田んぼでずっと蛙が鳴くような場所だった。だけれど、私はその場所がとても好きだし、小学校から高校までとても幸せな場所で育つことができたと感じている。そういった原体験を感じる場所を残していきたいし、そういった場所自体がもつ器の大きさや、環境としての魅力をもっといろんな人に感じてもらいたいし知ってもらいたい。
何度も行きたい場所は	田舎でも、しなびているのではなく、活気・生気・温かみを感じる田舎。こういう「いい場所」というのは、ことローカルだと属人的なものが多くを占めると思っているので難しいが、関西だと丹波はいいところだった。福井県は意欲的な人も多く、これからに期待してまた時間をあけてから行きたいと思う。茨城は農家が多いエリアは、さすが農業がメインの県だけあって活気があり気になるところは回りきれない。茨城より北関東の方面だと、岐阜や栃木はリソースもあるし今注目かと思う。長野と合わせて限界集落や歴史背景を持った土地へフィールドワークのようにまた赴きたい。東北だと宮城の温泉地（秋保、遠刈田）、秋田の湯沢が印象的で、ここは現地の人との交流も楽しみにまた訪れるだろう。
田舎や離島等での印象的な体験	折りたたみ自転車で宮城県の田舎を走っていたところ、方向音痴もあり電波が通らず道に迷った。通りかかった人何人かに道を聞いたら、全ての人が「ああ、災難だったね」と笑って道を教えてくれたりよもやま話をしてくれた。同じく、ある夏に宮城の無人駅で海外旅行に行くという快活なおばあさんと話をしたが、地元ならではの話ができることが魅力だと思うし、いつもではないにしても田舎はこういった暖かい空気を感じられた時が心地いい。
持続可能であるために必要なこと	「ここが必要だ」と思う人を１人でも増やすこと。そして、ここをどうにかしたいって人を１人でも増やすこと。この二つは絶対に必要だと思う。そしてそのためには離島や過疎地域の中で生活する人たちと理解しあわなければいけないし、協力してもらわなければいけない。そしてそうして貰うためには話し合わなければいけないし、聞いてもらわなければいけないし、聞かなければいけない。そうなると、懐に飛び込んでまずは受け入れてもらわなければいけない。当たり前のことを書くようで申し訳ないが、持続可能な地域を作るというのは、観光リゾートに人が集まるのとは違う。もっと属人的なものだと私は感じている。そしてそれを可能にするのが人である以上、コミュニケーションや理解といったものが事業のための人材や金銭投入よりまず先んじるべきだと思っている。
アドバイス、ご意見など	上記設問の枠の中で自由に書かせていただきありがとうございました。見ているうちに知らなかった情報や地域の情報にとてもワクワクしたので、いつか行く機会を作れればと思います。もしくは「これをやってくれ！」と呼んでいただけたら、とっても喜びますね。観光に関してのアドバイスは、まずは理解や対話から入ること。プロダクト思考よりはサービス思考の方が上手く行くと思います。その上でどのような形で観光や事業などを絡めていくのが、継続的な島の『在り方』に一番いいのかを、人・環境・お金・歴史なんかを鑑みながら考えていくことが大切だと思っています。書いていて楽しかったし、こういった内容はもっと話したいですね。ありがとうございました。

性別	男性	年齢	45
居住地	宮城県	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	パワースポット 神の島		
行ったことがあるか	はい		
良かった点・好きな点	島の自然が手つかずのまま残っており、まさに離島って感じがしたところ。 また、コンビニや娯楽施設もなくのんびりしているところが良かったです。		
良くない点・改善点	多分、島の開発など出来ないからだと思いますが、島内の観光は自転車での移動になりますが砂利道が多く大変な部分もありました。特にカベール岬へ行く道は辛かった。		
久高島の観光地域づくりの強み	まず、本島からのアクセスが良い所。フェリーで20分程で行ける為、日帰り観光も余裕で出来ますし、朝一のフェリーで行けば午前中には帰ってくることも出来る。また、島全体が聖域ということもありスピリチュアルな部分が沢山あるので癒されました。前にも書きましたが島内は		

	自転車での移動になり、車も少なく、もちろん信号などありませんしのんびりと自分のペースで観光出来るところだと思います。都会の喧騒からはなれて何日か泊まるのもいいと思います。（自分は泊まっていません）まさにパスポートのいらない外国って感じです。
久高島の観光地域づくりの弱み	やはり手つかずの自然が残っているという事は新しい開発がされて居ないことですよね。島全体が聖域ということで昔からの景観を残す、保護しなければいけないということが開発や新規産業を受け入れ出来ない部分なのかと思います。また、高齢者が多く若者が少ない点も新しい観光作りに待ったをかけているのではないかと思います。最近では若い子達が島での生活体験や地元の人との交流を深める取り組みもしている見たいなのでメジャーになって行くのではないかと思います。 自分が行った時は日本人だけで海外からの観光客は居ませんでした。たしかに島内の案内にも英語や韓国語など無かった様な気がしました。海外の方は久高島を知らないのかなぁって感じでした。こんな素敵な島なので海外にもアピールしたら活性化するのではないかと思いました。海外から観光客が沢山訪れると今度は別の問題が発生するかも・・・
久高島の観光の転移可能性	島の人達が今も自然・昔からの信仰を大事にしていることが次の世代に受け継がれ島の良さをアピール出来るところ。話しが矛盾するかもしれませんが、島の開発や新しい産業が入って来ない点も、この聖域にとっては一番いい状況なのかもしれないですね。離島であるからこそ自然のままであった方、離島好きにはいいのかも。逆にコンビニなんかあったらおかしいですよね。日常の生活とかわらないので！ 今では若い人達が島内で地元の人達と交流を深める場も作っているらしいので観光客もどんどん増えて行くのではないでしょうか？　また、若者による生活体験などもいいアイディアだと思います。若者による島の生活体験など世界に伝わることに可能性を感じます。
久高島の魅力を届ける効果的な手法	多くの人、世界の人に久高島の魅力を伝えるにはやはり今はSNSによる発信なのかと思います。島内の風景や青い海など写真でリアルタイムに伝えることが出来場所なども伝わるので一番良い手法なのかと思います。SNSだとコメントや質問なども直ぐに返せるので知りたい情報もすぐわかる点がいいのかなぁと！　他にブログや旅行を媒体にしている記事だと思います。いろいろな旅行媒体をみていると人それぞれの個性が出ているので、観点もそれぞれ違いますし、いろいろな情報が入ってきます。ネット社会の今ですので冊子などよりもリアルな情報をだれもが望んでいるのではないでしょうか。
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。昔ながらの場所、人が好き。島や村から出たことが無い人と会いたい。
何度も行きたい場所は	何百人しかいない島など。宮古島
田舎や離島等での印象的な体験	海で飛び込みをしている地元の小学生と話をした時、「綺麗な海でいいね」と言った自分に子供達が言った言葉「綺麗な海しかみたことないよ！」。幸せな子供達と思った。
持続可能であるために必要なこと	若者の流出を防ぐ為の手段。仕事や産業がないとどうしても若い人達は島などを出て行くしかないと思う。また、医療機関やライフラインの整備などもしっかりしないと高齢者が多い過疎地域などでは災害などが起きた時大変な思いをすると思う。離島でも過疎地域でも何かアピール、発信出来ることは必ずあるはずです。地元の人は当たり前だと思っていることが、他の人にとっては新鮮だったりもします。その様なことを誰かが見つけて世間、世界に発信することによって人が集まり地域が活性化して持続して行くのではないかと思います。 以上のことをするのは高齢者の方では難しいと思うので誰かが見つけて発信し、活性化させなければ持続は難しいのでは！
アドバイス、ご意見など	ゲストハウスなんか出来たらいいかも。

性別	女性	年齢	34
居住地	東京都	職業	会社員
知っているか	いいえ		
久高島のイメージ			
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	神の島ということです。琉球が誕生するきっかけの島という点にとても興味が湧きました。またイザイホーの写真も久高島宿泊交流館に展示されているようなので楽しめると感じましたし、私のように祝女制度に興味を持つ人はいると思います。立ち入り禁止のエリアがあるということは、人間の手が入っていない自然があるということなので海の美しさ含め自然の豊かさは本当に魅力的です。写真みるだけではなく、実際に美しさをこの目で見たい、感じたいと思わせる場所が、那覇から手軽にも行けるという点も強みになると感じました。		
久高島の観光地域づくりの弱み	Webサイトを拝見しましたが、もう少し情報が欲しいと感じました。島の詳しいマップや港からどのスポットまでは何分かかる、徒歩だと何分などあると、日帰りで立ち寄りたい時のプランが組みやすいです。 またお食事処の数や自動販売機が少ない、お手洗いの場所や着替える場所についても不安があります。 マリンシーズン以外の魅力、年間行事についての写真、動画を含め情報が少ないため あると良いと感じました。		
久高島の観光の転移可能性	サイトを拝見して、どの場所も本当に美しいと感じました。フォトジェニックなスポットも沢山あり、いろんな切り口で久高島の魅力に興味を持つ方が沢山いるように感じました。久高島の魅力が20-30代あたりに届けば今以上に観光客側から写真などで情報を発信してくれるような気がします。 海が美しいためシュノーケリングを体験したい人、手付かずの自然の中をサイクリングで楽しむことなど、沖縄のなかでも本土からも日帰りで楽しめるため情報が届くきっかけさえあれば 久高島の観光が広がるように感じました。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	WebやSNSでの情報の発信が効果的だと思います。沖縄旅行に行く人たちの観光スポットの選択肢の 1 つとして捉えてもらうようになるのがいいと感じました。石垣島と比べると那覇から手軽に行ける島だと思います。 Webで使用されている写真素材をもっと増やしたり、短いものでいいので動画もあるとより魅力が伝わりやすいと感じました。またWeb上にある久高島の情報量なども少ないと思いましたので幾つかの方面から発信し久高島の存在を目にする機会を増やすことが大切になってくるかと感じました。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。どこか懐かしさを感じさせてくれるからです。普段の暮らしの中では味わうことができない時間の流れを感じさせてくれたり、自然の美しさに改めて気づくことができるからです。		
何度も行きたい場所は	何度でも訪れたい豊島美術館があるため。豊島		
田舎や離島等での印象的な体験	バスの本数が少ないからといって車に乗せてくれる人がいたり、民宿の方が手書きのマップをくれたことがあり、温かい気持ちになれました。一人旅をしていると、美味しいご飯屋さんを教えてくれたり、夕陽の綺麗な撮影スポットを教えてくれたりと、住民の方の優しい気づかいに触れることができました。		
持続可能であるために必要なこと	若い世代の方の手伝いもあった上での観光の活性化が必要だと思います。ターゲットとする観光客の世代に近い人、その人たちが離島の旅に求めるものの感覚を吸い取った上で久高島の観光をよりPRしていくことを考えたほうが良いと思いました。またフェリーでの移動も、それ自体が楽しめるイベントだと感じますし、今ある自然をそのまま残し続けることが大切なように思います。		
アドバイス、ご意見など	今回、このアンケートに参加させていただき久高島にすごく訪れたくなりました。久高島で幸せな時間を過ごしたいと思いました。		

性別	女性	年齢	34
居住地	京都府	職業	会社員
知っているか	はい（場所も知っている）		
久高島のイメージ	神様が住む島		
行ったことがあるか	いいえ		
良かった点・好きな点			
良くない点・改善点			
久高島の観光地域づくりの強み	やはりパワースポット的な要素だと思います。		
久高島の観光地域づくりの弱み	地元の人と観光客との、思いの差だと思います		
久高島の観光についての転移可能性	島の文化が守られているところです。		
久高島の魅力を届ける効果的な手法	しっかりと理解のある外部の若者を取り込むことが必要だと思います。 他の離島のようにマリンスポーツや宿泊施設などに注力したり、SNSでPRするなどが良いと思います。		
離島等と関わることに魅力を感じるか	はい。私自身、自然の多い離島への移住を考えているためです		
何度も行きたい場所は	バンコク:人が優しい、物価が安い 宮古島:海が綺麗、LCCがないためか軽いノリの観光客が少ない ソウル:食べ物が美味しい、近い、安い		
田舎や離島等での印象的な体験	オリオン座がどれかわからないくらいの星空を見たこと。 ただただ感動しました。		
持続可能であるために必要なこと	若者の招致。ただ門戸を広げるのではなく、プレミア感を出すといいと思います。簡単には行けない場所、みたいな感じの方が行きたくなる気がします。		
アドバイス、ご意見など	一度は行ってみたいと思っています。 自分の目で見て、このアンケートに答えられたらよかったなと感じました。		

3. 小括：上記意見をふまえた久高島へのまなざしの分析

イギリスの社会学者ジョン・アーリはその著『観光のまなざし――現代社会におけるレジャーと旅行』（加太宏邦訳、法政大出版局、1995 年）の中で、ミシェル・フーコーの「まなざし」論を応用し、「観光のまなざし」という概念について論考した。アーリによると「観光のまなざし」は、「日常から離れた異なる景色、風景、町並みなどにたいしてまなざしもしくは視線を投げかけること」（同書 2 頁）のことである。そのことが社会的にどのように構造化（固定化）されてきたのかを、イギリスの海水浴場を事例に分析したのが前掲著作であった。

アーリは、観光が内包しているものは一種の解釈学としたうえで、「休暇旅行で、人が求めるのは、旅行会社のパンフレットやテレビ番組で見るような、一連の写真的映像なのである。ツーリストが出かける場合、この既存イメージを追い求め捉え、ついにわがものにするというようにまでなっていく。そして、旅行とは、出かける前に、原型としてすでに見ているイメージの、自分用に焼直したものを、現地で指差して、そこに確かに来たということを証明する作業に結局なっている」（同書249頁）と延べている。つまり、観光する前に「夢想や空想を通して、自分が習慣的に取り囲まれているものとは異なった尺度あるいは異なった意味を伴うようなものへの強烈な楽しみへの期待」（同書5頁）が固定化してしまい、現実の観光ではそのまなざしをなぞるだけの状況が生じていると言うのである。また、旅行業者や広告業者、メディアがこのまなざしの再生産を後押ししているとアーリは考える。こうして域外の者からの「まなざし」によって地域の特徴が内面化され、自覚され、そして物語が創り上げられ、観光資源化していくことが論じられている。

このことを久高島に落とし込んで考えてみよう。観光客はまず、「旅行に行くかどうか」（旅行に行く時間や金はあるか？　誰と行くか？等）を決める。行くことが決まれば次に、「旅行先をどこにするのか」（何が見たいか？　何を食べたいか？　何をするか？等）について考える。このとき「まなざし」が形成され、メディアが選ぶ行動に大きな影響を与える。例えば、映画やドラマのロケ地、雑誌に取り上げられた街並み、絵葉書・ポスターになった景色、地元で話題のレストランなどの情報である。その結果、プル要因が働き、人々は旅行先を選ぶことになる。

実はこの時点で「久高島に行きたい」と考える人はまだ少ないと想定される。おそらく久高島へのリピーターを除く多くの観光客は、まず「沖縄」や「斎場御嶽」等で行き先を決め、次のステップの「旅行の準備をどうするか」（日程は？　滞在先は？　交通手段は？　予約は？等）で久高島の情報に触れることが多いのではないだろうか。この段階では、人々は旅行ガイドブックを入手したり旅行サイトを閲覧したりして情報を収集する。泊まりたいホテル、人気のある飲食店やアトラクション、名物の土産などを旅行ガイドブックで確認し、サイトのクチコミを調べる。この過程で久高島の情報にふれ、「神の島」や「癒し」などの既存のイメージが刷り込まれ、実際の観光でも旅行ガイドブック指南による「巡礼の旅」を行うことになる。この論理によると、久高島の観光客が来れば来るほど、従来の観光イメージは

再生産されることになる。

■離島フェア2017での意見

一般的な傾向と同じで、離島フェアでも久高島のイメージを「神の島」や「神聖」と答えていた。久高島はこのような視線で常にまなざされており、それは島の住民にも一面では共有されている。しかし一方で、住民は一方的なイメージの押し付けに反発も感じており、「島には島の生活がある」というような言説で、観光より劣位に生活がおかれることがないように予防線を張ろうとしている。

したがって、今後は「神の島」などの久高イメージは残しつつも、もっと住民目線での島の魅力を伝える言葉や概念を育てていく必要があると考えられる。離島フェアでの意見からは、「静か」「のんびり」「そのままの魅力」などが挙げられ、ここに住民のアイディアを上乗せして受入れコンセプト（地域ストーリー）を固め、コンセプトに沿った事業や体験プログラムの展開を図るのが望ましい。そうすることによりイメージの偏重から脱却し、外部資本のイメージ搾取的なツアー商品等を減らすことにつながると考えられる。

■ターゲット層ヒアリングでの意見

ターゲット層へのヒアリングにおいても、「神の島」というイメージが前提としての意見が多く、メディア等の情報に触れることによるものと思われる。そのイメージを背負いつつもヒントになりそうな点として、「久高島が『神の島』なのは、どのような歴史があるからなのか」、「『神の島』である久高島で人々はどのように暮らしているのか」のように、神の島としてただ崇めるのではなく、久高島が神の島であるがゆえの島での暮らしなど様々なことに興味を持っている人も多かった。「神の島」であることを上手く利用しつつ、島でのあたり前の生活や住民との交流を、訪れる人の知的好奇心を刺激するものとしてつくり上げていくことも可能なのではないか。

また、ターゲット層が田舎や離島・過疎地域の魅力として感じる点、例えば、島らしい暮らしの体験や、地元の人と交流して仲良くなること等は、久高島でも存在することである。これらを「誰かに見せたい絶景」や「誰かに話したくなる印象的な体験」とするためには、「神の島」という特別なストーリーに加え、お客さんに喜んでもらおう・楽しんでもらおうとする住民の気持ちがあれば、十分可能なのではないだろうか。

これらをふまえ、来訪者に対して、住民との交流や、交流が産み出す誰かに話したくなる体験を提供できる機会が少ないことは、現在の久高島観光の課題と考えられる。そのため、来訪者が島の人と気軽に交流したり、島の魅力を感じるためにふらりと立ち寄ったりできる場の設定が有効と考えられる。

§6
関連計画等の整理

1. 関係者ヒアリング　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2. 久高島総合計画における観光の位置づけ　・・・・・ 3

3. 南城市の関連計画における久高島の位置づけ　・・・ 5

4. 沖縄県や国の関連計画からの
久高島観光への参照点　・・・・・・・・・・・・・ 15

5. 小括：久高島の観光施策俯瞰　・・・・・・・・・・ 20

1. 関係者ヒアリング

(1)調査の概要

南城市の観光振興に携わる関係者へ、久高島の観光について、現状および課題や取組、将来的な久高島観光の方向性についての考えや意見を伺うためにヒアリング調査を実施した。

項目	概要
ヒアリング対象者	久高区長 久高自治会評議委員長 NPO 法人久高島振興会副理事長／アマミキヨ浪漫の会顧問 南城市観光協会事務局長 合名会社久高海運代表 NPO 法人久高島振興会理事長／土地管理委員長
主なヒアリング事項	①久高島の観光について(現状、課題、取組、今後の意向など) ②土地活用について(空き家・空き屋敷、土地憲章についてなど) ③その他(入島税など)

(2)調査結果

関係者ヒアリングでは、久高島に対する観光客が増加していることから、マナーの悪さや立入禁止区域への立ち入りなどのトラブルが起きており、島内でも観光受け入れについて意見が揺れていることが指摘された。また、久高島観光の課題として、ワンストップ窓口を設置する必要性や、観光を担う人材や後継者の不足が挙げられている。

人材不足という課題解決のために、島内での仕事や住居の問題も指摘されているが、空き家問題についても、土地の総有制度という特殊な事情から、なかなか進んでいない状況が伺える。

①久高島の島観光についての主な意見

- 外国からの観光客は、韓国、台湾、香港の観光客が多い。中国は少ないようだ。韓国は 10 人などの団体が多いが、ツアーではなく日本語が話せる人がグループに一人いる個人の団体である。
- 観光客を増やしていきたいという人もいるが、実態調査をすると島の多くの住民が、観光客はこれ以上増えてほしくないと感じているようだ。観光客のマナーの悪さが目につき、注意してもきかない。島を汚されると感じている人が多いのではないか。とくに、80 代以上の住民はその意識が強いはずだ。
- 観光客とのトラブルに関しては、立入禁止区域に立ち入るというものが多い。
- 久高島には観光窓口がなく、現在は NPO が主に受入れ調整をしているが、観光連絡協議会など島の観光を管理する案内窓口を構築する必要がある。案内所は観光客が見つけやすいよう、港に近い離島総合センターなどが好ましい。
- 久高島の観光を考えたときには、「人」の問題が最も大きな課題だと思う。後継者やプレイヤーがいない。若い人の定住が課題だが、そのためには仕事が必要だ。
- ガイドできる人材が常駐していないために対応ができず、断っているお客さんもいる。島内ガイドは料金

や説明が統一されていないという課題がある。また、島民の理解が得られていない面もある。

- 客の8割は日帰りであり、宿泊して体験できるプログラムの開発が課題である。

②土地活用や空き家についての主な意見

- 久高島には土地憲章があり、土地は売らない、貸さないという習慣がある。住民は、土地憲章を守りたいという人と、変わらなければと考えている人がいる状況だ。
- 土地憲章はメリットもあるが、その一方で土地が持てずに移住ができない人がいることや、土地改良を行える農地がないなどで久高島の発展が阻害されている面もあると感じている。
- 移住希望者等は実質住めない状況になっているが、島の上の世代が交代しなくては、意識は変わらないだろう。
- 空き家・空き屋敷はあるが、活用できていないところが多い。空き家は仏壇があるため貸せないという人も多く、また、U ターン者も借りないことが多い。
- 空き家のなかには下水道接続などが整備されていない物件もあり、そういった料金の負担をしてまで人に貸そうとする人は少ない。
- 久高島の土地は総有だが、建物については借りている人に権利がある。建物がある限り、借りている人が管理してよいということになっている。
- 土地を有料制に切り替えれば、返す人も増える可能性がある。その土地を新たな人が住めるようにするなど、今後、移住希望者を歓迎できるシステムを構築できればよい。
- 久高島の土地は本来、島の総有であるが、土地憲章に「登記してはいけない」と明文化されていないため、勝手に登記している事例もある。
- 昨年から本格的に土地の面積を測って使用料金を徴収するようになっている。商業用地が坪 100 円、農業用地が坪 10 円である。商業用地は食堂や海ぶどう養殖など。民宿は住居と分離できないため、商業用地とはみなされていない。農業用地は、大型農業をしているものが対象で、地割などで昔から農業をしている部分は含まれない。

③その他

- 「入島料」とすれば島の人の負担はないが、下記の3点の理由から「入島税」がよいと考える。
  1. 歴史文化と自然環境を守ることが大切であり、観光客だけでなく島の人にも意識してほしい。
  2. 税金であれば、金銭を字で管理する必要がなく、市で管理してもらえる。
  3. 税金であっても、「久高島文化環境保全税」などの名称で、島内の保全・整備に使用する目的税とすれば、久高島のために使用できる。
- 入島税に関しては反対する者もいる。そのため、島の人からはとらない入島料のほうがよいという意見もある。
- 入島税については、島民としてはやはり生活に関わることなので色んな意見がある。船賃は県の助成によって半額以下となっているが、これが通常料金に戻ったときに、更に税金を上乗せされると、週に2回程度島外に出る島民はとても困るはずだ。また、島民には船を持っていて自分で本島と行き来している人や、海運のスタッフなどチケットを購入しない人もおり、このような人々から徴収しなくてもよいのかなど、様々な課題をはらんでいる。
- 島内に住んでいる人と、島外にいる人が交流できる場が、総会以外にもあったほうがよい。

2. 久高島総合計画における観光の位置づけ

（1）久高島総合計画（平成 28 年度）・実施計画（平成 29 年度）

「久高島総合計画」は、「神の島・久高島～琉球開闢・五穀発祥の聖地～」を合言葉に、久高島の住民が主体となって、島の方向性と基本目標を取りまとめた計画である。観光は基本構想の「産業」のなかに位置づけられている。

観光に関する基本施策は次のとおりである。

「久高島総合計画」における観光に関する位置づけ（抜粋）

観光業の基本施策（P13）

①入島料（入島税）の考察
②観光入域者ルールの制定と遵守
③観光名所と標識の設置
④サイン整備事業の再要請
⑤入域客との共存共栄の模索
⑥観光宿泊者に関する収容能力の検証
⑦観光振興と歴史・文化の継承・保全
⑧SNS 環境の整備
⑨観光連絡協議会の立ち上げ
⑩島うまーいガイド、コンシェルジュの組織化

「産業」では、少子高齢化や人口流出、離島過疎化による生産年齢人口の減少を深刻な課題ととらえ、島内で所得を得られる産業が育つことでＩターンする人が増えることを期待し、「雇用の創出で活気みなぎる豊かな島づくり」を基本目標に掲げている。また、「暮らし」の基本施策のなかで、若年者の住まい確保としての空き家活用等が位置づけられている。

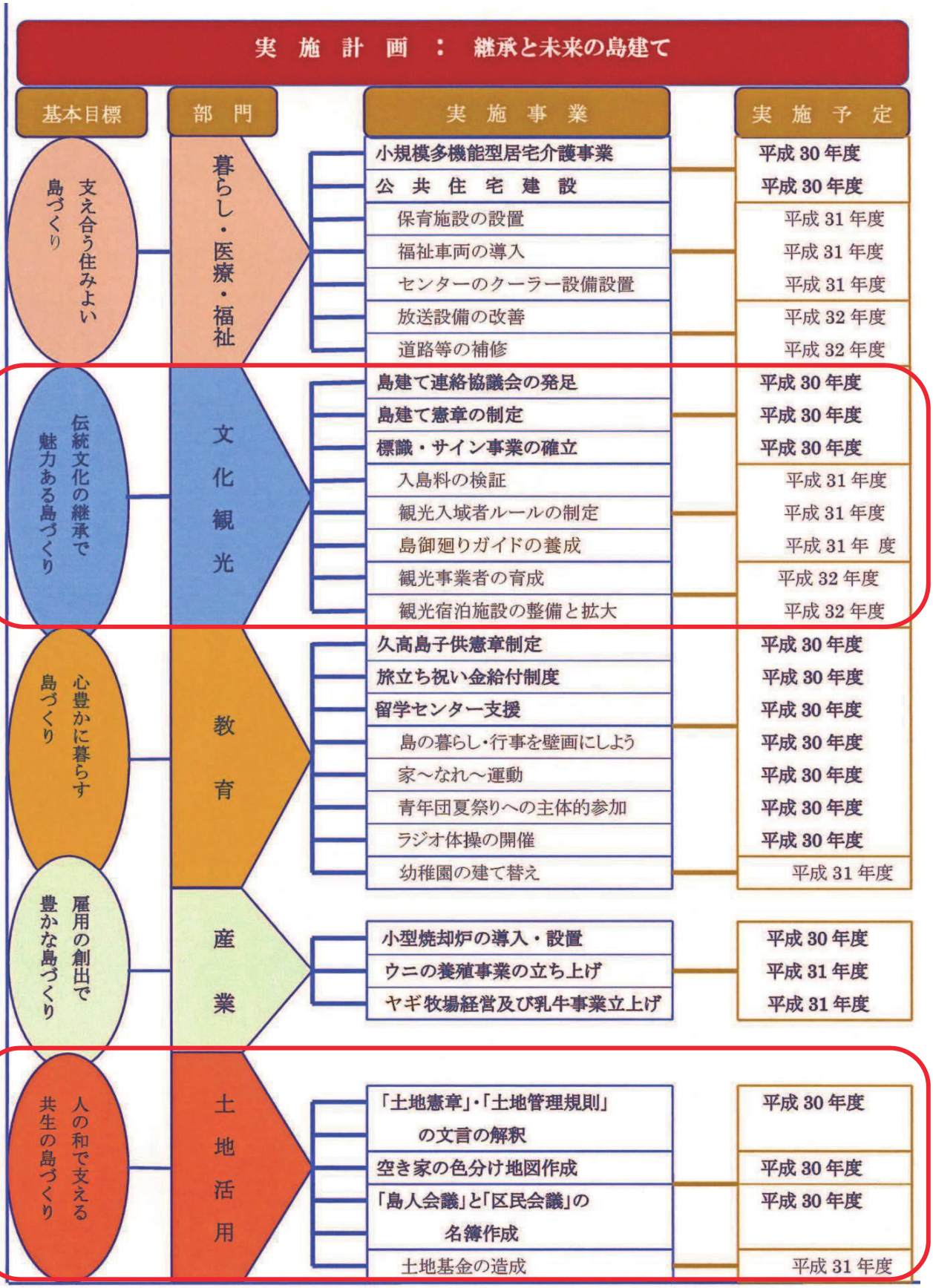
「久高島総合計画　実施計画書」

対象期間：平成 30 年度～平成 32 年度の３年間

久高島では、総合計画に基づいて「久高島総合計画　実施計画書」を策定した。総合計画で位置づけられた基本施策を実施していくための計画を取りまとめたもので、実施予定年度等を盛り込んだ事業計画である。基本となる事業期間は３年間である。

実施計画のなかで、本調査と関連した取組を担うのは「文化観光部会」と「土地活用部会」である。文化観光部会では、「島建て連絡協議会の発足」「島建て憲章の制定」「標識・サイン事業の確立」を緊急の要件とし、その後「入島料の憲章」や「観光入域者ルールの制定」「島御廻りガイドの要請」を平成 31 年度に、平成 32 年度に「観光事業者の育成」と「観光宿泊施設の整備と拡大」と進めていく予定としている。

図　実施計画の体系図



※赤枠は関連する計画。

3. 南城市の関連計画における久高島の位置づけ

（1）第2次南城市総合計画（平成 29 年度）

「第２次南城市総合計画」は、第１次南城市総合計画に基づく成果を活かしながら、今後のまちづくりの指針を取りまとめたものである。前期基本計画は、平成 30 年度から平成 34 年度までの５年間を対象とし、まちづくりの５つの柱となる基本方針を施策している。

久高島については、土地利用の構想のなかで、土地総有制度を尊重し、伝統的集落環境の保全を重視するとともに、聖地（拝所）・集落・農地・森林・海岸等の自然環境と調和のとれる土地利用を図ることとしている。

観光に関する位置づけは次のとおりである。

「第2次南城市総合計画」における観光に関する位置づけ（抜粋）

≪基本方針４　地域が元気になる≫　基本施策②　観光の振興（P68～P69）

施策１　体験・滞在・交流型観光の推進

「モノ」から「コト」への観光ニーズの変化に対応する、体験・滞在・交流型の観光メニューの展開を図ります。

施策２　観光資源の活用

本市の有する自然、歴史、文化、産業などの資源が存分に活用され、観光の振興を促進する仕組みづくりを進めます。

- 主要な観光スポットからその他観光資源への分散手法の検討
- 地場産業と連携した観光メニューや高付加価値商品の提供、プロモーションや販売体制の強化
- エコミュージアム、観光コア施設に関する取り組みの推進
- 観光人材の育成

施策３　市内外との連携強化

市内外のさまざまな機関や関係者との連携によって安全に観光を楽しめる環境をつくり、国内外からの観光客の増加を図ります。

- 観光危機管理に関する広域連携および市内観光関連団体との連携体制の充実
- 近隣市町村と連携した観光客の利便性向上に向けた取り組みの推進

なお、南城市の超高速通信基盤は、久高島を除く市内全域に超高速通信サービスの提供が可能であり、久高島でのみ同サービスが提供できていない状況である。この点について総合計画では「情報政策基盤の整備」を位置づけている。

（２）南城市人口ビジョン（平成 28 年2月）

「南城市人口ビジョン」では、南城市全体の人口特性と動態を分析して、市がめざすべき人口の将来展望を取りまとめている。

市全体の将来人口の独自推計では、2025 年以降は自然減によって人口が減少、2040 年に 44,000 人強に、2060 年に 42,000 人弱になるとの結果であり、少子高齢化や「働き盛り」の人の減少により、市民生活・地域コミュニティや産業への影響が指摘されている。

久高島は南城市の東部地区（知念地区＋佐敷地区の東部５集落）に区分されており、次のように記述されている。

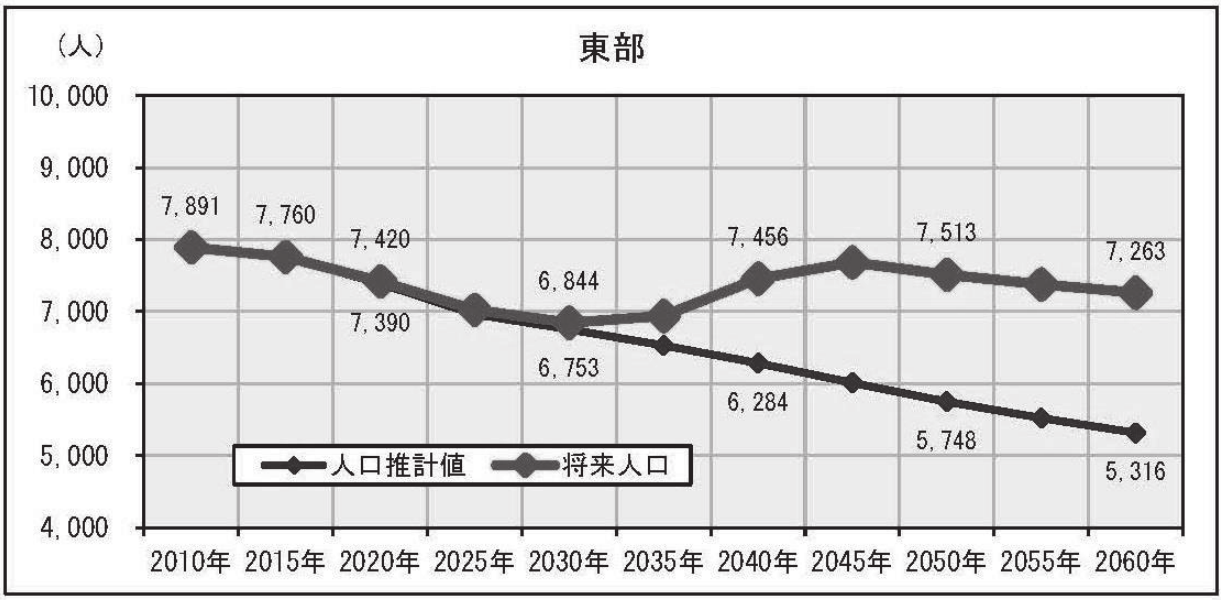
「南城市人口ビジョン」より東部地区の将来展望（抜粋）

第3章　南城市の人口の将来展望

3　南城市が目指すべき人口の将来展望　④地域別の展望

５）東部地区（P47）

- 現況は交通不便地域であり、「南部東道路の延伸効果」が現われるまでは人口が減少を続けていく。2030 年以降、人口は増加に転じるが、2045 年をピークに再び減少していくと予測される。
- 三方を海に囲まれた絶好のロケーションをもち、また、古き良き南城市の財産を、最も色濃く残していることから、観光資源に恵まれている地区である。農水産業の蓄積等と合わせた「南城市らしい観光のあり方」を模索していくことが、今後の大きな課題となる。



（３）南城ちゃーGANJU CITY 創生戦略（平成 28 年2月）

「南城ちゃーGANJU CITY 創生戦略」は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、「人口ビジョン」で設定した 2040 年に 50,000 人という将来展望をめざすための施策を取りまとめたものである。

観光に関する記述として、沖縄観光に新たな魅力要素を付加する「南城ツーリズム」の育成と展開にむけた取組が位置づけられており、地域と関係組織や機関が連携して、地域振興のツールとして観光を推進する「南城市型 DMO 機能の強化と構築」の事業化が挙げられている。その中で久高島については、交流施設の機能強化等に取り組み体験観光の資源化を図ることが位置づけられている。

「南城ちゃーGANJU　CITY」構想における観光に関する位置づけ（抜粋）

≪基本目標Ⅰ≫地域資源を活用し、自立可能な就労の場を創り出す
（イ）観光振興・MICE 対応　需要業績評価指標（KPI）：観光入込客数　320 万人（5年後）
事業・取組策：南城市型 DMO※機能の強化と構築（P11）

（1）外国語対応ガイド養成事業
（2）宿泊機能の拡充
（3）「大人の民泊」「南城ナイトツーリズム」の展開
（4）生活体験、長寿体験の観光資源化
（5）観光交流・防災機能拠点の整備促進
（6）観光産業関連事業者間の連携強化

「南城ちゃーGANJU　CITY」構想における久高島に関連する位置づけ（抜粋）

≪基本目標Ⅲ≫あらゆる世代が活き活きと暮らせるまちを、コミュニティ全体で支えあう
（ア）移住・定住の促進　重要業績評価指標（KPI）：三世代同近居支援制度の創設（平成29年度まで）（P20）

- 移住・定住促進の戦略的中核施策として、三世代同近居の促進を図るため支援制度を検討する。これと併せて、空き家情報等市内住宅情報の一元化を図り、U・I・Jターン希望者にこれを提供し、人口の適正配置を促す取り組みの具現化を図る。
- 手助けや見守り等の福祉分野を中心に、地域単位でサービス提供を事業化するコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの普及に努め、便利なくらしの提供と、女性とくに若い母親世代や元気な高齢者が地域の中で無理なく働ける場の確保のマッチングを通じて、定住促進の具体化を図る。

≪基本目標Ⅳ≫安全安心で快適なくらしが生み出す地域の「誇り」を、市民全員が分かちあう
（ウ）防災対策　重要業績評価指標（KPI）：自主防災組織の設置数　30か所（5年後）
事業・取組策：久高島の住民等の安全確保・強化（P29）

- 久高島の住民や、来島中の観光客に対する安全の確保・強化に努める。

（４）南城型エコミュージアム実施計画（平成 29 年2月）
・南城型エコミュージアム実施計画（各論１）（平成 30 年2月）

「南城型エコミュージアム実施計画」（総論）は、エコミュージアムに関する南城市全体の取組方針を位置づけたものである。南城型エコミュージアムとはどのようなものか、その目標と方針、サテライトミュージアム候補地と候補地で行うべき取組、実現にむけた取組などがまとめられている。

南城型エコミュージアムでは、サテライト候補地として 27 の候補地を挙げており、久高島もサテライト候補地のひとつに位置づけられている。

図　南城型エコミュージアムのめざすもの

地域の価値を育み、人々がめぐり会う魅力あふれる観光まちづくり

南城型エコミュージアム実施計画（各論１）

南城市では、上記の南城型エコミュージアム実施計画（総論）を受けて、平成 28 年度に「南城型エコミュージアム実施計画（各論１）」を策定した。

「南城型エコミュージアム実施計画」構想における久高島に関する記述（抜粋）

◆久高の将来像（P92）

「神の島・久高島」団結の島建てに向け前進！

地域資源：①市内唯一の有人離島（架橋なし）　②クボー御嶽　③琉球王国の参詣の地

方 向 性：久高島は創世神のアマミキヨが降り立った地であり、穀物が流れ着いた神話もあります。琉球国王や聞得大君が自ら儀式を行うなど首里王府の宗教的な後ろ盾でした。この歴史性をはじめ、イザイホーやイラブーなど生活文化、天然記念物である植物群落、海岸環境、地割制を含む集落景観など多様な資源は、これまでも島おこしに活用されてきましたが、今もうひとがんばりする段階にきています。エコミュージアム概念を住民に理解してもらい、今あるものをいかした成長戦略を組み立て直したいと思います。誰が実施するかも柔軟に考え、住民ができることと外部に協力各地域の魅力発信―サテライトミュージアムの展開してもらうことを仕分けし、住民同士及び住民と外部の信頼関係をつくることから始めます。観光面では、増大する観光客に千円（ワンビル）消費してもらえるような取り組みを進めます。

イチ押し：日曜みなと市／毎週日曜、安座真からの始発が着く時間帯に、徳仁港内で日曜市を開催する。出品するのは地元の農家や家庭でつくられた野菜、朝に水揚げされた魚介類が中心で、簡単な朝食メニューも提供する。久高島の地割制を区民農園化し、その農産物も並べることができると、農園のオーナーのやる気にもつながる。

◆客観的に捉えた久高の魅力と課題 ※大学生観光スタイルコンペティションからの視点

【地域の魅力・現状】

- 琉球開闢の地といわれ、住民は歴史や文化を大切にしている。
- 警察や信号がなく、平和で人のつながりがある。
- 自然が残っていて景観がよい。

【地域の課題】

- 「神の島」のイメージが先行して、観光客と住民の考え方にギャップがある。
- 農業が衰退し、かつ漁業イメージが弱い等、資源の活用が不十分である。
- 離島の不便さ、過疎化、高齢化、雇用が少ない。
- 展示室（宿泊交流会館内）の展示が味気なく、久高島の情報が足りない。

【発表者の視点】

- 観光スタイルとして、地域住民が納得する聖地巡礼ルートの確立と、久高島広報課の設置を提案。久高島広報課を通じて久高住民が自ら情報発信することで、島のイメージを集約・発信することを提案。
- 取組の効果は、久高島に根ざした巡礼を観光客に求めることで、観光客の質が向上すること、ガイドの来益・雇用を増加させ観光に対する住民のイメージをアップさせること。

（５）南城市歴史文化基本構想・保存活用計画（平成 23 年3月）

「南城市歴史文化基本構想・保存活用計画」は、南城市の文化遺産の保存活用についての指針等を位置づけた計画である。基本構想では、南城市の歴史文化のキーワードを「琉球発祥の地・なんじょう」とし、歴史文化まちづくりのコンセプトを「緑・グスク・人　琉球発祥を感じる歴史文化のまち」と位置づけた。また、一体的な価値を見出して総合的に保存活用を図る文化遺産のまとまりや、歴史文化的な空間を創出する計画区域として、７つの「関連文化遺産群」と 13 の「保存活用区域」を定めている。

久高島は、「琉球の国造り関連文化遺産群」と「海との共生関連文化遺産群」に関係する地域として位置づけられているほか、「久高島の拝所と祭祀保存活用区域」として、保存活用区域のひとつとなっている。

「南城市歴史文化基本構想・保存活用計画」における久高島に関する記述（抜粋）

第五章　歴史文化保存活用区域の方向性
（8）久高島の拝所と祭祀保存活用区域プラン
2）保存・活用の方針（P90）

久高島は、琉球開びゃくと五穀発祥神話の地であり、琉球国王や聞得大君らの久高島参詣が行われてきました。島の聖域空間や伝統祭祀が現在に継承され、聖域として残された海岸には植物群落が自生し、御嶽とともに島全体を緑で包護しています。古い集落構造や石垣、屋敷林の集落景観に加え、伝統的な土地所有制度が継承され、「地割跡」が確認できるなど独特な景観が残されているのも特徴です。
琉球の歴史と文化の基層を垣間見ることのできる久高島は、全県的にも貴重な地域であり、島全体の歴史文化環境の保全が望まれます。そのために今一度過去から久高島の位置づけを学び、内外の意識を高める必要があります。近年は島を訪れる観光客が増えており、文化遺産等を活用した歴史文化プログラムの充実とともに、資源や島の雰囲気を壊さないためのルールづくりに取り組みます。

■区域の歴史文化育成方針

①聖域空間・癒し空間の保全を進める。

- 琉球王国時代から護られてきた御嶽や拝所などの聖域空間について、歴史的・植生的に考証した上で往時の雰囲気を再現するなど必要な整備を図り、保全に努める。
- 久高島を訪れる観光客は島の歴史がかもし出す精神性・霊験性に魅せられている人も多く、このような需要に応える意味でも、聖域空間に関する史料分析、伝承の収集、医学的調査などを進め、情報提供を充実させる。
- 歴史文化資源の環境保護や持続可能性のため、観光利用とのバランスを調査・検討し、ルールづくりも含めて観光容量の適正化や島全体を保全する管理方策を講じる。その際は既存の久高島土地憲章にも立脚するものとする。

②島の歴史文化を誇りに思う住民・出身者アイデンティティを強化する。

- イザイホーなどの固有な伝統行事については、蓄積されてきた研究結果や記録などを有効活用して地域活動や体験学習等に活かすとともに、後継者の育成など祭祀の復活をめざして最大限努力する。
- 地域での生涯学習などを充実して、王国時代の島の位置づけなど歴史文化に関する住民のガイダンス力を高め、また島の歴史文化を題材にしたイベントや地域活動を充実して、文化アイデンティティの強化に努める。

③久高島を中心とした海上の道ネットワーク、遥拝ネットワークを構築する。

- 漁業、海運業に秀でた先人たちの業績を学術的に検証し、その成果をもとにフォーラムやイベントなどを皮切りにした地域連携（例えば奄美地方は久高海人との関連が深い）を進め、海上の道ネットワークを形成する。
- 東方浄土や海上他界の考え方にもとづき、首里や斎場御嶽など県内各地からの遥拝（ウトゥーシ）の対象地となっており、この関係性を学術的に検証し、観光・礼拝ルート化を図るなどネットワーク構築に努める。

図　区域の構想図

（６）尚巴志活用マスタープラン（平成 26 年3月）

「尚巴志活用マスタープラン」は、地元の英雄である尚巴志を人材育成や文化振興、まちづくり、観光振興に活かしていくための方策などを示したものであり、①「尚巴志」の普及・啓発・情報発信施策、②地域おこし人材育成施策、③尚巴志エコミュージアム創造施策、の３つの施策が位置づけられている。

【尚巴志活用マスタープランのメッセージ】

南城市はみんなの未来を描くステージ。今を生きる尚巴志の物語を創ろう！

一人ひとりに宿る尚巴志の物語を、自然・歴史・文化から成る南城市という舞台で市民が演じ、市民や市役所職員のプロデューサー人材とボランティアが支え、生きたメッセージを受け取る観客がいる。尚巴志活用マスタープランは、「市民のやる気を引き出す・協働を促す脚本」である。

久高島は、尚巴志と関わる資源がある地域のひとつとして、尚巴志及び第一尚氏に関わる資源を発掘・再発見し、その価値が正しく伝わるように整備・磨き上げを図る対象に位置づけられている。

「尚巴志活用マスタープラン」における関連事項（抜粋）

５－３. 各事業の具体的イメージ （1）「尚巴志」の普及・啓発・情報発信施策

②尚巴志関連資源ブラッシュアップ事業（P77）

【概要】

尚巴志及び第一尚氏に関わる資源を発掘・再発見し、その価値が正しく伝わるように整備・磨き上げを図る。具体的には、国指定史跡となった佐敷上グスク（文化庁予算にて整備中）はもとより、尚巴志によって攻められたグスク、斎場御嶽や久高島、各地の殿等の聖地、馬天港など従来は尚巴志との関わりがあまり意識されなかった資源に対し、史実に基づく魅力あるストーリーを与えて、文化遺産への愛着や新たな理解が深まるように仕向ける。富里や當山の尚巴志の子孫にまつわる資源も同様である。

【事業効果】

尚巴志は知っていても、地域が輩出した英雄・偉人であることが市民に深く根づいていない状況を改善することが期待される。また、資源等の整備が図られ、その価値がひとつのストーリーとして示されることで、観光客など琉球の歴史に詳しくない者も理解が容易になり、訪れる動機が強まると予想される。

（７）ムラヤー利活用戦略（平成 29 年２月）

ムラヤー利活用戦略は、「ムラヤー構想」（平成 24 年度策定）を具現化し、行政と自治会とがめざすべき地域の将来像を共有して、地域住民総参加による住みよい地域づくりと、自治力みなぎるコミュニティの醸成を図ることを目的としてとりまとめられた計画である。

利活用戦略では、自治会の現状調査などをふまえ、地域コミュニティ（＝ムラヤー）の活性化にむけた取組方針及び取組内容、実施のための体制づくり、コミュニティビジネスについて地域の取組熟度に応じたアクションプランや、成功の秘訣９ヵ条などを位置づけている。

久高島は、自治会の現状を７つのグループに分類したうちの「中規模 D タイプ」に位置づけられている。中規模 D タイプとは、世帯数 81 世帯～400 世帯で、直近５年間の世帯数が減少傾向にあり、比較的高齢化率が高い自治会に属された区である。

基本方針のなかで、本業務に関わる久高島の方向性に関係しているものは下記のとおりである。

「ムラヤー利活用戦略」における関連事項（抜粋）

基本方針3. 地域資源を活用したムラづくりの推進(P53)

①コミュニティビジネスへの理解促進
②地域ブランド化に向けたサポートの実施
③農業・漁業の収益構造の改善
④遊休農地の活用
⑤歴史資源、伝統文化・芸能の保存活用
⑥空き家・空き屋敷活用

類型化コミュニティごとの取組・施策のイメージ（P69）

地域発のビジネス！雇用創出型コミュニティ

活発なコミュニティビジネスを実施することによって、地域内の雇用を生み出し、転出した住民子弟を中心に地域への定住・移住を促す。

また、積極的なコミュニティビジネス展開の収入の一部を自治会運営費に充てることで、自治会活動をより活発に・多様に行うことができる。

（８）南城市景観まちづくり計画（平成 24 年3月）

「南城市景観まちづくり計画」は、暮らしのなかで自然・歴史・文化に薫り、人々に癒しと感動をもたらす美しい景観のまち南城の実現にむけて、景観まちづくりの方針を取りまとめたものである。計画では、市全体の方針を示すほか、地域の特性を活かした地域別の景観まちづくり方針を定めており、久高島は「自然・農業系地域」に分類されている。

「南城市景観まちづくり計画」における関連事項（抜粋）

④自然・農業系地域の景観まちづくり方針（P55）

a.地形や自然条件を生かした美しい景観づくり

変化に富む地形や豊かな自然が地域の景観の骨格を成していることを踏まえ、そのような空間の基本構成を尊重し、調和する景観づくりを進めます。

b.歴史・文化が薫りたつ景観づくり

数多くの歴史・文化的資源が分布するなか、これらの存在が際立ち、また、地域の暮らしに密着して息づく景観づくりを進めます。

c.風情や落ち着きを感じる住まい景観づくり

暮らしの知恵や信仰が生きる集落も多くみられるなか、その風情や落ち着きを損なうことがないよう配慮した景観づくりを進めます。

また久高島は、とくに良好な景観形成を推進すべき地区として重点地区の候補地としても位置づけられている。

「南城市景観まちづくり計画」における重点地区候補の位置づけ（抜粋）

２－３ 景観の特性と課題

（３）重点地区（候補地）の景観の特性と課題

④久高島 [自然・農業系]（P36）

琉球民俗発祥の地として知られる久高島では、クボー御嶽をはじめとした聖域が亜熱帯の豊かな緑とともに存在し、古い集落や、土地総有制度による地割跡等もあって島全体が独特の雰囲気に包まれています。

この地区では、全県的にも貴重なその地域性を維持しながら、癒しの空間として、島を訪れる観光客の増加を考慮した景観まちづくりを行うことが重要です。

4. 沖縄県や国の関連計画からの久高島観光への参照点

（1）観光立国推進基本計画（平成 29 年3月　閣議決定）

期間：平成 29 年度～平成 32 年度までの 4 年間

観光庁では、観光立国推進基本法（平成 18 年法律第 117 号）の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進して、国民経済の発展、国民生活の安定向上、及び国際相互理解の増進を図るため、「観光立国推進基本計画」を閣議決定した。観光立国の実現に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策などを定め、その実現にむけて総合的かつ計画的に推進するための必要な事項を整理している。

国の離島観光振興における方向性や、久高島の現状及び課題に関係すると考えられる施策等は次のとおりである。

「観光立国推進基本計画」における久高観光への参照点（抜粋）

1. 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成

（二）観光資源の活用による地域の特性を生かした魅力ある観光地域の形成

⑥温泉その他文化、産業等に関する観光資源の保護、育成及び開発

サ 離島地域等における観光振興（P27）

離島地域においては、交流人口拡大による自立的発展を促進する観点から、地理的・自然的特性を生かしつつ、産業等の振興や観光開発につながる体験滞在等を通じて、国内外との交流を促進する。このため、地域の魅力の掘り起し・商品化や現地観光サービスの担い手の育成等の滞在型観光の促進に係る取組を支援し、観光業での雇用の創出・拡大を促進する。

2. 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成

（三）観光旅行者の来訪の促進に必要な交通施設の総合的な整備

④ 国内の地域交通に係る施設の整備等

エ 旅客ターミナル・旅客船の整備（P36）

離島をはじめとする各地域の玄関に相当する旅客船ターミナル及び旅客船のバリアフリー化や無料 Wi-Fi の整備・多言語表示の充実等の訪日外国人旅行者の受入環境整備等を図ることにより、サービスの多様化・高度化を図る。

4. 観光旅行の促進のための環境の整備

（三）観光旅行者の利便の増進

① 高齢者、障害者、外国人その他の観光旅行者が円滑に旅行できる環境整備

カ 自転車利用環境の整備（P60）

外国人サイクリストにも通行ルールをわかりやすく伝えるため、「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に基づく自転車ピクトグラムや矢羽根型路面表示の標準仕様を用いた自転車通行空間の整備等を推進し、安全で快適な自転車利用環境を創出する。さらに、関係機関との連携による自転車を活用した地域の観光振興に資する情報発信に取り組む等、観光の振興を支援する。

（２）第５次沖縄県観光振興基本計画（平成 29 年3月　改訂版）

期間：平成 24 年～平成 33 年までの 10 年間

沖縄県では、平成 24 年度に「第５次沖縄県観光振興基本計画」を策定し、平成 29 年３月にさらに改訂版を整理している。観光振興基本計画では、対応すべき沖縄観光の課題を整理し、めざす将来像実現にむけた施策の基本方向がまとめられている。

「第5次沖縄県観光振興基本計画」における観光の位置づけ（抜粋）

Ⅲ基本方向

１　目指す将来像（P32）

（1）将来像（Vision）

世界水準の観光リゾート地：洗練された観光地としての基本的な品質を確保するとともに、独自の観光価値を発揮することにより、アジア・太平洋地域における競合地との比較対象の中で「沖縄／OKINAWA」のポジションが確立され、国内外において高いブランド力を保持する観光リゾート地として認知された状態となっている。

（2）達成イメージ（Outcome）

（観光客の視点）	観光客は、国内外から、ニーズに応じた観光地を訪れることができ、リラックスして沖縄ならではの感動体験と交流を楽しんでいる。
（観光産業の視点）	観光産業は、安定的に観光収入を得ていて、県経済を牽引する存在であり、誇りと責任ある産業体を形成している。
（県民の視点）	県民は、観光から社会的・経済的なメリットを最大限享受しており、沖縄における観光の価値を認め、積極的に魅力的な観光地づくりに参画している。
（観光資源の状態）	観光資源は、自然・文化資源ともにその価値が尊重されており、地域の状況に応じた適切な活用がされるとともに、その保全が図られている。

「第5次沖縄県観光振興基本計画」における久高島に関係する箇所（抜粋）

Ⅳ施策の展開

１　多様で魅力ある観光体験の提供

（6）地域の特色づけ　イ　離島特性の活用（P43）

自然、文化等多様な魅力を有する離島地域を観光資源として積極的に活用するため、離島アクセスの円滑化や離島間ネットワークの整備、離島における受入環境の整備、着地型観光プログラム等の開発を促進し、県民生活との調和を図りながら、多くの個性ある島々が点在する沖縄の特徴を活かした離島観光の振興を図る。

Ⅴ圏域別の基本方向

（3）南部圏域　【展開の基本方向】（P63）

離島地域においては、ダイビングやホエールウォッチングに代表されるブルー・ツーリズム、保養・療養型観光、交流拠点づくりや離島留学など、島々に特有の自然・景観、伝統・文化等の魅力を生かした交流人口の拡大及び農林水産業等地場産業との連携による地域活性化に向けた取組を積極的に推進し、離島ならではの体験・滞在型観光を促進するとともに、離島を含む広域周遊ルートの形成や受入環境の整備に関係機関と連携して取り組む。

（３）沖縄観光推進ロードマップ（平成 30 年3月　改訂版）

期間：平成 27 年～平成 33 年度までの７年間

「沖縄観光推進ロードマップ」（平成 27 年３月策定）は、沖縄県が、平成 33 年度までに観光収入１兆円、入域観光客数 1,000 万人等の目標の達成することをめざして策定されたものである。平成 30 年３月に改訂版が整理された。

計画では、官民一体となって中長期的、段階的に誘客及び受入体制整備等の観光振興施策を推進することを目的とし、目標達成に必要な施策の明確化、中期的な時間軸や観光地としてのあり方を考慮したうえで、関係者が認識を共有して、行動する戦略を構築することが基本方針に示されている。久高島に関係すると考えられる、離島観光に関する箇所は次のとおりである。

「沖縄観光推進ロードマップ（改訂版）」における久高観光への参照点（抜粋）

４ 受入体制の構築戦略

(4)観光体験等の拡充に関する施策展

ウ 観光地の分散化と体験プログラム等の内容の向上を図る施策

②離島観光の推進（P37）

離島の魅力を投稿できる参加型専用サイトによる情報収集・発信とこれらの情報等の活用による観光メニュー造成を推進するとともに、観光情報ウェブサイト（おきなわ物語）における離島情報の拡充に取り組む。（中略）

離島独自のプロモーション活動と全県的な展開との連動性を高めるとともに、観光業界をはじめ地域DMO等と連携し、旅行市場を踏まえたきめ細かな情報の発信、旅行社等の招へいを伴う離島旅行商品の造成を促進するほか、離島観光コンテンツフェアを開催し、離島観光の魅力発信、旅行商品造成に向けた商談会を実施する。

外国客の離島観光周遊を促進するため、沖縄離島を繋ぐ全県的な周遊ルート「Be.Okinawa 琉球列島周遊ルート」の形成に取り組む。

離島の魅力を投稿できる参加型専用サイトによる情報収集・発信とこれらの情報等の活用による観光メニュー造成を推進するとともに、観光情報ウェブサイト（おきなわ物語）における離島情報の拡充に取り組む。また、小規模離島や繁忙期の主要離島において課題となる宿泊供給量の制約を受けずに誘客が可能となる、離島間を周遊するクルーズの誘致について可能性を検討する。

5沖縄本島および主要離島別の誘客方針及び需要予測

(1)沖縄本島及び主要離島毎の重点ターゲット層及び需要予測

ア 沖縄本島及び周辺離島（P47）

国内客については、多様性と規模を活かして既存顧客全般を範囲としつつ、定番観光地を重視するビギナー層、利便性を重視する小さい子供連れ家族、安全・安心を重視するシニア層に対し適切に対応し、満足度向上と再訪に繋げていく。

海外客については、買い物を重視するアジア層、琉球王国の歴史や伝統文化に触れることを重視する欧米層が中心となると想定される。

沖縄本島周辺離島については、国立公園指定を受けた慶良間の海や特徴的な地質、地形などを有しており、沖縄本島を周遊する国内・海外客のうち、美しい自然環境やマリンレジャーに意欲を有する層が想定される。島毎の特性を踏まえ、ターゲット層を設定する必要がある。

（４）住みよく魅力ある島づくり計画（平成 30 年１月　見直し版）

期間：平成 24 年度～平成 33 年度までの 10 年間

「住みよく魅力ある島づくり計画」（平成 25 年３月策定）は、沖縄 21 世紀ビジョン基本計画をふまえて、離島振興の基本方向とこれに基づく県の取組などを明らかにするために策定したものである。平成 30 年１月に見直しが行われた。

本計画は、定住条件の整備と離島の特色を生かした産業振興を柱として基本施策を提示している。また、圏域別振興方策として、離島市町村ごとに「現状と課題」及び「主な取組」等が整理されており、久高島は、圏域別振興方策の中・南部圏域に位置づけられている。

「住みよく魅力ある島づくり計画（見直し版）」における久高観光への参照点（抜粋）

第2章計画の基本方向

第1節　離島振興の基本的課題

3. 基本的課題（P8）

離島地域の人口減少に歯止めをかけるためには、割高な交通コストの低減、教育、医療、福祉等の基礎的な生活条件の整備及び住民負担の軽減を図るとともに、離島の特色を生かした産業の振興に取り組み、若者が定着できる魅力ある就業の場を確保することが重要である。また、高齢者や障害者が住み慣れた島で安心して住み続けることができる環境を整備することが重要である。

第2節　離島振興の基本方向（P9）

離島住民が住み慣れた島で安心して暮らし続けることができるよう、定住条件を整備するため、交通・生活コストの低減を図るとともに、生活環境基盤や交通基盤の整備、教育、医療、福祉分野におけるユニバーサルサービスの提供など、生活面での条件不利性の克服に取り組む。

また、住民の生活の糧となる産業の総合的振興に向けて、離島地域の基幹産業である農林水産業の生産性向上や6次産業化による高付加価値化等を推進するとともに、観光リゾート産業、製造業等については、美しい海洋環境をはじめ守るべき地域の自然や文化、ライフスタイル等の離島固有の魅力を最大限に活用し、外貨を獲得できる産業として総合力を高める施策を展開する。

久高島における主な取組

番号	施策名	施策の内容	実施主体	事業期間
91	沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業 （企画部）	航路又は航空事業者が設定した低減運賃への負担金の交付（割高な船賃及び航空賃を鉄道並み運賃へ低減を図る。）	県	H24～33
93	離島食品・日用品輸送費等補助事業 （企画部）	沖縄本島から小規模離島を中心とする県内有人離島へ輸送される食品、日用品等の輸送経費等への補助を実施する。	県 市町村	H28～30
101	離島航路補助事業 （企画部）	離島航路の確保・維持	国 県 市町村	H24～
102	離島航路運航安定化支援事業 （企画部）	離島航路の船舶確保（建造・購入）に対する計画的支援	県	H24～33
134	離島児童生徒支援センターの整備 （教育庁）	離島の子どもたちの進学に伴う様々な負担の軽減を図るため、寮や教育緒活動で交流できる機能など複合的な機能を持った離島児童生徒支援センターを整備する。	県	H24～27 【完了】
135	【後継】 離島児童生徒支援センターの管理運営 （教育庁）	離島の子どもたちの進学に伴う様々な負担の軽減を図るため、寮や教育緒活動で交流できる機能など複合的な機能を持った離島児童生徒支援センターを運営する。	県	H27～33
141	離島高校生修学支援事業 （教育庁）	高校未設置離島出身の生徒を対象に、居住費、通学費の支援を行う。	県 市町村	H24～33
224	専門派遣巡回診療支援事業 （保健医療部）	専門診療科（眼科・耳鼻科等）の受診が困難な離島において専門医による離島診療所の巡回診療を実施し、医療提供体制の整備・拡充を図る。	県	H24～33
228	救急医療用ヘリコプター活用事業 （保健医療部）	離島、へき地における救急医療体制の充実を図るため、ドクターヘリ事業に取り組む。	県	H24～33
229	ヘリコプター等添乗医師等確保事業 （保健医療部）	離島、へき地における救急医療体制の充実を図るため、ヘリコプター等添乗医師等確保事業に取り組む。	県	H24～33
230	離島患者等支援事業 （保健医療部）	本島等の医療機関受診に係る交通費等の負担軽減を図る。	県	H29～

※　番号は、第3章の主な取組の番号を記載。

出典：「住みよく魅力ある島づくり計画」【見直し版】

5. 小括：久高島の観光施策俯瞰

【国及び県の方向性】

- 国や県の観光等における位置づけとして、観光がリーディング産業として成長し、沖縄が高いブランド力を保持する観光リゾート地となることをめざしている。そのためには、観光産業に携わる関係事業者を育てていくことや、観光産業に携わっていない住民も観光から社会的・経済的なメリットを享受できることで、観光の価値が認められている状況を目標とすることが位置づけられている。
- 離島地域においては、交流人口の増加や外貨を獲得できる産業として、体験・滞在型の観光を推進していくことが強調されている。その際、離島の自然や歴史・文化、ライフスタイルなど、離島の個性や魅力を活用するとしている。
- 国や県としては、観光メニュー等の開発支援や、観光の担い手の育成、情報発信やプロモーション支援、離島へのアクセス等の円滑化のための整備などを行うことが位置づけられている。

【市及び区の方向性】

- 市は、久高島について、土地総有制度や伝統行事などの島特有の文化があり、自然も豊かであることなどから、これらの歴史文化や景観を保存・維持しながら、活用していく地域として位置づけている。
- 観光については、「モノ」から「コト」へのニーズの変化を受けて、体験・滞在・交流型観光を推進していくとしており、そのための魅力向上のストーリーづくりや、観光メニューづくり、受入れ基盤づくりなどを支援することが示されている。
- また、観光疲弊等を避けるためのルールづくりや、観光容量の適正化、島全体の管理の必要性についても指摘している。
- 直接的に久高島に紐づくわけではないが、「ムラヤー利活用戦略」では、地域資源を活用したムラづくりとして、コミュニティビジネスを行うことで雇用を創出し、定住人口を増加させる可能性について位置づけている。
- 区の方向性としては、すでに多くの観光客が訪れている状況をふまえて、ルールづくりや、観光のメリットを地域が受ける仕組みの構築について検討を進めることを位置づけている。そのほか、宿泊施設やサイン整備などの基盤整備や、担い手の育成や組織の構築など、受け入れ環境の構築をめざしている。

- 全体として、久高島における観光施策として、その歴史文化や地域の個性を守りながら、観光資源として活用するために、①観光メニュー・資源の創出及び魅力向上に関わること、②担い手・体制に関わること、③基盤（ハード）整備に関わること、④そのほか情報発信やプロモーションに関わることの大きく4つの施策が方向づけられている。
- うち、①について沖縄県事業の「離島観光・交流促進事業【島あっちぃ】モニターツアー」で PDCA サイクルによる実証～定着化が図られており、同時に②の育成にもつながっていく可能性が期待されている。また、島で独自に②について動いており、「島建て協議会」の設置が予定されている。③④も「沖縄離島活性化推進事業」等を活用しながら徐々に動き出している。

§７
まとめ（総括）

１．本調査から見えてきたこと・・・・・・・・・・・・・・・１

２．久高島総合計画事業体系の再整理　・・・・・・・・・４

1. 本調査から見えてきたこと

本報告書のまとめとして、各調査から見えてきた久高島観光の現状について再整理する。

（1）調査結果のまとめ

①久高島観光の現状ー評価は高いが、地域に観光のメリットが還元されていない

- クチコミ分析をみると、久高島の評価の点数は、斎場御嶽や奥武島に比べて高い状況にあり、観光客は、久高島の来訪に非常に満足していることが伺える。アンケート調査からも、年代を問わず「神の島」としての期待があり、その期待に対する満足度は高い状況であることがわかる。
- ただし、現状の久高島観光の満足度について問うアンケートでは、島の自然・景観や海などについては満足度が高い一方で、飲食店や土産品、島内での活動等については満足度が低い結果であった。
- 島内での消費行動については、アンケート回答者の2割が島内でお金を使用しておらず、その理由として「お金を使う場面がなかった」とする回答が多かった。使用してもよいと思う金額は、低くて 1,000 円、高くて 50,000 円までの幅の回答があり、島内で消費機会を創出すれば、観光消費額はもっと伸びると予想される。
- 現在の観光客の8～9割は日帰りであり、日帰りの場合は、午前中の便で入域し、午後の遅めの時間に出域する4～5時間の滞在が多い。
- 既存のツアー調査においては、主に県外団体等が主体となっているツアーにおいて、過度にスピリチュアル的なまなざしによるツアーが行われていることが伺えた。

②久高島における観光の方向性ー「暮らすように観光する」「今あるものを活かす」

- 住民意向調査では、サウンドスケープという手法を用いて島の音に耳をすませることで、「久高島は沖縄の原風景を残していること」や「何もないけど何かがあること」などの気づきを、参加した住民で共有できた。
- 久高島観光の方向性としては、住民意向調査では「暮らすように観光すること」や「今あるものを活かす開発の手法」というテーマが抽出された。今あるものを活かして五感を研ぎ澄ます体験を行うモニターツアーを実施したところ、よい評価を得ることができた。

③担い手不足と定住促進の可能性ー島内の資源の有効活用

- 久高島の人口は現在のところ減少傾向であり、将来推計でも減少していく予測となった。最も悪い結果では、このままの状況が続くと、将来的には総人口が 100 人を下回り、20 代～30 代の若者と呼ばれる年代は数える程度まで減少する推計となった。
- 島内では、空き家はときどき帰省する住宅を含めて33件、空き地となっている箇所が32件あった。つまり、空き家と合わせて計65件は活用できる区の資産（土地）があるという結果である。若者へのヒアリングでは、土地は分けてもらえても住宅を建設する費用の工面が難しいという意見があり、島内の資源の有効活用が必要であることが伺える。

④外からみた久高島の魅力―「琉球発祥の地」であり、「神の島」。そして「自然」

- クチコミ分析では、「時間」というキーワードが多く出現しており、久高島のゆったりした時間を感じている観光客が多いものと考えられる。
- 離島フェアにおける調査（県内在住者中心）では、久高島について「神聖な島」であり一度は行ってみたい、あるいは神聖な島であるため軽々しく立ち入れないという意見があった。過度に観光地化する必要はないという意見も見られた。
- 首都圏等におけるニーズ調査でも「神の島」や「聖地」というキーワードが挙げられたが、単にスピリチュアルスポットであるという理由よりも、琉球発祥の地であるという歴史的な背景に注目している人が多く見られた。
- その他、離島フェア及び首都圏等ニーズ調査共通の意見として、琉球の原風景が残っていること、自然が豊かな島であること、本島からのアクセスのよい離島であることなどがあった。

（２）課題（取り組むべき事項）の抽出

今後久高島で取り組むべき課題や事項について、本調査の結果から言えることをピックアップしたのが以下である。観光の話題に加えて、観光ビジネスを担う労働力確保の意味合いもある定住促進の話題が考えられる。

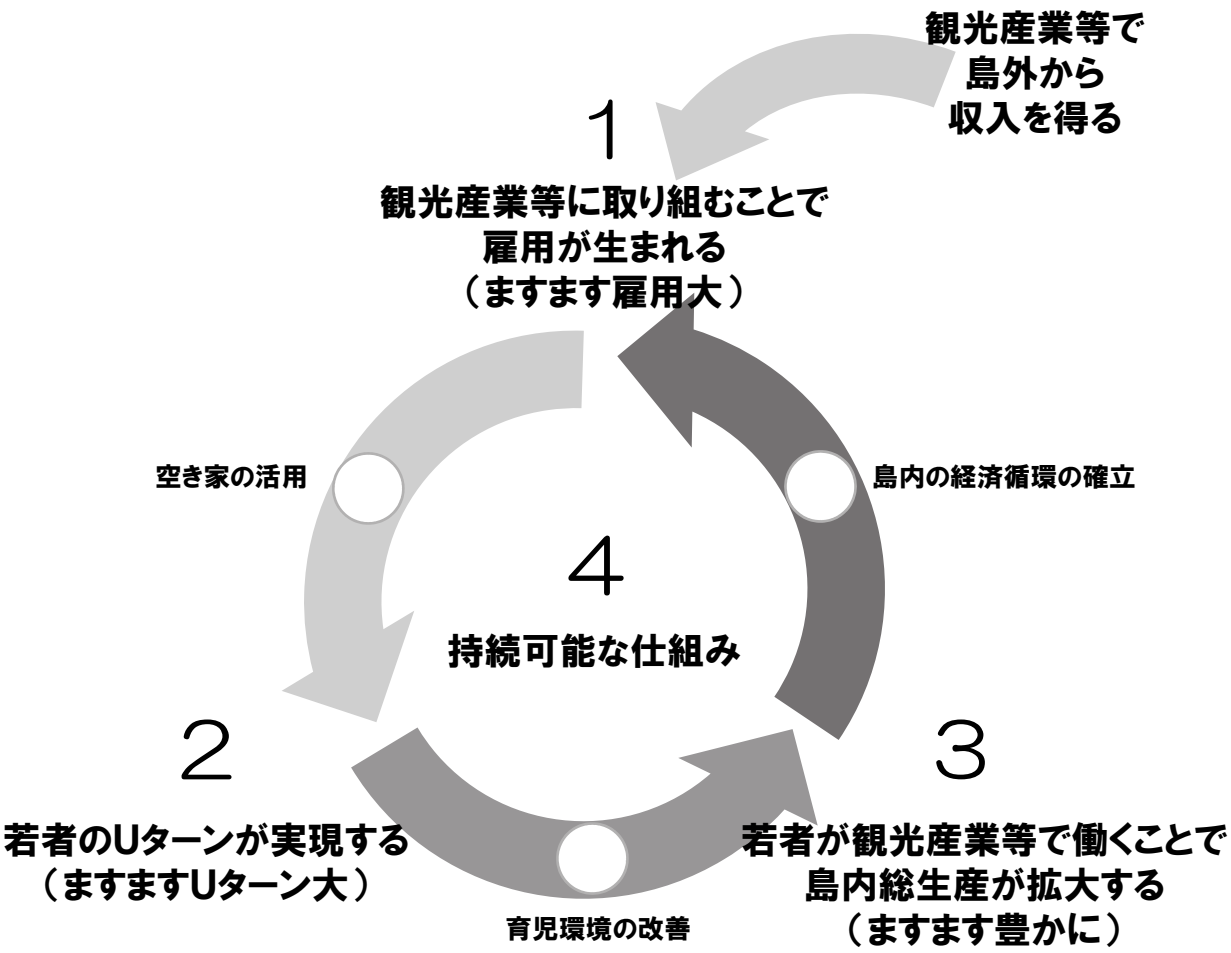
①「久高島」の観光ブランドを確立し、観光で利益を得るシステムの構築

- □ 観光に対する悪いイメージを払拭し、観光受入れによって地域が儲けるシステムを構築すること。
- □ 現在の観光客数は住民にとって過剰な状態にあり、観光振興の方向性としては、観光客の数を増やすよりも、観光客一人あたりの消費額を増やすことが望ましい。アンケート調査では観光客の2割程度は「使う場面がなかった」という理由で消費行動をしていないという結果が出ており、観光客にもっとガイドを利用してもらう仕組み（例えばサイクリングガイド等）や、久高島の資源をいかした高付加価値の食、土産品、体験プログラム等の開発を進めることが重要である。
- □ 久高島を来訪した観光客が島内での活動のメニューを認知し、消費行動につなげるために、観光客に久高島で楽しめる活動メニューについての情報を適切に届ける（例えば、冊子、紙面、ウェブサイト等）ことが課題。また、ファンづくりのために、再訪の動機づけとなる情報発信に努める。
- □ 住民意向調査で「暮らすように観光する」というテーマが抽出されているように、短時間滞在ではわからない久高島の魅力を体感してもらうことが重要である。日帰りする8～9割の観光客を宿泊に誘導するための動機づけやそのための仕組みづくりを進める。また、観光客がゆっくり長時間滞在できる観光拠点の整備を実現する（例えばグランピング等）。
- □ 観光客がワンストップで観光情報、ガイド情報、ルール情報を得られるような観光コンシェルジュの活用を進めることが課題である。
- □ 久高島内だけでこれらの観光人材を確保することは限界があり、南城市を含めた関係協力機関や、地域おこし協力隊などの外部の人材との連携を図ることが課題である。

②定住希望者と空き家活用を仲介する機能の創出

- 久高島の観光人材の確保のためにも、島の営みの維持のためにも、久高出身で地元にUターンしたい若い夫婦をメインターゲットとした定住促進を進めることが重要である。
- 活用可能な空き家をみつけ、家主と賃貸や名義変更等の手続きを行うことが定住の障壁となるおそれが高いため、そうした作業を代行する機能を島内に整備することが課題である（島建て協議会が候補）。
- すぐに希望の空き家に転入することが難しいことも予想され、一定期間仮住まいをする住宅の確保について検討が必要である。
- 保育や医療の機能向上が課題である。しかし、これらの機能向上のためには人口増加などの条件が必要と考えられるため、その他の受け入れ環境整備とあわせて進めていくことが必要である。
- 空き家改修資金の確保等が課題であり、地域で観光ビジネスに取り組み、そこで得た利益を活用する運用方法などの検討が必要である。

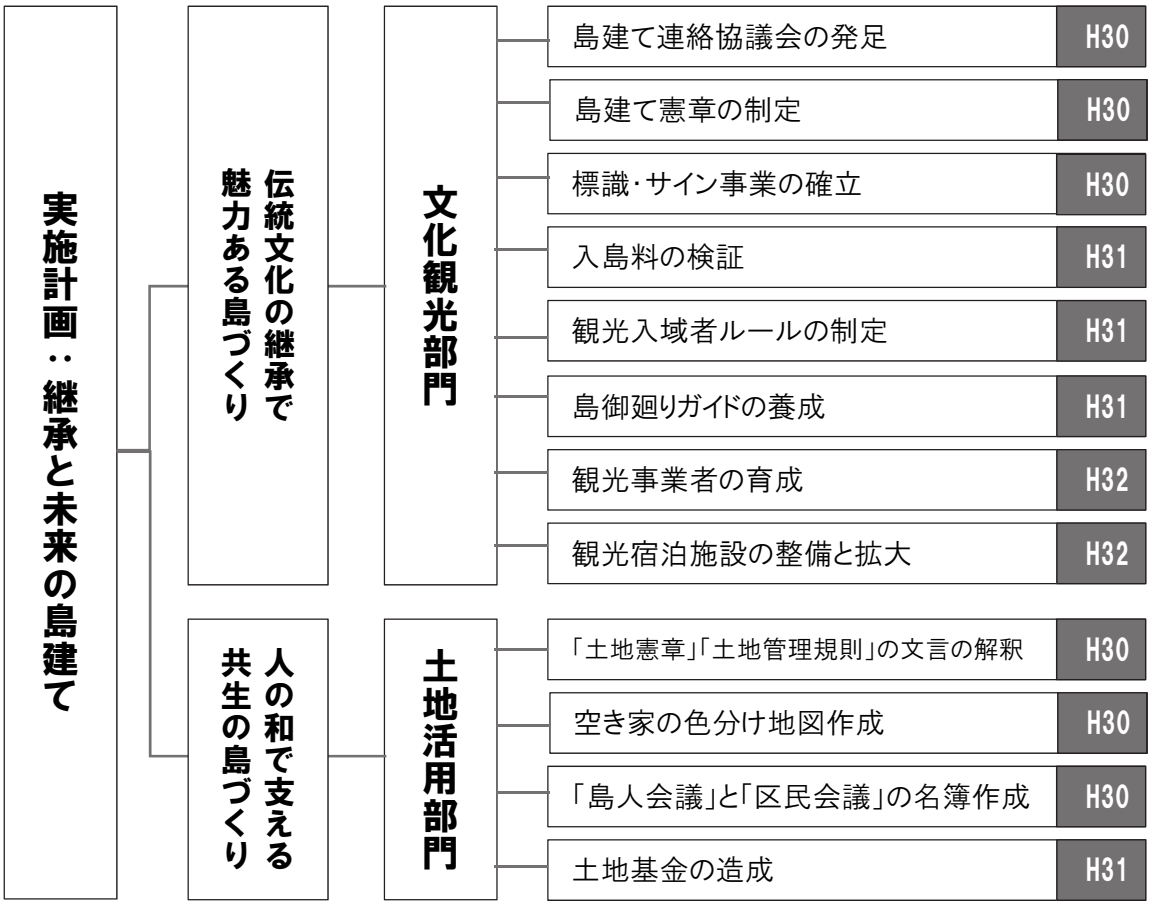
図　観光振興と若者Uターンを軸にした久高島活性化の循環



観光について、悪いイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。
しかし、観光を交流と読み替えると少しだけワクワクしませんか？

2. 久高島総合計画事業体系の再整理

前章で整理した「久高島総合計画・実施計画」の観光及び空き家に関する事業の位置づけを抜き出して整理する。



久高島では島建て協議会が発足したばかりであり、実施計画で位置づけた取組の実現に向けて活動を行っている。久高島総合計画は、島民自らが、島の将来のあり方について取りまとめた計画であり、実施計画を一歩ずつ進めることで久高島の島建てが実現されることが望まれる。

本調査からは、次のような視点が追加できるのではないかと示唆する。

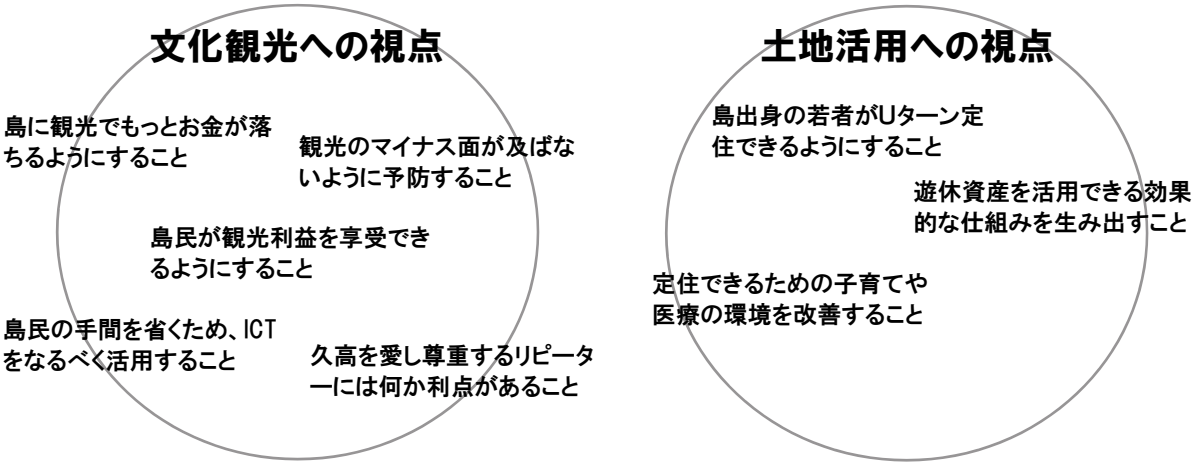


図　久高島の資源図

N
ハビャーン
アーマン権見
ロマンスロード
ウディ浜
ウパーマ
ウグヮン浜
ヤグルガー
フボー御嶽
ハタス
海岸植物群落
イシキ浜
ミガー
イザイガー
ヤマガー
ファシギャー
漁港
イザイ山
大里家
外間・ウプグイ
ドウギャアンディ
ウプティガー
御殿庭
久高島宿泊交流館
トイレ
イチャリ小
ハンチャタイ
君泊・大君口
ユクミヤー
久高小中学校
アナヤー小
ウプラトゥ小
スベーラキ
久高島離島振興総合センター
久高島船待合所
徳仁港

平成29年度
久高島観光基礎調査委託業務報告書

発行　南城市企画部　観光商工課
〒901-1495　沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
ＴＥＬ：０９８－９１７－５３８７
ＦＡＸ：０９８－９１７－５４２４
編集　南城市観光まちづくり2017共同企業体